文学

※音楽療法士養成に関する科目

大学非常勤講師 内藤俊人

科目コード：HUM201

対象コース／専門／学 全専門／2 年次

開講年限／形態：半期／講義

単位数：2 単位

概要	文学作品の理解には、その作品が生み出された歴史的・社会的な背景を知る必要がある。この授業では、19 世紀フランスの代表的な作家をとりあげ、彼らが自分たちの生きている時代をどのようにとらえ、その中からどういう新しい価値を持つ作品を創りあげていったのかを考察する。19 世紀の歴史や文学についての知識は、同じ時代の音楽作品の理解にも役立つだろう。
到達目標	19 世紀の歴史や文化、そして芸術について学びながら、小説や詩を理解するためのいろいろな知識を身につける。

授業計画

回	内容	事前	事後	時間
第 1 回	古典主義からロマン主義へ	配布するプリントを読んでおくこと。	18、19 世紀ヨーロッパの文化史の大きな流れについて整理する。	120 分 150 分
第 2 回	スタンダールの恋愛論	配布するプリントでスタンダールの作品の抜粋を読んでおくこと。	文学におけるロマン主義について整理する。	120 分 150 分
第 3 回	『夜のガスバール』について	ラヴェル『夜のガスバール』について調べる。	配布するプリントでベルトラン『夜のガスバール』の抜粋を読む。	120 分 150 分
第 4 回	『幻想交響曲』とロマン主義	ベルリオーズ『幻想交響曲』について調べておくこと。	さまざまなジャンルの芸術におけるロマン主義の展開について整理する。	120 分 150 分
第 5 回	ロマン主義からリアリズムへ	19 世紀前半のヨーロッパの歴史について調べておくこと。	リアリズムの特徴について整理する。	120 分 150 分
第 6 回	『椿姫』と『ラ・トラヴィアータ』（前半）	配布するプリントでデュマ・フィスの小説『椿姫』のあらすじを読んでおくこと。	教室で観るデュマ・フィス『椿姫』の映像について感想をまとめる。	120 分 150 分
第 7 回	『椿姫』と『ラ・トラヴィアータ』（後半）	配布するプリントでオペラ作品の構成について理解しておく。	ヴェルディ『ラ・トラヴィアータ』の映像を YouTube 等で視聴する。	120 分 150 分
第 8 回	小説に描かれた不倫	配布するプリントを読んでおくこと。	フローベール『ボヴァリー夫人』（河出文庫など）を読んでみる。	120 分 150 分
第 9 回	ボードレールとパリ	配布するプリントでボードレールの詩の抜粋を読んでおくこと。	ボードレール『パリの憂鬱』（岩波文庫など）を読む。	120 分 150 分
第 10 回	ゾラとパリ	配布するプリントでゾラの小説『獲物の分け前』の抜粋を読んでおくこと。	ゾラが小説で描いた頃のパリの、ファッションや街の姿を写真や文献で調べる。	120 分 150 分
第 11 回	19 世紀から見た未来世界	配布するプリントでアルベール・ロビダの小説『20 世紀』の抜粋を読んでおくこと。	アルベール・ロビダとジュール・ヴェルヌの SF 作品についてさらに調べる。	120 分 150 分
第 12 回	象徴主義と芸術	ヴェルレーヌの詩による歌曲にどのようなものがあるか調べる。	さまざまなジャンルの芸術における象徴主義の展開について整理する。	120 分 150 分
第 13 回	マラルメとドビュッシー	ドビュッシーの作品『牧神の午後への前奏曲』について調べておく。	ニジンスキー振り付けのバレエ『牧神の午後』の映像を YouTube 等で観ること。	120 分 150 分
第 14 回	ベル・エポック期の文化と社会	配布するプリントでジャン・コクトーの作品の抜粋を読んでおくこと。	エリック・サティーとジャン・コクトーについて調べる。	120 分 150 分
第 15 回	まとめ	今学期の講義のノートを見直ししておくこと。	理解が不十分だった点について調べる。	120 分 150 分

フィードバック 授業時に提出する Reaction Paper にコメントを付して返却する。

成績評価 成績の評価は、学期末に提出するレポート 60% と授業への取り組み方 40% とによる。

テキスト 教科書は特に用いないが、教室で必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐

法学（日本国憲法）

非常勤講師 橋本阿友子

科目コード：

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～2 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 日本国憲法について、制定経緯、各規定の意味、憲法以外の法との関係との体系を学ぶ。

- 到達目標
1. 日本国憲法に規定されている人権の基礎的な知識を習得する。前提として、憲法の精神を理解する。
 2. 選挙制度について正しい知識を身に着ける。
 3. 社会問題に興味を持ち、自身の見解を持つ。

授業計画		事前	事後	120 分
第 1 回	導入：日本国憲法の制定経緯、位置づけ	日本国憲法についての既存の知識をまとめる。	事前課題と講義の内容を比較し、講義内容を復習する。	150 分
第 2 回	法体系：憲法、法律、条例、省令、判例、契約	憲法、法律、条例、省令、判例、契約の関係について考察する。	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 3 回	憲法の規定事項：人権と統治	日本国憲法の条文を確認する。	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 4 回	基本的人権：幸福追求権と法の下での平等	幸福追求権・平等権について、既存の知識をまとめる。	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 5 回	基本的人権：精神的自由（特に表現の自由）	精神的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 6 回	基本的人権：経済的自由	経済的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 7 回	基本的人権：身体的自由	身体的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 8 回	基本的人権：社会権	社会権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 9 回	基本的人権：参政権ほか	参政権に関連する権利について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 10 回	統治：選挙制度	選挙制度についてまとめる。	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 11 回	社会問題：非嫡出子、夫婦別姓、同性婚	非嫡出子、夫婦別姓、同性婚について、問題となっている論点をまとめる。	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 12 回	社会問題：子供の権利、外国人の権利	子供の権利、外国人の権利はどの程度保障されているか、検討する。	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 13 回	社会問題：一票の較差	一票の較差とは何かを調べ、現在の選挙に関する較差につき自身の見解を検討する。	講義レジュメを復習する。	150 分
第 14 回	社会問題：裁判員裁判、死刑制度	裁判員裁判について調べておく。死刑制度についての自身の見解をまとめる。	講義レジュメを復習する。	150 分
第 15 回	講義の復習	これまでの講義を振り返り、全体を復習する。	講義レジュメを復習する。	150 分

フィードバック 授業内での解説

成績評価 試験 100%

テキスト レジュメを講義時に配布する。それ以外のテキストがあれば、講義内で指定する。

オフィスアワー 質問等は随時メールにて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	

社会学

※音楽療法士養成に関する科目

大学非常勤講師 上羅廣

科目コード：SOC201

専門/学年：全専門/2 年次、専攻科

形態：講義

単位数：2 単位

概要 自分を時代や社会全体の中に位置づけ、自分がどのような存在として社会に生きているのかを認識し、その上で現代の社会現象とその問題点を把握する。さらに、短大で音楽を学んでいるので音楽社会学の一端を紹介しておきたい。

到達目標 私たちは社会の中で、他の人々と関わり合いながら生活を営んでいる。自分がどのように他者とつながりながら社会を構成しているのかを、できるだけ具体的に理解することを目標とする。

授業計画 「社会の中の自分」

回数	授業内容	事前	事後	時間
第 1 回	社会学とは何か。～社会学のイメージづくり	中学・高校の社会科で学習した内容を思い出し、整理する。	講義内容を復習する。	110 分 160 分
第 2 回	社会学の大きな流れ。～素描	社会学者を一人だけ挙げ簡単に調べてくる。	大まかな流れを復習し、著名な理論と社会学者を理解する。	110 分 160 分
第 3 回	日本社会と私 1～時代のなかの自分	歴史年表で自分が生まれた前後 10 年間くらいの出来事を調べてくる。	自分が生まれた時代がどのような時代であったのかを認識する。	110 分 160 分
第 4 回	日本社会と私 2～現代社会のなかの自分	現代社会が自分にとってどんな時代かを簡単に言えるように準備してくる。	現代社会のなかの自分の存在を相対的に認識し位置付ける。	110 分 160 分
第 5 回	他者と私～社会的行為のしくみ	自分と関係のある他者にはどんな人がいるのか、事前に整理し図示してくる。	他者と自分の基本的関係について理解する。	110 分 160 分
第 6 回	私の社会的行為と目標達成	自分が実現したい夢・目標について考えてくる。	夢の実現にはどうしたら良いか、認識し、自分で計画を紙に書いてみる。任意提出。	110 分 160 分
第 7 回	家族のなかの私 1～家族の構造の中で	自分の家族、父親の家族、母親の家族の構成を調べてくる。	家族を構造的に理解する。	110 分 160 分
第 8 回	家族のなかの私 2～家族の機能の中で	家族の機能について考えられるものを列挙してくる。	家族の機能について、総合的に認識し位置付ける。	110 分 160 分
第 9 回	家族のなかの私 3～少子・高齢社会の中で	身の回りで意識できる少子化、高齢化の現象をいくつか挙げてくる。	社会現象としての少子・高齢化を認識し理解する。	110 分 160 分
第 10 回	家族のなかの私 4～単身世帯増加の中で	身の回りの単身世帯を挙げて、どのような世帯かを調べておく。	単身世帯の増加によって生じる問題について認識し位置付ける。	110 分 160 分
第 11 回	音楽社会学概説 1～ウェーバーとジルバーマン、その他	「音楽社会学」という用語を簡単に調べてくる。	方法の違いについて認識する。	110 分 160 分
第 12 回	音楽社会学概説 2～アドルノ	T. W アドルノについて簡単に調べてくる。	アドルノの「音楽に対する態度の類型」について理解する。	110 分 160 分
第 13 回	音楽社会学概説 3～日本における西洋音楽導入期の社会と音楽	中村絃子『ピアニストという蛮族がいる』中公文庫IV、Vを読んでくる。	西洋音楽導入期の日本社会の音楽事情を理解し認識する。	110 分 160 分
第 14 回	音楽社会学概説 4～日本における西洋音楽導入期のピアニスト	中村絃子『ピアニストという蛮族がいる』VI、VII、VIII、IXを読んでくる。	西洋音楽導入期のピアニストの運命を理解する。	110 分 160 分
第 15 回	まとめ	講義全体を振り返り、疑問の点を列挙してくる。	全体講義を整理し、それぞれの考え方を理解する。	110 分 160 分

フィードバック 小テストなどについてコメントをつけ学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、試験、レポートなどを総合的に評価する。定期テスト 60%、小テスト 10%、課題 10%、授業態度 20%

テキスト 使用せず。参考文献、中村絃子『ピアニストという蛮族がいる』中公文庫

オフィスアワー Eメールにて随時。wellatti@msb.biglobe.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生産学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒							

心理学

※音楽療法士養成に関する科目

大学特任教授 星野悦子

科目コード：NAT201

専門/学年：全専門/2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 心理学とは、自分も含めた人間の意識や行動の機能・機序を科学的に解明しようとする学問であり、広範な応用領域をもちつつ、学際領域にも貢献している。その素養は、芸術や教育、セラピーを学ぶ学生には欠かせないものと言える。

到達目標 授業目標は、基礎心理学を中心として、心理学全般にわたる大要を把握することである。

授業計画

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	オリエンテーション：心理学とはなにか～定義・歴史・領域	教科書はしがきを読む。	授業ノートを見直しておく	40 分
第 2 回	心理学の研究方法	プリント 1 を読む。	授業ノートを見直しておく	60 分
第 3 回	感覚の一般特性	教科書第 1 章第 1 節を読む。	授業ノートを見直しておく	60 分
第 4 回	知覚～視知覚を中心に	教科書第 1 章第 2 節を読む。	授業ノートを見直しておく	60 分
第 5 回	記憶～感覚記憶、短期記憶	教科書第 2 章 1, 2 節を読む。	授業ノートを見直しておく	60 分
第 6 回	記憶～長期記憶と知識表象	教科書第 2 章 2, 3 節を読む。	授業ノートを見直しておく	60 分
第 7 回	知能～種々の理論	教科書第 7 章を読む。	授業ノートを見直しておく	60 分
第 8 回	感情と欲求・動機づけ (1) ～感情・情動	教科書第 5 章第 1 節を読む。	授業ノートを見直しておく	60 分
第 9 回	感情と欲求・動機づけ (2) ～欲求と動機づけ	教科書第 5 章第 2 節を読む。	授業ノートを見直しておく	60 分
第 10 回	パーソナリティ (1) ～性格の理論	教科書第 8 章 3 節を読む。	授業ノートを見直しておく	60 分
第 11 回	パーソナリティ (2) ～性格の形成	教科書第 8 章 2 節を読む。	授業ノートを見直しておく	60 分
第 12 回	社会～対人認知と対人行動	教科書第 10 章 2 節を読む。	授業ノートを見直しておく	60 分
第 13 回	社会～個人と集団	プリント 2 を読む。	授業ノートを見直しておく	60 分
第 14 回	文化と心理	プリント 3 を読む。	授業ノートを見直しておく	60 分
第 15 回	まとめ	授業ノート全体を見直しておく	試験後の解答について自分で確認・振り返る	80 分
				20 分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績と授業態度を総合しておこなう。試験成績 70%、受講態度 30%。

テキスト 相馬寿明 (編著) 『心理学 For you』八千代出版
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考 この授業では基礎心理学を中心に、知能や感情、対人心理についても学ぶので、自分や他者の客観的理解に役立つはずである。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐				

音響学

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 森田信一

科目コード：NAT202

対象コース/専門/学年：全専門/2年次、専攻科

形態：講義

単位数：2単位

概要 音響学では、音楽を演奏する際や観賞する際に必要な物理的な知識を中心に扱う。音階がどのように調律されているかについて歴史的に考える。また各楽器の発音のしくみを扱う。音の響き方について室内やホールの空間について、また録音などについても学ぶ。

到達目標 音階と調律の物理的な原理を理解すること。また、弦楽器やピアノ、管楽器、打楽器などの発音の仕組みを理解すること。また、室内やホールの構造とその音の響き方を理解し、より良い演奏と鑑賞のための知識を習得することをねらいとする。

授業計画 楽器や各種オーディオ機器、オーディオ資料、ビデオ資料などを活用して理解を深めるように進めていく。

第1回	音響学とは	事前 音響学という用語について、音楽との関係について本やインターネットで調べておく。140分 事後 音響学で学ぶ項目について、授業で理解したことをまとめておく。130分
第2回	音階の歴史	事前 西洋音楽の歴史の中で音階に着目して調べておく。140分 事後 授業で学んだ音階の種類についてまとめておく。130分
第3回	音階と調律の歴史	事前 音階における調律とは何かということについて調べておく。140分 事後 調律の移り変わりについてまとめておく。130分
第4回	音階と調律の成り立ち	事前 調律の種類について調べておく。140分 事後 音階、調律について学んだことをまとめてレポートを書く。130分
第5回	楽器の発音の仕組み(弦楽器)	事前 楽器の種類とその分類について調べておく。140分 事後 弦楽器の発音原理について、学んだことをまとめておく。130分
第6回	楽器の発音の仕組み(管楽器)	事前 管楽器の構造について本やインターネットで調べておく。140分 事後 管楽器の発音原理について、学んだことをまとめておく。130分
第7回	楽器の発音の仕組み(打楽器)	事前 打楽器の構造について本やインターネットで調べておく。140分 事後 打楽器の発音原理について、学んだことをまとめておく。130分
第8回	楽器の発音の仕組み(電子楽器)	事前 電子楽器の構造について本やインターネットで調べておく。140分 事後 電子楽器の発音原理にと構造について、学んだことをまとめておく。130分
第9回	録音について	事前 録音の歴史を調べておく。140分 事後 録音という技術が生まれて発展してきた歴史についてまとめておく。130分
第10回	録音と音響機器	事前 録音に使われる機器について調べておく。140分 事後 録音機器について学んだことをまとめてレポートを書く。130分
第11回	室内の音響	事前 主な音楽ホールの大きさや収容人数、残響などについてインターネットで調べておく。140分 事後 色々なホールについてまとめておく。130分
第12回	室内での録音	事前 音楽の演奏を録音する場合に使われるマイクについて調べておく。140分 事後 室内での適切な録音の方法をまとめておく。130分
第13回	ホールの音響	事前 ホールの響きについて調べておく。140分 事後 ホールの音響の色々なパターンについてまとめる。130分
第14回	ホールでの録音	事前 ホールに設置されているマイクについて調べておく。140分 事後 ホールにおいてどのように録音が行われているかをまとめる。130分
第15回	全体のまとめ	事前 これまでの学習内容をまとめておく。140分 事後 調律、楽器、室内やホールの響きについて学んだことをまとめ、授業全体のまとめをする。130分

フィードバック 各時間に書く小レポートについて、コメントをつけてフィードバックする。また、その内容について次の時間に復習として扱う。

成績評価 授業内での小レポートの評価を合計して成績評価とする。

テキスト 適宜プリントを配布する。
(参考資料) 楽器の科学 (日経サイエンス社, 1987), 楽器の音響学 (安藤由典, 音楽之友社, 1996)

オフィスアワー 集中講義のため、休み時間と授業終了後に教室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐					

音楽心理学

※音楽療法士養成に関する科目

大学特任教授 星野悦子

科目コード：NAT101

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 音楽心理学とは、音楽に関係した人間の行動とそれに伴う精神活動についての心理学である。音楽は、まず音として知覚され、構造をもつ「音楽」として認知（理解や記憶など）をされる対象であり、音楽聴取（および演奏）にはこの知覚と認知の二過程が必然的に含まれる。また、人は音楽の表現の中に美しさ、楽しさ、悲しさ、勇敢さなど様々な感情を感じ取ると共に、自分自身の中に強く深い情動をも喚起する。それはなぜか？その機序はどこまで分かったのかについて、最新の知見を講じる。

到達目標 授業の目標は、知覚や認知対象としての音楽について学び、そこから感情の喚起がどのように発生するかの仕組みにも関心を寄せつつ、聴取、演奏における心理学的原理ならびに音楽的発達の道筋を理解する。

授業計画			
第 1 回	オリエンテーション：講義の目的・内容・進め方など	事前 教科書はしがきを読む 事後 授業ノートを見直しておく	20 分 60 分
第 2 回	音楽心理学の歴史と方法	事前 教科書第 1 章前半を読んでおく 事後 授業ノートを見直しておく	40 分 60 分
第 3 回	音楽の多様な機能	事前 教科書第 1 章後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40 分 60 分
第 4 回	音楽の知覚（1）音高・絶対音感・協和感	事前 教科書第 2 章「音楽と音響」を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40 分 60 分
第 5 回	音楽の知覚（2）音の大きさ、音色	事前 教科書第 3 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40 分 60 分
第 6 回	音楽の認知（1）メロディの認知	事前 教科書第 4 章前半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40 分 60 分
第 7 回	音楽の認知（2）リズムの認知	事前 教科書第 4 章後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40 分 60 分
第 8 回	音楽の記憶	事前 教科書第 5 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40 分 60 分
第 9 回	音楽と一般認知能力：「モーツァルト効果」	事前 教科書第 6 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40 分 60 分
第 10 回	音楽的感情の知覚	事前 教科書第 7 章の前半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40 分 60 分
第 11 回	音楽と感情の喚起	事前 教科書第 7 章の後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40 分 60 分
第 12 回	音楽的感情についての諸理論	事前 教科書第 7 章全体を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40 分 60 分
第 13 回	音楽行動の発達（1）乳幼児期	事前 教科書第 8 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40 分 60 分
第 14 回	音楽行動の発達（2）児童・青年・成人期	事前 教科書第 8 章の後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40 分 60 分
第 15 回	まとめ（音楽の進化心理学と音楽の意味）	事前 授業ノートを見直しておく 事後 試験の解答を自分で確認・振り返る	80 分 20 分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績と受講態度を総合しておこなう。試験成績 70%、受講態度 30%。

テキスト 星野悦子（編著）『音楽心理学入門』（誠信書房）

オフィスアワー 授業後教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐

生理学

非常勤講師 鈴木郁子

科目コード NAT102

専門/学年：全専門/1 年次、専攻科

形態：講義

単位数 2 単位

概要 人間の身体の仕組みについて、基礎を学習する。生体の恒常性を維持するための呼吸、循環、消化などの生理機能を理解すると共に、人間が自然環境や社会環境にどのように働きかけ、どのように適応しているかについて学習する。

到達目標 人間と環境、脳・呼吸・循環・代謝などに関する基礎を学び、生体の恒常性を維持する仕組みについて理解できること、また人間の環境適応のメカニズムについて理解できることを到達目標とする。

授業計画

第 1 回	人間と自然環境、人間と植物・動物・微生物	事前 教科書の 1 章「地球環境と人間」を読み、概要をつかむ。 事後 「人間の特殊性、命の循環」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 2 回	人間の特徴、変化する環境への適応	事前 教科書の 1 章「地球環境と人間」を読み、概要をつかむ。 事後 「変化する環境への適応」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 3 回	命の誕生、心身の発達と環境	事前 教科書の 2 章「人間らしさの発達と環境」を読み、概要をつかむ。 事後 「ライフサイクル」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 4 回	感覚・運動機能と発達	事前 教科書の 2 章「人間らしさの発達と環境」を読み、概要をつかむ。 事後 「感覚・運動機能と発達」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 5 回	脳と保育	事前 教科書の 2 章「人間らしさの発達と環境」を読み、概要をつかむ。 事後 「脳と保育」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 6 回	心身の健康	事前 教科書の 2 章「人間らしさの発達と環境」を読み、概要をつかむ。 事後 「心身の健康」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 7 回	呼吸の仕組み、血液、心臓の構造と働き、循環調節	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 事後 「呼吸の仕組み、血液、心臓の構造と働き、循環調節」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 8 回	消化吸収	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 事後 「消化吸収」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 9 回	神経の働き	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 事後 「神経の働き」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 10 回	体温調節とサーカディアンリズム	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 事後 「体温調節とサーカディアンリズム」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 11 回	体液の働き	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 事後 「体液の働き」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 12 回	体性感覚・特殊感覚	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 事後 「体性感覚・特殊感覚」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 13 回	学習発表 1	事前 学習発表の準備をする。 事後 学習発表のまとめをする。	135 分 135 分
第 14 回	学習発表 2	事前 学習発表の準備をする。 事後 学習発表のまとめをする。	135 分 135 分
第 15 回	学習発表 3	事前 学習発表の準備をする。 事後 学習発表のまとめをする。	135 分 135 分

フィードバック 授業内で質疑を行う。

成績評価 レポート 30%、学習発表 40%、授業態度 30%

テキスト 教科書 やさしい環境生理学 地球環境と命のつながり 錦房出版 2019、鈴木郁子編著

参考図書 やさしい自律神経生理学 命を支える仕組み 中外医学社 2015、鈴木郁子編著

オフィスアワー 授業終了後、講義室にて

備考 「医学概論」を履修する学生は、「生理学」を履修しておくことが望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒

医学概論

非常勤講師 内田さえ

科目コード：NAT203

専門/学年： 全専門/2 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 生理学で身につけた知識の内容と関連づけながら、ストレス（外部環境によるストレス、身体的ストレス、心理・社会的ストレス、死へのストレス）への対応、生活環境と健康、環境問題と人間について学習する。ストレスへの対応に関連して、自律神経系・内分泌系について基礎的知識を身につける。心と脳、音楽と脳、医療と健康、音楽療法とストレスについて理解を深める。

到達目標 ストレス及びストレスへの対応について理解できることを到達目標とする。
音楽療法の意義について理解できること、地球環境問題に対応できる目を養うことを到達目標とする。

授業計画

第1回	ストレスとは、ストレスに関する学問の歴史	事前 教科書の4章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。 事後 「ストレス学説」をまとめ、理解し、復習する。	135分 135分
第2回	ストレスと自律神経系、自律神経系に関する学問の歴史	事前 教科書の4章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。 事後 「ストレスと自律神経系」をまとめ、理解し、復習する。	135分 135分
第3回	自律神経系の基礎	事前 教科書の4章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。 事後 「自律神経系」をまとめ、理解し、復習する。	135分 135分
第4回	ストレスと内分泌系	事前 教科書の4章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。 事後 「内分泌系」をまとめ、理解し、復習する。	135分 135分
第5回	外部環境によるストレス、身体的ストレス、痛み	事前 教科書の4章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。 事後 「痛み」をまとめ、理解し、復習する。	135分 135分
第6回	心理・社会的ストレス、死へのストレス	事前 教科書の「4章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。 事後 「心理・社会的ストレス」をまとめ、理解し、復習する。	135分 135分
第7回	音楽と脳、音楽療法とストレス	事前 教科書の4章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。 事後 「音楽と脳、音楽療法とストレス」をまとめ、理解し、復習する。	135分 135分
第8回	健康の概念、QOL	事前 教科書の5章「生活環境と適応」を読み、概要をつかむ。 事後 「QOL」をまとめ、理解し、復習する。	135分 135分
第9回	病気の予防、免疫	事前 教科書の5章「生活環境と適応」を読み、概要をつかむ。 事後 「病気の予防」をまとめ、理解し、復習する。	135分 135分
第10回	生活環境と健康、アレルギー	事前 教科書の6章「環境教育と人間」を読み、概要をつかむ。 事後 「生活環境と健康、アレルギー」をまとめ、理解し、復習する。	135分 135分
第11回	生活と地球環境問題	事前 教科書の6章「環境教育と人間」を読み、概要をつかむ。 事後 「地球環境問題」をまとめ、理解し、復習する。	135分 135分
第12回	環境と生涯教育	事前 教科書の6章「環境教育と人間」を読み、概要をつかむ。 事後 「環境と生涯教育」をまとめ、理解し、復習する。	135分 135分
第13回	学習発表1	事前 学習発表の準備をする。 事後 学習発表のまとめをする。	135分 135分
第14回	学習発表2	事前 学習発表の準備をする。 事後 学習発表のまとめをする。	135分 135分
第15回	学習発表3	事前 学習発表の準備をする。 事後 学習発表のまとめをする。	135分 135分

フィードバック 授業内で質疑を行う。

成績評価 レポート 30%、学習発表 40%、授業態度 30%

テキスト 教科書 やさしい環境生理学 地球環境と命のつながり 錦房出版 2019、鈴木郁子編著
参考図書 やさしい自律神経生理学 命を支える仕組み 中外医学社 2015、鈴木郁子編著

オフィスアワー 授業終了後、講義室にて

備考 「医学概論」を履修する学生は、1年次の「生理学」を履修しておくことが望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	

社会福祉

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 瓜巢由紀子

科目コード：SOC202

専門／学年：全専門／2年次

形態：集中講義

単位数：2単位

概要 社会福祉の対象は児童、障害児・者、高齢者、生活困窮者など多岐にわたり、さらにいえば全ての国民が対象である。そこで社会福祉の政策や法律などが私たちの生活の中にどのように活かされているかという基礎的知識を習得する。一方で、今日におけるわが国の社会福祉の課題について考え、これからの社会福祉のあり方についても習得し、社会福祉の理解を深めていく。

到達目標

- ・社会福祉を広い視点で学び、基礎的知識を習得する。
- ・政策や法制度として社会福祉を理解するだけでなく、自らの生活に当てはめて社会福祉を理解できる。

授業計画

第1回	オリエンテーション 社会福祉のイメージ	事前 新聞記事やニュース等で社会の動きについて学ぶ。実習等で得た記録や資料等を復習する 事後 教科書の指定ページを復習する	140分 140分
第2回	社会福祉とは何か	事前 教科書の指定ページを予習 事後 教科書の指定ページを復習	140分 140分
第3回	私たちの生活と社会福祉の現状	事前 教科書指定ページを予習 事後 配布資料にて復習	140分 140分
第4回	社会福祉の歴史	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書の指定ページを復習	140分 140分
第5回	社会福祉の法制度	事前 教科書指定ページを予習 事後 ワークシートにて復習	140分 140分
第6回	社会福祉の機関と施設	事前 教科書指定ページを予習 事後 配布資料にて復習	140分 140分
第7回	利用者支援の基礎	事前 教科書指定ページを予習 事後 配布資料にて復習	140分 140分
第8回	社会保障・公的扶助	事前 教科書指定ページを予習 事後 ワークシートにて復習	140分 140分
第9回	子ども家庭福祉	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140分 140分
第10回	高齢者福祉	事前 教科書指定ページを予習 事後 ワークシートにて復習	140分 140分
第11回	障害者福祉	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140分 140分
第12回	地域福祉	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140分 140分
第13回	社会福祉の専門職	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140分 140分
第14回	社会福祉の課題	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140分 140分
第15回	まとめ 試験内容の解説	事前 教科書指定ページを予習 事後 理解不足な箇所の確認とその復習	140分 140分

フィードバック ワークシートや発表などについてコメントを付け、学習成果をフィードバックする

成績評価 試験 60%、ワークシート 10%、発表 10%、授業への積極的な取組 20%

テキスト 『よくわかる社会福祉【第11版】』山縣文治・岡田忠克編/ミネルヴァ書房
そのほか必要に応じてプリント等配布

オフィスアワー 授業後に教室にて

アクティブ・ラーニング ・グループワークを実施し、プレゼンテーションを行う
・ICTを活用した理論の可視化

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	

情報処理演習 I a, b

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤助教 菊池由佳

科目コード: INF101

専門/学年: 全専門/1 年次

形態: 演習

単位数: 2 単位

概要 ワードプロソフト (Word) の基礎知識を身につけ、文字入力、文書作成と編集、表や罫線の利用方法などの基本操作やセキュリティと情報モラルを学ぶ。一般的なビジネス文書、ポスター、プレゼンテーションなどの課題作成にも取り組む。

到達目標 急速な情報化の進展により、多様な情報を取捨選択し、活用することが求められるなか、各レポートやビジネス文書の作成、プレゼンテーションの発表などに必要な操作方法を学び、情報発信できる能力を身につける。

授業計画

回数	内容	事前	事後	単位数
第 1 回	PC の使用・ファイル提出・テキストの説明 セキュリティと情報モラル 1 セキュリティ対策	テキスト第 1 章を読み、その概要をつかむこと	100 分	170 分
		セキュリティと情報モラル チェック問題で確認	170 分	
第 2 回	セキュリティと情報モラル 2 著作権・個人情報の保護・ルール、マナー	セキュリティと情報モラル プリントを読む	100 分	170 分
		セキュリティと情報モラル チェック問題で確認	170 分	
第 3 回	第 1 章 Word の基礎知識 第 2 章 文字入力・保存 練習問題	テキスト第 2 章を読み、その概要をつかむこと	100 分	170 分
		第 1 章のチェックリストで確認・復習、第 2 章の課題・練習問題を作成	170 分	
第 4 回	第 3 章 STEP1~6 文書作成・社外文書の作成 書式設定	テキスト第 2・3 章 STEP1~6 まで読み、その概要をつかむこと	100 分	170 分
		第 3 章の課題を作成	170 分	
第 5 回	第 3 章 STEP7~10 文書作成・社内文章の作成・印刷・ページ設定 練習問題	テキスト第 3 章 STEP7~10・P237 付録 2 を読み、その概要をつかむこと	100 分	170 分
		第 3 章練習問題を作成	170 分	
第 6 回	第 4 章 表の作成	テキスト第 4 章を読み、その概要をつかむこと	100 分	170 分
		第 4 章の課題を作成	170 分	
第 7 回	第 4 章 表の作成 練習問題 第 5 章 文書の編集	テキスト第 4・5 章を読み、その概要をつかむこと	100 分	170 分
		第 4 章練習問題・第 5 章の課題を作成	170 分	
第 8 回	第 5 章 文書の編集 練習問題	テキスト第 5 章を読み、その概要をつかむこと	100 分	170 分
		第 5 章練習問題を復習	170 分	
第 9 回	総合問題 1・2・3・4	テキスト第 1~5 章を読み、その概要をつかむこと	100 分	170 分
		総合問題を作成	170 分	
第 10 回	第 6 章 表現力をアップする機能 練習問題	テキスト第 6 章を読み、その概要をつかむこと	100 分	170 分
		第 6 章の課題・練習問題を作成	170 分	
第 11 回	第 7 章 便利な機能 練習問題・ファイルの互換性	テキスト第 7 章・P263 付録 3 「ファイルの互換性」を読み、その概要をつかむこと	100 分	170 分
		第 7 章の課題・練習問題を作成	170 分	
第 12 回	PowerPoint の基礎 Word と共通機能でスライド作成	テキスト第 3~4 章を読み、その概要をつかむこと	100 分	170 分
		総合問題の作成	170 分	
第 13 回	PowerPoint の基礎 プレゼンテーション 文字編集・特殊効果	テキスト第 5~7 章を読み、その概要をつかむこと	100 分	170 分
		総合問題を作成	170 分	
第 14 回	総合問題 5・6・7・8	テキスト第 5~7 章を読み、その概要をつかむこと	100 分	170 分
		総合問題を作成	170 分	
第 15 回	まとめ 理解度確認テスト	テキストの全章チェックリストで理解度を確認・復習	100 分	170 分
		テキストの全章チェックリストで理解度を確認・復習	170 分	

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 70%・課題提出 20%・授業への積極的な取組 10%

テキスト 『Microsoft Word 2016 基礎』 (FOM 出版)

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング ・授業で学習した文書編集や表現力をアップする機能・操作を活用して、デザインは自由にコンサートチラシを学習課題として作成し、プロジェクターで投影。学生同士で見ながら話し合い、色々なデザインの情報共有をする。
・プレゼンテーション

備考 情報処理は毎回の演習の積み重ねが重要なので、その日の内容は次回の授業までに理解すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐								

情報処理演習Ⅱ

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤助教 菊池由佳

科目コード：INF201

専門/学年：全専門/2年次

形態：演習

単位数：2単位

概要 表計算ソフト（Excel）の基礎知識を身につけ、表計算、グラフ作成、関数などの利用方法を学ぶ。実践的な表やグラフ、データベースなどの課題作成にも取り組む。

到達目標 日常生活における利便性の向上や仕事の効率化のために、コンピュータをどう活用すればよいかを考える。そして各分野で表やデータベースなどを作成し、情報を活用・発信できる能力を身につける。

授業計画

第1回	PCの使用・ファイル提出・テキストの説明 第1章 Excelの基礎知識	事前 テキスト第1章を読み、その概要をつかむこと 事後 第1章のチェックリストで確認・復習	100分 170分
第2回	第2章 データの入力 練習問題	事前 テキスト第2章を読み、その概要をつかむこと 事後 第2章の課題・練習問題を作成	100分 170分
第3回	第3章 表作成	事前 テキスト第3章を読み、その概要をつかむこと 事後 第3章の課題を作成	100分 170分
第4回	第3章 練習問題	事前 テキスト第3章を読み、その概要をつかむこと 事後 第3章練習問題を作成	100分 170分
第5回	第4章 数式の入力	事前 テキスト第4章を読み、その概要をつかむこと 事後 第4章の課題を作成	100分 170分
第6回	第4章 練習問題	事前 テキスト第4章を読み、その概要をつかむこと 事後 第4章練習問題を作成	100分 170分
第7回	第5章 複数シートの操作 練習問題	事前 テキスト第5章を読み、その概要をつかむこと 事後 第5章の課題・練習問題を作成	100分 170分
第8回	第6章 表の印刷 練習問題	事前 テキスト第6章を読み、その概要をつかむこと 事後 第6章の課題・練習問題を作成	100分 170分
第9回	第7章 グラフの作成	事前 テキスト第7章を読み、その概要をつかむこと 事後 第7章の課題を作成	100分 170分
第10回	第7章 グラフの作成 練習問題 第8章 STEP1～4 データベースの利用	事前 テキスト第7章・8章STEP1～4まで読み、その概要をつかむこと 事後 第7章練習問題・第8章の課題を作成	100分 170分
第11回	第8章 STEP5 データベースの利用 練習問題	事前 テキスト第8章を読み、その概要をつかむこと 事後 第8章練習問題を作成	100分 170分
第12回	総合問題1・2・3・4	事前 テキスト第2～6章を読み、その概要をつかむこと 事後 総合問題を作成	100分 170分
第13回	第9章 便利な機能 練習問題・ファイルの互換性・セキュリティ	事前 テキスト第9章・P285付録3「ファイルの互換性」を読み、その概要をつかむこと 事後 第9章の課題・練習問題を作成	100分 170分
第14回	総合問題5・6・7・8	事前 テキスト第5～9章を読み、その概要をつかむこと 事後 総合問題を作成	100分 170分
第15回	まとめ 理解度確認テスト	事前 テキストの全章チェックリストで理解度を確認・復習 事後 テキストの全章チェックリストで理解度を確認・復習	100分 170分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 70%・課題提出 20%・授業への積極的な取組 10%

テキスト 『Microsoft Excel 2016 基礎』（FOM 出版）

オフィスアワー 授業終了後教室にて

備考 情報処理は毎回の演習の積み重ねが重要なので、その日の内容は次回の授業までに理解すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐										

概要 実用的な英語力と国際的な視野を持つ人材の養成を目指す。会話に必須の語彙、文法、興味深いトピックを取り上げて学ぶ。

到達目標 各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。

授業計画

【AL】			
第1回	Orientation 自己紹介	事前 教科書を手し、Unit 1 を予習する。 事後 英語での自己紹介の仕方を練習する。	80 分 190 分
第2回	Unit 1 Cross-Cultural Understanding Listening Part, Check the Details	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第3回	Unit 1 Reading Part, Check the Points Reading Focus, Say What You Think	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。Practice More を課題として提出。	135 分 135 分
第4回	Unit 2 Foods Listening Part, Check the Details	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第5回	Unit 2 Reading Part, Check the Points Reading Focus, Say What You Think	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。Practice More を課題として提出。	135 分 135 分
第6回	Unit 3 Foreign Language Learning Listening Part, Check the Details	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第7回	Unit 3 Reading Part, Check the Points Reading Focus, Say What You Think	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。Practice More を課題として提出。	135 分 135 分
第8回	Unit 4 Sports Listening Part, Check the Details	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第9回	Unit 4 Reading Part, Check the Points Reading Focus, Say What You Think	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。Practice More を課題として提出。	135 分 135 分
第10回	Unit 5 Fashion Listening Part, Check the Details	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第11回	Unit 5 Reading Part, Check the Points Reading Focus, Say What You Think	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。Practice More を課題として提出。	135 分 135 分
第12回	Unit 6 Living Things Listening Part, Check the Details	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第13回	Unit 6 Reading Part, Check the Points Reading Focus, Say What You Think	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。課題提出。	135 分 135 分
第14回	Wrap-up (Unit 1-6)	事前 教科書の該当箇所を復習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第15回	Review (Unit 1-6) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	135 分 135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

テキスト VELC 研究会教材開発グループ、Tetsuhito Shizuka, Masamichi Mochizuki, Takaaki Kumazawa, “AMBITIONS (Beginner)” (金星堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に Zoom で、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	

英語 I-2

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG102

専門/学年： 全専門/1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 英語 I-1 に引き続き、実用的な英語力と国際的な視野を持つ人材の養成を目指す。会話に必須の語彙、文法、興味深いトピックを取り上げて学ぶ。

到達目標 各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。

授業計画

【AL】

第1回	Unit 7 Art Listening Part, Check the Details	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	80 分 190 分
第2回	Unit 7 Reading Part, Check the Points Reading Focus, Say What You Think	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。Practice More を課題として提出。	135 分 135 分
第3回	Unit 8 Global Issues Listening Part, Check the Details	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。	135 分 135 分
第4回	Unit 8 Reading Part, Check the Points Reading Focus, Say What You Think	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。Practice More を課題として提出。	135 分 135 分
第5回	Unit 9 Japanese Culture Listening Part, Check the Details	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第6回	Unit 9 Reading Part, Check the Points Reading Focus, Say What You Think	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。Practice More を課題として提出。	135 分 135 分
第7回	Unit 10 Human Rights Listening Part, Check the Details	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第8回	Unit 10 Reading Part, Check the Points Reading Focus, Say What You Think	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。Practice More を課題として提出。	135 分 135 分
第9回	Unit 11 Health & Medical Issues Listening Part, Check the Details	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第10回	Unit 11 Reading Part, Check the Points Reading Focus, Say What You Think	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。Practice More を課題として提出。	135 分 135 分
第11回	Unit 12 Environmental Issues Listening Part, Check the Details	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第12回	Unit 12 Reading Part, Check the Points Reading Focus, Say What You Think	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。Practice More を課題として提出。	135 分 135 分
第13回	Unit 13 Economy & Industry Listening Part, Check the Details	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。課題提出。	135 分 135 分
第14回	Wrap-up (Unit 7-13)	事前 教科書の該当箇所を復習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第15回	Review (Unit7-13) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	135 分 135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

テキスト VELC 研究会教材開発グループ、Tetsuhito Shizuka, Masamichi Mochizuki, Takaaki Kumazawa, “AMBITIONS (Beginner)” (金星堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に Zoom で、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	

英語Ⅱ-1

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG201

専門/学年： 全専門/2 年次、専攻科

形態：講義

単位数：2 単位

概要 英語を使う上で欠かせない必須文法の 4 技能を統合的に活用しながら学び、日常生活で頻繁に使われる基本的かつ機能的な言語の習得を目指す。語彙の習得に始まり、実践的な能力の向上をはかる。

到達目標 日常生活で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語 I」で学んだことをもとに英語力を伸ばし、TOEIC L&R テストにも対応できる実力を身につける。

授業計画

第 1 回	Orientation 自己紹介	事前 教科書入手し、Unit 1 を予習する。 事後 英語での自己紹介の仕方を練習する。	80 分 190 分
第 2 回	Unit 1 On My Way to Silicon Valley Warm-up Listening, Word Check, Conversation, Grammar Menu	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 3 回	Unit 1 Grammar Checkup, Good Reading, Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Writing C を課題として提出。	135 分 135 分
第 4 回	Unit 2 Welcome to San Francisco Warm-up Listening, Word Check, Conversation, Grammar Menu	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 5 回	Unit 2 Grammar Checkup, Good Reading, Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Writing C を課題として提出。	135 分 135 分
第 6 回	Unit 3 First Day of Internship Warm-up Listening, Word Check, Conversation, Grammar Menu	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 7 回	Unit 3 Grammar Checkup, Good Reading, Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Writing C を課題として提出。	135 分 135 分
第 8 回	Unit 4 Fun Times, but... Warm-up Listening, Word Check, Conversation, Grammar Menu	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 9 回	Unit 4 Grammar Checkup, Good Reading, Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Writing C を課題として提出。	135 分 135 分
第 10 回	Unit 5 They Look Good on You Warm-up Listening, Word Check, Conversation, Grammar Menu	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 11 回	Unit 5 Grammar Checkup, Good Reading, Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Writing C を課題として提出。	135 分 135 分
第 12 回	Unit 6 Tech Talk Warm-up Listening, Word Check, Conversation, Grammar Menu	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 13 回	Unit 6 Grammar Checkup, Good Reading, Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。課題提出。	135 分 135 分
第 14 回	Wrap-up (Unit 1-6)	事前 教科書の該当箇所を復習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 15 回	Review (Chapter 1~6) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	135 分 135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。

【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

テキスト Robert Hickling, Yashiro Ichikawa, "English Booster!" (金星堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に Zoom で、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	リスニングスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒							

英語Ⅱ-2

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG202

専門/学年： 全専門/2 年次、専攻科

形態：講義

単位数：2 単位

概要 英語Ⅱ-1に引き続き、英語を使う上で欠かせない必須文法の4技能を統合的に活用しながら学び、日常生活で頻繁に使われる基本的かつ機能的な言語の習得を目指す。語彙の習得に始まり、実践的な能力の向上をはかる。

到達目標 日常生活で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語Ⅰ」「英語Ⅱ-1」で学んだことをもとに英語力を伸ばし、TOEIC L&R テストにも対応できる実力を身につける。

授業計画

第1回	定期試験の解説 前期の復習	事前 前期の基礎事項を確認する 事後 試験の問題を復習する	80分 190分
第2回	Unit 7 You're Sitting on It... Warm-up Listening, Word Check, Conversation, Grammar Menu	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135分 135分
第3回	Unit 7 Grammar Checkup, Good Reading, Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Writing C を課題として提出。	135分 135分
第4回	Unit 8 Going Green Warm-up Listening, Word Check, Conversation, Grammar Menu	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135分 135分
第5回	Unit 8 Grammar Checkup, Good Reading, Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Writing C を課題として提出。	135分 135分
第6回	Unit 9 Time to Work Warm-up Listening, Word Check, Conversation, Grammar Menu	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135分 135分
第7回	Unit 9 Grammar Checkup, Good Reading, Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Writing C を課題として提出。	135分 135分
第8回	Unit 10 Know Your Business Warm-up Listening, Word Check, Conversation, Grammar Menu	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135分 135分
第9回	Unit 10 Grammar Checkup, Good Reading, Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Writing C を課題として提出。	135分 135分
第10回	Unit 11 The Job Interview Warm-up Listening, Word Check, Conversation, Grammar Menu	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135分 135分
第11回	Unit 11 Grammar Checkup, Good Reading, Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Writing C を課題として提出。	135分 135分
第12回	Unit 12 Is Your Company Right for You? Warm-up Listening, Word Check, Conversation, Grammar Menu	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135分 135分
第13回	Unit 12 Grammar Checkup, Good Reading, Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。課題提出。	135分 135分
第14回	Wrap-up (Unit 7-12)	事前 教科書の該当箇所を復習する 事後 今日の授業内容を復習する	135分 135分
第15回	Review (Unit 7~12) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	135分 135分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

テキスト Robert Hickling, Yashiro Ichikawa, "English Booster!" (金星堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に Zoom で、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	リスニングスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒							

独語-1

大学非常勤講師 岩下久美子

科目コード：FOR103

専門/学年：全専門/1~2 年次、専攻科

形態：講義

単位数：2 単位

概要 音楽を学ぶ上で必ず出あうドイツ・オーストリアなどのドイツ語圏文化の一端に触れながら、ドイツ語の使い方の基本ルールを学ぶ。この授業は演習の性格を有し、履修者は基本、毎回発言の機会をもつ。

到達目標 ドイツ語初級文法のルールを、しっかり習得することを目指す。

授業計画 基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個人によって異なる（基準：各回 270 分）。

回数	授業内容	事前	事後	時間
第 1 回	Lektion0 アルファベット、発音の原則、母音の発音	教科書の該当箇所を一読する。	発音のきまりを確認する。	120 分
第 2 回	Lektion0 子音の発音、挨拶、数字	教科書の該当箇所を一読する。	第 1 回に続き発音のきまりを確認する。	120 分
第 3 回	Lektion1 動詞の現在人称変化(1)、練習問題	教科書の該当箇所の説明を一読する。	動詞の現在人称変化の規則を確認する。	120 分
第 4 回	Lektion1 語順、練習問題	教科書の該当箇所の説明を一読する。	ドイツ語文の語順の規則を確認する。	120 分
第 5 回	Lektion2 名詞の性と格 練習問題	教科書の該当箇所の説明を一読する。	名詞の性と格について確認する。	120 分
第 6 回	Lektion2 動詞 sein と haben, 練習問題	教科書の該当箇所の説明を一読する。	sein と haben の人称変化を確実に覚える。	120 分
第 7 回	Lektion3 動詞の現在人称変化(2)、練習問題	教科書の該当箇所の説明を一読する。	不規則な変化をする動詞について、その変化の規則を確認する。	120 分
第 8 回	Lektion3 名詞の複数形、練習問題	教科書の該当箇所の説明を一読する。	複数形の作り方を確認する。	120 分
第 9 回	Lektion4 人称代名詞(3 格、4 格)、練習問題	教科書の該当箇所の説明を一読する。	人称代名詞の形を覚える。	120 分
第 10 回	Lektion4 冠詞類、練習問題	教科書の該当箇所の説明を一読する。	冠詞類の種類を覚え、変化の規則を確認する。	120 分
第 11 回	Lektion5 前置詞、練習問題	教科書の該当箇所の説明を一読する。	前置詞の種類と格支配を覚える。	120 分
第 12 回	Lektion5 zu 不定詞(句)、練習問題	教科書の該当箇所の説明を一読する。	zu 不定詞(句)の作り方と用法を確認する。	120 分
第 13 回	Lektion6 分離動詞、非分離動詞、練習問題	教科書の該当箇所の説明を一読する。	分離動詞と非分離動詞の違いを確認する。	120 分
第 14 回	Lektion6 従属接続詞、練習問題	教科書の該当箇所の説明を一読する。	従属接続詞の種類と従属接続詞を使った文の語順を覚える。	120 分
第 15 回	既習事項の復習	これまで学んだことを確認する。	不足している知識を補う。	120 分

フィードバック 授業での課題や小テスト等についての解説などにより学習成果をフィードバックする。

成績評価 評価の基準となるのは主に学年末試験であるが、前期末試験や小テストの結果、提出物の提出状況、授業への積極的な取組の如何などを加味して評価する。テスト 70%、提出物 5%、授業への積極的な取組の如何 25%

テキスト 赤澤 元務 他 著『フィール・エアフォルク——はじめてのドイツ語——（改訂版）』（同人社）

オフィスアワー 簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当の時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせて実施する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐

独語-2

大学非常勤講師 岩下久美子

科目コード：FOR104

専門/学年：全専門/1~2年次、専攻科

形態：講義

単位数：2単位

概要 音楽を学ぶ上で必ず出あうドイツ・オーストリアなどのドイツ語圏文化の一端に触れながら、ドイツ語の使い方の基本ルールを学ぶ。この授業は演習の性格を有し、履修者は基本、毎回発言の機会をもつ。

到達目標 ドイツ語初級文法のルールを、しっかり習得することを目指す。

授業計画 基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個人によって異なる（基準：各回 270 分）。

第1回	Lektion7 助動詞	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 助動詞の種類と人称変化を覚え、文の作り方を確認する。	120分 150分
第2回	Lektion7 練習問題	事前 練習問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120分 150分
第3回	Lektion7 非人称のesと非人称動詞	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 非人称のesの用法を確認する。	120分 150分
第4回	Lektion8 動詞の三基本形、過去形	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 既出の動詞の三基本形を覚える。過去人称変化の規則を確認する。	120分 150分
第5回	Lektion8 現在完了形	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 現在完了形の作り方を確認する。	120分 150分
第6回	Lektion8 練習問題	事前 練習問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120分 150分
第7回	Lektion9 受動文、練習問題	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 受動文の作り方を確認する。	120分 150分
第8回	Lektion9 再帰代名詞、再帰動詞、練習問題	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 再帰動詞を使った文の作り方を確認する。	120分 150分
第9回	Lektion10 関係代名詞、関係副詞	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 関係代名詞、関係副詞をつかった文の作り方を確認する。	120分 150分
第10回	Lektion10 練習問題、不定関係代名詞、指示代名詞	事前 練習問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120分 150分
第11回	Lektion11 形容詞の格変化、練習問題	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 形容詞の格変化の規則を確認する。	120分 150分
第12回	Lektion11 形容詞の比較、最上級、練習問題	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 比較級、最上級を使った文の形を確認する。	120分 150分
第13回	Lektion12 接続法第2式、練習問題	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 接続法第2式での動詞の形は、どのようなことを表せるのかを確認する。	120分 150分
第14回	Lektion12 接続法第1式、練習問題	事前 教科書の該当箇所の説明を一読する。 事後 接続法第1式での動詞の形は、どのようなことを表せるのかを確認する。	120分 150分
第15回	既習事項の復習	事前 これまで学んだことを確認する。 事後 不足している知識を補う。	120分 150分

フィードバック 授業での課題や小テスト等についての解説などにより学習成果をフィードバックする。

成績評価 評価の基準となるのは主に学年末試験であるが、前期末試験や小テストの結果、提出物の提出状況、授業への積極的な取組の如何などを加味して評価する。テスト70%、提出物5%、授業への積極的な取組の如何25%

テキスト 赤澤 元務 他 著『フィール・エアフォルク——はじめてのドイツ語——（改訂版）』（同学社）

オフィスアワー 簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当の時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせて実施する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐

仏語 I-1

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：FOR105

専門/学年 全専門/1年次

形態：講義 単位数 2単位

概要 この授業では、フランス語を初めて学ぶ者を対象に、フランス語の基礎全般を学習する。初心者がつまづきやすい項目には十分に時間をかけ、実践的なトレーニングを通じてフランス語の基礎をしっかりと身につける。フランス語を学ぶと同時に、フランスの文化や他のフランス語圏のさまざまな文化についての知識も深めていきたいと考えている。

到達目標 フランス語の初級文法と会話表現とを同時に学習できる教材を用い、発音する・聞き取る・読む・書くなど、フランス語のトータルな能力の習得をめざす。

授業計画		
第1回	Leçon 1 自己紹介の表現	事前 教科書 P.7,L'alphabet の音声を聴く。 事後 P.8,Modèle1 および Modèle2 の発音を練習する。 120分 150分
第2回	数詞	事前 P.9,Modèle3 の発音を練習する。 事後 P.14①の音声を聞き答えを書く。 120分 150分
第3回	Leçon 2 人物を描写する	事前 P.16,Modèle1～3 の意味を調べ和訳する。 事後 P.18,Activités①および②の答えを書く。 120分 150分
第4回	住んでいる場所について話す	事前 P.19,Exercices1～3 の答えを書く。 事後 P.22②の音声を聞き答えを書く。 120分 150分
第5回	Leçon 3 仕事について話す	事前 P.24,Modèle1～3 の意味を調べ和訳する。 事後 P.27,Exercices1～3 の答えを書く。 120分 150分
第6回	国籍について話す	事前 P.27,Exercices4～6 の答えを書く。 事後 P.30②の音声を聞き答えを書く。 120分 150分
第7回	Leçon 4 好きなものを言う	事前 P.32,Modèle1 について意味を調べ和訳する。 事後 P.34, Activités①④および⑤の答えを書く。 120分 150分
第8回	Préférer の用法	事前 P.33,Modèle3 および Modèle4 について意味を調べ和訳する。 事後 P.38②の音声を聞き答えを書く。 120分 150分
第9回	Leçon 5 家族について話す	事前 P.40,Modèle1 について意味を調べ和訳する。 事後 P.42,Activités①④の答えを書く。 120分 150分
第10回	Pourquoi, parce que の用法	事前 P.41,Modèle3 および P.43,Exercices7 の答えを書く。 事後 P.46②および③の音声を聞き答えを書く。 120分 150分
第11回	Leçon 6 物の位置を示す	事前 P.49,Modèle2 および Modèle3 の答えを書く。 事後 P.50,Activités④⑥の答えを書く。 120分 150分
第12回	フランスのペット事情	事前 P.55,①の文章を読み和訳する。 事後 P.55,④の間に答える。 120分 150分
第13回	Leçon 7 色彩について話す	事前 P.57,Modèle4 および Modèle6 について意味を調べ答えを書く。 事後 P.59,Exercices1～4 の答えを書く。 120分 150分
第14回	服装について話す	事前 P.59,Exercices6～8 の答えを書く。 事後 P.58,Activités③④および⑥の答えを書く。 120分 150分
第15回	前期のまとめ	事前 第1回からの授業の内容を整理する。 事後 理解が不十分だった部分についてもう一度学習すること。 120分 150分

フィードバック 答案および授業時に提出する課題を添削して返却する。

成績評価 成績の評価は、期末試験 40%、小テスト 30%、授業での質疑応答 30%による。

テキスト Vincent Durrenberger 'Méthode de français' (駿河台出版社)

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考 初回の授業で仏和辞典についての説明をする。また、日常会話の表現を整理して学習するために、必要に応じてプリントを配布する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	

仏語 I-2

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：FOR106

専門/学年 全専門/1年次

形態：講義 単位数 2単位

概要 この授業では、フランス語を初めて学ぶ者を対象に、フランス語の基礎全般を学習する。初心者がつまづきやすい項目には十分に時間をかけ、実践的なトレーニングを通じてフランス語の基礎をしっかりと身に付ける。フランス語を学ぶと同時に、フランスの文化や他のフランス語圏のさまざまな文化についての知識も深めていきたいと考えている。

到達目標 フランス語の初級文法と会話表現とを同時に学習できる教材を用い、発音する・聞き取る・読む・書くなど、フランス語のトータルな能力の習得をめざす。

授業計画

第1回	Leçon 8 物の位置関係を示す	事前 P.65,Modèle2 の文章を読んで答えを書く。 事後 P.66, Activités①と②の答えを書く。	120分 150分
第2回	数量を尋ねる	事前 P.67, Exercices3 および5の答えを書く。 事後 P.70③とP71①の答えを書く。	120分 150分
第3回	Leçon 9 カフェで注文する	事前 P.72,Modèle1 について意味を調べ答えを書く。 事後 P.74,Activités①と②の答えを書く。	120分 150分
第4回	買い物をする	事前 P.73,Modèle2 およびModèle3 について意味を調べ答えを書く。 事後 P.78の①と②の音声を聞き答えを書く。	120分 150分
第5回	Leçon 10 食生活について話す	事前 P.80,Modèle1 について意味を調べ和訳する。 事後 P.82, Activités①Aおよび⑧の答えを書く。	120分 150分
第6回	統計について話す	事前 P.81,Modèle2 について意味を調べ和訳する。 事後 P.86 Révisions②～④の答えを書く。	120分 150分
第7回	Leçon 11 国について話す	事前 P.88, Modèle1～5 について単語の意味を調べ和訳する。 事後 P.90, Activités①～③の答えを書く。	120分 150分
第8回	天候について話す	事前 P.93,Le val de Loire について単語の意味を調べ和訳する。 事後 P.95,On va plus loin①～③の答えを書く。	120分 150分
第9回	Leçon 12 旅について話す	事前 P.97, Modèle4 について意味を調べ和訳する。 事後 P.98, Activités①と②の答えを書く。	120分 150分
第10回	道を探ねる	事前 P.102,①の音声を聞き答えを書く。 事後 P.103,On va plus loin①および②の答えを書く。	120分 150分
第11回	Leçon 13 時刻を言う	事前 P.104, Modèle1 について音声を聞き答えを書く。 事後 P.106, Activités①と③の答えを書く。	120分 150分
第12回	チケットを買う	事前 P.105,Modèle2 について意味を調べ和訳する。 事後 P.110,①の空欄を埋める。	120分 150分
第13回	Leçon 14 日常生活を話す	事前 P.113, Modèle1 およびModèle2 について単語の意味を調べ問いに答える。 事後 P.114, Activités①および②の答えを書く。	120分 150分
第14回	過ごした1日を語る	事前 P.122, Activités②の答えを書く。 事後 P.127, On va plus loin①および②の答えを書く。	120分 150分
第15回	後期のまとめ	事前 第1回からの講義全体の内容を整理する。 事後 理解が不十分な点について調べる。	120分 150分

フィード 答案および授業時に提出する課題を添削して返却する。

成績評価 成績の評価は、期末試験 40%、小テスト 30%、授業での質疑応答 30%による。

テキスト Vincent Durrenberger, ‘ Méthode de français ’ (駿河台出版社)

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	

保健体育講義

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 荒金幸子

科目コード：PHY101

専門/学年：全専門/1 年次

形態：講義

単位数：1 単位

概要 健康に影響を及ぼす身近な環境について学ぶとともに、生活習慣が原因で発症する疾患とその予防について理解を深める。

到達目標 “健康や体力づくりのために運動しよう” とする人が、楽しく安全に運動を行うために必要な、一人ひとりの身体の状態にあった適切な運動と実践方法を理解する。

授業計画 「身体の健康を考える」

第 1 回	オリエンテーション よい健康状態を保つための条件	事前 自分の現在の健康状態を確認する。 事後 1 週間の生活を記録する（食事、運動、睡眠）	60 分 220 分
第 2 回	健康保持のための運動	事前 1 週間の生活記録をまとめる。 事後 自分の生活環境を見直す（身体活動時間）	120 分 160 分
第 3 回	健康と環境	事前 身体活動時間をまとめる。 事後 生活の中に身体活動時間を増やす工夫をし実践する。	60 分 220 分
第 4 回	現代社会と運動	事前 生活習慣病とは何か調べる。 事後 生活習慣の中で注意することを理解し実践する。	120 分 160 分
第 5 回	健康・体力づくりのための運動	事前 自分に必要な運動とは何かふりかえる。 事後 自分にあった運動を理解する。	60 分 220 分
第 6 回	運動プログラム作成	事前 運動プログラムを作成する。 事後 運動プログラムを実践する。	100 分 180 分
第 7 回	生涯スポーツとは	事前 運動プログラム実践記録をまとめる。 事後 生涯スポーツの実際を理解する。	220 分 60 分
第 8 回	自分にあった適切な運動	事前 運動中の傷害を誘発する原因について調べる。 事後 安全に運動するために応急処置の必要性を確認する。	140 分 140 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 60%、課題 20%、授業態度 20%とし総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー 授業前後に教室にて。

アクティブ・ラーニング ・自分自身の生活のリズムを振り返り、食事・運動・睡眠等の生活記録をまとめ発表し合う。
・健康維持増進のため地域施設、スポーツクラブ等で公開されている講座について調べ、その内容・目的をプレゼンする。

備考 課題について、グループ毎に協力し合う時間がある。

学位授与の方針との関連

知識・技能・理解		知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒									

体育実技

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 荒金幸子

科目コード：PHY102

専門/学年：全専門/1年次

形態：実技

単位数：1単位

概要 リズム体操、縄、ボール運動等動きを楽しみながら体育活動の意義を理解する。

到達目標 いろいろな運動を体験しながら、動作がうまくコントロールできる「身体づくり」を目指す。自ら伸び伸びと楽しく身体を動かすこと、運動やスポーツに親しむ態度・能力を身につける。

授業計画 「健康づくり～楽しく身体を動かそう～」

第1回	手軽にできる体力・運動能力チェック	事前 初回の実技に向けてケガをしないからだの準備をする。 事後 疲労が感じられる部分をケアする。	50分 50分
第2回	からだほぐし・からだを器用に動かしてみよう	事前 巧緻性を高める体操とは何か調べる。 事後 からだを器用に動かす練習をする。	40分 60分
第3回	動いてみよう・動かしてみよう（縄になれよう）	事前 縄跳びに必要な準備運動・体操を行う。 事後 疲労が残らないようにケアする。ストレッチを行う習慣を身につける。	40分 60分
第4回	動いてみよう・動かしてみよう（リズム縄跳び）	事前 縄跳びに必要な準備運動・体操を行う。 事後 リズムに合わせて跳べるようにする。疲労が感じられる部分をケアする。ストレッチを行う。	30分 70分
第5回	動いてみよう・動かしてみよう（ボールになれよう）	事前 ボール運動に必要な準備運動・体操を行う。 事後 使った部分を中心にケアする。ストレッチを行う。	40分 60分
第6回	動いてみよう・動かしてみよう（ボールゲーム）	事前 ボール運動に必要な準備運動・体操を行う。 事後 使った部分を中心にケアする。ストレッチに加え軽い筋力トレーニングを行う習慣を身につける。	40分 60分
第7回	ゲームを楽しもう基本編	事前 全身運動を取り入れケガをしないからだの準備をする。 事後 ストレッチ、筋力トレーニングと全身がリラックスできる体操を行う。	30分 70分
第8回	ゲームを楽しもう応用編	事前 全身運動を取り入れケガをしないからだの準備をする。 事後 ストレッチ、筋力トレーニング、全身がリラックスできる体操を行う。	30分 70分
第9回	リズムによって動いてみよう（動きを楽しもう）	事前 からだを動かし体調の確認をする。有酸素運動を取り入れることを心がける。 事後 疲労が残らないようにケアする。ストレッチ、筋力トレーニングを行う。	50分 50分
第10回	リズムによって動かしてみよう（動きを工夫してみよう）	事前 からだを動かし体調の確認をする。有酸素運動を行う。 事後 疲労が残らないようにケアする。ストレッチ、筋力トレーニングを行う。	50分 50分
第11回	身近な用具を使って動いてみよう	事前 からだを動かし体調の確認をする。有酸素運動を行う。 事後 疲労が残らないようにケアする。身近な用具をつかったストレッチ、筋力トレーニングを工夫する。	50分 50分
第12回	ひと工夫した運動・ゲームを考えよう	事前 からだを動かし体調の確認をする。楽しかった運動・ゲームをアレンジする。有酸素運動を行う。 事後 疲労が感じられる部分をケアする。ストレッチ、筋力トレーニングを行う。	60分 40分
第13回	ひと工夫した運動・ゲームを楽しもう	事前 運動・ゲームに必要な準備運動・体操を行う。有酸素運動を行う。 事後 疲労が感じられる部分をケアする。ストレッチ、筋力トレーニングを行う。	50分 50分
第14回	運動会を企画しよう	事前 楽しく競える内容を考える。提案準備をする。 事後 楽しく競える内容と方法であるかを確認する。	50分 50分
第15回	運動会を楽しもう まとめ	事前 運動会種目に合わせた準備運動・体操を行う。有酸素運動を行う。 事後 積極的にからだを動かし体調管理ができる時間をもつように心がける。	50分 50分

フィードバック 授業での課題やレポートについて添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技 50%、態度 30%、提出物 20%とし総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー 授業前後に教室にて。

アクティブ・ラーニング ・生活習慣による体の使い方、動きのバランス等を互いに見直し、気づきからの発見、再確認をし合いながら今後の身体活動（生活面を含む）の直す点をプレゼンする。
・音楽（リズム）に合わせて体を動かす、リズム体操、ダンスを（グループワーク）創作し発表し合う。

備考 ・必ず運動着、運動靴を着用する。
・運動制限のある学生は授業で申し出ること。また、忘れ物をした場合や体調不良などで見学したい学生は、授業開始前に連絡し指示を受けること。
・画面を通して実技を行う場合もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	

初年次プログラム

学科長 教授 内田有一

科目コード：CAR101

専門/学年：全専門/1年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 短大に入学した新入生はキャリアのビジョンをもち2年間の学修に取り組むとともに、教養を深めることが重要である。このプログラムは、自己のキャリア形成を考え、Society5.0の市民としての教養的資質を身に付けることをねらいとする。

到達目標 2年後の自分を思い描き、何をどう学ぶかについて自己の自覚を深める。SDG sを題材とした主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニングの視点）の学習を通して、現代を生きる市民としての在り方を考えることができる。

授業計画

第1回	キャリア学習① 3つのポリシー、Society5.0におけるキャリア形成	事前 学生のためのハンドブックを読み、3つのポリシーについて知っておく。 事後 2年間の学修におけるキャリアについて課題意識をもつ。	140分 140分
第2回	自分の時間割を作る	事前 学生のためのハンドブック、履修計画表、講義要旨、授業時間表を読む 事後 時間割に基づいた生活の在り方について考える。	140分 140分
第3回	学内PCの起動・操作方法	事前 パソコンを開き、基本的な用語を予習しておく 事後 スムーズに文書が作成できるよう練習する	140分 140分
第4回	(4/15) レポートの書き方及び対話的な学習の方法	事前 『学生のためのハンドブック』の該当項を読み、理解しておく 事後 授業で配布された資料や、聴講した内容を復習し、課題に取り組む	100分 180分
第5回	(4/22) 現代的課題による対話演習 (SDG s) 環境・エネルギー	事前 SDGsについて予備知識を得て、質問や意見等を用意しておく 事後 環境・エネルギーに関する授業内で提示された課題に資料を用いて取り組む	150分 150分
第6回	(4/29) 現代的課題による対話演習 (SDG s) 国際理解	事前 アクティブラーニングに対応できるよう資料収集など準備をしておく 事後 国際理解に関して授業内で提示された課題に資料を用いて取り組む	150分 150分
第7回	(5/6) 現代的課題による対話演習 (SDG s) 多様性	事前 アクティブラーニングに対応できるよう資料収集など準備をしておく 事後 多様性に関して授業内で提示された課題に資料を用いて取り組む	150分 150分
第8回	(5/13) 現代的課題による対話演習 (SDG s) 質の良い教育	事前 アクティブラーニングに対応できるよう資料収集など準備をしておく 事後 質の良い教育に関して授業内で提示された課題に資料を用いて取り組む	150分 150分
第9回	(5/20) 現代的課題による対話演習 (SDG s) 循環型社会	事前 アクティブラーニングに対応できるよう資料収集など準備をしておく 事後 循環型社会に関して授業内で提示された課題に資料を用いて取り組む	150分 150分
第10回	(5/27) 現代的課題による対話演習 (SDG s) 街づくり	事前 アクティブラーニングに対応できるよう資料収集など準備をしておく 事後 街づくりに関して授業内で提示された課題に資料を用いて取り組む	150分 150分
第11回	(6/3) 現代的課題による対話演習 (SDG s) 貧困をなくす	事前 アクティブラーニングに対応できるよう資料収集など準備をしておく 事後 貧困問題に関して授業内で提示された課題に資料を用いて取り組む	150分 150分
第12回	(6/10) 現代的課題による対話演習 (SDG s) 働くこと	事前 アクティブラーニングに対応できるよう資料収集など準備をしておく 事後 SDGsについて学んだことをふまえ、資料を用いて課題に取り組む	150分 150分
第13回	(6/17) キャリア学習② 就職活動及び資格取得説明	事前 配付資料を読み、概要を知る。 事後 自己に必要な資格所得に関わる学びを日課表に組み込み、生活の見通しをもつ。	140分 140分
第14回	(6/24) キャリア学習③ キャリア体験談 (卒業生)	事前 配付資料を読み、概要を知る。 事後 卒業生の考え方と自己の考え方を比較し、自己のキャリア形成について自覚をもつ	140分 140分
第15回	言語表現 (私と音楽) 事前作文+一人20分の面接 面接日程は別途掲示にて通知される	事前 課題作文を書いて、期限までに大学事務部へ提出する 事後 面接を通じて、自分と音楽との関わり方を再確認する	140分 140分

フィードバック 「言語表現」時に口頭で初年次プログラム全体のフィードバックを行う。

成績評価 レポート60% 授業への取り組み40%

テキスト 特になし

オフィスアワー 別途示す各教員のオフィスアワーにて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐					

専門実技 I-1 (ピアノ)

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード: IND101

専門/学年: ピアノ専門/1 年次

形態: 実技

単位数: 2 単位

概要 古典派の作品で読譜力・構成力・立体的表現力を身につける

到達目標 ピアノ奏法の基本である姿勢・打鍵・運指・脱力を習得することを目標とする。

授業計画 前期 15 回 各人 50 分の個人指導
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

回数	ガイダンス	1 年間の学習計画	事前	事後	420 分
第 1 回	基礎的なことの確認－姿勢－		自分の演奏で何が不足しているかを考える	1 年間の目標を設定し、勉強方針を立てる	420 分
第 2 回	基礎的なことの確認－打鍵－		様々な椅子の高さで演奏を試み、最適な椅子の高さを探す	椅子に座った時の姿勢を確認しながら演奏をする	420 分
第 3 回	基礎的なことの確認－脱力－		ピアノアンサンブル I で調べた打鍵のしくみを確認する	打鍵を確認しながら、1 つ 1 つの音をしっかりと演奏する	420 分
第 4 回	前期試験曲－前期試験に向けての勉強の仕方－		体を動かして肘・手首の脱力を試みる	肩・肘・手首に力が入らずに演奏できているかを確認をする	420 分
第 5 回	前期試験曲－読譜の確認－		作品を決め、読譜をはじめる	作曲家について調べる	420 分
第 6 回	前期試験曲－形式－		楽語を調べ、意識をして、読譜をする	正しい読譜ができているか確認をする	420 分
第 7 回	前期試験曲－様式－		形式を考え、練習をする	ソナタ形式について調べ、演奏に結びつける	420 分
第 8 回	前期試験曲－表現－		作曲時の時代背景を調べる	作曲家に与えた影響を考える	420 分
第 9 回	前期試験曲－和声感－		表現方法を考えて練習をする	表現する上で最適なテンポを探す	420 分
第 10 回	前期試験曲－強弱－		和声機能の確認をする	和音の響きを確認する	420 分
第 11 回	前期試験曲－音色－		強弱の確認をする	コントラストのつけ方の研究をする	420 分
第 12 回	前期試験曲－より深い解釈－		作曲家の要求しているニュアンスを探る	曲のキャラクターを考え、練習をする	420 分
第 13 回	前期試験曲－より深い表現－		和音の響きを聴いているか確認をする	声部それぞれが生き、立体的な演奏になっているか確認をする	420 分
第 14 回	前期試験曲－仕上げ－		表現を掘り下げて練習をする	独自の表現ができているか確認をする	420 分
第 15 回			アーティキュレーションスラーの確認をする	フレーズ感をもって演奏するように心がけて、練習をする	420 分

フィードバック 前期演奏試験の演奏について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各実技担当教員のレッスン室で対応する。（各実技担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐

専門実技 I-2 (ピアノ)

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード: IND102

専門/学年: ピアノ専門/1年次

形態: 実技 単位数: 2単位

概要 ロマン派、近現代の作品で、表現能力・音楽性を身につける。

到達目標 表現力・音の色彩感を養うことを目標とする。

授業計画 後期 15回 各人 50分の個人指導
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	オーディションの曲－読譜の確認－	楽語を調べ、意識をして読譜をする	正しい読譜ができているか確認して、練習をする	420分
第2回	オーディションの曲－解釈－	作曲時の時代背景を調べる	形式を考え、練習をする	420分
第3回	オーディションの曲－表現－	表現方法を考えて、練習をする	表現する上で最適なテンポを探す	420分
第4回	オーディションの曲－仕上げ－	作曲家の要求しているニュアンスを探り練習をする	曲のキャラクターを考え、練習をする	420分
第5回	後期試験曲－後期試験に向けての勉強の仕方－	作品を決め、読譜をはじめる	作曲家について調べる	420分
第6回	後期試験曲－読譜の確認－	楽語を調べ、意識をして読譜をする	正しい読譜ができているか確認をし、練習をする	420分
第7回	後期試験曲－形式－	形式を考えて、練習をする	曲の大きな流れを捉えて、練習をする	420分
第8回	後期試験曲－様式－	作曲時の時代背景を調べる	作曲家に与えた影響を考える	420分
第9回	後期試験曲－表現－	表現方法を考えて、練習をする	表現する上で最適なテンポを探し、練習する	420分
第10回	後期試験曲－和声感－	和声機能の確認をして、練習をする	和音の響きを意識して、練習をする	420分
第11回	後期試験曲－強弱－	強弱の確認をして練習をする	コントラストのつけ方の研究をして、練習する	420分
第12回	後期試験曲－音色－	作曲家の要求しているニュアンスを探り、練習をする	曲のキャラクターを考えて練習をする	420分
第13回	後期試験曲－細部の表現－	アーティキュレーションスラーの確認をして、練習をする	フレーズ感をもって演奏をしているか確認をして、練習をする	420分
第14回	後期試験曲－細部の音色－	タッチの確認をして練習をする	色彩感のある音を出しているか、確認をしながら、練習をする	420分
第15回	後期試験曲－仕上げ－	曲のイメージをしっかりと捉えて、練習をする	広い空間での響きを意識して、練習をする	420分

フィードバック オーディション・後期演奏試験の演奏について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員(ピアノ実技担当教員)による。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各実技担当教員のレッスン室で対応する。(各実技担当教員レッスン日)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐							

専門実技Ⅱ-1（ピアノ）

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：IND201

専門／学年：ピアノ専門／2年次

形態：実技 単位数：2 単位

概要 様々な作曲家特有の語法を学ぶ。

到達目標 バランス・聴きとる力を養い、学内演奏会でのホール演奏に結びつける。

授業計画 前期 15 回、各人 50 分の個人指導。
実技演習においては、ピアノアンサンブルⅡ-1 の学内演奏会の曲の進度に合わせて授業を進める。

第 1 回	ガイダンス 1 年間の学習計画	事前 レパートリーに加えたい作品を選ぶ 事後 1 年間の目標を設定し、勉強方針を立てる	420 分 420 分
第 2 回	オーディションの曲—定期演奏会オーディションに向けての勉強の仕方—	事前 作品を決め、読譜を始める 事後 作曲家について調べる	420 分 420 分
第 3 回	オーディションの曲—読譜の確認—	事前 楽語を調べ、楽語を意識して、練習する 事後 正しい読譜が出来ているか確認をする	420 分 420 分
第 4 回	オーディションの曲—様式・形式—	事前 作曲家の時代背景を考える 事後 曲の形式を考える	420 分 420 分
第 5 回	オーディションの曲—和声感—	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和音の響きを意識して、練習をする	420 分 420 分
第 6 回	オーディションの曲—強弱—	事前 強弱の確認をして、練習する 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習をする	420 分 420 分
第 7 回	オーディションの曲—音色—	事前 作曲家の要求している音色を探る 事後 曲のキャラクターを考える	420 分 420 分
第 8 回	オーディションの曲—フレーズ感—	事前 アーティキュレーションスラーの確認をする 事後 フレーズ感をもって演奏をしているか確認をする	420 分 420 分
第 9 回	オーディションの曲—表現—	事前 表現方法を考える 事後 表現をする上で、最適なテンポを探す	420 分 420 分
第 10 回	オーディションの曲—テンポ感—	事前 最終的なテンポを設定する 事後 テンポの不自然なふらつきがないか、確認をする	420 分 420 分
第 11 回	学内演奏会の曲—様式—	事前 作曲時の時代背景を調べる 事後 作曲家に与えた影響を考える	420 分 420 分
第 12 回	学内演奏会の曲—表現—	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現をする上で、最適なテンポを探し、練習をする	420 分 420 分
第 13 回	学内演奏会の曲—強弱—	事前 強弱の確認をして、練習をする 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習する	420 分 420 分
第 14 回	学内演奏会の曲—仕上げ—	事前 2 人でタッチの確認をして、練習をする 事後 色彩感のある音を出しているか確認をする	420 分 420 分
第 15 回	学内演奏会の曲—仕上げ—	事前 掘り下げた表現ができていないか確認をする 事後 声部それぞれが生きており、立体的な演奏になっているか確認をする	420 分 420 分

フィードバック 学内演奏会の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 学内演奏会 60%、課題 20%、授業態度 20%

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅱ-2 (ピアノ)

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：IND202

専門/学年：ピアノ専門/2年次

形態：実技

単位数：2単位

概要 より高度なテクニック・より深い音楽表現・より豊かな表現力を習得する。

到達目標 楽曲にあった音色・音楽表現を追及し、オーディション・卒業演奏試験で質の高い演奏を目指す。

授業計画 後期 15回、各人 50分の個人指導。
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

第1回	オーディションの曲—細かいニュアンス	事前 タッチの確認をして、練習する 事後 色彩感のある音を出しているか確認して、練習する	420分 420分
第2回	オーディションの曲—響き—	事前 和声の響きを聴いているか確認をして、練習する 事後 声部それぞれが生きて、立体的な演奏になっているか確認をする	420分 420分
第3回	オーディションの曲—仕上げ—	事前 曲のイメージをしっかり捉えて、練習をする 事後 振り下げた表現ができているか確認をする	420分 420分
第4回	オーディションの曲—仕上げ—	事前 広い空間での響きを意識して、練習をする 事後 全体の流れを確認する	420分 420分
第5回	試験曲—卒業演奏試験に向けての勉強の仕方—	事前 作品を決め、読譜をする 事後 作曲家について、調べる	420分 420分
第6回	試験曲—読譜の確認—	事前 楽譜を調べ、楽譜を意識して、練習をする 事後 正しい読譜が出来ているか、確認をする	420分 420分
第7回	試験曲—形式—	事前 形式を考えて、練習をする 事後 曲の大きな流れを捉えて、練習をする	420分 420分
第8回	試験曲—様式—	事前 作曲時の時代背景を調べる 事後 作曲家に与えた影響を考える	420分 420分
第9回	試験曲—表現—	事前 表現方法を考える 事後 表現をする上で、最適なテンポを探す	420分 420分
第10回	試験曲—和声感—	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和音の響きを意識して、練習をする	420分 420分
第11回	試験曲—強弱—	事前 強弱の確認をして、練習する 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習をする	420分 420分
第12回	試験曲—音色—	事前 作曲家の要求している音色を探る 事後 曲のキャラクターを考える	420分 420分
第13回	試験曲—細部の表現—	事前 アーティキュレーションスラーの確認をする 事後 フレーズ感をもって演奏をしているか確認をする	420分 420分
第14回	試験曲—細部の音色—	事前 タッチの確認をする 事後 色彩感のある音を出しているか確認をする	420分 420分
第15回	試験曲—より深い解釈—	事前 和声の響きを聴いているか確認をして、練習する 事後 声部それぞれが生きて、立体的な演奏になっているか確認をする	420分 420分

フィードバック オーディション・卒業演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 卒業演奏試験の評価が50点以上であること。卒業演奏試験 60%、課題 20%、授業態度 20%
試験にレッスンへの取り組み等を加味して、総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐

専門実技 I-1 (器楽)

※音楽療法士養成に関する科目

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND101

専門/学年：器楽専門/1 年次

形態：実技

単位数：2 単位

概要 この授業は学習の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。

到達目標 個々の能力、状況に応じて基本を学び、ベーシックな作品から高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。前期試験に向けて計画を立て学修する。

授業計画 前期 15 回 各人 50 分の個人指導 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。

- ・各学生の能力を見極め、基礎的なテクニックについて適正な課題を用い指導する。
- ・オーソドックスな作品を中心に、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。

第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前	入学前の学習を確認し学習計画案を立てる	420 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ(時代背景を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ(楽譜の読み取り方を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 4 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ(装飾法を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 5 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ(テクニックを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ(音楽表現を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ(ピアノとの表現合わせを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 9 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ(時代背景を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ(楽譜の読み取り方を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ(テクニックを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ(音楽表現を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 13 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ(ピアノとの表現合わせを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ(仕上げ)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、前期試験に向けて練習する	420 分

フィードバック 前期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
なお、試験審査は複数教員(弦管打楽器実技担当教員)による。

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室(各実技担当教員レッスン日)

備考 1 回あたりの時間数(事前・事後)は、各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	

専門実技 I-2 (器楽)

※音楽療法士養成に関する科目

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND102

専門/学年：器楽専門/1 年次

形態：実技

単位数：2 単位

概要 この授業は学習の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。

到達目標 個々の能力、状況に応じて基本を学び、ベーシックな作品から高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。後期試験に向けて計画を立て学修する。

授業計画 後期 15 回 各人 50 分の個人指導 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。

- ・各学生の能力を見極め、基礎的なテクニックについて適正な課題を用い指導する。
- ・オーソドックスな作品を中心に、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。

第 1 回	後期の学習計画を立てる	事前	前期の学習を確認し後期の学習計画案を立てる	420 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ (時代背景を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ (楽譜の読み取り方を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 4 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ (テクニックを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 5 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ (音楽表現を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ (ピアノとの音程合わせを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ (ピアノとの表現合わせを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ (仕上げ)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 9 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ (時代背景を学ぶ)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ (後期試験曲を学ぶ)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ (テクニックを学ぶ)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ (音楽表現を学ぶ)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 13 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ (ピアノとの音程合わせを学ぶ)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ (ピアノとの表現合わせを学ぶ)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ (仕上げ)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、後期試験に向けて練習する	420 分

フィードバック 後期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
なお、試験審査は複数教員 (弦管打楽器実技担当教員) による。

テキスト 各教員から教則本、楽曲等の指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室 (各実技担当教員レッスン日)

備考 1 回あたりの時間数 (事前・事後) は、各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	

専門実技Ⅱ-1 (器楽)

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND201

専門/学年：器楽専門/2年次

形態：実技

単位数：2単位

概要 専門実技Ⅱ-1は学習の最も中心となる各自の専門実技を個人レッスン形式で学ぶものである。

到達目標 個々の能力、状況に応じて、より高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。

授業計画 前期 15回 各人 50分の個人指導 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。技術の充実をめざすと共に、その応用として様々な作品をとりあげ、音楽を表現する方法について深く研究する。

第1回	前期の学習計画を立てる	事前	一年次の学習を確認し学習計画を立てる	420分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420分
第2回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(時代背景を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分
第3回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(楽譜の読み取り方を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分
第4回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(演奏スタイルを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分
第5回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(テクニックを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分
第6回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分
第7回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(ピアノとの表現合わせを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分
第8回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(仕上げ)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分
第9回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ(時代背景を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分
第10回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ(楽譜の読み取り方を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分
第11回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ(テクニックを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分
第12回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ(音楽表現を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分
第13回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分
第14回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ(ピアノとの表現合わせを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分
第15回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ(仕上げ)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420分
		事後	問題箇所を確認し、学内演奏会に向けて練習する	420分

フィードバック 学内演奏会の後、実技担当教員、器楽実技教員からコメントを受ける。

成績評価 学内演奏会において評価する。評価が、50点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
なお、試験審査は複数教員(弦管打楽器実技担当教員)による。

テキスト 各実技教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室(各実技担当教員レッスン日)

備考 1回あたりの時間数(事前・事後)は各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐									

専門実技Ⅱ-2 (器楽)

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND202

専門/学年：器楽専門/2年次

形態：実技

単位数：2単位

概要 専門実技Ⅱ-2は学習の最も中心となる各自の専門実技を個人レッスン形式で学ぶものである。

到達目標 個々の能力、状況に応じて、より高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。

授業計画 後期 15回 各人 50分の個人指導 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。技術の充実をめざすと共に、その応用として様々な作品をとりあげ、音楽を表現する方法について深く研究する。

第1回	後期の学習計画を立てる	事前 前期の学習を確認し後期の学習計画案を立てる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420分 420分
第2回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(時代背景を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第3回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第4回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(テクニクを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第5回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(音楽表現を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第6回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第7回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(ピアノとの表現合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第8回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(仕上げ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第9回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ(時代背景を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第10回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ(後期試験曲を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第11回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ(テクニクを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第12回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ(音楽表現を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第13回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第14回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ(ピアノとの表現合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第15回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ(仕上げ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、卒業演奏試験に向けて練習する	420分 420分

フィードバック 卒業演奏試験の後、実技担当教員、器楽実技教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験・卒業演奏試験の評価が、50点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
なお、試験審査は複数教員(弦管打楽器実技担当教員)による。

テキスト 各実技教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室(各実技担当教員レッスン日)

備考 1回あたりの時間数(事前・事後)は各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	

専門実技 I-1 (声楽)

※音楽療法士養成に関する科目

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード: IND101

専門/学年: 声楽専門/1 年次

形態: 実技

単位数: 2 単位

概要 個人レッスンの形態で歌唱に必要な基礎技術を習得する。すなわち正しい姿勢、腹式呼吸による自然な発声を身につける。

到達目標 エチュード、イタリア古典歌曲を中心題材として歌唱の基本技術を体得することを目標とする。
声楽の技術、音楽を学び、実技試験等に向け表現力を養う。

授業計画 各人 50 分の個人指導
試験課題は、任意の歌曲 1 曲。

第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前	これまでの学習内容を整理する	90 分
		事後	練習曲① 課題曲① 読譜、練習をする	210 分
第 2 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 1 姿勢、呼吸法を中心に	事前	練習曲① 課題曲① 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲② 課題曲② 読譜、練習をする	210 分
第 3 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 2 ストレッチ、発声法を中心に	事前	練習曲② 課題曲② 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲③ 課題曲③ 読譜、練習をする	210 分
第 4 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 3 母音、子音の明確化	事前	練習曲③ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲④ 課題曲④ 読譜、練習をする	210 分
第 5 回	歌曲、楽譜を読み込む 1 読譜、音程・リズムを正確に読む	事前	練習曲④ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	練習曲⑤ 課題曲③ 母音と子音の明確化	210 分
第 6 回	歌曲、楽譜を読み込む 2 詩 (ディクショ) と音 (メロディー) との関わり方	事前	練習曲⑥ 課題曲④ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ 言葉の意味を調べる	210 分
第 7 回	声の 카테고리を踏まえ、複数の課題曲を選択 前期試験を意識する	事前	課題曲③、課題曲④ 詩の内容を考える	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ テンポ、強弱等意識して練習する	210 分
第 8 回	前期試験曲を探る 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前	課題曲③、課題曲④ 暗譜して練習する	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ 暗譜の確認と表現法の研究	210 分
第 9 回	前期試験曲を選ぶ 試験曲の読譜	事前	前期試験曲の譜読み、楽譜を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の音程、リズムを正確に読む練習	210 分
第 10 回	前期試験曲を学ぶ 1 音程・リズムを正確に読む	事前	前期試験曲の言葉 (単語) の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら練習	210 分
第 11 回	前期試験曲を学ぶ 2 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	事前	前期試験曲の単語、文章の意味を考える	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら練習	210 分
第 12 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前	前期試験曲の内容と強や、音楽用語の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容と強弱他を考えながら練習	210 分
第 13 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 2 問題点の認識と解決をはかる	事前	前期試験曲、伴奏合わせを繰り返す	210 分
		事後	前期試験曲、呼吸、テンポを伴奏者とともに確認、練習をする	210 分
第 14 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 3 暗譜を確かなものとする	事前	前期試験曲、伴奏者とともに暗譜練習する	210 分
		事後	前期試験曲、内容を考えながら伴奏者と合わせる	210 分
第 15 回	前期のまとめ	事前	前期試験曲、暗譜をしなが伴奏合わせをくり返す	90 分
		事後	前期試験曲、暗譜の確認および演奏の完成度を上げていく	210 分

フィードバック 試演、試験後に個人面談のかたちで学修成果をフィードバックする

成績評価 実前期演奏試験、評価は複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ 50 番 他
イタリア古典歌曲集 等
担当教員より、ガイダンス及び授業内にて適宜指示する。

オフィスアワー 各教員の出校日
各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐

専門実技 I-2 (声楽)

※音楽療法士養成に関する科目

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード: IND102

専門/学年: 声楽専門/1年次

形態: 実技

単位数: 2単位

概要 個人レッスンの形態で、声楽の基礎技術および音楽を学ぶ。日本歌曲を含む歌唱技術と表現力を身につける。

到達目標 ディクッション(詩・韻律)と音楽(旋律)との深い関わりを認識し、技術と表現力を向上を目標とする。前期の学習を踏まえ、発声、エチュード、イタリア歌曲及び日本歌曲にて声楽の基礎の確立を目指す。

授業計画 各人 50 分の個人指導
試験課題は、日本歌曲および自由曲。上記を題材とし、読譜力、解釈力、演奏様式を身につける

第1回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期試験の反省 事後 後期の課題の選曲と譜読み	210分 210分
第2回	歌唱技術の習得 1 異なる言語による作品の読譜	事前 課題曲⑤及び⑥の譜読み 事後 課題曲⑤及び⑥を音程、リズムに注意して練習する	210分 210分
第3回	歌唱技術の習得 2 異なる言語による作品の詩の内容を理解する	事前 課題曲⑤及び⑥の言葉の意味を調べる 事後 課題曲⑤及び⑥を言葉の意味を考えながら練習する	210分 210分
第4回	歌唱技術の習得 3 異なる言語による作品、母音と子音の明確化	事前 課題曲⑤及び⑥の詩の内容を考える 発音練習する 事後 課題曲⑤及び⑥の詩の内容を考えながら練習 母音と子音の明確化	210分 210分
第5回	歌唱技術の習得 4 異なる言語による作品、表現法の研究、楽譜の意味を知る	事前 課題曲⑤及び⑥、強弱、テンポの変化、音楽用語等を調べる 事後 課題曲⑤及び⑥、表現、テンポを考えながら練習	210分 210分
第6回	後期試験曲を探る 読譜、音程・リズムを正確に	事前 課題曲⑦ 譜読み 事後 課題曲⑦ 音程、リズムを正確に読む	210分 210分
第7回	後期試験曲を選ぶ 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前 課題曲⑦ 発音練習母音と子音の明確化 事後 課題曲⑦ 表現、テンポを意識する	210分 210分
第8回	後期試験曲を学ぶ 1 表現法の研究、楽譜を読みこむ	事前 課題曲⑦ 単語の意味を調べる 事後 課題曲⑦ 単語及び詩の意味を考えながら練習する	210分 210分
第9回	後期試験曲を学ぶ 2 テンポの変化、強弱他を意識する	事前 課題曲⑦ 曲の内容を把握する 事後 課題曲⑦ 曲の内容を考えながら練習する	210分 210分
第10回	後期試験曲を学ぶ 3 伴奏者とともに曲の理解を深める	事前 課題曲⑦ 言葉の意味、時代背景等調べる 事後 課題曲⑦ 言葉の意味を考えながら練習する	210分 210分
第11回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前 課題曲⑦ 単語、文章の意味を調べる 伴奏合わせをする 事後 課題曲⑦ 詩の内容を考えながら練習する	210分 210分
第12回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 2 楽曲の研究を深める	事前 課題曲⑦ 伴奏合わせをする。強弱他音楽用語を調べる 事後 課題曲⑦ 伴奏者とともに曲の内容を考えながら練習する	210分 210分
第13回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 3 楽曲の研究を深め、暗譜をする	事前 課題曲⑦ 伴奏合わせを繰り返し、暗譜練習する 事後 課題曲⑦ 呼吸、テンポ等、伴奏者と確認する	210分 210分
第14回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 4 楽曲の内容を深め、暗譜を確かなものにする	事前 課題曲⑦ 伴奏者とともに表現方法を工夫する 事後 課題曲⑦ 曲の内容を考えながら合わせ、表現力をあげる	210分 210分
第15回	後期のまとめ	事前 課題曲⑦ 伴奏者とともに 暗譜の確認 事後 課題曲⑦ 伴奏者とともに 曲の完成度を上げていく	210分 210分

フィードバック オーディション、定期演奏会等後に個人面談の形で、後期を振り返り、成果や次の課題を話し合う

成績評価 後期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ 50番 他
曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日
各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐						

専門実技Ⅱ-1 (声楽)

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：IND201

専門/学年：声楽専門/2 年次

形態：実技

単位数：2 単位

概要 個人レッスンの形態で歌唱の三原則すなわち姿勢・呼吸・発声を基に、より自然な歌唱を習得する。

到達目標 1 年次に習得した歌唱法を基に、演奏表現の更なる発展をテーマとする。個々の特性にもよるが、歌曲だけでなく、オペラやオラトリオのアリア等レパートリーを拡げながら発声法・技術の向上を目指す。

授業計画 毎週 50 分、15 回の個人指導。学内演奏会（独唱または重唱、器楽のオブリガードを伴う楽曲を含む）に向け、技術及び表現を身につける

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前 これまでの学習内容を整理する	事後 練習曲① 課題曲① 読譜、練習をする	90 分 210 分
第 2 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 1 姿勢、呼吸法を中心に	事前 練習曲① 課題曲① 音程、リズムを正確に読む	事後 練習曲② 課題曲② 読譜、練習をする	210 分 210 分
第 3 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 2 ストレッチ、発声法を中心に	事前 練習曲② 課題曲② 音程、リズムを正確に読む	事後 練習曲③ 課題曲③ 読譜、練習をする	210 分 210 分
第 4 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 3 母音、子音の明確化	事前 練習曲③ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む	事後 練習曲④ 課題曲④ 読譜、練習をする	210 分 210 分
第 5 回	歌曲、楽譜を読み込む 1 詩（ディクシオン）と音（メロディー）との関わり方、楽譜の意味	事前 練習曲④ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	事後 練習曲⑤ 課題曲③ 母音と子音の明確化	210 分 210 分
第 6 回	歌曲、楽譜を読み込む 2 詩の内容を理解する	事前 練習曲⑥ 課題曲④ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	事後 課題曲③、課題曲④ 言葉の意味を調べる	210 分 210 分
第 7 回	声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題曲を選択 前期試験を意図する	事前 課題曲③、課題曲④ 詩の内容を考える	事後 課題曲③、課題曲④ テンポ、強弱等意識して練習する	210 分 210 分
第 8 回	前期試験曲を探る 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前 課題曲③、課題曲④ 暗譜して練習する	事後 課題曲③、課題曲④ 暗譜の確認と表現法の研究	210 分 210 分
第 9 回	前期試験曲を選ぶ 読譜、音程・リズムを正確に読む	事前 前期試験曲の譜読み	事後 前期試験曲の音程、リズムを正確に読む練習	210 分 210 分
第 10 回	前期試験曲を学ぶ 1 母音と子音の明確化	事前 前期試験曲の言葉（単語）の意味を調べる	事後 前期試験曲の詩の内容を考えながら練習	210 分 210 分
第 11 回	前期試験曲を学ぶ 2 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	事前 前期試験曲の単語、文章の意味を考える	事後 前期試験曲の詩の内容を考えながら練習、楽譜の意味を考える	210 分 210 分
第 12 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前 前期試験曲の内容と強や、音楽用語の意味を調べる	事後 前期試験曲の詩の内容と強弱他を考えながら練習	210 分 210 分
第 13 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 2 問題点の認識と解決をはかる	事前 前期試験曲、伴奏合わせを繰り返す	事後 前期試験曲、呼吸、テンポを伴奏者とともに練習	210 分 210 分
第 14 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 3 暗譜を確かなものとする	事前 前期試験曲、伴奏者とともに暗譜練習する	事後 前期試験曲、内容を考えながら伴奏者と合わせる	210 分 210 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 前期試験曲、暗譜をしながら伴奏合わせをくり返す	事後 前期試験曲、暗譜の確認および演奏の完成度を上げていく	210 分 210 分

フィードバック 試演会、学内演奏会後、個人面談の形で前期を振り返り、次の課題を話し合う。

成績評価 前期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ、イタリア歌曲等、
レッスン時に指示する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐							

専門実技Ⅱ-2 (声楽)

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：IND202

専門/学年：声楽専門/2 年次

形態：実技

単位数：2 単位

概要 個人レッスンの形態で歌唱の三原則すなわち姿勢・呼吸・発声を基に、より自然な歌唱を習得する。

到達目標 1 年次に習得した歌唱法を基に、演奏表現の更なる発展をテーマとする。個々の特性にもよるが、歌曲だけでなく、オペラやオラトリオのアリア等レパートリーを広げながら発声法・技術の向上を目指す。

授業計画 毎週 50 分、15 回の個人指導。卒業課題は歌曲 1 曲、自由曲 1 曲。前期に加え、演奏の完成度を上げる

回数	内容	事前	事後	210 分
第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	前期試験の反省	後期の課題の譜読み	210 分
第 2 回	歌唱技術の習得 1 異なる言語による作品の読譜	課題曲⑤及び⑥の譜読み	課題曲⑤及び⑥を音程、リズムに注意して練習する	210 分
第 3 回	歌唱技術の習得 2 異なる言語による作品の詩の内容を理解する	課題曲⑤及び⑥の言葉の意味を調べる	課題曲⑤及び⑥を言葉の意味を考えながら練習する	210 分
第 4 回	歌唱技術の習得 3 異なる言語による作品、母音と子音の明確化	課題曲⑤及び⑥の詩の内容を考える 発音練習する	課題曲⑤及び⑥の詩の内容を考えながら練習 母音と子音の明確化	210 分
第 5 回	歌唱技術の習得 4 異なる言語による作品、表現法の研究	課題曲⑤及び⑥、強弱、テンポの変化、音楽用語等を調べる	課題曲⑤及び⑥、表現、テンポを考えながら練習	210 分
第 6 回	後期試験曲を探る 読譜力と詩の解釈をすすめる	課題曲⑦ 譜読み	課題曲⑦ 音程、リズムを正確に読む	210 分
第 7 回	後期試験曲を選ぶ 読譜 音程・リズムを正確に読む	課題曲⑦ 発音練習母音と子音の明確化	課題曲⑦ 表現、テンポを意識する	210 分
第 8 回	後期試験曲を学ぶ 1 母音、子音の明確化	課題曲⑦ 単語の意味を調べる、楽譜を調べる	課題曲⑦ 単語及び詩の意味を考えながら練習する	210 分
第 9 回	後期試験曲を学ぶ 2 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	課題曲⑦ 曲の内容を把握する	課題曲⑦ 曲の内容を考えながら練習する	210 分
第 10 回	後期試験曲を学ぶ 3 伴奏者とともに曲の理解を深める	課題曲⑦ 言葉の意味、時代背景等調べる	課題曲⑦ 言葉の意味を考えながら練習する	210 分
第 11 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	課題曲⑦ 単語、文章の意味を調べる 伴奏合わせをする	課題曲⑦ 詩の内容を考えながら練習する	210 分
第 12 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 2 楽曲の研究を深める	課題曲⑦ 伴奏合わせをする。強弱他音楽用語を調べる	課題曲⑦ 伴奏者とともに曲の内容を考えながら練習する	210 分
第 13 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 3 楽曲の研究を深め、暗譜をする	課題曲⑦ 伴奏合わせを繰り返す、暗譜練習する	課題曲⑦ 呼吸、テンポ等、伴奏者と確認する	210 分
第 14 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 4 楽曲の内容を深め、暗譜を確かなものにする	課題曲⑦ 伴奏者とともに表現方法を工夫する	課題曲⑦ 曲の内容を考えながら合わせ、表現力をあげる	210 分
第 15 回	後期のまとめ	課題曲⑦ 伴奏者とともに 暗譜の確認	課題曲⑦ 伴奏者とともに 曲の完成度を上げていく	210 分

フィードバック 試演会、後期試験その他後、個人面談の形で振り返る。

成績評価 後期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ、イタリア歌曲等、
レッスン時に指示する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐							

作編曲法-1

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF206

専門/学年：全専門/2 年次

形態：演習

単位数：1 単位

概要 作曲法とは、旋律・和声・リズムなどの音楽形成の要素を駆使してひとつの楽曲を作り上げる方法のことである。特に変奏曲を中心に分析を行う。また、変奏曲の作曲にも取り組み、音出しをする。

到達目標 簡単な作曲ができるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【変奏曲の分析】	【変奏曲の作曲】	事前	事後	事前	事後	事後	事後
第1回	ガイダンス	変奏曲とは	変奏曲の予習	変奏曲の復習	「変奏曲」の項目を音楽事典で読む	45分	45分	45分
第2回	変奏曲(作品 a 上) モーツァルト：きらきら星変奏曲	(変奏 A) 伴奏形	作品 a、変奏 A の予習	作品 a、変奏 A の復習	楽譜を見ながら音源を聴く	45分	45分	45分
第3回	変奏曲(作品 a 中) モーツァルト：きらきら星変奏曲	(変奏 B) 刺繍音	作品 a、変奏 B の予習	作品 a、変奏 B の復習	楽譜を見ながら音源を聴く	45分	45分	45分
第4回	変奏曲(作品 a 下) モーツァルト：きらきら星変奏曲	(変奏 C) 経過音	作品 a、変奏 C の予習	作品 a、変奏 C の復習	楽譜を見ながら音源を聴く	45分	45分	45分
第5回	ヴァイオリンの変奏曲(作品 b 前半) パガニーニ：24 の奇想曲 第 24 番	(変奏 D) 倚音	作品 b、変奏 D の予習	作品 b、変奏 D の復習	楽譜を見ながら音源を聴く	45分	45分	45分
第6回	ヴァイオリンの変奏曲(作品 b 後半) パガニーニ：24 の奇想曲 第 24 番	(変奏 E) 掛留音	作品 b、変奏 E の予習	作品 b、変奏 E の復習	楽譜を見ながら音源を聴く	45分	45分	45分
第7回	変奏曲 (作品 c 前半) モーツァルト：ピアノソナタ K.331 第 1 楽章	(変奏 F) 先取音	作品 c、変奏 F の予習	作品 c、変奏 F の復習	楽譜を見ながら音源を聴く	45分	45分	45分
第8回	変奏曲 (作品 c 後半) モーツァルト：ピアノソナタ K.331 第 1 楽章	(変奏 G) 逸音	作品 c、変奏 G の予習	作品 c、変奏 G の復習	楽譜を見ながら音源を聴く	45分	45分	45分
第9回	変奏曲 (作品 d) ヘンデル：調子のよい鍛冶屋	(変奏 H) 和声音	作品 d、変奏 H の予習	作品 d、変奏 H の復習	楽譜を見ながら音源を聴く	45分	45分	45分
第10回	変奏曲 (作品 e 前半) ベートーヴェン： 「トルコ行進曲」による変奏曲	(変奏 I) 和音	作品 e、変奏 I の予習	作品 e、変奏 I の復習	楽譜を見ながら音源を聴く	45分	45分	45分
第11回	変奏曲 (作品 e 後半) ベートーヴェン： 「トルコ行進曲」による変奏曲	(変奏 J) 移旋	作品 e、変奏 J の予習	作品 e、変奏 J の復習	楽譜を見ながら音源を聴く	45分	45分	45分
第12回	変奏曲 (作品 f 前半) ベートーヴェン： 「わが心もはやうつろになりて」による変奏曲	(変奏 K) 拍子の変更	作品 f、変奏 K の予習	作品 f、変奏 K の復習	楽譜を見ながら音源を聴く	45分	45分	45分
第13回	変奏曲 (作品 f 後半) ベートーヴェン： 「わが心もはやうつろになりて」による変奏曲	変奏曲の作曲法 (基礎)	作品 f、変奏曲の作曲法の予習	作品 f、変奏曲の作曲法の復習	楽譜を見ながら音源を聴く	45分	45分	45分
第14回	変奏曲(作品 g) 様々な作曲家：パガニーニの主題による変奏曲	変奏曲の作曲法 (発展)	作品 g、変奏曲の作曲法の予習	作品 g、変奏曲の作曲法の復習	楽譜を見ながら音源を聴く	45分	45分	45分
第15回	変奏曲 (作品 h) バッハ：パッヘルベル：3 声のカノンとジューク	変奏曲の作曲法 (総合)	作品 h、変奏曲の作曲法の予習	作品 h、変奏曲の作曲法の復習	楽譜を見ながら音源を聴く	45分	45分	45分

フィードバック 作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。

成績評価 作品提出・発表(変奏曲の作曲)50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐										

作編曲法-2

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF207

専門/学年：全専門/2 年次

形態：演習

単位数：1 単位

概要 作曲法とは、旋律・和声・リズムなどの音楽形成の要素を駆使してひとつの楽曲を作り上げる方法のことである。特にロンド形式とフーガを中心に分析を行う。また、ロンド形式の作編曲にも取り組み、音出しをする。

到達目標 簡単な作編曲ができるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【ロンド形式の分析】	【フーガの分析】	事前	事後	45 分
第 1 回	作品発表(グループ a) 変奏曲の作曲		作品 a、作品 A の予習	作品 a、作品 A の復習	45 分
第 2 回	作品発表(グループ b) 変奏曲の作曲		作品 b、作品 B の予習	作品 b、作品 B の復習	45 分
第 3 回	ロンド形式(作品 a) クラーウ：ソナチネ op.55-3 第 2 楽章	インヴェンション(作品 A) バッハ：インヴェンション 第 1 番	作品 a、作品 A の予習	作品 a、作品 A の復習	45 分
第 4 回	ロンド形式(作品 b) クラーウ：ソナチネ op.20-3 第 3 楽章	インヴェンション(作品 B) バッハ：インヴェンション 第 4 番	作品 b、作品 B の予習	作品 b、作品 B の復習	45 分
第 5 回	ロンド形式(作品 c) クラーウ：ソナチネ op.55-1 第 2 楽章	カノン(作品 C) バッハ：インヴェンション 第 2 番	作品 c、作品 C の予習	作品 c、作品 C の復習	45 分
第 6 回	ロンド形式(作品 d) ハイドン：ソナタ Hob.XVI/35 第 3 楽章	フーガ(作品 D) 島岡譲：2 声の学習フーガ	作品 d、作品 D の予習	作品 d、作品 D の復習	45 分
第 7 回	ロンド形式(作品 e) モーツァルト：ソナタ K.545 第 2 楽章	フーガ(作品 E) バッハ：平均律 第 1 巻 第 10 番	作品 e、作品 E の予習	作品 e、作品 E の復習	45 分
第 8 回	ロンド形式(作品 f) モーツァルト：ソナタ K.545 第 3 楽章	フーガ(作品 F) バッハ：平均律 第 1 巻 第 2 番	作品 f、作品 F の予習	作品 f、作品 F の復習	45 分
第 9 回	ロンド形式(作品 g) ベートーヴェン：ソナタ op.49-2 第 2 楽章	オルガンのフーガ(作品 G) バッハ：小フーガ ト短調	作品 g、作品 G の予習	作品 g、作品 G の復習	45 分
第 10 回	ロンド形式(作品 h) クラーウ：ソナチネ op.55-5 第 2 楽章	器楽+ピアノ曲(作品 H) モーツァルト：フルート協奏曲 第 1 番 第 1 楽章	作品 h、作品 H の予習	作品 h、作品 H の復習	45 分
第 11 回	ロンド形式(作品 i) クレメンティ：ソナチネ op.38-2 第 2 楽章	ロンド形式の作曲法(基礎)	作品 i、ロンド形式の作曲法の予習	作品 i、ロンド形式の作曲法の復習	45 分
第 12 回	ロンド形式(作品 j) クレメンティ：ソナチネ op.38-3 第 2 楽章	ロンド形式の作曲法(発展)	作品 j、ロンド形式の作曲法の予習	作品 j、ロンド形式の作曲法の復習	45 分
第 13 回	ロンド形式(作品 k) ベートーヴェン：ソナチネ No.6 第 2 楽章	ロンド形式の作曲法(総合)	作品 k、ロンド形式の作曲法の予習	作品 k、ロンド形式の作曲法の復習	45 分
第 14 回	作品発表(グループ a) ロンド形式の作曲		作品発表の予習	作品発表の復習	45 分
第 15 回	作品発表(グループ b) ロンド形式の作曲		作品発表の予習	作品発表の復習	45 分

フィードバック 作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。

成績評価 作品提出・発表(ロンド形式の作編曲(ピアノ独奏、もしくは器楽+ピアノ))50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト “参照資料”
『ソナチネアルバム 1』※出版社自由

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	授業スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐									

音楽史-1

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

大学非常勤講師 長岡英

科目コード：LEC101

専門/学年：全専門/1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 中世、ルネサンスからバロック、古典派時代までの音楽を対象とし、視聴覚資料を利用しながら西洋音楽についての基本的な知識を身につけさせる。

- 到達目標
1. 各時代の代表的な作曲家や作品、様式の特徴を理解する。
 2. 宗教や政治など他の領域とも関連させながら音楽史の流れを把握する。
 3. 自分が聴いたり演奏したりする作品を、より多角的に理解できるようにする。

回	内容	事前	事後	130 分	140 分
第 1 回	音楽史概説	教科書 pp. 82-86 を読みまとめる。	ノートを読みまとめ、音楽史時代区分について理解する。	130 分	140 分
第 2 回	中世① グレゴリオ聖歌	教科書 pp. 87-91 を読みまとめる。	ノートを読みまとめ、グレゴリオ聖歌について理解する。	130 分	140 分
第 3 回	中世② 単声から多声へ	教科書 pp. 92-96 を読みまとめる。	ノートを読みまとめ、単声から多声へについて理解する。	130 分	140 分
第 4 回	ルネサンス① ミサ曲	教科書 pp. 97-101 を読みまとめる。	ノートを読みまとめ、ミサ曲について理解する。	130 分	140 分
第 5 回	ルネサンス② オペラの誕生	教科書 pp. 106-110 を読みまとめる。	ノートを読みまとめ、オペラの誕生について理解する。	130 分	140 分
第 6 回	バロック① 器楽の成立	教科書 pp. 111-115 を読みまとめる。	ノートを読みまとめ、器楽の成立について理解する。	130 分	140 分
第 7 回	バロック② バッハの器楽曲	教科書 pp. 116-120 を読みまとめる。	ノートを読みまとめ、バッハの器楽曲について理解する。	130 分	140 分
第 8 回	バロック③ バッハの声楽曲	教科書 pp. 121-125 を読みまとめる。	ノートを読みまとめ、バッハの声楽曲について理解する。	130 分	140 分
第 9 回	バロック④ ヘンデル	教科書 pp. 126-130 を読みまとめる。	ノートを読みまとめ、ヘンデルについて理解する。	130 分	140 分
第 10 回	前古典派	教科書 pp. 10-14 を読みまとめる。	ノートを読みまとめ、前古典派について理解する。	130 分	140 分
第 11 回	古典派① ハイドン	教科書 pp. 15-19 を読みまとめる。	ノートを読みまとめ、ハイドンについて理解する。	130 分	140 分
第 12 回	古典派② モーツァルト	教科書 pp. 20-24 を読みまとめる。	ノートを読みまとめ、モーツァルトについて理解する。	130 分	140 分
第 13 回	古典派③ ベートーヴェン (ウィーン中期まで)	教科書 pp. 25-29 を読みまとめる。	ノートを読みまとめ、ウィーン中期までのベートーヴェンについて理解する。	130 分	140 分
第 14 回	古典派④ ベートーヴェン (ウィーン後期)	教科書 pp. 30-31 を読みまとめる。	ノートを読みまとめ、ウィーン後期のベートーヴェンについて理解する。	130 分	140 分
第 15 回	前期のまとめ	前期のノートを読みまとめる。	ノートを読みまとめ、中世から古典派について理解する。	130 分	140 分

フィードバック 授業内に行う小テストや小レポートは、後日返却および解説を行いフィードバックする。

成績評価 授業の内容の理解度を測る定期試験 (約 80%)、小テストや小レポートに授業中の態度を加味して (約 20%) 総合的に評価する。

テキスト 長岡英『オケ奏者なら知っておきたいクラシックの常識』(アルテスパブリッシング、2014)

オフィスアワー 原則として授業終了後教室にて。

アクティブ・ラーニング 音楽、楽譜から作曲者の意図を読み解く小テストを実施し、後から解説や回答の紹介を行う

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐						

音楽史-2

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

大学非常勤講師 長岡英

科目コード：LEC102

専門/学年：全専門/1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 ロマン派以降の音楽を対象とし、視聴覚資料を利用しながら西洋音楽についての基本的な知識を身につけさせる。日本の伝統音楽も取り上げる。

- 到達目標
1. 各時代の代表的な作曲家や作品、様式の特徴を理解する。
 2. 宗教や政治など他の領域とも関連させながら音楽史の流れを把握する。
 3. 自国の音楽について基礎的な知識を得る。
 4. 自分が聴いたり演奏したりする作品を、より多角的に理解できるようにする。

回	内容	事前	事後	130 分	140 分
第 1 回	古典派⑤ ピリオド楽器について	教科書 pp. 36-40 を読みまとめる。	ノートをまとめ、ピリオド楽器について理解する。	130 分	140 分
第 2 回	ロマン派① シューベルト	教科書 pp. 41-45 を読みまとめる。	ノートをまとめ、シューベルトについて理解する。	130 分	140 分
第 3 回	ロマン派② メンデルスゾーン	教科書 pp. 46-50 を読みまとめる。	ノートをまとめ、メンデルスゾーンについて理解する。	130 分	140 分
第 4 回	ロマン派③ シューマン	教科書 pp. 51-55 を読みまとめる。	ノートをまとめ、シューマンについて理解する。	130 分	140 分
第 5 回	ロマン派④ ベルリオーズ	教科書 pp. 56-60 を読みまとめる。	ノートをまとめ、ベルリオーズについて理解する。	130 分	140 分
第 6 回	ロマン派⑤ ヴァーグナー	教科書 pp. 61-65 を読みまとめる。	ノートをまとめ、ヴァーグナーについて理解する。	130 分	140 分
第 7 回	ロマン派⑥ ヴェルディ	教科書 pp. 66-70 を読みまとめる。	ノートをまとめ、ヴェルディについて理解する。	130 分	140 分
第 8 回	ロマン派⑦ チェコの国民楽派	教科書 pp. 71-75 を読みまとめる。	ノートをまとめ、チェコの国民楽派について理解する。	130 分	140 分
第 9 回	ロマン派⑧ ロシアの国民楽派	教科書 pp. 76-78 を読みまとめる。	ノートをまとめ、ロシアの国民楽派について理解する。	130 分	140 分
第 10 回	ロマン派⑨ サン＝サーンス、フランク	教科書 pp. 138-142 を読みまとめる。	ノートをまとめ、19 世紀フランス音楽について理解する。	130 分	140 分
第 11 回	後期ロマン派	教科書 pp. 143-147 を読みまとめる。	ノートをまとめ、後期ロマン派について理解する。	130 分	140 分
第 12 回	日本の伝統音楽① 雅楽	教科書 pp. 148-152 を読みまとめる。	ノートをまとめ、雅楽について理解する。	130 分	140 分
第 13 回	日本の伝統音楽② 能楽	教科書 pp. 153-157 を読みまとめる。	ノートをまとめ、能楽について理解する。	130 分	140 分
第 14 回	日本の伝統音楽③ 歌舞伎	教科書 pp. 158-162 を読みまとめる。	ノートをまとめ、歌舞伎について理解する。	130 分	140 分
第 15 回	後期のまとめ	後期のノートを読みまとめる。	ノートをまとめ、ロマン派から 20 世紀音楽について理解する。	130 分	140 分

フィードバック 授業内に行う小テストや小レポートは、後日返却および解説を行いフィードバックする。

成績評価 授業の内容の理解度を測る定期試験（約 80%）、小テストや小レポートに授業中の態度を加味して（約 20%）総合的に評価する。

テキスト 長岡英『オケ奏者なら知っておきたいクラシックの常識』（アルテスパブリッシング、2014）

オフィスアワー 原則として授業終了後教室にて。

アクティブ・ラーニング 音楽、楽譜から作曲者の意図を読み解く小テストを実施し、後から解説や回答の紹介を行う

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐					

和声法 I-1A

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF101

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習

単位数：1 単位

概要 和音の構造を理解した上で、バス・ソプラノ課題を中心とした 4 声体による和声課題の実施方法を学ぶ。特に、禁則や定型など初歩的な内容に重点を置く。

到達目標 バスやソプラノの旋律から学んだ知識と各自の判断を合わせ基本をおさえながら課題を解く能力を身につける。同時に、1つの声部をもとに和声全体を構築する力を養う。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。なお和声分析の対象となる作品とその数は、受講者の専攻や人数等を考慮した上で適宜決定する。

【AL】	【和声】	【楽曲分析】	事前	事後	備考	時間
第 1 回	ガイダンス 和声法とは		事前 楽典の復習	事後 ガイダンスの復習	「和声」の項目を音楽事典で読む	45 分
第 2 回	第 1 章 和音（基礎）		事前 第 1 章の予習	事後 第 1 章の復習	テキストを読む	45 分
第 3 回	第 1 章 和音（発展）		事前 第 1 章の予習	事後 第 1 章の復習	課題の実施と見直し	45 分
第 4 回	第 2 章 4 声体の配置（基礎）		事前 第 2 章の予習	事後 第 2 章の復習	テキストを読む	45 分
第 5 回	第 2 章 4 声体の配置（発展）		事前 第 2 章の予習	事後 第 2 章の復習	課題の実施と見直し	45 分
第 6 回	第 3 章 和音機能		事前 第 3 章の予習	事後 第 3 章の復習	テキストを読む	45 分
第 7 回	第 4 章 D-T の連結（基礎）		事前 第 4 章の予習	事後 第 4 章の復習	課題の実施と見直し	45 分
第 8 回	第 4 章 D-T の連結（発展）		事前 第 4 章の予習	事後 第 4 章の復習	課題の実施と見直し	45 分
第 9 回	第 5 章 T-D-T の連結（基礎）	(作品 A)	事前 第 5 章、作品 A の予習	事後 第 5 章、作品 A の復習	テキストを読む	45 分
第 10 回	第 5 章 T-D-T の連結（発展）	(作品 B)	事前 第 5 章、作品 B の予習	事後 第 5 章、作品 B の復習	課題の実施と見直し	45 分
第 11 回	第 6 章 T-T の連結	(作品 C)	事前 第 6 章、作品 C の予習	事後 第 6 章、作品 C の復習	テキストを読む	45 分
第 12 回	第 7 章 T と D 諸和音との連結（基礎）	(作品 D)	事前 第 7 章、作品 D の予習	事後 第 7 章、作品 D の復習	課題の実施と見直し	45 分
第 13 回	第 7 章 T と D 諸和音との連結（発展）	(作品 E)	事前 第 7 章、作品 E の予習	事後 第 7 章、作品 E の復習	課題の実施と見直し	45 分
第 14 回	試験の概要		事前 第 1～7 章の復習	事後 試験の概要の復習		45 分
第 15 回	まとめ		事前 まとめの予習	事後 まとめの復習		45 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組（授業中の発言及び与えられた課題の実施状況）50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）を使用する他、進度に応じて課題や資料を配布する。配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐					

和声法 I-2A

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF102

専門/学年：全専門/1 年次

形態：演習

単位数：1 単位

概要 和声法 I-1 の内容をふまえ、新たな和音を加えた 4 声体による和声課題の実施方法を学ぶ。
様々な調性に対応できるよう、移調や移旋の実習を取り入れる。

到達目標 和声法の基本的な知識を身につけ、簡単なバス課題、ソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。
何通りかの解答が出来上がることを予測し、より音楽的と考えられるものを選択する力を身につける。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。なお和声分析の対象となる作品とその数は、受講者の専攻や人数等を考慮した上で適宜決定する。

【AL】 【和声】		【楽曲分析】			
第 1 回	和声法 I-1 の試験の解説			事前 第 1~7 章の復習 事後 和声法 I-1 の試験の解説の復習	45 分 45 分
第 2 回	第 8 章 II ⁽⁴⁾ の和音	(作品 A)		事前 第 8 章、作品 A の予習 事後 第 8 章、作品 A の復習	45 分 45 分
第 3 回	第 9 章 I ² 、V ⁽⁷⁾	(作品 B)		事前 第 9 章、作品 B の予習 事後 第 9 章、作品 B の復習	45 分 45 分
第 4 回	第 9 章 8 小節のバス課題 (基礎)	(作品 C)		事前 第 9 章、作品 C の予習 事後 第 9 章、作品 C の復習	45 分 45 分
第 5 回	第 9 章 8 小節のバス課題 (発展)	(作品 D)		事前 第 9 章、作品 D の予習 事後 第 9 章、作品 D の復習	45 分 45 分
第 6 回	第 9 章 8 小節のソプラノ課題 (基礎)	(作品 E)		事前 第 9 章、作品 E の予習 事後 第 9 章、作品 E の復習	45 分 45 分
第 7 回	第 9 章 8 小節のソプラノ課題 (発展)	(作品 F)		事前 第 9 章、作品 F の予習 事後 第 9 章、作品 F の復習	45 分 45 分
第 8 回	第 10 章 V ² / ₇ -I ⁽⁴⁾ の連結	(作品 G)		事前 第 10 章、作品 G の予習 事後 第 10 章、作品 G の復習	45 分 45 分
第 9 回	第 11 章 VI の和音 (基礎)	(作品 H)		事前 第 11 章、作品 H の予習 事後 第 11 章、作品 H の復習	45 分 45 分
第 10 回	第 11 章 VI の和音 (発展)	(作品 I)		事前 第 11 章、作品 I の予習 事後 第 11 章、作品 I の復習	45 分 45 分
第 11 回	第 12 章 IV ⁽⁴⁾ (D ₂) の和音 (II ¹ の代用)	(作品 J)		事前 第 12 章、作品 J の予習 事後 第 12 章、作品 J の復習	45 分 45 分
第 12 回	第 12 章 IV ⁽⁴⁾ (D ₂) の和音 (D ₂ の連用)	(作品 K)		事前 第 12 章、作品 K の予習 事後 第 12 章、作品 K の復習	45 分 45 分
第 13 回	試験の概要			事前 第 8~12 章の復習 事後 試験の概要の復習	45 分 45 分
第 14 回	まとめ			事前 まとめの予習 事後 まとめの復習	45 分 45 分
第 15 回	試験の解説			事前 試験の復習 事後 試験の解説の復習	45 分 45 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 (授業中の発言及び与えられた課題の実施状況) 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』(サーベル社出版)を使用する他、進度に応じて課題や資料を配布する。配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノットを用意すること。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐					

和声法 I-1B

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF101

専門/学年：全専門/1年次

形態：演習

単位数：1単位

概要 和声法とは、ある和音と後続の和音との連結の方法のことである。
決められた規則に従いつつ、与えられた旋律から美しい響きを紡ぎ出す方法を、4声体の実施によって身につける。

到達目標 和声法の基本的な知識を身につけ、簡単なバス課題、ソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【和声】	【楽典/和声分析】	事前	事後	備考	時間
第1回	ガイダンス 和声法とは	(楽典の発展 a) 音程	事前 ガイダンス、楽典の発展 a の予習	事後 ガイダンス、楽典の発展 a の復習	「和声」の項目を音楽事典で読む	45分
第2回	第1章 和音 (基礎)	(楽典の発展 b) ドイツ音名	事前 第1章、楽典の発展 b の予習	事後 第1章、楽典の発展 b の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	45分
第3回	第1章 和音 (発展)	(楽典の発展 c) 調号	事前 第1章、楽典の発展 c の予習	事後 第1章、楽典の発展 c の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	45分
第4回	第2章 4声体の配置 (基礎)	(楽典の発展 d) 音階	事前 第2章、楽典の発展 d の予習	事後 第2章、楽典の発展 d の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	45分
第5回	第2章 4声体の配置 (発展)	(楽典の発展 e) 近親調	事前 第2章、楽典の発展 e の予習	事後 第2章、楽典の発展 e の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	45分
第6回	第3章 和音機能	(楽典の発展 f) 和音	事前 第3章、楽典の発展 f の予習	事後 第3章、楽典の発展 f の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	45分
第7回	第4章 D-Tの連結 (基礎)	(楽典の発展 g) 移調	事前 第4章、楽典の発展 g の予習	事後 第4章、楽典の発展 g の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	45分
第8回	第4章 D-Tの連結 (発展)	(楽典の発展 h) 調性判断	事前 第4章、楽典の発展 h の予習	事後 第4章、楽典の発展 h の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	45分
第9回	第5章 T-D-Tの連結 (基礎)	(和声分析 A) 4声体の和声分析	事前 第5章、和声分析 A の予習	事後 第5章、和声分析 A の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	45分
第10回	第5章 T-D-Tの連結 (発展)	(和声分析 B) 4声体の和声分析	事前 第5章、和声分析 B の予習	事後 第5章、和声分析 B の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	45分
第11回	第6章 T-Tの連結	(和声分析 C) 4声体の和声分析	事前 第6章、和声分析 C の予習	事後 第6章、和声分析 C の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	45分
第12回	第7章 TとD諸和音との連結 (基礎)	(和声分析 D) 4声体の和声分析	事前 第7章、和声分析 D の予習	事後 第7章、和声分析 D の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	45分
第13回	第7章 TとD諸和音との連結 (発展)	(和声分析 E) 4声体の和声分析	事前 第7章、和声分析 E の予習	事後 第7章、和声分析 E の復習	テキストを読む 誤答を解き直す	45分
第14回	試験の概要		事前 試験の概要の予習	事後 試験の概要の復習		45分
第15回	まとめ		事前 まとめの予習	事後 まとめの復習		45分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐					

和声法 I -2B

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF102

専門/学年：全専門/1 年次

形態：演習

単位数：1 単位

概要 和声法とは、ある和音と後続の和音との連結の方法のことである。
決められた規則に従いつつ、与えられた旋律から美しい響きを紡ぎ出す方法を、4 声体の実施によって身につける。

到達目標 和声法の基本的な知識を身につけ、簡単なバス課題、ソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

第 1 回	和声法 I -1 の試験の解説	事前 和声法 I -1 の試験の解説の予習 事後 和声法 I -1 の試験の解説の復習	45 分 45 分
第 2 回	第 8 章 II ⁽¹⁾ の和音	事前 第 8 章の予習 事後 第 8 章の復習	45 分 45 分
第 3 回	第 9 章 I ² 、V ⁽⁷⁾	事前 第 9 章の予習 事後 第 9 章の復習	45 分 45 分
第 4 回	第 9 章 8 小節のバス課題(基礎)	事前 第 9 章の予習 事後 第 9 章の復習	45 分 45 分
第 5 回	第 9 章 8 小節のバス課題(発展)	事前 第 9 章の予習 事後 第 9 章の復習	45 分 45 分
第 6 回	第 9 章 8 小節のソプラノ課題	事前 第 9 章の予習 事後 第 9 章の復習	45 分 45 分
第 7 回	第 9 章 8 小節のバス課題(調号有)	事前 第 9 章の予習 事後 第 9 章の復習	45 分 45 分
第 8 回	第 10 章 V ² / ₇ -I ⁽¹⁾ の連結	事前 第 10 章の予習 事後 第 10 章の復習	45 分 45 分
第 9 回	第 11 章 VI ⁽¹⁾ の和音(基礎)	事前 第 11 章の予習 事後 第 11 章の復習	45 分 45 分
第 10 回	第 11 章 VI ⁽¹⁾ の和音(発展)	事前 第 11 章の予習 事後 第 11 章の復習	45 分 45 分
第 11 回	第 12 章 IV ⁽¹⁾ (D ₂)の和音(II ¹ の代用)	事前 第 12 章の予習 事後 第 12 章の復習	45 分 45 分
第 12 回	第 12 章 IV ⁽¹⁾ (D ₂)の和音(D ₂ の連用)	事前 第 12 章の予習 事後 第 12 章の復習	45 分 45 分
第 13 回	試験の概要	事前 試験の概要の予習 事後 試験の概要の復習	45 分 45 分
第 14 回	まとめ	事前 まとめの予習 事後 まとめの復習	45 分 45 分
第 15 回	試験の解説	事前 試験の解説の予習 事後 試験の解説の復習	45 分 45 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐					

和声法Ⅱ-1A

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF201

専門／学年： 全専門／2年次

形態：演習 単位数：1単位

概要 和声法Ⅰの内容に加え、より高度で複雑化した和音を用いた4声体による和声課題の実施方法を学ぶ。
また、借用和音や転位音を多角的な視点から理解できるよう、実作品の和声分析も行う。

到達目標 和声法の基本的な知識を身につけ、借用和音を含むバス課題や、転位音を含むソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。
さらに、旋律から和音を決定づける骨組みとなる音を見分けることにより、演奏を仕上げる過程で必要な分析する力を伸ばしていく。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。なお和声分析の対象となる作品とその数は、受講者の専攻や人数等を考慮した上で適宜決定する。

【AL】	【和声】	【和声分析】	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
第1回	和声法Ⅰ（第1～12章）の復習	(作品A)	和声法Ⅰ（第1～12章）の復習	第1～12章、作品Aの復習	テキストを読む	課題の実施と見直し	45分	45分										
第2回	第13章 IV(S)の和音(基礎)	(作品B)	第13章、作品Bの予習	第13章、作品Bの復習	テキストを読む	課題の実施と見直し	45分	45分										
第3回	第13章 IV(S)の和音(発展)	(作品C)	第13章、作品Cの予習	第13章、作品Cの復習	テキストを読む	課題の実施と見直し	45分	45分										
第4回	第14章 借用和音 - $\checkmark_{C7}$ の和音(基礎)	(作品D)	第14章、作品Dの予習	第14章、作品Dの復習	テキストを読む	課題の実施と見直し	45分	45分										
第5回	第14章 借用和音 - $\checkmark_{C7}$ の和音(発展)	(作品E)	第14章、作品Eの予習	第14章、作品Eの復習	テキストを読む	課題の実施と見直し	45分	45分										
第6回	第14章 借用和音 - その他の副Vの和音(基礎)	(作品F)	第14章、作品Fの予習	第14章、作品Fの復習	テキストを読む	課題の実施と見直し	45分	45分										
第7回	第14章 借用和音 - その他の副Vの和音(発展)	(作品G)	第14章、作品Gの予習	第14章、作品Gの復習	テキストを読む	課題の実施と見直し	45分	45分										
第8回	第14章 借用和音 - 準固有和音	(作品H)	第14章、作品Hの予習	第14章、作品Hの復習	テキストを読む	課題の実施と見直し	45分	45分										
第9回	第14章 借用和音 - まとめ	(作品I)	第14章、作品Iの予習	第14章、作品Iの復習	テキストを読む	課題の実施と見直し	45分	45分										
第10回	第15章 根音省略形 ($\checkmark_7$ の和音)	(作品J)	第15章、作品Jの予習	第15章、作品Jの復習	テキストを読む	課題の実施と見直し	45分	45分										
第11回	第15章 根音省略形 ($\checkmark_7$ の和音)	(作品K)	第15章、作品Kの予習	第15章、作品Kの復習	テキストを読む	課題の実施と見直し	45分	45分										
第12回	第17章 II_7 の和音(発展)	(作品L)	第17章、作品Lの予習	第17章、作品Lの復習	テキストを読む	課題の実施と見直し	45分	45分										
第13回	第17章 II_7 の和音(発展)	(作品M)	第17章、作品Mの予習	第17章、作品Mの復習	テキストを読む	課題の実施と見直し	45分	45分										
第14回	試験の概要		第1～15及び17章の復習	試験の概要の復習			45分	45分										
第15回	まとめ		まとめの予習	まとめの復習			45分	45分										

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験50%、授業への積極的な取組（授業中の発言及び与えられた課題の実施状況）50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）を使用する他、進度に応じて課題や資料を配布する。配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力

知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐						

和声法Ⅱ-2A

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF202

専門/学年： 全専門/2年次

形態：演習 単位数：1単位

概要 和声法Ⅱ-1で学んだことをふまえ、さらに高度な学習へと発展する。
また、和声法で学んだ知識を実際の音楽に応用できるよう、実作品の和声分析も行う。

到達目標 和声法の基本的な知識を身につけ、借用和音を含むバス課題や、転位音を含むソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。
さらに、旋律から和音を決定づける骨組みとなる音を見分けることにより、演奏を仕上げる過程で必要な分析する力を伸ばしていく。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。なお和声分析の対象となる作品とその数は、受講者の専攻や人数等を考慮した上で適宜決定する。

【AL】	【和声】	【和声分析】	事前	事後	45分
第1回	和声法Ⅱ-1の試験の解説		第1～15及び17章の復習	和声法Ⅱ-1の試験の解説の復習	45分
第2回	第16章 V ₉ ・副V ₉ の和音 - V ₉ の和音 (作品A)		第16章、作品Aの予習	テキストを読む 課題の実施と見直し	45分
第3回	第16章 V ₉ ・副V ₉ の和音 - $\check{V}_9$ の和音 (作品B)		第16章、作品Bの予習	テキストを読む 課題の実施と見直し	45分
第4回	第16章 V ₉ ・副V ₉ の和音 - $\check{V}_9$ の和音 (作品C)		第16章、作品Cの予習	テキストを読む 課題の実施と見直し	45分
第5回	第16章 V ₉ ・副V ₉ の和音 - $\check{V}_9$ の準固有和音 (作品D)		第16章、作品Dの予習	テキストを読む 課題の実施と見直し	45分
第6回	第16章 V ₉ ・副V ₉ の和音 - 増六の和音 (作品E)		第16章、作品Eの予習	テキストを読む 課題の実施と見直し	45分
第7回	第18章 転位音(掛留音) (作品F)		第18章、作品Fの予習	テキストを読む 課題の実施と見直し	45分
第8回	第18章 転位音(倚音) (作品G)		第18章、作品Gの予習	テキストを読む 課題の実施と見直し	45分
第9回	第18章 転位音(刺しゅう音) (作品H)		第18章、作品Hの予習	テキストを読む 課題の実施と見直し	45分
第10回	第18章 転位音(経過音) (作品I)		第18章、作品Iの予習	テキストを読む 課題の実施と見直し	45分
第11回	第18章 転位音(先取音と逸音) (作品J)		第18章、作品Jの予習	テキストを読む 課題の実施と見直し	45分
第12回	第18章 転位音(定位音による修飾音) (作品K)		第18章、作品Kの予習	テキストを読む 課題の実施と見直し	45分
第13回	第18章 転位音(発展) (作品L)		第18章、作品Lの予習	テキストを読む 課題の実施と見直し	45分
第14回	試験の概要		第1～18章の復習	試験の概要の復習	45分
第15回	まとめ		まとめの予習	まとめの復習	45分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験50%、授業への積極的な取組(授業中の発言及び与えられた課題の実施状況)50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』(サーベル社出版)を使用する他、進度に応じて課題や資料を配布する。配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐					

和声法Ⅱ-1B

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF201

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習

単位数：1 単位

概要 和声法Ⅰで学んだことをふまえ、さらに高度な学習へと発展する。
また、和声法で学んだ知識を実際の音楽に応用できるよう、実作品の和声分析も行う。

到達目標 和声法の基本的な知識を身につけ、借用和音を含むバス課題や、転位音を含むソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【和声】	【和声分析】	事前	事後	45 分
第 1 回 (和声法Ⅰの復習 a) 第 1 章 和音	和声分析とは	和声法Ⅰの復習 a の予習	和声法Ⅰの復習 a の復習	テキストを読む 誤答を直し直す
第 2 回 (和声法Ⅰの復習 b) 第 2 章 4 声体の配置	(作品 A) ブルクミュラー：第 1 番	和声法Ⅰの復習 b、作品 A の予習	和声法Ⅰの復習 b、作品 A の復習	テキストを読む 誤答を直し直す
第 3 回 (和声法Ⅰの復習 c) 第 3 章 和音機能	(作品 B) ブルクミュラー：第 2 番	和声法Ⅰの復習 c、作品 B の予習	和声法Ⅰの復習 c、作品 B の復習	テキストを読む 誤答を直し直す
第 4 回 (和声法Ⅰの復習 d) 第 4 章 D-T の連結	(作品 C) ブルクミュラー：第 3 番	和声法Ⅰの復習 d、作品 C の予習	和声法Ⅰの復習 d、作品 C の復習	テキストを読む 誤答を直し直す
第 5 回 (和声法Ⅰの復習 e) 第 5 章 T-D-T の連結	第 14 章 借用和音(副Vの和音 基礎)	和声法Ⅰの復習 e、第 14 章の予習	和声法Ⅰの復習 e、第 14 章の復習	テキストを読む 誤答を直し直す
第 6 回 (和声法Ⅰの復習 f) 第 6 章 T-T の連結	第 14 章 借用和音(副Vの和音 発展)	和声法Ⅰの復習 f、第 14 章の予習	和声法Ⅰの復習 f、第 14 章の復習	テキストを読む 誤答を直し直す
第 7 回 (和声法Ⅰの復習 g) 第 7 章 T と D 諸和音との連結	第 14 章 借用和音(準固有和音 基礎)	和声法Ⅰの復習 g、第 14 章の予習	和声法Ⅰの復習 g、第 14 章の復習	テキストを読む 誤答を直し直す
第 8 回 (和声法Ⅰの復習 h) 第 8 章 II ⁽¹⁾ の和音	第 14 章 借用和音(準固有和音 発展)	和声法Ⅰの復習 h、第 14 章の予習	和声法Ⅰの復習 h、第 14 章の復習	テキストを読む 誤答を直し直す
第 9 回 (和声法Ⅰの復習 i) 第 9 章 I ² -V ⁽⁷⁾	(作品 D) ブルクミュラー：第 4 番	和声法Ⅰの復習 i、作品 D の予習	和声法Ⅰの復習 i、作品 D の復習	テキストを読む 誤答を直し直す
第 10 回 (和声法Ⅰの復習 j) 第 10 章 V ² -I ⁽⁴⁾ の連結	(作品 E) ブルクミュラー：第 5 番	和声法Ⅰの復習 j、作品 E の予習	和声法Ⅰの復習 j、作品 E の復習	テキストを読む 誤答を直し直す
第 11 回 (和声法Ⅰの復習 k) 第 11 章 VI の和音	(作品 F) ブルクミュラー：第 6 番	和声法Ⅰの復習 k、作品 F の予習	和声法Ⅰの復習 k、作品 F の復習	テキストを読む 誤答を直し直す
第 12 回 (和声法Ⅰの復習 l) 第 12 章 IV ⁽¹⁾ の和音(II ¹ の代用)	(作品 G) ブルクミュラー：第 7 番	和声法Ⅰの復習 l、作品 G の予習	和声法Ⅰの復習 l、作品 G の復習	テキストを読む 誤答を直し直す
第 13 回 (和声法Ⅰの復習 m) 第 12 章 IV ⁽¹⁾ の和音(D ₂ の連用)	(作品 H) ブルクミュラー：第 8 番	和声法Ⅰの復習 m、作品 H の予習	和声法Ⅰの復習 m、作品 H の復習	テキストを読む 誤答を直し直す
第 14 回 試験の概要		試験の概要の予習	試験の概要の復習	45 分
第 15 回 まとめ		まとめの予習	まとめの復習	45 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐					

和声法Ⅱ-2B

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF202

専門/学年：全専門/2 年次

形態：演習

単位数：1 単位

概要 和声法Ⅱ-1 で学んだことをふまえ、さらに高度な学習へと発展する。
また、和声法で学んだ知識を実際の音楽に応用できるよう、実作品の和声分析も行う。

到達目標 和声法の基本的な知識を身につけ、借用和音を含むバス課題や、転位音を含むソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【和声】		【和声分析】		事前	事後	45 分
第 1 回	和声法Ⅱ-1 の試験の解説			和声法Ⅱ-1 の試験の解説の予習	和声法Ⅱ-1 の試験の解説の復習	45 分
第 2 回	第 13 章 IV(S)の和音 (基礎)	(作品 A) ブルクミュラー：第 9 番		第 13 章、作品 A の予習	第 13 章、作品 A の復習	45 分
第 3 回	第 13 章 IV(S)の和音 (発展)	(作品 B) ブルクミュラー：第 10 番		第 13 章、作品 B の予習	第 13 章、作品 B の復習	45 分
第 4 回	第 13 章 IV(S)の和音 (応用)	(作品 C) ブルクミュラー：第 11 番		第 13 章、作品 C の予習	第 13 章、作品 C の復習	45 分
第 5 回	第 16 章 V ₉ の和音 (基礎)	(作品 D) ブルクミュラー：第 12 番		第 16 章、作品 D の予習	第 16 章、作品 D の復習	45 分
第 6 回	第 16 章 V ₉ の和音 (発展)	(作品 E) ブルクミュラー：第 13 番		第 16 章、作品 E の予習	第 16 章、作品 E の復習	45 分
第 7 回	第 16 章 V ₉ の和音 (応用)	(作品 F) ブルクミュラー：第 14 番		第 16 章、作品 F の予習	第 16 章、作品 F の復習	45 分
第 8 回	第 18 章 転位音 (刺繍音)	(作品 G) ブルクミュラー：第 15 番		第 18 章、作品 G の予習	第 18 章、作品 G の復習	45 分
第 9 回	第 18 章 転位音 (経過音)	(作品 H) ブルクミュラー：第 16 番		第 18 章、作品 H の予習	第 18 章、作品 H の復習	45 分
第 10 回	第 18 章 転位音 (倚音)	(作品 I) ブルクミュラー：第 17 番		第 18 章、作品 I の予習	第 18 章、作品 I の復習	45 分
第 11 回	第 18 章 転位音 (掛留音)	(作品 J) ブルクミュラー：第 18 番		第 18 章、作品 J の予習	第 18 章、作品 J の復習	45 分
第 12 回	第 18 章 転位音 (修飾音)	(作品 K) ブルクミュラー：第 19 番		第 18 章、作品 K の予習	第 18 章、作品 K の復習	45 分
第 13 回	第 18 章 I 度上の V ₇ の和音	(作品 L) ブルクミュラー：第 20 番		第 18 章、作品 L の予習	第 18 章、作品 L の復習	45 分
第 14 回	試験の概要			試験の概要の予習	試験の概要の復習	45 分
第 15 回	まとめ			まとめの予習	まとめの復習	45 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐					

楽曲分析 I-1

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF105

専門/学年：全専門/1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	楽曲分析とは、全体をいくつかの部分に分けて吟味し、それらがどのように全体に対して働いているのかを見きわめ、再統合することである。そのため、実作品を用いて様々な形式を分析する。特に 2 部形式、3 部形式、ロンド形式については受講生自らが分析し、授業内発表をする。また、2 部形式の作曲にも取り組み、音出しをする。
到達目標	簡単な形式の楽曲を分析できるようになることを目標とする。

授業計画 「学生による分析」は、受講生の状況によって曲目を決定する。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【学生による分析】	【教員による分析】		
第 1 回	ガイダンス	楽曲分析とは	事前 事後	ガイダンスの予習 ガイダンスの復習 「楽曲分析」の項目を音楽事典で読む 135 分 135 分
第 2 回	ブルクミュラー (作品 a)	2 部形式 (作品 A) フォスター：おおスザンナ	事前 事後	作品 a、作品 A の予習 作品 a、作品 A の復習 楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135 分 135 分
第 3 回	ブルクミュラー (作品 b)	3 部形式 (作品 B) フランス民謡：キラキラ星	事前 事後	作品 b、作品 B の予習 作品 b、作品 B の復習 楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135 分 135 分
第 4 回	ブルクミュラー (作品 c)	複合 3 部形式 (作品 C) ボックリーニ：メヌエット	事前 事後	作品 c、作品 C の予習 作品 c、作品 C の復習 楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135 分 135 分
第 5 回	ブルクミュラー (作品 d)	ロンド形式 小ロンド (作品 D 前半) ベートーヴェン：ピアノソナタ第 8 番「悲愴」第 2 楽章	事前 事後	作品 d、作品 D の予習 作品 d、作品 D の復習 楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135 分 135 分
第 6 回	ブルクミュラー (作品 e)	ロンド形式 小ロンド (作品 D 後半) ベートーヴェン：ピアノソナタ第 8 番「悲愴」第 2 楽章	事前 事後	作品 e、作品 D の予習 作品 e、作品 D の復習 楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135 分 135 分
第 7 回	ブルクミュラー (作品 f)	ロンド形式 小ロンド (作品 E) モーツァルト：「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」第 2 楽章	事前 事後	作品 f、作品 E の予習 作品 f、作品 E の復習 楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135 分 135 分
第 8 回	ブルクミュラー (作品 g)	ロンド形式 大ロンド (作品 F 前半) クーラウ：ソナチネ op.20-1 第 3 楽章	事前 事後	作品 g、作品 F の予習 作品 g、作品 F の復習 楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135 分 135 分
第 9 回	ブルクミュラー (作品 h)	ロンド形式 大ロンド (作品 F 後半) クーラウ：ソナチネ op.20-1 第 3 楽章	事前 事後	作品 h、作品 F の予習 作品 h、作品 F の復習 楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135 分 135 分
第 10 回	ブルクミュラー (作品 i)	ロンドソナタ形式 (作品 G 前半) ベートーヴェン：ピアノソナタ第 8 番「悲愴」第 3 楽章	事前 事後	作品 i、作品 G の予習 作品 i、作品 G の復習 楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135 分 135 分
第 11 回	ブルクミュラー (作品 j)	ロンドソナタ形式 (作品 G 後半) ベートーヴェン：ピアノソナタ第 8 番「悲愴」第 3 楽章	事前 事後	作品 j、作品 G の予習 作品 j、作品 G の復習 楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135 分 135 分
第 12 回	ブルクミュラー (作品 k)	2 部形式の作曲法 (旋律作法)	事前 事後	作品 k、2 部形式の作曲法の予習 作品 k、2 部形式の作曲法の復習 楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135 分 135 分
第 13 回	ブルクミュラー (作品 l)	2 部形式の作曲法 (伴奏形)	事前 事後	作品 l、2 部形式の作曲法の予習 作品 l、2 部形式の作曲法の復習 楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135 分 135 分
第 14 回	ブルクミュラー (作品 m)	2 部形式の作曲法 (アーティキュレーション)	事前 事後	作品 m、2 部形式の作曲法の予習 作品 m、2 部形式の作曲法の復習 楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135 分 135 分
第 15 回	ブルクミュラー (作品 n)	2 部形式の作曲法 (総合)	事前 事後	作品 n、2 部形式の作曲法の予習 作品 n、2 部形式の作曲法の復習 楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135 分 135 分

フィードバック 作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業内発表 30%、作品提出・発表 (2 部形式の作曲) 40%、授業への積極的な取組 30%

テキスト “参照資料”
ブルクミュラー『25 の練習曲』※出版社自由

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☐	☒	☒	☒	☐											

楽曲分析 I-2

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF106

専門/学年：全専門/1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 楽曲分析とは、全体をいくつかの部分に分けて吟味し、それらがどのように全体に対して働いているのかを見きわめ、再統合することである。そのため、実作品を用いて様々な形式を分析する。特にソナタ形式については受講生自らが分析し、授業内発表をする。また、ソナタ形式の作曲にも取り組み、音出しをする。

到達目標 ソナタ形式の楽曲を分析できるようになることを目標とする。

授業計画 「学生による分析」は、受講生の状況によって曲目を決定する。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【学生による分析】		【教員による分析】			
第 1 回	作品発表(グループ a) 2 部形式の作曲	事前	作品発表の予習	135 分	
		事後	作品発表の復習	135 分	
第 2 回	作品発表(グループ b) 2 部形式の作曲	事前	作品発表の予習	135 分	
		事後	作品発表の復習	135 分	
第 3 回	ソナチネ (作品 a)	事前	作品 a、作品 A の予習	135 分	楽譜を見ながら音源を聴く
		事後	作品 a、作品 A の復習	135 分	分析譜を見ながら音源を聴く
第 4 回	ソナチネ (作品 b)	事前	作品 b、作品 B の予習	135 分	楽譜を見ながら音源を聴く
		事後	作品 b、作品 B の復習	135 分	分析譜を見ながら音源を聴く
第 5 回	ソナチネ (作品 c)	事前	作品 c、作品 C の予習	135 分	楽譜を見ながら音源を聴く
		事後	作品 c、作品 C の復習	135 分	分析譜を見ながら音源を聴く
第 6 回	ソナチネ (作品 d)	事前	作品 d、作品 D の予習	135 分	楽譜を見ながら音源を聴く
		事後	作品 d、作品 D の復習	135 分	分析譜を見ながら音源を聴く
第 7 回	ソナチネ (作品 e)	事前	作品 e、作品 E の予習	135 分	楽譜を見ながら音源を聴く
		事後	作品 e、作品 E の復習	135 分	分析譜を見ながら音源を聴く
第 8 回	ソナチネ (作品 f)	事前	作品 f、作品 F の予習	135 分	楽譜を見ながら音源を聴く
		事後	作品 f、作品 F の復習	135 分	分析譜を見ながら音源を聴く
第 9 回	ソナチネ (作品 g)	事前	作品 g、作品 G の予習	135 分	楽譜を見ながら音源を聴く
		事後	作品 g、作品 G の復習	135 分	分析譜を見ながら音源を聴く
第 10 回	ソナチネ (作品 h)	事前	作品 h、ソナタ形式の作曲法の予習	135 分	楽譜を見ながら音源を聴く
		事後	作品 h、ソナタ形式の作曲法の復習	135 分	分析譜を見ながら音源を聴く
第 11 回	ソナチネ (作品 i)	事前	作品 i、ソナタ形式の作曲法の予習	135 分	楽譜を見ながら音源を聴く
		事後	作品 i、ソナタ形式の作曲法の復習	135 分	分析譜を見ながら音源を聴く
第 12 回	ソナチネ (作品 j)	事前	作品 j、ソナタ形式の作曲法の予習	135 分	楽譜を見ながら音源を聴く
		事後	作品 j、ソナタ形式の作曲法の復習	135 分	分析譜を見ながら音源を聴く
第 13 回	ソナチネ (作品 k)	事前	作品 k、ソナタ形式の作曲法の予習	135 分	楽譜を見ながら音源を聴く
		事後	作品 k、ソナタ形式の作曲法の復習	135 分	分析譜を見ながら音源を聴く
第 14 回	作品発表(グループ a) ソナタ形式の作曲	事前	作品発表の予習	135 分	
		事後	作品発表の復習	135 分	
第 15 回	作品発表(グループ b) ソナタ形式の作曲	事前	作品発表の予習	135 分	
		事後	作品発表の復習	135 分	

フィードバック 作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業内発表 30%、作品提出・発表（ソナタ形式の作曲）40%、授業への積極的な取組 30%

テキスト “参照資料”
『ソナチネアルバム 1』※出版社自由

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☒	☒	☐										

ソルフェージュ-1A

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

講師 倉地恵子

科目コード：SLF107

専門/学年：全専門/1 年次

形態：演習

単位数：1 単位

概要 ソルフェージュとは、音楽能力の総合的な基礎訓練のことである。
 そのために、聴音（単旋律、複旋律、和声、リズム、記憶）、視唱、クレ読みなどを行う。
 また「バロック期以降の管弦楽曲の抜粋を用いた聴音、読譜」も行う。

到達目標 多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な音楽能力が向上することを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【聴音】	【視唱】	【クレ読み】	事前	事後	時間
第1回	(聴音 a) 単旋律 和音 高音部譜表 二和音	(視唱 A) 発声スケール 発声	(クレ A) 高音部譜表	視唱 A、クレ A の予習	「ソルフェージュ」の項目を音楽事典で読む 聴音 a の復習	45 分 45 分
第2回	(聴音 b) 単旋律 和音 低音部譜表 三和音	(視唱 B) 発声スケール ピアノ伴奏	(クレ B) 高音部譜表	視唱 B、クレ B の予習	課題を読む、歌う 聴音 b の復習	45 分 45 分
第3回	(聴音 c) 単旋律 2 声体 臨時記号(基礎) C dur	(視唱 C) ダンノーゼル C dur(基礎)	(クレ C) 高音部譜表	視唱 C、クレ C の予習	課題を読む、歌う 聴音 c の復習	45 分 45 分
第4回	(聴音 d) 単旋律 2 声体 リズム(基礎) a moll	(視唱 D) ダンノーゼル a moll(基礎)	(クレ D) 高音部譜表	視唱 D、クレ D の予習	課題を読む、歌う 聴音 d の復習	45 分 45 分
第5回	(聴音 e) 単旋律 2 声体 休符(基礎) G dur	(視唱 E) ダンノーゼル G dur(基礎)	(クレ E) 高音部譜表	視唱 E、クレ E の予習	課題を読む、歌う 聴音 e の復習	45 分 45 分
第6回	(聴音 f) 単旋律 2 声体 タイ(基礎) e moll	(視唱 F) ダンノーゼル e moll(基礎)	(クレ F) 低音部譜表	視唱 F、クレ F の予習	課題を読む、歌う 聴音 f の復習	45 分 45 分
第7回	(聴音 g) 単旋律 3 声体 拍子(基礎) 密集 C dur	(視唱 G) ダンノーゼル F dur(基礎)	(クレ G) 低音部譜表	視唱 G、クレ G の予習	課題を読む、歌う 聴音 g の復習	45 分 45 分
第8回	(聴音 h) 単旋律 3 声体 調(基礎) 開離 C dur	(視唱 H) ダンノーゼル d moll(基礎)	(クレ H) 低音部譜表	視唱 H、クレ H の予習	課題を読む、歌う 聴音 h の復習	45 分 45 分
第9回	(聴音 i) 複旋律 3 声体 C dur 密集 a moll	(視唱 I) ダンノーゼル D dur(基礎)	(クレ I) 低音部譜表	視唱 I、クレ I の予習	課題を読む、歌う 聴音 i の復習	45 分 45 分
第10回	(聴音 j) 複旋律 3 声体 a moll 開離 a moll	(視唱 J) ダンノーゼル h moll(基礎)	(クレ J) 低音部譜表	視唱 J、クレ J の予習	課題を読む、歌う 聴音 j の復習	45 分 45 分
第11回	(聴音 k) 複旋律 3 声体 G dur 密集 G dur	(視唱 K) ダンノーゼル B dur(基礎)	(クレ K) 低音部譜表	視唱 K、クレ K の予習	課題を読む、歌う 聴音 k の復習	45 分 45 分
第12回	(聴音 l) 複旋律 3 声体 e moll 開離 G dur	(視唱 L) ダンノーゼル g moll(基礎)	(クレ L) アルト譜表	視唱 L、クレ L の予習	課題を読む、歌う 聴音 l の復習	45 分 45 分
第13回	(聴音 m) 複旋律 3 声体 F dur 密集 e moll	(視唱 M) ダンノーゼル へ音記号(基礎)	(クレ M) アルト譜表	視唱 M、クレ M の予習	課題を読む、歌う 聴音 m の復習	45 分 45 分
第14回	(聴音 n) 複旋律 3 声体 d moll 開離 e moll	(視唱 N) ダンノーゼル へ音記号(発展)	(クレ N) アルト譜表	視唱 N、クレ N の予習	課題を読む、歌う 聴音 n の復習	45 分 45 分
第15回	まとめ			まとめの予習	聴音 n の復習	45 分 45 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業態度 50%

テキスト 城多又兵衛 解説『ダンノーゼルのソルフェージュ 上』（音楽之友社）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 単位を既に取得した短大2年生のうち本授業の聴講希望者は、音楽基礎科目主任まで申し出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐					

ソルフェージュ-2A

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

講師 倉地恵子

科目コード：SLF108

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習

単位数：1 単位

概要 ソルフェージュとは、音楽能力の総合的な基礎訓練のことである。
 そのために、聴音（単旋、複旋律、和声、リズム、記憶）、視唱、クレ読みなどを行う。
 また「バロック期以降の管弦楽曲の抜粋を用いた聴音、読譜」も行う。

到達目標 多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な音楽能力が向上することを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【聴音】	【視唱】	【クレ読み】			
第1回	(聴音 a) 単旋律 3 声体 密集 F dur	(視唱 A) ダンノーゼル C dur(発展)	(クレ A) アルト譜表	事前 視唱 A、クレ A の予習 事後 聴音 a の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第2回	(聴音 b) 単旋律 3 声体 開離 F dur	(視唱 B) ダンノーゼル a moll(発展)	(クレ B) アルト譜表	事前 視唱 B、クレ B の予習 事後 聴音 b の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第3回	(聴音 c) 単旋律 3 声体 密集 d moll	(視唱 C) ダンノーゼル G dur(発展)	(クレ C) アルト譜表	事前 視唱 C、クレ C の予習 事後 聴音 c の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第4回	(聴音 d) 単旋律 3 声体 開離 d moll	(視唱 D) ダンノーゼル e moll(発展)	(クレ D) アルト譜表	事前 視唱 D、クレ D の予習 事後 聴音 d の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第5回	(聴音 e) 単旋律 4 声体 密集 C dur	(視唱 E) ダンノーゼル F dur(発展)	(クレ E) アルト譜表	事前 視唱 E、クレ E の予習 事後 聴音 e の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第6回	(聴音 f) 単旋律 4 声体 開離 C dur	(視唱 F) ダンノーゼル d moll(発展)	(クレ F) アルト譜表	事前 視唱 F、クレ F の予習 事後 聴音 f の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第7回	(聴音 g) 複旋律 4 声体 密集 a moll	(視唱 G) ダンノーゼル D dur(発展)	(クレ G) アルト譜表	事前 視唱 G、クレ G の予習 事後 聴音 g の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第8回	(聴音 h) 複旋律 4 声体 開離 a moll	(視唱 H) ダンノーゼル h moll(発展)	(クレ H) テノール譜表	事前 視唱 H、クレ H の予習 事後 聴音 h の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第9回	(聴音 i) 複旋律 4 声体 密集 G dur	(視唱 I) ダンノーゼル B dur(発展)	(クレ I) テノール譜表	事前 視唱 I、クレ I の予習 事後 聴音 i の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第10回	(聴音 j) 複旋律 4 声体 開離 G dur	(視唱 J) ダンノーゼル g moll(発展)	(クレ J) テノール譜表	事前 視唱 J、クレ J の予習 事後 聴音 j の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第11回	(聴音 k) 複旋律 4 声体 密集 e moll	(視唱 K) ダンノーゼル A dur, fis moll	(クレ K) テノール譜表	事前 視唱 K、クレ K の予習 事後 聴音 k の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第12回	(聴音 l) 複旋律 4 声体 開離 e moll	(視唱 L) ダンノーゼル Es dur, c moll	(クレ L) テノール譜表	事前 視唱 L、クレ L の予習 事後 聴音 l の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第13回	(聴音 m) 複旋律 5 声体 C dur	(視唱 M) ダンノーゼル E dur, cis moll	(クレ M) テノール譜表	事前 視唱 M、クレ M の予習 事後 聴音 m の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第14回	(聴音 n) 複旋律 5 声体 a moll	(視唱 N) ダンノーゼル 音部記号交換読譜	(クレ N) テノール譜表	事前 視唱 N、クレ N の予習、 事後 聴音 n の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第15回	まとめ			事前 まとめの予習 事後 まとめの復習		45 分 45 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業態度 50%

テキスト 城多又兵衛 解説『ダンノーゼルのソルフェージュ 上』（音楽之友社）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 単位を既に取得した短大2年生のうち本授業の聴講希望者は、音楽基礎科目主任まで申し出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐					

ソルフェージュ1B

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF107

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習

単位数：1 単位

概要 ソルフェージュとは、音楽能力の総合的な基礎訓練のことである。
 そのために、聴音（単旋律、複旋律、和声、リズム、記憶）、視唱、クレ読みなどを行う。
 また「フォルマシオン・ミュージカル」「フランス和声による伴奏つき視唱」「管楽器による聴音」も扱う。

到達目標 多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な音楽能力が向上することを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【聴音】	【視唱】	【クレ読み】	事前	事後	備考	時間
第1回	(聴音 a) 単旋律 高音部譜表 和音 二和音	(視唱 A) 発声スケール (山型) 発声	(クレ A) 低音部譜表	視唱 A、クレ A の予習	聴音 a の復習	「ソルフェージュ」の項目を音楽事典で読む 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第2回	(聴音 b) 単旋律 低音部譜表 和音 三和音	(視唱 B) 発声スケール (山型) ピアノ伴奏	(クレ B) 低音部譜表	視唱 B、クレ B の予習	聴音 b の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第3回	(聴音 c) 単旋律 臨時記号 (基礎) 2 声体 C dur	(視唱 C) ダンノーゼル 2 度音程 (基礎)	(クレ C) 低音部譜表	視唱 C、クレ C の予習	聴音 c の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第4回	(聴音 d) 単旋律 リズム (基礎) 2 声体 a moll	(視唱 D) ダンノーゼル 2 度音程 (発展)	(クレ D) 低音部譜表	視唱 D、クレ D の予習	聴音 d の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第5回	(聴音 e) 単旋律 休符 (基礎) 2 声体 G dur	(視唱 E) ダンノーゼル 3 度音程 (基礎)	(クレ E) 低音部譜表	視唱 E、クレ E の予習	聴音 e の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第6回	(聴音 f) 単旋律 タイ (基礎) 2 声体 e moll	(視唱 F) ダンノーゼル 3 度音程 (発展)	(クレ F) 低音部譜表	視唱 F、クレ F の予習	聴音 f の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第7回	(聴音 g) 単旋律 拍子 (基礎) 3 声体 密集 C dur	(視唱 G) ダンノーゼル 4 度音程 (基礎)	(クレ G) 低音部譜表	視唱 G、クレ G の予習	聴音 g の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第8回	(聴音 h) 単旋律 調 (基礎) 3 声体 開離 C dur	(視唱 H) ダンノーゼル 4 度音程 (発展)	(クレ H) アルト譜表	視唱 H、クレ H の予習	聴音 h の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第9回	(聴音 i) 複旋律 C dur 3 声体 密集 a moll	(視唱 I) ダンノーゼル 5 度音程 (基礎)	(クレ I) アルト譜表	視唱 I、クレ I の予習	聴音 i の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第10回	(聴音 j) 複旋律 a moll 3 声体 開離 a moll	(視唱 J) ダンノーゼル 5 度音程 (発展)	(クレ J) アルト譜表	視唱 J、クレ J の予習	聴音 j の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第11回	(聴音 k) 複旋律 G dur 3 声体 密集 G dur	(視唱 K) ダンノーゼル 6 度音程 (基礎)	(クレ K) アルト譜表	視唱 K、クレ K の予習	聴音 k の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第12回	(聴音 l) 複旋律 e moll 3 声体 開離 G dur	(視唱 L) ダンノーゼル 6 度音程 (発展)	(クレ L) アルト譜表	視唱 L、クレ L の予習	聴音 l の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第13回	(聴音 m) 複旋律 F dur 3 声体 密集 e moll	(視唱 M) ダンノーゼル 7 度音程 (基礎)	(クレ M) アルト譜表	視唱 M、クレ M の予習	聴音 m の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第14回	(聴音 n) 複旋律 d moll 3 声体 開離 e moll	(視唱 N) ダンノーゼル 7 度音程 (発展)	(クレ N) アルト譜表	視唱 N、クレ N の予習	聴音 n の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第15回	まとめ			まとめの予習	まとめの復習		45 分 45 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 城多又兵衛解説『ダンノーゼルのソルフェージュ 上』(音楽之友社出版)

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 単位を既に取得した短大2年生のうち本授業の聴講希望者は、音楽基礎科目主任まで申し出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐					

ソルフェージュ-2B

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF108

専門/学年：全専門/1 年次

形態：演習

単位数：1 単位

概要 ソルフェージュとは、音楽能力の総合的な基礎訓練のことである。
 そのために、聴音（単旋律、複旋律、和声、リズム、記憶）、視唱、クレ読みなどを行う。
 また「フォルマシオン・ミュージカル」「フランス和声による伴奏つき視唱」「管楽器による聴音」も扱う。

到達目標 多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な音楽能力が向上することを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【聴音】	【視唱】	【クレ読み】		
第 1 回	ソルフェージュ-1 の試験の解説			事前	ソルフェージュ-1 の試験の解説の予習 45 分
				事後	ソルフェージュ-1 の試験の解説の復習 45 分
第 2 回	(聴音 a) 単旋律 3 声体 密集 F dur	低音部譜表 (発展)	(視唱 A) 発声スケール (ジグザグ型)	(クレ A) テノール譜表	事前 視唱 A、クレ A の予習 課題を読む、歌う 45 分
				事後	聴音 a の復習 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45 分
第 3 回	(聴音 b) 単旋律 3 声体 開離 F dur	臨時記号 (発展)	(視唱 B) 発声スケール (ジグザグ型)	(クレ B) テノール譜表	事前 視唱 B、クレ B の予習 課題を読む、歌う 45 分
				事後	聴音 b の復習 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45 分
第 4 回	(聴音 c) 単旋律 3 声体 密集 d moll	リズム (発展)	(視唱 C) ダンノーゼル C dur	(クレ C) テノール譜表	事前 視唱 C、クレ C の予習 課題を読む、歌う 45 分
				事後	聴音 c の復習 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45 分
第 5 回	(聴音 d) 単旋律 3 声体 開離 d moll	休符 (発展)	(視唱 D) ダンノーゼル a moll	(クレ D) テノール譜表	事前 視唱 D、クレ D の予習 課題を読む、歌う 45 分
				事後	聴音 d の復習 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45 分
第 6 回	(聴音 e) 単旋律 4 声体 密集 C dur	タイ (発展)	(視唱 E) ダンノーゼル G dur	(クレ E) テノール譜表	事前 視唱 E、クレ E の予習 課題を読む、歌う 45 分
				事後	聴音 e の復習 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45 分
第 7 回	(聴音 f) 単旋律 4 声体 開離 C dur	拍子 (発展)	(視唱 F) ダンノーゼル e moll	(クレ F) テノール譜表	事前 視唱 F、クレ F の予習 課題を読む、歌う 45 分
				事後	聴音 f の復習 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45 分
第 8 回	(聴音 g) 単旋律 4 声体 密集 a moll	調 (発展)	(視唱 G) ダンノーゼル F dur	(クレ G) ソプラノ譜表	事前 視唱 G、クレ G の予習 課題を読む、歌う 45 分
				事後	聴音 g の復習 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45 分
第 9 回	(聴音 h) 複旋律 4 声体 開離 a moll	D dur	(視唱 H) ダンノーゼル d moll	(クレ H) ソプラノ譜表	事前 視唱 H、クレ H の予習 課題を読む、歌う 45 分
				事後	聴音 h の復習 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45 分
第 10 回	(聴音 i) 複旋律 4 声体 密集 G dur	D dur	(視唱 I) ダンノーゼル D dur	(クレ I) ソプラノ譜表	事前 視唱 I、クレ I の予習 課題を読む、歌う 45 分
				事後	聴音 i の復習 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45 分
第 11 回	(聴音 j) 複旋律 4 声体 開離 G dur	B dur	(視唱 J) ダンノーゼル h moll	(クレ J) ソプラノ譜表	事前 視唱 J、クレ J の予習 課題を読む、歌う 45 分
				事後	聴音 j の復習 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45 分
第 12 回	(聴音 k) 複旋律 5 声体 C dur	g moll	(視唱 K) ダンノーゼル B dur	(クレ K) ソプラノ譜表	事前 視唱 K、クレ K の予習 課題を読む、歌う 45 分
				事後	聴音 k の復習 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45 分
第 13 回	(聴音 l) 複旋律 5 声体 A dur	a moll	(視唱 L) ダンノーゼル g moll	(クレ L) ソプラノ譜表	事前 視唱 L、クレ L の予習 課題を読む、歌う 45 分
				事後	聴音 l の復習 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45 分
第 14 回	まとめ			事前	まとめの予習 45 分
				事後	まとめの復習 45 分
第 15 回	試験の解説			事前	試験の解説の予習 45 分
				事後	試験の解説の復習 45 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 城多又兵衛解説『ダンノーゼルのソルフェージュ 上』（音楽之友社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 単位を既に取得した短大 2 年生のうち本授業の聴講希望者は、音楽基礎科目主任まで申し出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐					

ソルフェージュ10

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 兼氏規雄

科目コード：SLF107

専門/学年：全専門/1年次

形態：演習

単位数：1単位

概要 ソルフェージュとは「音楽能力の総合的な基礎訓練」である。そのために、聴音（単旋律、複旋律、和声、リズム、記憶）、視唱、クレ読みなどを行う。また「ダンノーゼル」「管楽器による聴音」も扱う。

到達目標 多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な力を養い、声楽や器楽の演奏能力の向上に役立たせることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【AL】	【聴音】	【視唱】	【クレ読み】	事前	事後	時間
第1回	(聴音 a)単旋律 高音部譜表	(視唱 A)発声スケール 発声	(クレ A) 高音部譜表	視唱 A、クレ A の予習	聴音 a の復習	「ソルフェージュ」の項目を事典で読む 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45分
第2回	(聴音 b)単旋律 低音部譜表	(視唱 B)発声スケール ピアノ伴奏	(クレ B) 高音部譜表	視唱 B、クレ B の予習	聴音 b の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45分
第3回	(聴音 c)単旋律 臨時記号	(視唱 C)ダンノーゼル 2度音程(基礎)	(クレ C) 高音部譜表	視唱 C、クレ C の予習	聴音 c の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45分
第4回	(聴音 d)単旋律 リズム	(視唱 D)ダンノーゼル 2度音程(発展)	(クレ D) 高音部譜表	視唱 D、クレ D の予習	聴音 d の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45分
第5回	(聴音 e)複旋律 調号なしの長調	(視唱 E)ダンノーゼル 3度音程(基礎)	(クレ E) 高音部譜表	視唱 E、クレ E の予習	聴音 e の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45分
第6回	(聴音 f)複旋律 調号なしの短調	(視唱 F)ダンノーゼル 3度音程(発展)	(クレ F) 高音部譜表	視唱 F、クレ F の予習	聴音 f の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45分
第7回	(聴音 g)複旋律 調号1つまでの長調	(視唱 G)ダンノーゼル 4度音程(基礎)	(クレ G) 高音部譜表	視唱 G、クレ G の予習	聴音 g の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45分
第8回	(聴音 h)複旋律 調号1つまでの短調	(視唱 H)ダンノーゼル 4度音程(発展)	(クレ H) 低音部譜表	視唱 H、クレ H の予習	聴音 h の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45分
第9回	(聴音 i)和音 二和音	(視唱 I)ダンノーゼル 5度音程(基礎)	(クレ I) 低音部譜表	視唱 I、クレ I の予習	聴音 i の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45分
第10回	(聴音 j)和音 三和音	(視唱 J)ダンノーゼル 5度音程(発展)	(クレ J) 低音部譜表	視唱 J、クレ J の予習	聴音 j の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45分
第11回	(聴音 k)2声体 調号なしの長調	(視唱 K)ダンノーゼル 6度音程(基礎)	(クレ K) 低音部譜表	視唱 K、クレ K の予習	聴音 k の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45分
第12回	(聴音 l)2声体 調号なしの短調	(視唱 L)ダンノーゼル 6度音程(発展)	(クレ L) 低音部譜表	視唱 L、クレ L の予習	聴音 l の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45分
第13回	(聴音 m)3声体 調号1つまでの長調	(視唱 M)ダンノーゼル 7度音程(基礎)	(クレ M) 低音部譜表	視唱 M、クレ M の予習	聴音 m の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45分
第14回	(聴音 n)3声体 調号1つまでの短調	(視唱 N)ダンノーゼル 7度音程(発展)	(クレ N) 低音部譜表	視唱 N、クレ N の予習	聴音 n の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる 45分
第15回	まとめ			事前 まとめの予習	事後 まとめの復習	45分 45分

フィードバック 答案の返却及びその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業態度 50%

テキスト 城多又兵衛 解説『ダンノーゼルのソルフェージュ 上』（音楽之友社）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 単位を既に取得した短大2年生のうち本授業の聴講希望者は、音楽基礎科目主任まで申し出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐					

ソルフェージュ-2C

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 兼氏規雄

科目コード：SLF108

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習

単位数：1 単位

概要 ソルフェージュとは「音楽能力の総合的な基礎訓練」である。そのために、聴音（単旋律、複旋律、和声、リズム、記憶）、視唱、クレ読みなどを行う。また「ダンノーゼル」「管楽器による聴音」も扱う。

到達目標 多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な力を養い、声楽や器楽の演奏能力の向上に役立たせることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【AL】	【聴音】	【視唱】	【クレ読み】	事前	事後	課題	時間
第1回	(聴音 a)単旋律 休符	(視唱 A) ダンノーゼル C dur, G dur, D dur	(クレ A) アルト譜表	視唱 A、クレ A の予習	聴音 a の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第2回	(聴音 b)単旋律 タイ	(視唱 B) ダンノーゼル A dur, E dur	(クレ B) アルト譜表	視唱 B、クレ B の予習	聴音 b の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第3回	(聴音 c)単旋律 拍子	(視唱 C) ダンノーゼル H dur, Fis dur	(クレ C) アルト譜表	視唱 C、クレ C の予習	聴音 c の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第4回	(聴音 d)単旋律 調	(視唱 D) ダンノーゼル Ges dur, Des dur	(クレ D) アルト譜表	視唱 D、クレ D の予習	聴音 d の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第5回	(聴音 e)複旋律 調号 2 つまでの長調	(視唱 E) ダンノーゼル As dur, Es dur	(クレ E) アルト譜表	視唱 E、クレ E の予習	聴音 e の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第6回	(聴音 f)複旋律 調号 2 つまでの短調	(視唱 F) ダンノーゼル B dur, F dur	(クレ F) アルト譜表	視唱 F、クレ F の予習	聴音 f の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第7回	(聴音 g)複旋律 調号 3 つまでの長調	(視唱 G) ダンノーゼル 転調	(クレ G) アルト譜表	視唱 G、クレ G の予習	聴音 g の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第8回	(聴音 h) 複旋律 調号 3 つまでの短調	(視唱 H) ダンノーゼル c moll, g moll, d moll	(クレ H) テノール譜表	視唱 H、クレ H の予習	聴音 h の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第9回	(聴音 i) 4 声体 調号なしの長調	(視唱 I) ダンノーゼル a moll, e moll	(クレ I) テノール譜表	視唱 I、クレ I の予習	聴音 i の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第10回	(聴音 j) 4 声体 調号なしの短調	(視唱 J) ダンノーゼル h moll, fis moll	(クレ J) テノール譜表	視唱 J、クレ J の予習	聴音 j の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第11回	(聴音 k) 4 声体 調号 1 つまでの長調	(視唱 K) ダンノーゼル cis moll, gis moll	(クレ K) テノール譜表	視唱 K、クレ K の予習	聴音 k の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第12回	(聴音 l) 4 声体 調号 1 つまでの短調	(視唱 L) ダンノーゼル as moll, es moll	(クレ L) テノール譜表	視唱 L、クレ L の予習	聴音 l の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第13回	(聴音 m) 5 声体 調号なしの長調	(視唱 M) ダンノーゼル b moll, f moll	(クレ M) テノール譜表	視唱 M、クレ M の予習	聴音 m の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第14回	(聴音 n) 5 声体 調号なしの短調	(視唱 N) ダンノーゼル 半音階	(クレ N) テノール譜表	視唱 N、クレ N の予習	聴音 n の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第15回	まとめ			事前 まとめの予習	事後 まとめの復習		45 分 45 分

フィードバック 答案の返却及びその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業態度 50%

テキスト 城多又兵衛 解説『ダンノーゼルのソルフェージュ 上』（音楽之友社）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 単位を既に取得した短大2年生のうち本授業の聴講希望者は、音楽基礎科目主任まで申し出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐					

合唱 I-1・II-1

※教育職員免許状取得に関わる科目※音楽療法士養成に関する科目

教授 細谷美直

科目コード：VEN101/VEN201

専門/学年：全専門/1~2年次、専攻科

形態：実技

単位数：1単位

概要 合唱における基本的な歌唱法、すなわち姿勢・ストレッチ・呼吸法・発声法等を総合的に学ぶ
様々な合唱形態からユニゾン、ハーモニー、リズム感、ディクションを磨きテキストへの理解を深めつつ表現力を育む

到達目標 基本的なテクニックすなわち姿勢、呼吸法、発声法を習得しながらリハーサルを重ね、舞台を通して合唱することの喜び、生き生きとした演奏を目指す。また将来に向け基本的な合唱指導テクニックを身につけることを目標とする。

授業計画 週1回、全15回
各授業内容は進度に応じて変更する場合がある。

第1回	ガイダンス 声種分け	事前 自分の声が混声合唱のどのパートに相応するかを考える 事後 選曲の意図を探る	130分 140分
第2回	合唱の基礎トレーニング ～姿勢、ストレッチ、呼吸法を中心に～	事前 自分の声のパートを確認する 事後 パートの音取りをする。歌詩の内容を考える	130分 140分
第3回	合唱の基礎トレーニング ～呼吸法、発声法を中心に～ 選曲の重要性 合唱曲①、②	事前 選曲の意図を探る 事後 合唱曲①、②を鑑賞し自分の考えをまとめる	130分 140分
第4回	合唱の基礎トレーニング ～ハーモニー感覚を身につける～ 選曲の重要性 合唱曲③、④	事前 選曲の意図を探る 事後 合唱曲③、④を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130分 140分
第5回	課題曲を学ぶ ～パート別練習を中心に～	事前 課題曲の音取りをする 事後 パートの確認と復習をする	130分 140分
第6回	課題曲を学ぶ ～パート別練習、音程とリズム～	事前 課題曲の音取りをする 事後 音程とリズムに留意して復習する	130分 140分
第7回	課題曲を学ぶ ～ユニゾンとは何かを考える～ 選曲の重要性⑤、⑥	事前 選曲の意図を探る 事後 合唱曲⑤、⑥を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130分 140分
第8回	課題曲を学ぶ ～テンポの変化を意識する～ 選曲の重要性⑦、⑧	事前 選曲の意図を探る 事後 合唱曲⑦、⑧を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130分 140分
第9回	課題曲を学ぶ ～パート別練習及び全体練習～	事前 課題曲の音取りをする 事後 楽譜の全体を見直す	130分 140分
第10回	定期演奏会リハーサル ～楽譜を読むということは～	事前 リズム、音程、アーティキュレーションの確認 事後 指摘を受けた箇所を復習する	130分 140分
第11回	定期演奏会リハーサル 選曲の重要性⑨、⑩	事前 課題曲の暗譜、選曲の意図を探る 事後 合唱曲⑨、⑩を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130分 140分
第12回	定期演奏会リハーサル 選曲の重要性⑪、⑫	事前 課題曲の暗譜をすすめ、選曲の意図を探る 事後 合唱曲⑪、⑫を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130分 140分
第13回	定期演奏会リハーサル ～有声と無声（音）、ハミングの扱い～	事前 有声（音）、無声（音）を考える 事後 有声、無声、ハミングの扱い方を研究する	130分 140分
第14回	定期演奏会リハーサル ～楽譜を読み込むということは～	事前 楽譜全体を見直す 事後 授業で指摘を受けた箇所の復習	130分 140分
第15回	まとめ	事前 暗譜を進める 事後 自分の考えをまとめる	130分 140分

フィードバック 授業後、リハーサル、本番後に学習成果をフィードバックする機会を設ける

成績評価 授業への取り組み、リハーサルの成果、レポートにて総合的に評価する

テキスト 授業内に指示する

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 定期演奏会に向け生き生きとした演奏、美しいハーモニーを追求する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

合唱 I-2・II-2

※教育職員免許状取得に関わる科目※音楽療法士養成に関する科目

教授 細谷美直

科目コード：VEN102/VEN202

専門/学年：全専門/1～2年次、専攻科

形態：実技

単位数：1単位

概要 合唱における基本的な歌唱法、すなわち姿勢・ストレッチ・呼吸法・発声法等を総合的に学ぶ
様々な合唱形態からユニゾン、ハーモニー、リズム感、ディクションを磨きテキストへの理解を深めつつ表現力を育む

到達目標 基本的なテクニックすなわち姿勢、呼吸法、発声法を習得しながらリハーサルを重ね、舞台を通して合唱することの喜び、生き生きとした演奏を目指す。また将来に向け基本的な合唱指導テクニックを身につけることを目標とする。

授業計画 週1回、全15回
各授業内容は進度に応じて変更する場合がある。

第1回	定期演奏会リハーサル ～パートの役割、ハーモニーとは何か～	事前 声をそろえるとはどういうことかを考える 事後 声を揃える＝音程、音色を整える	130分 140分
第2回	定期演奏会リハーサル ～音程、リズムの確認～	事前 暗譜をすすめる 事後 授業で指摘された箇所を練習する	130分 140分
第3回	定期演奏会リハーサル ～ユニゾンの重要性～	事前 ユニゾンの重要性を考える 事後 暗譜を定着させる	130分 140分
第4回	定期演奏会リハーサル ～合唱指揮・指導のテクニック（基礎）～	事前 ハンドサインとは何かを考える 事後 ハンドサインの復習をする	130分 140分
第5回	定期演奏会リハーサル ～合唱指揮・指導のテクニック（応用）～	事前 指揮の重要性を考える 事後 曲全体のバランスを見直す	130分 140分
第6回	定期演奏会リハーサル ～暗譜をするということは～	事前 ステージマナーを考える 事後 暗譜を定着させる	130分 140分
第7回	定期演奏会リハーサル ～ホールで演奏するということは（基礎）～	事前 帆^流で演奏することを想定する 事後 ハンドサインの復習をする	130分 140分
第8回	定期演奏会リハーサル ～ホールで演奏するということは（隊列）～	事前 本番を想定する（出入り、配置、衣装等） 事後 全体的に暗譜を見直す	130分 140分
第9回	定期演奏会リハーサル ～ホールで演奏するということは（応用）～	事前 ホールで演奏することを想定する 事後 各フレーズ及びパートをつなぐことを意識する	130分 140分
第10回	定期演奏会リハーサル 総合練習	事前 暗譜の確認をする 事後 再度楽譜を見直す	130分 140分
第11回	定期演奏会の反省 選曲の重要性①、②	事前 定期演奏会を振り返る 事後 合唱曲①、②を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130分 140分
第12回	課題曲を学ぶ ～音づくりは声づくり～ 選曲の重要性③、④	事前 課題曲の音取りをする 事後 合唱曲③、④を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130分 140分
第13回	課題曲を学ぶ ～ユニゾンの重要性～ 選曲の適切性⑤、⑥	事前 課題の音程、リズムに留意して練習する 事後 合唱曲⑤、⑥を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130分 140分
第14回	課題曲を学ぶ ～リズム感・ハーモニー感を磨く～ 選曲の重要性⑦、⑧	事前 課題曲の歌詞の内容を考える 事後 合唱曲⑦、⑧を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130分 140分
第15回	まとめ	事前 合唱曲①～⑧の復習をする 事後 合唱曲①～⑧の自分の考えをまとめる	130分 140分

フィードバック 授業後、リハーサル、本番後に学習成果をフィードバックする機会を設ける

成績評価 授業への取り組み、リハーサルの成果、レポートにて総合的に評価する

テキスト 授業内に指示する

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 定期演奏会に向け生き生きとした演奏、美しいハーモニーを追求する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐

鍵盤和声 I-1a

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 石井み予乃

科目コード: SLF103

専門/学年: 全専門/1 年次

形態: 演習

単位数: 1 単位

概要 机上の理論によってではなく、鍵盤上での実習を通して和声進行を身につける。

到達目標 さまざまな調の音階とカデンツを反復練習し、I・IV・V・V7の基本形から転回形の活用を学ぶ。メロディに合わせた伴奏形を考える。

授業計画 各調の主要三和音の基本形から転回形を確認し、自由に往来できるように訓練する。和音記号を用いて、メロディーに伴奏付けをする。メロディー奏にも重点をおき、フレーズ感を養う。さらに、初見演奏に欠かせない読譜の仕方を学び実践する。弾き歌いやコードネームなども学習し、実習現場で必要と思われる課題を取り上げてみる。

回数	授業内容	事前	事後	時間
第1回	授業内容についてのガイダンス 鍵盤和声とは何か	事前 授業計画を確認する	事後 授業内容を理解する	30分 60分
第2回	長音階 長調の主要三和音	事前 長音階の練習	事後 主要三和音の復習	30分 60分
第3回	長調 終止形	事前 属七の和音の理解	事後 課題の反復練習	30分 60分
第4回	長調 メロディ奏	事前 メロディの弾き方について考える	事後 課題の反復練習	30分 60分
第5回	長調 メロディに和音をつける	事前 テンボ感、フレーズ感について考える	事後 課題の反復練習	30分 60分
第6回	長調 和音記号による和音付	事前 和音記号の理解	事後 和音記号の復習	30分 60分
第7回	長調 リズム伴奏を考える	事前 和音付の復習	事後 コード型とアルベジオ型の反復練習	30分 60分
第8回	長調 メロディ奏→和音付→リズム伴奏	事前 伴奏型の復習	事後 課題の反復練習	30分 60分
第9回	短音階 短調の主要三和音	事前 短音階の練習	事後 短音階と主要三和音の復習	30分 60分
第10回	短調 終止形・メロディ奏	事前 短音階の理解	事後 課題の反復練習	30分 60分
第11回	短調 和音付	事前 短調の主要三和音の理解	事後 課題の反復練習	30分 60分
第12回	長調の和音にメロディを作る 伴奏形を考える	事前 長調の課題の復習	事後 長調のメロディを作る	30分 60分
第13回	短調の和音にメロディを作る 伴奏形を考える	事前 短調の課題の復習	事後 短調のメロディを作る	30分 60分
第14回	和音型とリズム型の伴奏 課題に取り組む	事前 課題の反復練習	事後 課題の反復練習	30分 60分
第15回	和音型とリズム型の伴奏を発表する 前期総括	事前 課題の反復練習	事後 指摘のあった箇所の復習	60分 30分

フィードバック 授業での課題や提出物について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング ・2, 3人ずつに分かれ、メロディーと和音符を連弾曲に仕上げる
・歌うことに伴奏をつけ発表する

備考 欠席時に配布した課題プリントは翌週に再度配布しないので、各自で対応すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐						

鍵盤和声 I -2a

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 石井み予乃

科目コード: SLF104

専門/学年: 全専門/1 年次

形態: 演習

単位数: 1 単位

概要 初見演奏、弾き歌い、移調奏、コードネームなどを体験し、実習現場で必要と思われる力を身につける。

到達目標 旋律の演奏にも重点をおき、フレーズ感を養う。初見演奏に欠かせない読譜の仕方を学ぶ。そして、実践を重ねることにより、現場に対応できる力を養う。

授業計画 各調の主要三和音の基本形から転回形を確認し、自由に往来できるように訓練する。和音記号を用いて、メロディーに伴奏付けをする。メロディー奏にも重点をおき、フレーズ感を養う。さらに、初見演奏に欠かせない読譜の仕方を学び実践する。弾き歌いやコードネームなども学習し、実習現場で必要と思われる課題を取り上げてみる。

第1回	初見演奏 予見について	事前 前期の復習 事後 課題の反復練習	30分 60分
第2回	初見演奏 予見から演奏時の注意	事前 授業内課題以外の自己練習 事後 課題の反復練習	40分 50分
第3回	初見演奏 課題に取り組み	事前 授業内課題以外の自己練習 事後 課題の反復練習	40分 50分
第4回	弾き歌い 「弾く」と「歌う」について	事前 初見演奏の自己練習 事後 歌う	60分 30分
第5回	弾き歌い 演奏時の注意	事前 課題の反復練習 事後 注意の確認	60分 40分
第6回	弾き歌い 課題に取り組み	事前 バランスを考えての弾き歌い練習 事後 課題の反復練習	40分 50分
第7回	移調奏 楽譜の捉え方	事前 移調とは何かを考える 事後 課題の反復練習	30分 60分
第8回	移調奏 様々な調整に移調してみる	事前 様々な調整の確認 事後 課題の反復練習	30分 60分
第9回	コードネーム 仕組みについて	事前 コードネームと和音記号比べる 事後 コードネームと和音記号の理解	40分 50分
第10回	コードネーム 仕組みを理解し和音付	事前 コードネームの仕組みの復習 事後 課題の反復練習	40分 60分
第11回	コードネーム 唱歌や童謡に伴奏をつける	事前 コードネームの仕組みの復習 事後 課題の反復練習	30分 60分
第12回	カウンターライン メロディとコードネームから対旋律をみつける	事前 コードネーム仕組みの復習 事後 カウンターラインを考える	40分 50分
第13回	カウンターライン 対旋律を作る	事前 カウンターラインのルールの復習 事後 課題の反復練習	40分 50分
第14回	カウンターラインのまとめ 後期総括	事前 後期の復習 事後 課題の反復練習	40分 50分
第15回	一年間のまとめ	事前 試験課題の自己練習 事後 一年間のまとめ	60分 30分

フィードバック 授業での課題や提出物について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング ・2, 3人ずつに分かれ、メロディーと和音符を連弾曲に仕上げる
・歌うことに伴奏をつけ発表する

備考 欠席時に配布した課題プリントは翌週に再度配布しないので、各自で対応すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐						

鍵盤和声 I-1b

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 中島範子

科目コード: SLF103

専門/学年: 全専門/1年次

形態: 演習 単位数: 1単位

概要 基本的な和声感、また、和声進行と旋律との関連性を理解して、鍵盤楽器でメロディに伴奏を付けるための実用的な演奏技法を学習する。

到達目標 基本的な和声を用いてメロディに伴奏を付けられるようにする。拍子感、テンポに合わせての伴奏形態を理解する。

授業計画		
【AL】		
第1回	授業内容についてのガイダンス 主要三和音の進行と和声感	事前 楽典のテキストで和音の項目の内容を確認する。 事後 プリント課題の反復練習をする。 30分 60分
第2回	基本的な和音の配置のカデンツ奏	事前 プリント課題の和声感と和音記号を確認する。 30分 事後 カデンツ奏の反復練習をする。 60分
第3回	基本的な和音の配置のカデンツ奏と移調	事前 楽典のテキストで音階・調号の項目の内容を確認する。 20分 事後 いろいろな調性でのカデンツ奏の反復練習をする。 70分
第4回	基本的な和音の配置とコードネームの連結・理解	事前 カデンツ奏の和音の構成音を確認する。 30分 事後 いろいろな調性でのカデンツ奏の反復練習をする。 60分
第5回	メロディー奏と和音付け(長調)	事前 コードネームを確認しておく。 30分 事後 プリント課題の反復練習をする。 60分
第6回	メロディー奏と伴奏付け(短調)	事前 前回の課題の左手の和音の構成音を確認する。 30分 事後 プリント課題の反復練習をする。 60分
第7回	メロディー奏と拍子・リズムに合わせた伴奏付け	事前 カデンツ奏の練習をする。 30分 事後 プリント課題のいろいろな伴奏形態を意識して反復練習をする。 60分
第8回	和音記号・コードネームと伴奏付け 長調	事前 長調のカデンツ奏の練習をする。 30分 事後 プリント課題の反復練習をする。 60分
第9回	和音記号・コードネームと伴奏付け 長調 属七を含む	事前 長調のカデンツ奏の練習をする。 30分 事後 プリント課題の反復練習をする。 60分
第10回	長調の課題による伴奏付け	事前 長調のカデンツ奏の練習をする。 30分 事後 プリント課題の反復練習をする。 60分
第11回	和音記号・コードネームと伴奏付け 短調	事前 短調のカデンツ奏の練習をする。 30分 事後 プリント課題の反復練習をする。 60分
第12回	和音記号・コードネームと伴奏付け 短調 属七を含む	事前 短調のカデンツ奏の練習をする。 30分 事後 プリント課題の反復練習をする。 60分
第13回	短調の課題による伴奏付け	事前 短調のカデンツ奏の練習をする。 30分 事後 プリント課題の反復練習をする。 60分
第14回	これまでの課題の発展した左手の伴奏形態の演習	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 30分 事後 これまでの課題で左手の伴奏形態を変えて反復練習をする。 60分
第15回	伴奏付け課題 発表・試験	事前 これまでの課題で左手の伴奏形態を変えて反復練習をする。 70分 事後 発表時に気付いた改善点を修正する。 20分

フィードバック 授業での実習時の解説、提出課題の添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 40%、課題提出、授業への積極的な取り組み 60%
試験時の課題の演奏により理解度を測る。授業時の実習に取り組む姿勢を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

備考 欠席時も含め、課題プリントは各自できちんと管理すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

鍵盤和声 I -2b

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 中島範子

科目コード: SLF104

専門/学年: 全専門/1 年次

形態: 演習

単位数: 1 単位

概要 前期で習得した技法を基に、移調、転調を含めた課題を実習する。初見奏、弾きたいを体験し、実習の場で応用できるよう実践する。

到達目標 コードネームの理解を深め、移調奏、転調を含めた伴奏付けが出来るようにする。

授業計画

【AL】

第1回	前期の復習 ① 左手コードの確認	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第2回	前期の復習 ② 移調奏	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第3回	初見奏 ① 予見	事前 ソルフェージュの教材などで視唱する。 事後 プリント課題の他、手近な楽譜で初見奏する。	30分 60分
第4回	初見奏 ② 演奏時の注意	事前 手近な楽譜で読譜する。 事後 プリント課題の他、手近な楽譜で初見奏する。	30分 60分
第5回	様々な教材(童謡)による伴奏付け	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第6回	和音記号・コードネームと伴奏付け 長調 副七を含む	事前 長調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第7回	和音記号・コードネームと伴奏付け 短調 副七を含む	事前 短調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第8回	弾き歌い ① 伴奏形を考える	事前 ソルフェージュの教材などで視唱する。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第9回	弾き歌い ② 歌いながらの伴奏付け	事前 ソルフェージュの教材などで視唱する。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第10回	和音記号・コードネームと伴奏付け 借用和音について	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第11回	様々な教材(唱歌)による伴奏付け	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第12回	和音記号・コードネームと伴奏付け 借用和音を含む	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第13回	和音記号・コードネームと伴奏付け 借用和音の転回形を含む	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第14回	総合演習	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 これまでの課題で左手の伴奏形態を変えて反復練習をする。	30分 60分
第15回	伴奏付け課題 発表・試験	事前 これまでの課題で左手の伴奏形態を変えて反復練習をする。 事後 反省点を振り返る。	70分 20分

フィードバック 授業での実習時の解説、提出課題の添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 40%、課題提出、授業への積極的な取り組み 60%
試験時の課題の演奏により理解度を測る。授業時の実習に取り組む姿勢を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

備考 欠席時も含め、課題プリントは各自できちんと管理すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

ピアノ伴奏法

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

講師 倉地恵子

科目コード：PLE201

専門/学年：全専門/2年次、専攻科

形態：講義	単位数：2単位
概要	演奏においてピアノ伴奏の担う役割は多岐にわたる。この授業では、主に声楽作品（歌曲、合唱曲）を取り上げ、次の観点からアプローチをおこなう。 ①詩、言葉の内容がピアノ伴奏パートにどのように反映されているかを把握する。 ②歌い手の呼吸、表現に相応しい伴奏法を考える。

到達目標 実際のピアノ伴奏の現場で役立つ数々の事柄の習得を目指す

授業計画 第1回から第6回までは、これまでの演奏経験を思い出しながら、「伴奏とはそもそもどんなものであったか」を起点に、伴奏の普遍的な価値について再考察する。第7回以降は、『ピアノ共演法』の本を読みながら歌曲、合唱曲、オーケストラ伴奏についての概論を講義する。様々な作品の曲の解釈、演奏法などに踏み込んでいく。

第1回	全15回の講義内容計画の説明。 伴奏者の役目についての考察。	事前 自身の伴奏体験談をまとめる。 事後 授業内容の復習。	135分 135分
第2回	伴奏法概論(1) 伴奏とはなにか、伴奏はなんのためにあるのか。	事前 これまでの音楽活動の中で抱いた伴奏に関する疑問、悩みを総括し、まとめてくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135分 135分
第3回	伴奏法概論(2) 伴奏と室内楽の違いは何か。	事前 これまで当たり前に使ってきたアンサンブル用語を書き出し、その意味を再考してくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135分 135分
第4回	伴奏法概論(3) ブランデンブルク協奏曲からみる様々な「伴奏」の形。	事前 バッハの「ブランデンブルク協奏曲第5番」を聞いてくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135分 135分
第5回	伴奏法概論(4) なぜ歌は伴奏に回ることが少ないのか。	事前 「人の声」の音楽全般におけるポジションと、その変遷について調べ、考察してくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135分 135分
第6回	伴奏法概論(5) 歌が伴奏に回る例、西洋音楽以外での歌と伴奏の形。	事前 作品の中の一部でも歌が伴奏に回る例がある作品はどんなものがあるかを調べてくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135分 135分
第7回	ピアノ伴奏・実践編(1) 基本の確認 咄嗟の時に優先する手は？目で見て合わせる？自由に移調できるようになるには？	事前 伴奏では何が求められ、それを実現するためにはどうすれば良いかを考えてくる。 事後 実際に例で取り上げたコードやトレーニングを毎日の楽器練習の中で実践してみる。	135分 135分
第8回	ピアノ伴奏・実践編(2) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第1章～第2章 共演ピアニストの役割、呼吸するとはどういうことか。	事前 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第1章～第2章を読んでくる 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135分 135分
第9回	ピアノ伴奏・実践編(3) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第3章 歌曲伴奏における3大要素「ブレス」「発音」「抑揚」	事前 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第3章を読んでくる 事後 授業で触れた曲について、「ブレス」「発音」「抑揚」の観点からそれぞれの特徴を掴む。	135分 135分
第10回	ピアノ伴奏・実践編(4) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第3章 狂気のベスから考察する抑揚の意味と3つの方針。	事前 もし歌や伴奏から抑揚を一切排したらどうなるかを考え、そのような作品があるか探す。 事後 授業で取り上げた曲を聴き、歌詞の意味と表現の関連性を再確認する。	135分 135分
第11回	ピアノ伴奏・実践編(5) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第4章 テキストの構造と音楽における「接続」	事前 音楽の「接続」とは何かを考えてくる。 事後 「接続」を意識して、毎日の楽器練習を行ってみる。	135分 135分
第12回	ピアノ伴奏・実践編(6) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第4章 音で複数の登場人物を表現するには。	事前 音楽で複数の登場人物を弾き分けるにはどうすればよいかを考え、まとめてくる。 事後 授業で取り上げた弾き分けのテクニックを、毎日の楽器練習の中で実践してみる。	135分 135分
第13回	ピアノ伴奏・実践編(7) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第5章 前奏、間奏、後奏を制する。	事前 前奏、間奏、後奏を弾くときの大切なポイントとは何かを考察してくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135分 135分
第14回	ピアノ伴奏・実践編(8) 総集編 合唱幻想曲を伴奏の観点から分析してみよう。	事前 これまで授業の中で取り上げた作品を復習し、専門用語を自由に使えるよう再確認する。 事後 プリントの穴埋めの確認。ベートーヴェンの「合唱幻想曲」を聴き返し、弾いてみる。	135分 135分
第15回	まとめと感想レポート作成	事前 講義全般の感想レポートの内容を考えてくる。 事後	270分 分

フィードバック 感想レポートについてはコメントをつけて返却を行う。

成績評価 授業への取り組み方、授業態度、感想レポートによる。

テキスト ”参考資料”マーティン・カツ著『ピアノ共演法』
他は授業内に指示する。
必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐

ピアノ特殊講義

講師 倉地恵子

科目コード：PLE202

専門／学年：ピアノ専門／2 年次、専攻科

形態：講義

単位数：2 単位

概要 よく知られたピアノ名曲の演奏法をとりあげる。その作曲家、作品の背景について学び、音楽的理解を深める。また、楽譜の読み方や演奏時の具体的な運指、手の使い方など、技術的問題を考察する。

到達目標 名曲の演奏や指導を求められる機会に、対応できるようにする。

授業計画 前半は名曲の演奏法が中心。後半はこどもへの教育法を講義する。並行して最後の発表での準備も進めていく。

第1回	全15回の講義内容計画の説明。 演奏者と指導者の役割についての考察。	事前 これまでの指導体験をまとめる。 事後 授業内容の復習。	135分 135分
第2回	バッハ 平均律クラヴィーア曲集 第1巻 第1番 プレリュード 和声について	事前 バッハ 平均律クラヴィーア曲集 第1巻 第1番 プレリュードの譜読みをしてく 事後 和声の表を完成させる。	135分 135分
第3回	モーツァルト ソナタ ハ長調 K.545 第1楽章 終止形について	事前 モーツァルト ソナタ ハ長調 K.545 第1楽章の譜読みをしてくる。 事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135分 135分
第4回	モーツァルト トルコ行進曲 スタイルについて	事前 モーツァルト トルコ行進曲の譜読みをしてくる。 事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135分 135分
第5回	ベートーヴェン エリーゼのために 名曲の背景について	事前 ベートーヴェン エリーゼのための譜読みをしてくる。 事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135分 135分
第6回	ベートーヴェン ソナタ 第14番 月光より 第1楽章 レガート奏法について	事前 ベートーヴェン ソナタ 第14番 月光より 第1楽章の譜読みをしてくる。 事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135分 135分
第7回	ショパン 小犬のワルツ 作品64-1 指使いについて	事前 ショパン 小犬のワルツ 作品64-1の譜読みをしてくる。 事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135分 135分
第8回	シューマン こどもの情景より 第7曲 トロイメライ フレーズについて	事前 シューマン こどもの情景より 第7曲 トロイメライの譜読みをしてくる。 事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135分 135分
第9回	ドビュッシー 前奏曲集 第1巻より 第8曲 亜麻色の髪の乙女 ペダリングについて	事前 ドビュッシー 前奏曲集 第1巻より 第8曲 亜麻色の髪の乙女の譜読みをしてく 事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135分 135分
第10回	子どもの教育 教材について 連弾 楽しむことと鑑賞すること	事前 様々な子ども用教材を調べる。 事後 講義で扱った連弾の曲の先生用パートを弾いてみる。	135分 135分
第11回	子どもの教育 ブルグミュラー 25の練習曲	事前 ブルグミュラー25の練習曲より数曲、弾いてくる。 事後 子どもに手本をみせるべく実際に弾いてみる。	135分 135分
第12回	子どもの教育 ソナチネアルバム(1)	事前 ソナチネにはどのようなものがあるのかを調べてくる。 事後 ソナチネの成立と発展について復習してくる。	135分 135分
第13回	子どもの教育 ソナチネアルバム(2)	事前 ソナチネアルバムから1曲を弾いてくる。 事後 指導時の注意点をまとめる。	135分 135分
第14回	子どもの教育 ソナチネアルバム	事前 ソナチネアルバムから1曲を弾いてくる。 事後 指導時の注意点をまとめる。	135分 135分
第15回	まとめと発表	事前 発表の準備。 事後	270分

フィードバック レポートについてはコメントをつけて返却を行う。

成績評価 授業への取り組み方、授業態度、最終授業での発表、レポートで評価する。

テキスト "参考資料"各自で上記の楽譜を用意すること。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 最終授業の発表とは、授業の中での模擬レッスンで担当した曲を一人一曲演奏する。演奏の番でない学生は全員、一人一人の演奏について「良い点」「悪い点」を具体的に上げながら、アドバイスをレポートを書いていく(演奏している本人への開示は行わない)。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐

ピアノアンサンブル I-1

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：PEN101

専門/学年：ピアノ専門/1 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 ピアノソロ曲で音の響きを聴く力とハーモニー・フレーズ・音のバランスを感じとる力を身につける。

到達目標 アンサンブルに必要である敏感な耳を養うことを目標とする。

授業計画 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
前期 15 回、各人 15 分の個人指導

第 1 回	音の響きを聴く練習(1) 単音の響きを聴く	事前 事後	ピアノの前身の楽器を調べる ピアノの歴史を調べ音色の変遷を意識する	80 分 80 分
第 2 回	音の響きを聴く練習(2) 和音の響きを聴く	事前 事後	ピアノの構造を調べる 打鍵のしくみを調べる	80 分 80 分
第 3 回	音の響きを聴く練習(3) ハーモニー感について	事前 事後	ペダルの構造を調べる ペダル装置の進化を考える	80 分 80 分
第 4 回	音の響きを聴く練習(4) 全体の響きを聴く	事前 事後	ペダルの使い方を考える ペダルの踏み方を考える	80 分 80 分
第 5 回	ハーモニー感を養う(1) 音色について	事前 事後	バロック・古典派の作品を聴き、音色について考える ロマン派の作品を聴き、音色について考える	80 分 80 分
第 6 回	ハーモニー感を養う(2) 強弱について	事前 事後	バロック・古典派の作品を聴き、強弱について考える ロマン派の作品を聴き、強弱について考える	80 分 80 分
第 7 回	ハーモニー感を養う(3) 和声について	事前 事後	バロック・古典派の作品を聴き、和声について考える ロマン派の作品を聴き、和声について考える	80 分 80 分
第 8 回	ハーモニー感を養う(4) 全体のハーモニー感について	事前 事後	印象派・近現代の作品の技法を調べる 近現代の作品の特性を考える	80 分 80 分
第 9 回	フレーズ感を養う(1) 旋律の歌い方	事前 事後	旋律を声を出して歌ってみる 右手と左手で同じように旋律を歌うことができるか確認する	80 分 80 分
第 10 回	フレーズ感を養う(2) 音色について	事前 事後	様々な楽器の音色を聴く 様々な楽器の音色に近づけた音が出せる様に、タッチの研究をする	80 分 80 分
第 11 回	フレーズ感を養う(3) 強弱について	事前 事後	オーケストラの音色を聴く オーケストラの響きが出せる様にタッチの研究をする	80 分 80 分
第 12 回	フレーズ感を養う(4) 表現について	事前 事後	オーケストラの表現方法を感じとる オーケストラのそれぞれの楽器が表現しているようにピアノで演奏できる様に練習をする	80 分 80 分
第 13 回	呼吸をあわせる練習(1) 響きを感じる	事前 事後	呼吸について考える 呼吸法を研究する	80 分 80 分
第 14 回	呼吸をあわせる練習(2) 旋律を感じる	事前 事後	腹式呼吸について考える 胸式呼吸について考える	80 分 80 分
第 15 回	呼吸をあわせる練習(3) フレーズ感をあわせる	事前 事後	右手と左手で同じ旋律のほし渡しをする練習をする 担当教員と同じようにフレーズをおさめる練習をする	80 分 80 分

フィードバック 授業内での課題に対して、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価する。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。(各担当教員レッスン日)

アクティブ・ラーニング ・アンサンブルを通して、相手の音色、音楽性を感じ取る
・2人でディスカッションを重ねながら、曲の音楽表現を探る

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

ピアノアンサンブル I-2

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：PEN102

専門/学年：ピアノ専門/1 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 担当教員とモーツァルトとシューベルトの連弾作品を演奏し、担当教員の奏でる音や呼吸を感じとる力を身につける。

到達目標 バランス・ハーモニー・リズム・フレーズを感じる能力を醸成することを目標とする。

授業計画 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
後期 15 回、各人 15 分の個人指導

第 1 回	呼吸をあわせる練習(4) ハーモニーを感じる	事前 自分が演奏したハーモニーを瞬間的に感じる練習をする 事後 担当教員が演奏したハーモニーを瞬間的に感じとる練習をする	80 分 80 分
第 2 回	音のバランスをとる練習(1) 音色に関して	事前 ソロの曲で右手と左手のバランスをとる練習をする 事後 様々な音色を出すためのタッチを考え、様々な音を出せる様に練習をする	80 分 80 分
第 3 回	音のバランスをとる練習(2) 強弱に関して	事前 p で細かいパッセージをレガートで演奏できる様に練習をする 事後 f で細かいパッセージをレガートで演奏できる様に練習をする	80 分 80 分
第 4 回	音のバランスをとる練習(3) 和声に関して	事前 p でバランスのとれた和音の響きで演奏できる様に練習をする 事後 f でバランスのとれた和音の響きで演奏できる様に練習をする	80 分 80 分
第 5 回	音のバランスをとる練習(4) 全体のバランス	事前 ペダルを使用せずに練習をする 事後 ペダルが効果的に使用できているかを確認する	80 分 80 分
第 6 回	担当教員とモーツァルトの連弾曲(1) 音色について	事前 モーツァルトの連弾曲を調べ、1 曲を選び読譜をする 事後 モーツァルトの連弾曲の音色を考えながら練習をする	80 分 80 分
第 7 回	担当教員とモーツァルトの連弾曲(2) 和音について	事前 モーツァルトの連弾曲の時代背景を調べる 事後 作曲家に与えた影響を考える	80 分 80 分
第 8 回	担当教員とモーツァルトの連弾曲(3) 様式について	事前 形式を考え、練習をする 事後 奏法を考え、練習する	80 分 80 分
第 9 回	担当教員とモーツァルトの連弾曲(4) 表現について	事前 曲のキャラクターを考える 事後 コントラストのつけ方の研究をする	80 分 80 分
第 10 回	担当教員とモーツァルトの連弾曲(5) 仕上げ	事前 立体感のある演奏か確認をして、練習をする 事後 バランスを確認して、練習をする	80 分 80 分
第 11 回	担当教員とシューベルトの連弾曲(1) 音色について	事前 シューベルトの連弾曲を調べ、1 曲を選び読譜をする 事後 シューベルトの連弾曲の音色を考え、練習をする	80 分 80 分
第 12 回	担当教員とシューベルトの連弾曲(2) ハーモニーについて	事前 シューベルトの連弾曲の和声機能を調べる 事後 シューベルトの連弾曲の和声機能を感じる	80 分 80 分
第 13 回	担当教員とシューベルトの連弾曲(3) フレーズ感について	事前 形式を考えて、練習をする 事後 フレーズ感をもって演奏できる様に練習をする	80 分 80 分
第 14 回	担当教員とシューベルトの連弾曲(4) バランスについて	事前 立体感のある演奏ができるように練習をする 事後 バランスを確認しながら、練習をする	80 分 80 分
第 15 回	担当教員とシューベルトの連弾曲(5) 仕上げ	事前 曲のキャラクターを考えて、練習をする 事後 コントラストのつけ方を研究する	80 分 80 分

フィードバック 授業内での課題に対してコメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価する。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。(各担当教員レッスン日)

アクティブ・ラーニング ・アンサンブルを通して、相手の音色、音楽性を感じ取る
・2 人でディスカッションを重ねながら、曲の音楽表現を探る

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

ピアノアンサンブルⅡ-1

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：PEN201

専門/学年：ピアノ専門/2年次

形態：実技

単位数：1単位

概要 石橋メモリアルホールでの2台ピアノによる学内演奏会において、2台ピアノならではの音の響きを感じとり、表現力が溢れる演奏を目指す。

到達目標 2台ピアノという離れた状態の中、互いの息づかいや音楽を感じとる力を身につける。

授業計画 前期15回、各人15分の個人指導。
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	2台ピアノと連弾の違いを感じとる	独奏から連弾へ編曲された曲を探し、聴く	連弾から2台ピアノへ編曲された曲を探し、聴く	80分
第2回	2台ピアノの響きを聴く練習(1) 単音の響きを聴く	連弾で単音の響きを聴く	2台ピアノで単音の響きを聴く	80分
第3回	2台ピアノの響きを聴く練習(2) 和音の響きを聴く	連弾で様々な和音の響きを聴く	2台ピアノで様々な和音の響きを聴く	80分
第4回	2台ピアノの響きを聴く練習(3) 全体の響きを聴く	連弾でカデンツの響きを聴く	2台ピアノでカデンツの響きを聴く	80分
第5回	息づかいを感じる練習(1) 曲の開始部	2人の呼吸をあわせる練習をする	2人の打鍵のスピードをあわせる練習をする	80分
第6回	息づかいを感じる練習(2) フレーズ感	フレーズ感をもって旋律を演奏できる様に練習をする	相手のフレーズ感と同じように演奏できる様に練習をする	80分
第7回	息づかいを感じる練習(3) テンポ感	様々なテンポで練習をする	相手のテンポを感じ、相手のテンポ感にあわせる練習をする	80分
第8回	学内演奏会の曲—響きを聴く(1) 和音—	楽語を調べ、意識をして読譜をする	読譜の確認をする	50分 80分
第9回	学内演奏会の曲—響きを聴く(2) 全体—	作曲家の要求しているニュアンスを探り練習をする	和音の響きを聴き、立体感のある演奏か確認をする	80分 80分
第10回	学内演奏会の曲—バランスを聴く(1) 和音—	自分のパートの和声機能の確認をして、練習をする	相手のパートの和声機能の確認をして、練習をする	80分 80分
第11回	学内演奏会の曲—バランスを聴く(2) 全体—	相手のパートの読譜をする	第1、第2ピアノの楽譜を縦に読譜をして、響きの確認をする	80分 80分
第12回	学内演奏会の曲—息づかいを感じる(1) フレーズ感—	アーティキュレーション・スラーの確認をして、練習をする	相手と同じフレーズ感をもって演奏しているか確認をする	80分 80分
第13回	学内演奏会の曲—息づかいを感じる(2) テンポ感—	自分が演奏したいテンポを探す	相手のテンポ感を確認し、演奏するテンポを決定する	80分 80分
第14回	学内演奏会の曲—呼吸をあわせる 旋律の歌い方—	相手のパートの旋律の練習をする	第1、第2ピアノの楽譜を縦に読譜して、旋律の練習をする	80分 80分
第15回	学内演奏会の曲—仕上げ—	2人で曲のイメージをしっかりと捉えて、演奏をする	ホールの響きを意識して、演奏をする	80分 80分

フィードバック 学内演奏会での演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価する。

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。(各担当教員レッスン日)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

ピアノアンサンブルⅡ-2

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：PEN202

専門/学年：ピアノ専門/2 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 担当教員との 2 台ピアノの作品を演奏することで、表現力を養う。

到達目標 2 台ピアノの作品で音楽の豊かな広がりを体感し、アンサンブルの能力を養うことを目標とする。

授業計画 後期 15 回、各人 15 分の個人指導。
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

回数	担当教員と 2 台ピアノの曲	事前	事後	80 分
第 1 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(1) 旋律の歌い方	読譜をし楽譜を調べる	担当教員の旋律の歌い方を想い出し、同様に演奏できるようにする	80 分
第 2 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(2) ハーモニー感	和声機能の確認をして練習をする	作曲の背景を調べる	80 分
第 3 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(3) リズム感	舞踏音楽の歴史・リズムを調べ、練習をする	民族音楽の歴史・リズムを調べ、練習に活かす	80 分
第 4 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(4) 形式・様式に関して	形式を考えて、練習をする	作曲家に及ぼした影響を考える	80 分
第 5 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(5) 細かいタッチに関して	演奏方法、タッチを考えて、練習をする	担当教員のタッチにあわせる練習をする	80 分
第 6 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(6) ニュアンスに関して	曲のキャラクターを考えて、練習をする	作曲家の要求しているニュアンスと担当教員のニュアンスを考え、練習をする	80 分
第 7 回	2 台ピアノの表現力を養う(1) 解釈について	掘り下げた読譜をする	相手の表現している音楽、解釈を感じとる練習をする	80 分
第 8 回	2 台ピアノの表現力を養う(2) 和音感	和音の色彩感を感じとる練習をする	和音のひろがりを感じとる練習をする	80 分
第 9 回	2 台ピアノの表現力を養う(3) 強弱法	コントラストのつけ方を考え練習をする	バランスを考える	80 分
第 10 回	2 台ピアノの表現力を養う(4) 音色について	細かい音色を考え、練習をする	相手の細かい音色にあわせる練習をする	80 分
第 11 回	2 台ピアノの表現力を養う(5) より深い音楽表現	独自の音楽表現を研究する	作曲家の要求している音楽を考えて、練習をする	80 分
第 12 回	2 台ピアノの音色の豊かな広がりを感じとる(1) ピアノのふたを半開状態で	ピアノのふたを半開状態で和音を弾き音の広がりを感じとる練習をする	ピアノのふたを半開状態で細かいパッセージを演奏し、音の広がりを感じとる練習をする	80 分
第 13 回	2 台ピアノの音色の豊かな広がりを感じとる(2) ピアノのふたを全開状態で	ピアノのふたを全開状態で和音を弾き、音の広がりを感じとる練習をする	ピアノのふたを全開状態で細かいパッセージを演奏し、音の広がりを感じとる練習をする	80 分
第 14 回	2 台ピアノの音色の豊かな広がりを感じとる(3) ピアノの位置を変える	相手のパートの練習をする	第 1 ピアノの右手と第 2 ピアノの左手の練習をする	80 分
第 15 回	2 台ピアノの音色の豊かな広がりを感じとる(4) 仕上げ	全体の曲の流れを楽譜から感じとる練習をする	楽譜を見て音楽が頭の中に入っているか確認をする	80 分

フィードバック 授業内での課題に対してコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価する。

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。(各担当教員レッスン日)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

器楽合奏 I-1a・II-1a

非常勤講師 青木三木栄

科目コード： IEN101/IEN201

専門/学年： 器楽専門/1~2 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 アンサンブルをする場合における技術的な事（和音におけるピッチの取り方、同種楽器・他楽器とのバランス、主旋律と副旋律あるいは伴奏形の演奏法）を学ぶ。

到達目標 初対面同士でコミュニケーションも図りながら共に音楽をまとめ上げていけるようにする。

授業計画		
<ul style="list-style-type: none"> 履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組む事。 大学音楽学部から指名のあった学生は大学音楽学部の合奏授業に参加し、この授業には参加しなくて良い。 		
第1回	自己紹介、グループ分け	事前 自己紹介の仕方を練習する 事後 グループメンバー内の連絡方法を定める 50分
第2回	和音を重視した易しい楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第3回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第4回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第5回	上記楽曲の仕上げ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める 60分
第6回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第7回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第8回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第9回	上記楽曲の仕上げ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める 60分
第10回	小発表会	事前 《グループ練習》ゲネプロ 事後 個人練習・反省点を振り返る 20分
第11回	小発表会反省会、櫻樹祭演奏会用グループ分け	事前 グループ毎に集まり反省点を振り返る 事後 新しいグループの連絡方法を定める 50分
第12回	櫻樹祭演奏会用楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第13回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第14回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第15回	前期のまとめ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める 60分

フィードバック レッスン形式で行い、アドバイスや模範演奏によりフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%
発表会等の演奏内容 50%

テキスト 特になし。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

器楽合奏 I -2a・II-2a

非常勤講師 青木三木栄

科目コード： IEN102/IEN202

専門/学年： 器楽専門/1~2 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 前期よりも難易度の高い楽曲を取り上げ、よりアンサンブル力を高める。

到達目標 自分達の力である程度のレベルまで仕上げられるようにする。
共に音楽を作る楽しみを味わえるようにする。

授業計画		
<ul style="list-style-type: none"> ・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組む事。 ・大学音楽学部から指名のあった学生は大学音楽学部の合奏授業に参加し、この授業には参加しなくて良い。 		
第1回	上記楽曲より難易度の高い楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第2回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第3回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第4回	上記楽曲の仕上げ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める 60分
第5回	櫻樹祭演奏会本番	事前 《グループ練習》ゲネプロ 事後 個人練習・反省点を振り返る 80分
第6回	櫻樹祭演奏会反省会、発表会用グループ分け	事前 グループ毎に集まり反省点を振り返る 事後 新しいグループの連絡方法を定める 20分
第7回	発表会用楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第8回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第9回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第10回	上記楽曲の仕上げ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める 60分
第11回	上記楽曲とは時代が異なり、 難易度も高い楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第12回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第13回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める 50分
第14回	上記楽曲の仕上げ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める 60分
第15回	発表会本番	事前 《グループ練習》ゲネプロ 事後 一年で学んだことを振り返る 80分

フィードバック レッスン形式で行い、アドバイスや模範演奏によりフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%
発表会等の演奏内容 50%

テキスト 特になし。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

器楽合奏 I-1b・II-1b

非常勤講師 兼氏規雄

科目コード： IEN101 / IEN201

専門 / 学年： 器楽専門 / 1 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	指定した曲や学生が希望した曲により、室内楽・アンサンブルに必要な基礎的合奏技術の習得、及びその訓練を行うとともに、多人数での音楽の喜びを体験する。

到達目標	合奏曲を演奏する場合における技術的なこと（和音における音程の取り方、同種楽器、他楽器とのバランス、主旋律と副旋律あるいは伴奏形の演奏法）を学んだ上、共に音楽を作ってゆく楽しみを味わえるようにする。
------	--

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組む事。 大学音楽学部から指名のあった学生は大学音楽学部の合奏授業に参加し、この授業には参加しなくて良い。 		
第 1 回	オリエンテーション、第一回発表会のグループ分けとパート調整	事前 希望のパートがあれば考えておく 事後 次回楽曲の譜読みをしておく	20 分 80 分
第 2 回	和音を重視した易しい楽曲を学ぶ（概要）	事前 時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 3 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 他のパートとの調和を考えながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 4 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 5 回	上記楽曲の仕上げ	事前 テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 事後 指摘のあった個所の反復練習と次回楽曲の譜読みをしておく	50 分 50 分
第 6 回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要）	事前 時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 7 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 他のパートとの調和を考えながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 8 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 9 回	上記楽曲の仕上げ	事前 テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 事後 指摘のあった個所の反復練習と発表会での演奏曲全曲の復習をしておく	50 分 50 分
第 10 回	第一回発表会	事前 発表会に向けて、ウィークポイントはすべて克服しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 80 分
第 11 回	発表会の反省、櫻樹祭演奏会のグループ分けとパート調整	事前 発表会の反省点をまとめておく 事後 次回楽曲の譜読みをしておく	20 分 80 分
第 12 回	櫻樹祭演奏会用の楽曲を学ぶ（概要）	事前 時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 13 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 他のパートとの調和を考えながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 14 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 15 回	上記楽曲の仕上げ・後期の予告	事前 テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 事後 指摘のあった個所の反復練習と器楽合奏-2b で研究する楽曲の譜読みをしておく	50 分 50 分

フィードバック 発表等を録音し、それを聴くことにより演奏成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%
発表会等の演奏内容 50%

テキスト 特になし。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 特になし。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

器楽合奏 I -2b・II-2b

非常勤講師 兼氏規雄

科目コード： IEN102/ IEN202

専門/学年：器楽専門/1年次

形態：実技	単位数：1単位
概要	指定した曲や学生が希望した曲により、室内楽・アンサンブルに必要な基礎的合奏技術の習得、及びその訓練を行うとともに、多人数での音楽の喜びを体験する。

到達目標	合奏曲を演奏する場合における技術的なこと（和音における音程の取り方、同種楽器、他楽器とのバランス、主旋律と副旋律あるいは伴奏形の演奏法）を学んだ上、共に音楽を作ってゆく楽しみを味わえるようにする。
------	--

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組む事。 大学音楽学部から指名のあった学生は大学音楽学部の合奏授業に参加し、この授業には参加しなくて良い。 		
第1回	第1回演奏会の反省、及び器楽合奏-1bで研究した楽曲より高難度の楽曲を学ぶ（概要）	事前 時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第2回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 他のパートとの調和を考えながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第3回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第4回	上記楽曲の仕上げ	事前 テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第5回	櫻樹祭演奏会用の楽曲を学ぶ（概要）	事前 時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 事後 指摘のあった個所の反復練習と次回曲の譜読みをしておく	50分 50分
第6回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 他のパートとの調和を考えながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第7回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第8回	上記楽曲の仕上げ	事前 テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第9回	櫻樹祭演奏会	事前 櫻樹祭演奏会に向けて、ウィークポイントはすべて克服しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習と発表会での演奏曲全曲の復習をしておく	50分 50分
第10回	櫻樹祭演奏会の反省と第2回発表会のグループ分けとパート調整	事前 櫻樹祭演奏会の反省点をまとめておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第11回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要）	事前 時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 事後 次回楽曲の譜読みをしておく	20分 80分
第12回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 他のパートとの調和を考えながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第13回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第14回	上記楽曲の仕上げ	事前 テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第15回	第2回演奏会、及び反省	事前 発表会に向けて、ウィークポイントはすべて克服しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分

フィードバック 発表等を録音し、それを聴くことにより演奏成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%
発表会等の演奏内容 50%

テキスト 特になし。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 特になし。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

器楽合奏 I-1・II-1 (ハーブ)

非常勤講師 井田美幸

科目コード: IEN101/IEN201

専門/学年: ハーブ専門 1 年次

形態: 実習	単位数: 1 単位
概要	ハーブ数台によるアンサンブル、ハーブ以外の楽器とのアンサンブルを学習し、アンサンブルの能力を養うことを目標とする。前期はハーブパートを学習し、アンサンブルではハーブ数台によるアンサンブルを実習する。

到達目標	ハーブパートの学習において、正確な読譜力、楽曲の解釈を学び、ハーブ数台によるアンサンブルの学習では息のあった演奏をするために必要な呼吸の合わせ方、フレージング、バランス等を習得する。
------	---

授業計画 ハーブ数台によるアンサンブル、ハーブ以外の楽器とのアンサンブルを 5 曲程度学習し、11 月の桜樹祭のハーブコンサートで成果を発表する。

回数	課題	事前	事後	評価
第 1 回	ハーブ・メンテナンス I 調弦、弦の管理、日々の手入れ	モルナール教則本	自宅の楽器で実践	50 分
第 2 回	ハーブ・メンテナンス II アイリッシュ・ハーブ、グランドハーブの構造、歴史、楽器の移動の仕方	モルナール教則本	自宅の楽器で確認	50 分
第 3 回	課題曲 I ハーブ数台によるアンサンブル 個人パートの譜読み	楽語を調べ、譜読み	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 4 回	課題曲 I ハーブ数台によるアンサンブル 個人パートに曲想をつけ演奏	和声、テンポ、フレージングを考え練習	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 5 回	課題曲 I ハーブ数台によるアンサンブル アンサンブル実習	共演者と役割分担を考え、アンサンブル練習	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 6 回	課題曲 I ハーブ数台によるアンサンブル 仕上げ	共演者とひとつの音楽を作り上げていく	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 7 回	課題曲 II ハーブ数台によるアンサンブル 個人パートの譜読み	楽語を調べ、譜読み	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 8 回	課題曲 II ハーブ数台によるアンサンブル 個人パートに曲想をつけ演奏	和声、テンポ、フレージングを考え練習	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 9 回	課題曲 II ハーブ数台によるアンサンブル アンサンブル実習	共演者と役割分担を考え、アンサンブル練習	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 10 回	課題曲 II ハーブ数台によるアンサンブル 仕上げ	共演者とひとつの音楽を作り上げていく	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 11 回	課題曲 III ハーブ以外の楽器とのアンサンブル 個人パートの譜読み	楽語を調べ、譜読み	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 12 回	課題曲 III ハーブ以外の楽器とのアンサンブル 個人パートに曲想をつけ演奏	和声、テンポ、フレージングを考え練習	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 13 回	課題曲 III ハーブ以外の楽器とのアンサンブル アンサンブル実習	共演者と役割分担を考え、アンサンブル練習	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 14 回	課題曲 III ハーブ以外の楽器とのアンサンブル 仕上げ	共演者とひとつの音楽を作り上げていく	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 15 回	課題曲 IV ハーブ以外の楽器とのアンサンブル 個人パートの譜読み	楽語を調べ、譜読み	レッスンでの注意点を練習	50 分

フィードバック 授業内でのコメント

成績評価 授業への取り組み

テキスト 適宜授業内に指示する

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒

器楽合奏 I-2・II-2 (ハーブ)

非常勤講師 井田美幸

科目コード: IEN102/IEN202

専門/学年: ハーブ専門/1 年次

形態: 実習

単位数: 1 単位

概要 後期では、ハーブ数台によるアンサンブルに加え、ハーブ以外の楽器とのアンサンブルを実習する。11月の櫻樹祭のハーブコンサートで成果を発表する。

到達目標 ハーブ以外の楽器とのアンサンブルではお互いの楽器の特徴を理解し、お互いの音色を生かしながら音楽を作り上げていくことを目標とする。

授業計画 ハーブ数台によるアンサンブル、ハーブ以外の楽器とのアンサンブルを5曲程度学習し、11月の櫻樹祭のハーブコンサートで成果を発表する。

第1回	課題曲Ⅳ	ハーブ以外の楽器とのアンサンブル	個人パートに曲想をつけ演奏	事前	和声、テンポ、フレージングを考え練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第2回	課題曲Ⅳ	ハーブ以外の楽器とのアンサンブル	アンサンブル実習	事前	共演者と役割分担を考え、アンサンブル練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第3回	課題曲Ⅳ	ハーブ以外の楽器とのアンサンブル	仕上げ	事前	共演者とひとつの音楽を作り上げていく	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第4回	課題曲ⅠⅡ	コンサートに向けてのアンサンブル実習	曲想や音のバランスの確認	事前	共演者とのアンサンブル練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第5回	課題曲ⅠⅡ	コンサートに向けてのアンサンブル実習	曲の通し練習	事前	共演者とのアンサンブル練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第6回	課題曲ⅢⅣ	コンサートに向けてのアンサンブル実習	曲想や音のバランスの確認	事前	共演者とのアンサンブル練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第7回	課題曲ⅢⅣ	コンサートに向けてのアンサンブル実習	曲の通し練習	事前	共演者とのアンサンブル練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第8回	課題曲ⅠⅡⅢⅣ	合同レッスン	お互いのアンサンブルを聞き合い感想を述べ合う	事前	共演者とのアンサンブル練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第9回	櫻樹祭ハーブコンサートに向けてのリハーサル			事前	コンサートでの出入りなどのステージマナーの練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第10回	コンサートの復習、反省点の確認			事前	コンサートでの良かった点、悪かった点をまとめる	50分
				事後	来年度のコンサートに向けて改善点を確認	50分
第11回	課題曲Ⅴ	ハーブ数台によるアンサンブル	個人パートの譜読み	事前	コンサートでの改善点を生かした練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第12回	課題曲Ⅴ	ハーブ数台によるアンサンブル	個人パートに曲想をつけ演奏	事前	コンサートでの改善点を生かした練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第13回	課題曲Ⅴ	ハーブ数台によるアンサンブル	アンサンブル実習	事前	コンサートでの改善点を生かした練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第14回	課題曲Ⅴ	ハーブ数台によるアンサンブル	仕上げ	事前	コンサートでの改善点を生かした練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第15回	まとめと復習	来年度の計画と目標の確認		事前	来年度の抱負	50分
				事後	来年度に向けての準備	50分

フィードバック 授業内でのコメント、及びコンサート終了後に口頭で講評する

成績評価 授業への取り組み、コンサート時の演奏内容で評価

テキスト 適宜授業内に指示する

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒

副科ピアノ-1

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：IND103

専門/学年：器楽・声楽専門/1~2 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 ピアノ奏法の基本である姿勢・打鍵・正しい運指を習得する。

到達目標 基礎テクニックを身につけ、調性感を養うことを目標とする。

授業計画		前期 15 回 各人 20 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。音階練習で、正しい運指・調性感を、カデンツで和声感を学ぶ。 1 年間で基礎テクニック・和声感・対位法を学ぶ。	
第 1 回	基礎的な事の確認(1)－姿勢－	事前 ピアノの構造を調べる 事後 良い姿勢で演奏しているか確認をし、椅子の高さを考え、練習をする	105 分 105 分
第 2 回	基礎的な事の確認(2)－打鍵－	事前 1 本ずつ指が独立しているか確認をして、練習をする 事後 鍵盤の下までしっかり打鍵しているか確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 3 回	基礎的な事の確認(3)－運指－	事前 運指の基本を考える 事後 様々な調性のスケールの運指の確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 4 回	基礎的な事の確認(4)－読譜－	事前 ヘ音記号で記載されている楽譜の読譜をする 事後 ト音記号とヘ音記号で記載されている楽譜の読譜をする	105 分 105 分
第 5 回	C dur の音階の運指の確認	事前 C dur の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 C dur の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 6 回	C dur でカデンツの定型を確認	事前 C dur のカデンツの定型を指が覚えるまで練習をする 事後 カデンツの和音進行を確認する	105 分 105 分
第 7 回	a moll の音階の運指の確認	事前 a moll の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 a moll の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 8 回	a moll でカデンツの定型を確認	事前 a moll のカデンツの定型を指が覚えるまで練習をする 事後 カデンツの和音進行を確認する	105 分 105 分
第 9 回	課題に出ている音階練習	事前 課題の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 課題の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 10 回	課題に出ている音階のカデンツ練習	事前 課題の音階とカデンツの練習をする 事後 課題の音階とカデンツの練習をする	105 分 105 分
第 11 回	前期演奏試験曲(1)――読譜――	事前 試験曲を決める 事後 試験曲の正確な読譜をする	105 分 105 分
第 12 回	前期演奏試験曲(2)――リズム・ハーモニー――	事前 正確なリズムで演奏できるように練習をする 事後 ハーモニーを確認して、演奏をする	105 分 105 分
第 13 回	前期演奏試験曲(3)――強弱・表現――	事前 楽譜に書かれている指示されている事の確認をする 事後 表現しようと思っている音楽になっているかを確認する	105 分 105 分
第 14 回	前期演奏試験曲(4)――テンポ――	事前 ゆっくりとしたテンポで練習をする 事後 テンポをあげて練習をする	105 分 105 分
第 15 回	仕上げ	事前 暗譜の確認をする 事後 テンポが安定しているか確認をしながら、練習をする	105 分 105 分

フィードバック 前期演奏試験の演奏についてコメントを付けフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
実技試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。
なお、学年末試験評価は複数教員（ピアノ教員）による。

テキスト ハノン他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐				

副科ピアノ-2

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード: IND104

専門/学年: 器楽・声楽専門/1~2 年次

形態: 実技

単位数: 1 単位

概要 正確な読譜力を身につけ、表現力を養う。

到達目標 対位法や和声感を養い、曲にふさわしい様式感をもって演奏できることを目標とする。

授業計画

後期 15 回 各人 20 分の個人指導
 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。音階練習で、正しい運指・調性感を、カデンツで和声感を学ぶ。
 副科ピアノ-1 と合わせて、1 年間で基礎テクニック・和声感・対位法を学ぶ。

第 1 回	基礎テクニックを身につける(1)-legato 奏法-	事前 音階を legato で演奏できる練習をする 事後 アルペジオを legato で演奏できる練習をする	105 分 105 分
第 2 回	基礎テクニックを身につける(2)-staccato 奏法-	事前 手首の動きを意識する練習をする 事後 連打の練習をする	105 分 105 分
第 3 回	基礎テクニックを身につける(3)-和音の弾き方-	事前 オクターブが力を入れずに演奏できる練習をする 事後 和音がずれないように練習をする	105 分 105 分
第 4 回	和声感を養う(1)-基本的なコード-	事前 様々なコードを演奏し、和音の表情を感じとる練習をする 事後 曲の中で終止形を見つける練習をする	105 分 105 分
第 5 回	和声感を養う(3)-和音の響きを聴く-	事前 ベタルの構造を調べる 事後 ベタルの踏み方を考えながら練習をする	105 分 105 分
第 6 回	課題に出ている音階練習	事前 課題の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 課題の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 7 回	課題に出ている音階のカデンツの練習	事前 課題のカデンツを確認をする 事後 課題の音階とカデンツの練習をする	105 分 105 分
第 8 回	後期演奏試験曲—読譜の確認—	事前 作品を決め読譜をし、楽譜を調べる 事後 正しい読譜ができているか確認をする	105 分 105 分
第 9 回	後期演奏試験曲—形式—	事前 形式を考えて、練習をする 事後 曲の大きな流れを捉える	105 分 105 分
第 10 回	後期演奏試験曲—表現—	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現する上で最適なテンポを探す	105 分 105 分
第 11 回	後期演奏試験曲—和声感—	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和声の響きを意識して、練習をする	105 分 105 分
第 12 回	後期演奏試験曲—強弱—	事前 強弱の確認をして、練習をする 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習をする	105 分 105 分
第 13 回	後期演奏試験曲—音色—	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探りながら練習をする 事後 曲のキャラクターを考えて練習をする	105 分 105 分
第 14 回	後期演奏試験曲—フレーズ感—	事前 アーティキュレーションスラーの確認をする 事後 フレーズ感をもって演奏をしているか確認をする	105 分 105 分
第 15 回	試験曲の仕上げ—まとめ—	事前 強弱・コントラストの確認をする 事後 曲のキャラクターの確認をする	105 分 105 分

フィードバック 後期演奏試験の演奏についてコメントを付けフィードバックする。

成績評価 学年末試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
 学年末試験にレッスンへの積極的な取り組み等を加味して総合的に評価。
 なお、学年末試験評価は複数教員（ピアノ教員）による。

テキスト ハノン他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐				

副科声楽

※音楽療法士養成に関する科目

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：IND203

専門/学年：ピアノ・器楽専門/2 年次

形態：実技

単位数：2 単位

概要 歌唱に必要な基礎技術を習得する。
前期ではエチュードを中心に、後期ではイタリア古典歌曲を中心題材として、言語を伴った声楽の表現法を学ぶ。

到達目標 歌唱の基本、すなわち、正しい姿勢と腹式呼吸による、自然な発声法を習得することをテーマとする。
それぞれが持つオリジナル楽曲である「声」を研究することは、自分の個性と音楽を知ることに通じる。「声」＝「音色」の特性と十分に生かせるような発声法および歌唱表現を習得し、音楽性を充実させることを目標とする。

授業計画 隔週 20 分の個人指導
コンコーネ他練習曲およびイタリア古典歌曲等を課題とする。

回数	ガイダンス、年間の学習計画を立てる	事前	事後	80 分
第 1 回		事前	コンコーネ 50 番、イタリア古典歌曲集を準備する	80 分
		事後	練習曲① 課題曲① 読譜	80 分
第 2 回	歌唱法の基礎 - 姿勢、呼吸、発声の確認 1 ストレッチ、呼吸法を中心に	事前	練習曲① 課題曲① 読譜	80 分
		事後	練習曲①、② 課題曲① の練習	80 分
第 3 回	歌唱法の基礎 - 姿勢、呼吸、発声の確認 2 呼吸法、発声法を中心に	事前	練習曲②、③ 課題曲① の練習	80 分
		事後	練習曲③、④ 課題曲① の練習	80 分
第 4 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 1 特に母音、子音の発音を中心に	事前	練習曲③、④ 課題曲① の練習	80 分
		事後	練習曲③、④ 課題曲② の練習	80 分
第 5 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 2 母音、子音の明確化	事前	練習曲④、⑤ 課題曲② の練習	80 分
		事後	練習曲⑤、⑥ 課題曲③ の練習	80 分
第 6 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 3 詩の内容を理解する	事前	練習曲⑥、⑦ 課題曲③ の練習	80 分
		事後	練習曲⑥、⑦ 課題曲③ の練習	80 分
第 7 回	演奏試験に向け課題曲の選曲 課題曲 A 課題曲 B	事前	課題曲 A 及び B の読譜	80 分
		事後	課題曲 A 及び B の練習	80 分
第 8 回	課題曲を学ぶ 1 楽譜の読み方を中心に	事前	課題曲 A 及び B の譜読み	80 分
		事後	課題曲 A 及び B 発音を中心に練習	80 分
第 9 回	課題曲を学ぶ 2 発音を中心に	事前	課題曲 A 及び B 単語の意味を調べる	80 分
		事後	課題曲 A 及び B 音楽用語を調べる	80 分
第 10 回	試験曲を学ぶ 1 歌唱表現法を中心に	事前	課題曲 A 及び B 音楽用語を調べる	80 分
		事後	課題曲 A 及び B 強弱他、気をつけて練習	80 分
第 11 回	試験曲を決める 2 課題（試験）曲を中心に	事前	課題曲 A 及び B 詩の内容を考える	80 分
		事後	試験曲を中心に譜読み練習	80 分
第 12 回	伴奏を伴い課題曲を学ぶ 1 呼吸やテンポの合わせ方を中心に	事前	試験曲を発声及び発音に注意して練習	80 分
		事後	試験曲を発声及び発音に注意して練習	80 分
第 13 回	伴奏を伴い課題曲を学ぶ 2 暗譜をして歌う	事前	試験曲を伴奏者と合わせて練習	80 分
		事後	試験曲を暗譜しながら曲の内容を意識する	80 分
第 14 回	総合演習	事前	試験曲を伴奏者と合わせて練習	80 分
		事後	試験曲の暗譜を確実にし内容を深める	80 分
第 15 回	まとめ	事前	試験曲を伴奏者と合わせて練習	80 分
		事後	試験曲を暗譜の上、曲の完成度を高める	80 分

フィードバック 試演会や、後期実技試験により、コメントでフィードバックする。

成績評価 実技演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ 50 番
イタリア古典歌曲集等、
担当教員より、授業内にて適宜指示する。

オフィスアワー 各教員の在校時間内（ただしレッスンの時間を除く）
各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐				

フルートオーケストラ I-1・II-1

教授 飯島和久

科目コード： IEN103/IEN203

専門/学年：フルート専門/1~2年次、専攻科

形態：実技

単位数：1単位

概要 日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。

到達目標 この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶ。

授業計画			
	・フルートの歴史について、楽器、作品（作曲家）、演奏（演奏家）等の面から学ぶと共に、特殊楽器についても、その特徴、役割を学ぶ。 ・北村薫著『アンサンブルエチュード』をテキストとして、音程感覚、リズム感覚、拍子感覚等のアンサンブルの基本を学ぶ。なおこの教材は年間を通し必要に応じて使用する。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。		
第1回	特殊楽器を紹介・試奏 (ソプラノフルート・アルトフルート)	事前 特殊楽器について調べる 事後 ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105分 105分
第2回	特殊楽器を紹介・試奏 (バスフルート・コントラバスフルート)	事前 特殊楽器について調べる 事後 ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105分 105分
第3回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (フルートの弱点を知る)	事前 テキストの予習（コンサートフルートで確認をする） 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第4回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (音合わせの仕方)	事前 テキストの予習（コンサートフルートで確認をする） 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第5回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (音程の合わせ方)	事前 テキストの予習（コンサートフルートで確認をする） 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第6回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (ユニゾンの音程の合わせ方)	事前 テキストの予習（コンサートフルートで確認をする） 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第7回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (平均律、純正律を学ぶ)	事前 テキストの予習（コンサートフルートで確認をする） 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第8回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (2声の音程の合わせ方)	事前 テキストの予習（コンサートフルートで確認をする） 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第9回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (4声の音程の合わせ方)	事前 テキストの予習（コンサートフルートで確認をする） 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第10回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (担当楽器を決め、譜読みを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第11回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (時代背景、演奏法を学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第12回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (テクニックを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第13回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (バランスを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第14回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (表現を中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第15回	発表会に向けて練習、後日発表会	事前 仕上げ 事後 発表会后、教員コメント読み後期授業に役立つ。	105分 105分

フィードバック 発表会での教員コメントを各自に配布する。

成績評価 発表・コンサート 20% 課題 40% 授業態度 40%

テキスト 北村薫著『アンサンブルエチュード』（必要部分を配布する）

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	

フルートオーケストラ I-2・II-2

教授 飯島和久

科目コード： IEN104/IEN204

専門/学年：フルート専門/1~2年次、専攻科

形態：実技

単位数：1単位

概要 日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。

到達目標 この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶ。

授業計画		事前		事後		105分
第1回	コンサートに向け楽曲の練習 (譜読みを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	105分	
		105分	105分			
第2回	コンサートに向け楽曲の練習 (時代背景、演奏法を学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	105分	
		105分	105分			
第3回	コンサートに向け楽曲の練習 (和音を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	105分	
		105分	105分			
第4回	コンサートに向け楽曲の練習 (テクニックを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	105分	
		105分	105分			
第5回	コンサートに向け楽曲の練習 (音程を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	105分	
		105分	105分			
第6回	コンサートに向け楽曲の練習 (音色を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	105分	
		105分	105分			
第7回	コンサートに向け楽曲の練習 (バランスを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	105分	
		105分	105分			
第8回	コンサートに向け楽曲の練習 (表現を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	105分	
		105分	105分			
第9回	コンサートに向け楽曲の練習 (仕上げ練習)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	105分	
		105分	105分			
第10回	ゲネプロ（曲順で練習）、櫻樹祭コンサート	櫻樹祭コンサートに向けて問題箇所を練習する	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	105分	
		105分	105分			
第11回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (譜読みを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	105分	
		105分	105分			
第12回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (時代背景、演奏法を学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	105分	
		105分	105分			
第13回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (テクニックを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	105分	
		105分	105分			
第14回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (表現を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	105分	
		105分	105分			
第15回	ゲネプロ（曲順で練習）、授業後発表会	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	授業後の発表会でのアンケート、教員コメントを読み今後に役立てる。	105分	105分	
		105分	105分			

フィードバック 櫻樹祭コンサート、学外でのコンサート等の演奏会等でのアンケート、また、教員コメントを各自に配布する。

成績評価 発表・コンサート 20% 課題 40% 授業態度 40%

テキスト 北村薫著『アンサンブルエチュード』（必要部分を配布する）

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	

声楽アンサンブル I・II

非常勤講師 栗田恵美子

科目コード：VEN103/VEN203

専門/学年：声楽専門/1～2年次、専攻科

形態：実技

単位数：2単位

概要 オペラを歌うために必要な演技法・発声法・呼吸法などを総合的に学ぶ。

到達目標 履修者の演技つき重唱曲を通じ、個々の作曲家、作品の特質に触れながら、その流れを体験できるよう試みる。

授業計画

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	オペラの歴史について	オペラの歴史を調べる	オペラの歴史をより深く学習する	120分 150分
第2回	オペラに必要な姿勢と発声法	オペラの映像資料や文献を各自で調べ、理解を深める	姿勢、発声法などより深く探求する	120分 150分
第3回	演技の基礎①	ヘンデルのオペラについて研究する	授業で学んだ演技をより深く学習する	120分 150分
第4回	演技の基礎②	オペラ・ブッフアの作品を各自調べ研究する	授業で学んだ動き方を復習し、研究する	120分 150分
第5回	男性又は女性の場合の異なる動作、動き方	オペラ・セリアの作品を各自で調べ研究する	授業で学んだ動き方を復習し各自研究する	120分 150分
第6回	視覚による演技の見え方と演技法	授業で取り上げたモーツァルトのオペラ作品を映像資料などにより深く研究する	授業で学んだ動き方をより深く研究する	120分 150分
第7回	オペラ重唱曲音楽練習	授業以外のモーツァルトのオペラ作品を各自調べ研究する	授業で学んだ曲を復習し、くり返し練習する	120分 150分
第8回	オペラ原語付き音楽練習	古典オペラ特にモンテヴェルディ、バーセル、ラモーなどの作品を各自研究する	授業で学んだ重唱曲の原語の言葉の意味を調べる	120分 150分
第9回	オペラ重唱曲、音楽練習総括	ロッシニー、ドニゼッティ、バッリーニのオペラを研究する	重唱曲の復習	120分 150分
第10回	オペラ重唱曲の演技つけ	ドイツ・オペラを研究する	授業での重唱曲のオペラ映像資料から演技について研究する	120分 150分
第11回	演技をともなう重唱曲 実践練習①	フランス・オペラコミックとグランド・オペラを研究する	授業の重唱曲のオペラの演技を研究する	120分 150分
第12回	演技付きオペラ重唱曲実践練習②	ヴェルディのオペラを研究する	課題のオペラ重唱曲を他者と協力しながら演技練習する	120分 150分
第13回	演技付きオペラ重唱曲総合練習	ワーグナーのオペラを研究する	課題のオペラ重唱曲を他者と協力しながらより深く研究する	120分 150分
第14回	演技付きオペラ重唱曲総合練習まとめ	イタリア・ヴェリズモ・オペラを研究する	試験に向けてオペラ重唱曲の演技付き練習を行う	120分 150分
第15回	演技付きオペラ重唱曲の試験	オペレッタ、ミュージカルについて研究する	試験で歌ったオペラ重唱曲の演奏についてディスカッションする	120分 150分

フィードバック 授業中または授業終了後、希望者に個別に対応する。

成績評価 演技付き演奏試験、授業態度などから総合的に評価する。

テキスト 必要に応じて配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング

- ・パントマイム：自身の手をたたく、ぬいぐるみを撫でる、子犬を撫でる、鏡をたたく、触るなどをグループで行う
- ・椅子取りゲーム：座っている学生を何か理由によって立たせる（例えば、病院で呼ばれる、電車で終点まで行き駅員に起こされるなど）グループで行う
- ・演技付きオペラ重唱を演じ、ディスカッションする。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐

声楽特殊演習

教授 細谷美直

科目コード：VEN204

専門／学年：声楽専門／2 年次、専攻科

形態：演習

単位数：2 単位

概要 日本歌曲の継承と発展を学ぶ。
ドイツ歌曲のはじまりと代表的作品をグループレッスンの形態で演習する

到達目標 初めてドイツ歌曲に取り組む学生に配慮し、ドイツ語の発音を中心に学ぶ
それぞれの作品、作曲家、詩人への理解を深める

授業計画 声楽科 2 年生による演習を中心とした授業
各回の授業内容は進度により変更することがある

第 1 回	日本歌曲のはじまり 明治以前の日本のうた～わらべうたの世界～	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 内容の理解を深める	120 分 150 分
第 2 回	明治初期 近代音楽教育草創時代	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 内容の理解を深める	120 分 150 分
第 3 回	明治後期 文部省 唱歌の誕生	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 内容の理解を深める	120 分 150 分
第 4 回	大正時代 「赤い鳥」童謡運動の展開	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 内容の理解を深める	120 分 150 分
第 5 回	昭和初期 童謡の黄金時代	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 自分の考えをまとめる	120 分 150 分
第 6 回	ドイツリートのはじまり シューベルトの歌曲①An die Musik	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 発音に注意しながら復習する	120 分 150 分
第 7 回	シューベルトの歌曲②An die Musik 発音の留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	120 分 150 分
第 8 回	モーツァルトの歌曲①Das Veilchen 作品の解釈と発音を中心に	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	120 分 150 分
第 9 回	モーツァルトの歌曲②Das Veilchen 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	120 分 150 分
第 10 回	モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」 鑑賞と作品解説	事前 課題曲について調べる 事後 楽譜を用意し、音取りをする	120 分 150 分
第 11 回	モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」 手紙の二重唱	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	120 分 150 分
第 12 回	モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」より 手紙の二重唱の表現の研究	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	120 分 150 分
第 13 回	学習したドイツ歌曲の復習	事前 これまでの曲の復習をする 事後 ピアニストと伴奏合わせを重ねる	120 分 150 分
第 14 回	学習したドイツ歌曲、手紙の二重唱の復習	事前 ピアニストと伴奏合わせを重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	120 分 150 分
第 15 回	発表（試験形式）とまとめ	事前 ピアニストと伴奏合わせを重ねる 事後 録音、録画等を使い演奏を振り返る	120 分 150 分

フィードバック 発表会後に合評し、課題を見つけ今後に繋げる。

成績評価 授業への取り組み 40%、演奏 60%

テキスト 授業内で紹介、指示する。

オフィスアワー 授業の前後、教室にて対応する

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒								

民族音楽学

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

大学非常勤講師 丸山洋司

科目コード：LEC201

専門/学年：全専門/2年次、専攻科

形態：講義	単位数：2単位
概要	この授業では、世界の様々な音楽文化をとりあげて学び、個々の地域の特質と相互の影響関係について理解を深める。特に「アメリカ」「南アジア」「ヨーロッパ」「東南アジア」という四つの地域を中心にとりあげ、それぞれの地域の音楽文化について、視聴覚資料を用いたり、楽器の実演を交えて解説する。
到達目標	異なる音楽文化間の共通性や相違性、影響関係について、個々の学生が具体的にイメージし、理解を深めることを目指す。またグループ発表を通して、各学生が主体的に考察テーマを発見し、それについて他の学生と議論しながら調査できるようになることを目標とする。

回	内容	事前	事後	単位数
第1回	オリエンテーション アフリカ (1) 儀礼と音楽	教科書の p.20~24 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第2回	アフリカ (2) 太鼓の諸相	教科書の p.24~28 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第3回	アフリカ (3) 音楽構造の特徴と原理	教科書の p.28~31 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第4回	アフリカ (4) アフリカの楽器 アフリカ音楽の変貌	教科書の p.31~36 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第5回	南アジア (1) 言語・文化の多様性	教科書の p.82~84 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第6回	南アジア (2) 古典音楽と地方の伝統音楽	教科書の p.84~86 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第7回	南アジア (3) 古典音楽の理論と楽器	教科書の p.86~90 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第8回	南アジア (4) 古典舞踊とポピュラー音楽	教科書の p.95~100 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第9回	ヨーロッパ (1) ヨーロッパの伝統音楽	教科書の p.42~46 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第10回	ヨーロッパ (2) スコットランド・アイルランドの音楽文化	教科書の p.47~50 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第11回	ヨーロッパ (3) スコットランドの音楽様式	教科書の p.51~55 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第12回	東南アジア (1) 東南アジアの人形芝居と音楽	教科書の p.102~104 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第13回	東南アジア (2) 青銅器の音楽文化	教科書の p.105~109 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第14回	東南アジア (3) 竹の音楽文化	教科書の p.110~112 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120分 160分
第15回	総括 理解度確認テスト	第1回~14回までの授業内容の復習	事後 理解が不十分だった箇所を復習する。	220分 60分

フィードバック

- ・小テストの答案の返却および解説により、学修成果をフィードバックする。
- ・授業でのグループ発表について、その授業内にコメントし、学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験 60% プレゼンテーション 20% 小テスト 20%

テキスト

- ・柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999年）
- ・その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー ・授業終了後教室にて、もしくはEメールにて対応する。hiromaru886@hotmail.com

アクティブ・ラーニング 少人数のグループに分かれ、プレゼンテーションを行う（発表後、講師がコメント）

備考

- ・視聴覚資料を多く使用するので出席が重要となる。
- ・楽器または音楽ジャンルに関するチーム・プレゼンテーションを課す予定。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐

楽曲分析Ⅱ

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF205

専門/学年：全専門/2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 楽曲分析Ⅰで学んだことをふまえ、様々な形式の曲を分析する。
また、受講生それぞれが専門楽器の楽曲（定期演奏会オーディション、もしくは卒業演奏試験に関するものが望ましい）を楽曲分析し、授業内発表をする。

到達目標 多様な楽曲を分析できるようになり、時代ごとに異なる作曲様式について理解を深めるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【学生による分析】		【教員による分析】			
第1回	ガイダンス	様式、形式、語法とは	事前 事後	ガイダンスの予習 ガイダンスの復習	「様式」の項目を音楽事典で読む 135分 135分
第2回	学生による分析発表(作品 a)	中世(作品 A)ギョーム・ド・マシヨール： 終わりこそわが始まり	事前 事後	作品 a、作品 A の予習 作品 a、作品 A の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
第3回	学生による分析発表(作品 b)	バロック(作品 B)	事前 事後	作品 b、作品 B の予習 作品 b、作品 B の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
第4回	学生による分析発表(作品 c)	ヘンデル：オンブラ・マイ・フ	事前 事後	作品 c、作品 C の予習 作品 c、作品 C の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
第5回	学生による分析発表(作品 d)	バロック(作品 C)	事前 事後	作品 d、作品 D の予習 作品 d、作品 D の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
第6回	学生による分析発表(作品 e)	バッハ：音楽の捧げ物	事前 事後	作品 e、作品 E の予習 作品 e、作品 E の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
第7回	学生による分析発表(作品 f)	バロック(作品 D)	事前 事後	作品 f、作品 F の予習 作品 f、作品 F の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
第8回	学生による分析発表(作品 g)	モーツァルト：トルコ行進曲	事前 事後	作品 g、作品 G の予習 作品 g、作品 G の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
第9回	学生による分析発表(作品 h)	古典派(作品 F)	事前 事後	作品 h、作品 H の予習 作品 h、作品 H の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
第10回	学生による分析発表(作品 i)	モーツァルト偽作：鏡のカノン	事前 事後	作品 i、作品 I の予習 作品 i、作品 I の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
第11回	学生による分析発表(作品 j)	古典派(作品 G)	事前 事後	作品 j、作品 J の予習 作品 j、作品 J の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
第12回	学生による分析発表(作品 k)	ベートーヴェン：エリーゼのために	事前 事後	作品 k、作品 K の予習 作品 k、作品 K の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
第13回	学生による分析発表(作品 l)	古典派(作品 H) ベートーヴェン： ピアノソナタ第1番 第1、2楽章	事前 事後	作品 l、作品 L の予習 作品 l、作品 L の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
第14回	学生による分析発表(作品 m)	古典派(作品 I) ベートーヴェン： ピアノソナタ第1番 第3、4楽章	事前 事後	作品 m、作品 M の予習 作品 m、作品 M の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
第15回	学生による分析発表(作品 n)	古典派(作品 J) ベートーヴェン： ピアノソナタ第14番「月光」	事前 事後	作品 n、作品 N の予習 作品 n、作品 N の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
		ロマン派(作品 K)	事前 事後	作品 n、作品 N の予習 作品 n、作品 N の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
		シューベルト：魔王	事前 事後	作品 n、作品 N の予習 作品 n、作品 N の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
		ロマン派(作品 L)	事前 事後	作品 n、作品 N の予習 作品 n、作品 N の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
		ショパン：小犬のワルツ	事前 事後	作品 n、作品 N の予習 作品 n、作品 N の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
		ロマン派(作品 M)	事前 事後	作品 n、作品 N の予習 作品 n、作品 N の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
		ショパン：24の前奏曲 第15曲「雨だれ」	事前 事後	作品 n、作品 N の予習 作品 n、作品 N の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
		ロマン派(作品 N)	事前 事後	作品 n、作品 N の予習 作品 n、作品 N の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分
		バダジェフスカ：乙女の祈り	事前 事後	作品 n、作品 N の予習 作品 n、作品 N の復習	楽譜を見ながら音源を聴く 分析譜を見ながら音源を聴く 135分 135分

フィードバック レポートの返却により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業内発表 40%、レポート 30%、授業への積極的な取組 30%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	3文1語の3種	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☒	☒	☒	☐											

管弦楽法

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF208

専門/学年：全専門/2年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 まず、楽器法として、様々な楽器の構造及び用法について、専門生による音出しを伴いつつ解説をする。次に、管弦楽法として、複数の楽器を組み合わせる方法について、様々な時代・編成の管弦楽の作品の分析を行う。また、ピアノ曲から室内楽の編成へのオーケストレーションにも取り組み、音出しをする。

到達目標 基本的な楽器の構造や、時代ごとに異なる管弦楽法について理解を深めるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【楽器法】	【管弦楽法】	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
第1回	ガイダンス 管弦楽法とは	ガイダンスの予習	作品Aの復習	「管弦楽法」の項目を音楽事典で読む	分析譜を見ながら音源を聴く				
第2回	楽器の分類法	楽器の分類法の予習	楽器の分類法の復習	資料を読む	資料を読む				
第3回	金管楽器	金管楽器の予習	金管楽器の復習	資料を読む	資料を読む				
第4回	木管楽器 エアリード	木管楽器の予習	木管楽器の復習	資料を読む	資料を読む				
第5回	木管楽器 シングルリード、ダブルリード	木管楽器の予習	木管楽器の復習	資料を読む	資料を読む				
第6回	弦楽器	弦楽器の予習	弦楽器の復習	資料を読む	資料を読む				
第7回	鍵盤楽器 上野学園大学楽器研究室にて実習	鍵盤楽器の予習	鍵盤楽器の復習	資料を読む	資料を読む				
第8回	打楽器	打楽器の予習	打楽器の復習	資料を読む	資料を読む				
第9回	バロックの管弦楽法(作品B) ヴィヴァルディ：協奏曲集「四季」より「春」	作品Bの予習	作品Bの復習	楽譜を見ながら音源を聴く	楽譜を見ながら音源を聴く				
第10回	古典派の管弦楽法(作品C) モーツァルト：交響曲第25番第1楽章	作品Cの予習	作品Cの復習	楽譜を見ながら音源を聴く	楽譜を見ながら音源を聴く				
第11回	古典派の管弦楽法(作品D) ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」第1楽章	作品Dの予習	作品Dの復習	楽譜を見ながら音源を聴く	楽譜を見ながら音源を聴く				
第12回	ロマン派の管弦楽法(作品E) チャイコフスキー：交響曲第6番「悲愴」第4楽章	作品Eの予習	作品Eの復習	楽譜を見ながら音源を聴く	楽譜を見ながら音源を聴く				
第13回	近代の管弦楽法(作品F) ラヴェル：ボレロ	作品Fの予習	作品Fの復習	楽譜を見ながら音源を聴く	楽譜を見ながら音源を聴く				
第14回	現代の管弦楽法(作品G) ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲	作品Gの予習	作品Gの復習	楽譜を見ながら音源を聴く	楽譜を見ながら音源を聴く				
第15回	作品発表 オーケストレーションの実施	作品発表の予習	作品発表の復習						

フィードバック レポートの返却により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 作品提出・発表（オーケストレーションの実施）50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☒	☒	☒	☐											

鍵盤和声Ⅱ-1

非常勤講師 三沢庸子

科目コード：SLF203

専門/学年：全専門/2 年次

形態：演習 単位数：1 単位

概要 楽曲の中に和声を感じとり、音の響きを【聴く】ということ学ぶ授業である。
様々なジャンルの曲を用いて徐々に和音の種類を増やしなが、《伴奏づけ》・《移調奏》・《弾き歌い》・《初見奏》・《主題やモチーフを基に即興的に変奏曲や小曲を作る》等の演奏実習を反復して行う。

到達目標 楽曲の根底を支える要素の一つである和声感覚を養うことを目標とする。
さらに演奏発表を通して主体性を高め、“人類の共通言語である音楽”を媒体として自己を表現する力並びに他者とのコミュニケーション能力を培うことも目指す。

授業計画 授業計画は概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの課題を取り入れる。また、進捗状況によって内容を変更する場合もある。

第1回	ガイダンス 鍵盤和声基礎知識の確認	事前 各調の音階と主和音を確認する。 事後 音の響きについて考察する。	40分 50分
第2回	音階とカデンツ 即興演習	事前 各調のカデンツを確認する。 事後 即興演習の復習をする。	30分 60分
第3回	旋律・和音・リズム 移調奏	事前 リズムについて考察する。 事後 移調奏の復習をする。	30分 60分
第4回	伴奏形について 初見奏	事前 伴奏形について予習する。 事後 伴奏形を復習する。	30分 60分
第5回	数字付低音の説明と和音付け 弾き歌い	事前 和音記号を確認する。 事後 数字付低音・弾き歌いの復習演習を行う。	30分 60分
第6回	伴奏譜にメロディーをつける 主和音と属和音による伴奏づけ	事前 課題曲の伴奏形を考察する。 事後 伴奏づけの反復演習をする。	30分 60分
第7回	コードネームの説明 主要三和音を用いて伴奏づけ	事前 課題曲の伴奏づけを行う。 事後 コードネームの復習演習を行う。	30分 60分
第8回	コードネームを用いて与えられた旋律に伴奏をつける	事前 各調の主要三和音を確認する。 事後 コードネーム伴奏づけの反復練習をする。	30分 60分
第9回	モチーフを基に小曲を作る	事前 コードネームを確認し、課題譜を考察する。 事後 メロディーづけの復習演習を行う	30分 60分
第10回	伴奏形を変えて変奏曲を作る 副三和音を用いての伴奏づけ	事前 課題譜を考察する。 事後 変奏曲の反復演習を行う。	40分 50分
第11回	非和声音について 非和声音を用いての伴奏づけ	事前 副三和音を確認し、課題譜を考察する。 事後 非和声音の確認を行う。	40分 50分
第12回	借用和音について	事前 伴奏形を確認し、課題譜を考察する。 事後 借用和音の確認を行う。	40分 50分
第13回	前期の復習・補足	事前 非和声音について復習し、課題譜を考察する。 事後 伴奏づけの復習演習をする。	40分 50分
第14回	前期総合演習	事前 前期で学んだことを総合的に復習し、理解不足箇所を確認する。 事後 前期の総合演習を行い、理解度を深める。	40分 50分
第15回	まとめ	事前 前期の演習課題を総合的に復習する。 事後 前期に学習したことを再確認する。	70分 20分

フィードバック 各演習後にコメントを付け学習成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度や試験から総合的に評価する。試験 30%、課題 35%、授業への積極的な取組 35%

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

アクティブ・ラーニング 演奏実習（他者の演奏を聴くことも含めて）を通して、各々のもつ和声感覚を能動的に培う

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐

鍵盤和声Ⅱ-2

非常勤講師 三沢庸子

科目コード：SLF204

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習 単位数：1 単位

概要 楽曲の中に和声を感じとり【音の響きを聴く力】を学ぶ授業である。
様々なジャンルの曲を用い、徐々に和音の種類を増やししながら、《伴奏づけ》・《移調奏》・《弾き歌い》・《初見奏》・《主題やモチーフを基に即興的に変奏曲や小曲を作る》等の演奏実習を反復して行う。

到達目標 楽曲の根底を支える要素の一つである和声感覚を養うことを目標とする。
更には演奏発表を通して自らが持つ音楽性を主体的に表現する力を身につけ、修学後も“人類の共通言語である音楽”が、様々なシチュエーションにおけるグローバルな視野でのコミュニケーションスキルとなることも目指す。

授業計画 授業計画は概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの課題を取り入れる。また、進捗状況によって内容を変更する場合もある。

第1回	非和声音を用いて小曲を作る	事前 非和声音について確認する。 事後 非和声音について復習する。	40 分 50 分
第2回	借用和音を用いての伴奏づけ	事前 借用和音を確認する。 事後 伴奏づけの復習をする。	30 分 60 分
第3回	移調奏 弾き歌い	事前 弾き歌いの予習をする。 事後 移調奏、弾き歌いの復習演習を行う。	30 分 60 分
第4回	借用和音を用いて主題を基に変奏曲を作る	事前 借用和音を確認し、課題譜の考察をする。 事後 変奏曲の復習演習を行う。	30 分 60 分
第5回	七の和音を用いての数字付低音	事前 数字付低音について確認する。 事後 七の和音を使った数字付低音の復習演習	30 分 60 分
第6回	減七の和音を用いての伴奏づけ	事前 伴奏形を確認し、課題譜の考察をする。 事後 減七の和音の復習演習を行う。	30 分 60 分
第7回	主題を基に変奏曲を作る	事前 課題譜の考察をする。 事後 変奏曲の復習演習を行う。	30 分 60 分
第8回	モチーフを基に小曲を作る	事前 減七の和音を確認し、課題譜の考察をする。 事後 モチーフ奏の復習演習を行う。	30 分 60 分
第9回	ナボリの6の和音についてモチーフを基に小曲を作る	事前 課題譜の考察をする。 事後 ナボリの6の和音の復習演習を行う。	30 分 60 分
第10回	増六の和音について主題を基に変奏曲を作る。	事前 借用和音を確認し、課題譜の考察をする。 事後 増六の和音を確認し、変奏曲を作る反復演習を行う。	40 分 50 分
第11回	モチーフを基にメロディーを作る	事前 課題譜を考察する。 事後 モチーフ奏の反復演習を行う。	40 分 50 分
第12回	初見奏・弾き歌い・移調奏 主題を基に小曲を作る	事前 課題譜を考察する。 事後 課題を基に小曲を作る反復演習を行う。	40 分 50 分
第13回	後期の復習・補足	事前 伴奏づけの復習演習を行い、後期に学んだこと考察する。 事後 課題曲の反復演習を行う。	40 分 50 分
第14回	後期総合演習	事前 後期で学んだことを総合的に復習し、理解不足箇所を確認する。 事後 後期の総合演習を行い、理解度を深める。	40 分 50 分
第15回	まとめ	事前 これまでの演習課題を総合的に復習する。 事後 学習したことを再確認する。	70 分 20 分

フィードバック 各演習後にコメントを付け学習成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度や試験から総合的に評価する。試験 30%、課題 35%、授業への積極的な取組 35%

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

アクティブ・ラーニング 演奏実習（他者の演奏を聴くことも含めて）を通して、各々のもつ和声感覚を能動的に培う

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒				

音楽療法概論

※音楽療法士養成に関する科目

※実務経験を持つ教員による授業

平成9年認定音楽療法士取得以来、発達障害の児童を中心に臨床を行なっている教員が、音楽療法に関する講義と臨床のDVDを観て指導を行う。

講師 中山晶世

科目コード：THE101

専門/学年：全専門/1年次、専攻科

形態：講義 単位数：2単位

概要 音楽療法は、病気や障害をもった子ども、成人、高齢者などに対して、近年、社会的な関心が高まっている。また、医学・福祉・教育などと連携して新しい学問、実践の領域として発展が期待されている。音楽療法士養成にあたって音楽療法の知識を学ぶとともに音楽療法とは何かについて考える時間としたい。

到達目標 この時間では、音楽療法とは何か、音楽療法の定義、音楽療法の歴史、音楽療法に必要な様々な理論、セッションの流れ等について学ぶ。講義を聴く・テキストを読むだけでなく、質疑応答を通して学生で意見を出し合い、より音楽療法を理解し、最終的には「音楽療法とは何か」について各自言語化したり、文章化できることを到達目標とする。

授業計画 授業は、音楽療法の実践に役立つ授業にするために、知識だけでなく、実践と結び付け、DVDで実践現場を観ながら進める。

第1回	第1章 音楽療法の現場風景 自閉症の子どもへの音楽療法	事前 p.2~4「第1章音楽療法の現場の風景」を読む。 事後 第1章の内容の中で分からない用語を書きだし、調べる。	140分 140分
第2回	第2章 音楽療法とは カジュアルな音楽療法、フォーマルな音楽療法	事前 p.5~8「カジュアルな音楽療法」を読む。 事後 「カジュアルな音楽療法」の例を書きだす。	140分 140分
第3回	第2章 音楽療法とは フォーマルな音楽療法の条件	事前 p.8~27「フォーマルな音楽療法の条件」を読む。 事後 フォーマルな音楽療法の5つの条件の重要な部分を書きだす。	140分 140分
第4回	第3章 聴く音楽療法、する音楽療法 聴く音楽療法(受動的音楽療法)のいろいろ	事前 p.28~30「聴く音楽療法」を読む。 事後 授業中に見た「未熟児の音楽療法」のDVDの感想を提出する。	140分 140分
第5回	第3章 聴く音楽療法、する音楽療法 する音楽療法(能動的音楽療法)のいろいろ	事前 p.30~42「する音楽療法」を読む。 事後 歌う事、楽器の演奏、即興演奏、身体運動、作曲の中の1つを選びその重要性を提出。	140分 140分
第6回	第4章 音楽療法には効果があるのか 何をもちって効果と呼ぶか、どうやって効果を確認するか	事前 p.43~46「音楽療法には効果があるのか」を読む。 事後 音楽療法の効果の中の「生理学的方法」と「心理学的方法」について調べる。	140分 140分
第7回	第4章 音楽療法には効果があるのか 数量化できるもの、数量化できないもの	事前 p.46~50「数量化できるもの」「数量化できないもの」を読む。 事後 「量的研究」と「質的研究」について調べる。	140分 140分
第8回	第5章 音楽療法の歴史 古代における音楽と癒し。神話・歴史のエピソードに見る音楽と癒し	事前 p.51~55「音楽療法の歴史」を読む。 事後 古代・神話・歴史のエピソードに関する文献を探す。	140分 140分
第9回	第5章 音楽療法の歴史 近代的音楽療法のはじまり—米国での音楽療法の発展及び日本における近代音楽療法の歴史	事前 p.55~59「近代的音楽療法の始まり」を読む。 事後 参考文献の「日本の音楽療法の動向」からさらに現在の日本の動向を調べる。	140分 140分
第10回	第6章 音と音楽とことごとからだ 音とは何か・音を聴く・音と音楽・音楽と感情	事前 p.60~69「音と音楽とことごとからだ」を読む。 事後 音とは何か・音と感情・音と音楽について自分の体験を書きだし、提出する。	140分 140分
第11回	第7章 音楽療法のはじまり—米国での音楽療法の発展及び日本における近代音楽療法の歴史 からだへのアプローチ—ことごとへのアプローチ	事前 p.70~86「からだへのアプローチ—ことごとへのアプローチ」を読む。 事後 授業中に見た「応用行動分析学的アプローチ」のDVDを観て、感想を書き、提出。	140分 140分
第12回	第7章 音楽療法のはじまり—米国での音楽療法の発展及び日本における近代音楽療法の歴史 ことごとへのアプローチ—社会へのアプローチ	事前 p.86~105「人間主義心理学(ノードフ・ロビンズ音楽療法)」を読む。 事後 授業中に見た「ノードフ・ロビンズ音楽療法」のDVDを観て感想を書き、提出。	140分 140分
第13回	第8章 音楽療法が問いかけること 音楽療法発展の2つの方向—音楽療法の現場から、音楽について考える。	事前 p.106~115「音楽療法が問いかけること」を読む。 事後 「音楽療法発展の2つの方向」音楽療法と音楽教育について自分の考えを書き、提出。	140分 140分
第14回	第8章 音楽療法が問いかけること 音楽療法から「個人の健康」と「社会の健康」を考える。	事前 p.116~120「音楽療法から「個人の健康」と「社会の健康」を読む。 事後 「個人の健康」と「社会の健康」について自分の考えを書き、提出。	140分 140分
第15回	第8章 音楽療法が問いかけること まとめ テキスト全域のまとめ 試験	事前 テキスト「音楽療法をまなぶ」全般から質問・疑問点を出す。 事後 テキスト全域および試験の振り返り。	140分 140分

フィードバック レポート等の返却の際、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 筆記試験 60%、授業態度 20%、レポート等の提出 10% 発言・質問等の積極性 10%

テキスト 二俣泉・白川ゆう子・三浦優佳著『新訂増補版 音楽療法をまなぶ』(アカデミア・ミュージック株式会社)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室、もしくはEメールにて対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	

児童の音楽療法

※音楽療法士養成に関する科目

※実務経験を持つ教員による授業

病院、特別支援学級、特別支援学校などで音楽療法の実務経験を持つ教員が、児童の音楽療法の理論や技術、実践方法などについて授業をおこなう

非常勤講師 鈴木涼子

科目コード：THE102

専門／学年：全専門／1年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 児童に対する音楽療法の実践は、日本においても諸外国においても、音楽療法における重要な領域の一つである。児童に対する音楽療法の理論や実践を知り、児童の意欲を引き出ししながら発達を促進する活動の進め方、活動の創作方法について学ぶ。

到達目標 児童への音楽療法の理論、実践の手順を理解する。児童の意欲を引き出ししながら発達を促進させるための諸技術を学ぶ。

授業計画 講義を中心に、音楽活動の体験、活動の創作などの演習も組み合わせておこなう。

第1回	児童の音楽療法の歴史・概要 児童の音楽療法の対象	事前 児童の音楽療法について知っていること、これから知りたいことを考えて整理する。 事後 授業のノート振り返り、要点をまとめる。	140分 140分
第2回	ノードフ・ロビンズ音楽療法	事前 テキスト「音楽療法を知る その理論と技法」p.55-59、p.72-78を読む。 事後 授業で紹介したノードフ・ロビンズ音楽療法の楽曲を弾き語りする。	140分 140分
第3回	感覚と運動の高次化理論にもとづく音楽療法	事前 テキスト「音楽療法を知る その理論と技法」p.72-78を読む。 事後 感覚と運動の高次化理論にもとづく音楽療法の特徴について振り返る。	140分 140分
第4回	ミュージック・ケア 早産児に対する音楽療法	事前 テキスト「音楽療法を知る その理論と技法」p.79-87を読む。 事後 ミュージック・ケア、早産児に対する音楽療法の特徴について振り返る。	140分 140分
第5回	応用行動分析に基づく音楽療法 (理論と介入方法、音楽療法への応用)	事前 テキスト「音楽療法を知る その理論と技法」p.48-53を読む。 事後 授業で扱った音楽療法の活動の手順を振り返り、自分でもできるようにする。	140分 140分
第6回	児童の「気づき」・「眼差しの共有」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.16-51を読む。 事後 「気づき」・「眼差しの共有」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140分 140分
第7回	児童の「要求行動」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.52-61を読む。 事後 「要求行動」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140分 140分
第8回	児童の「見分ける力、聞き分ける力」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.62-65、p.76-87を読む。 事後 「見分ける力、聞き分ける力」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140分 140分
第9回	児童の「行動のコントロール」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.66-75、p.88-91を読む。 事後 「行動のコントロール」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140分 140分
第10回	児童の「動作模倣、音声模倣」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.92-115を読む。 事後 「動作模倣、音声模倣」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140分 140分
第11回	児童の発達を促す曲づくり、活動づくりのポイント	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.126-131を読む。 事後 第11回の授業で学んだことを、音楽教育においてどのように生かせるか考える。	140分 140分
第12回	児童の反応を引き出せない時の工夫、児童の介助・支援の方法	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.132-141を読む。 事後 第12回の授業で学んだことを、音楽教育においてどのように生かせるか考える。	140分 140分
第13回	児童の発達を促す音楽活動の創作	事前 第1-12回の授業の内容を振り返り、理解を定着させる。 事後 授業中に自分で考えた音楽活動を振り返り、工夫できるところがないか再考する。	140分 140分
第14回	創作した音楽活動の発表、共有	事前 自分で考えた音楽活動を練習する。 事後 他の学生が発表した音楽活動の中から一つを選び、練習する。	140分 140分
第15回	授業まとめ、試験	事前 第1-14回の授業内容を振り返りノートを整理する。 事後 第1-15回の授業内容を振り返り、感想を書く。	140分 140分

フィードバック 授業での課題やレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績 50%、授業中に実施する課題 30%、授業への積極的な取り組み 20%。

テキスト 二俣泉・鈴木涼子著『音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル』（春秋社）
参照資料：宮本啓子・二俣泉編著『音楽療法を知る その理論と技法』（杏林書院）

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールで対応する。メールアドレスは授業時に伝える。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	

高齢者の音楽療法

非常勤講師 田原ゆみ

科目コード：THE103

専門／学年：全専門／1年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 高齢化の進展により、高齢者を対象とした音楽療法に対するニーズや期待は年々高まっている。本授業では主に高齢者のための音楽療法に関する基本的な知識を習得するとともに、その実施方法について具体的に学ぶ。また、近年関心が高まっているホスピス・緩和ケアにおける音楽療法についても事例を交えながら学ぶ。

到達目標 高齢者のための音楽療法に関する基本的な知識を身に付け、四季に合った音楽療法プログラムの作り方とその実施方法について学ぶ。ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法について理解する。

授業計画

第1回	講師と学生の自己紹介 音楽療法の定義、歴史、日本の現状	事前 テキストの p.12～30 を読み、ノートにまとめる 事後 授業内容を振り返り、要点をまとめる	130 分 140 分
第2回	高齢者をとりまく環境および高齢者に多く見られる疾病と障がいについて	事前 高齢者の特徴としてどのような点が挙げられるか、自分の意見をノートにまとめる 事後 授業内容を振り返り、高齢者の環境や疾病についてまとめる	130 分 140 分
第3回	高齢者を対象とした音楽療法の治療理論	事前 テキストの p.31～48 を読み、ノートにまとめる 事後 授業内容を振り返り、高齢者を対象とした音楽療法の治療理論についてまとめる	130 分 140 分
第4回	高齢者を対象とした音楽療法の目標	事前 テキストの p.71～87 を読み、ノートにまとめる 事後 授業内容を振り返り、高齢者を対象とした音楽療法の目標についてまとめる	130 分 140 分
第5回	認知症高齢者を対象とした音楽療法	事前 テキストの p.109～140 を読み、ノートにまとめる 事後 授業内容を振り返り、認知症高齢者の音楽療法の特徴や有効性についてまとめる	130 分 140 分
第6回	神経学的リハビリテーションのための音楽療法	事前 テキストの p.49～70 を読み、ノートにまとめる 事後 授業内容を振り返り、神経学的音楽療法の種類と有効性についてまとめる	130 分 140 分
第7回	介護予防のための音楽療法および健康な高齢者を対象とした音楽療法	事前 テキストの p.181～192 を読み、ノートにまとめる 事後 授業内容を振り返り、健康な高齢者を対象とした音楽療法についてまとめる	130 分 140 分
第8回	高齢者を対象とした音楽療法のプログラムの構成	事前 テキストの p.88～108 を読み、ノートにまとめる 事後 授業内容を振り返り、高齢者を対象とした音楽療法のプログラムについてまとめる	130 分 140 分
第9回	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの作成	事前 テキストの p.141～155 を読み、ノートにまとめる 事後 指定された四季に適合した高齢者の音楽療法プログラムを完成させる	130 分 140 分
第10回	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの発表 (1)	事前 四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの発表準備をする 事後 自身の発表内容の改善点および他の学生の発表を聞いた感想をまとめる	130 分 140 分
第11回	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの発表 (2) およびフィードバック	事前 四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの発表準備をする 事後 自身の発表内容の改善点および他の学生の発表を聞いた感想をまとめる	130 分 140 分
第12回	ホスピス・緩和ケアの概要	事前 ホスピス・緩和ケアについて調べ、ノートにまとめる 事後 授業内容を振り返り、ホスピス・緩和ケアについてまとめる	130 分 140 分
第13回	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法の概要	事前 配布された資料を読み、ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法についてまとめる 事後 授業内容を振り返り、ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法についてまとめる	130 分 140 分
第14回	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法の実践	事前 ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法の事例について調べ、ノートにまとめる 事後 授業内容を振り返り、ホスピス・緩和ケアの音楽療法の効果や留意点についてまとめる	130 分 140 分
第15回	講義内容の総括と試験	事前 これまでの授業を振り返り、要点や疑問点をノートにまとめる 事後 授業内容と試験を振り返り、理解を深める	130 分 140 分

フィードバック 授業内課題やレポートに対するコメントや添削などで適宜フィードバックをおこなう

成績評価 試験 50%、授業内で指示する課題 30%、授業への積極的取組 20%

テキスト 貫行子著『新訂 高齢者の音楽療法』（音楽之友社 2009）
その他、必要に応じて資料を配布する

オフィスアワー 授業後に教室にて対応する

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐					

思春期・成人の音楽療法

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE104

専門/学年：全専門/2 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 近年、音楽療法の研究は目覚ましく、様々な障害や疾患に音楽が適応され、医療分野でも認められてきている。また、様々な音楽療法において音楽の使い方や目的も異なる。それらの音楽療法を幅広く学び、音楽療法の有効性を考える。

到達目標 音楽療法は、年齢・障害・領域によって音楽の使い方、セッションの進め方、形態、評価の仕方等が変わってくる。この授業では、おもに思春期と成人の音楽療法に関して理解を深める。様々な障害や疾患に関しての知識を持ち、それらの障害や疾患に有効な音楽療法の方法を学ぶ。

授業計画 授業は、テキスト内の難解な疾患名や用語等を調べ、理解した上で音楽療法の方法を学びながら進めていく。

第 1 回	精神科での音楽療法 精神科患者の特質	事前 p.129～130 統合失調症の特質を読む。 事後 精神科病院の音楽療法を見学した感想や疑問を提出。	140 分 140 分
第 2 回	精神科での音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.117～128 精神科での音楽療法を読む。 事後 実際の展開・伴奏・プログラムの立て方・配慮点・問題行動の対応についてノートに書き出す。	140 分 140 分
第 3 回	慢性疾患の音楽療法 慢性疾患患者の特質	事前 p.168～172 慢性疾患患者の特質を読む。 事後 慢性疾患・急性疾患の差異。慢性疾患患者の心境。生活指導・医療との協同作業についてまとめる。	140 分 140 分
第 4 回	慢性疾患の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.172～179 「音楽療法の目的と方法」を読む。 事後 音楽療法の適用領域・適用方法・目的・効果をまとめる。	140 分 140 分
第 5 回	心身症の音楽療法 心身症患者の特質	事前 p.195・200～201 「心身症患者の特質」を読む。 事後 ストレスによる胃潰瘍や人間関係に悩む円形脱毛症などについて調べる。	140 分 140 分
第 6 回	心身症の音楽療法 音楽療法の症例を中心に	事前 p.195～200 「5 つの症例」を読む。 事後 摂食障害・高血圧症・肩関節周囲炎・過敏性腸症候群患者に対する音楽療法を学ぶ。	140 分 140 分
第 7 回	神経症・うつ状態の音楽療法 神経症・うつ状態患者の特質	事前 p.204～208 「神経症・うつ状態」を読む。 事後 神経症の症状・うつ状態の症状の特質をノートにまとめる。	140 分 140 分
第 8 回	神経症・うつ状態の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.208～214 「神経症・うつ状態の音楽療法」を読む。 事後 音楽療法の長所と短所・音楽療法の適応・患者と接する時の注意点をノートにまとめる。	140 分 140 分
第 9 回	発達障害の音楽療法 発達障害者の特質	事前 p.131～132 「発達障害者の特質」を読む。 事後 「個人の行動に関する要因」「環境・制度に関する要因」について具体的な例を書き出す。	140 分 140 分
第 10 回	発達障害の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.133～154 「音楽療法の目的と方法」を読む。 事後 地域の人たちとの交流の機会の提供・余暇活動の機会の提供と指導・不適切な行動の軽減を調べる	140 分 140 分
第 11 回	音楽療法で行う障害・疾病の理解 音楽療法士が向きあう対象者への知識	事前 p.5～12 「音楽療法の実践 総論」を読む。 事後 音楽療法士が対象者に向きあう時の注意点を書き出す。	140 分 140 分
第 12 回	音楽療法で行う障害・疾病の理解 音楽療法士としての心構えと責任	事前 p.15～24 「音楽療法士の治療的自我的育成」を読む。 事後 信頼され、人間的に自然体でのぞめるような音楽療法士になるための条件を書き出す。	140 分 140 分
第 13 回	認知症予防の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 「認知症予防の音楽療法」について調べる宿題を出してある。 事後 認知症予防の活動例を作成し、提出。	140 分 140 分
第 14 回	様々な疾患における音楽療法の効果	事前 「音楽療法の効果」について考える宿題をだしてある。 事後 1 つの領域を選び、音楽療法の効果についてレポートを提出。	140 分 140 分
第 15 回	授業のまとめ 理解度確認テスト	事前 1～14 回の復習をする。 事後 理解度確認テストの振り返り。	140 分 140 分

フィードバック 提出したノートにコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 理解度確認テスト 60% 授業態度 20% ノート提出 20%

テキスト 日野原重明監修『標準 音楽療法入門 下 実践編』（春秋社）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐				

音楽療法技法-1

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE107

専門/学年：全専門/1 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	音楽療法では、対象者に合わせることが基本となる。例えば児童の場合、対象児の行動の速度に合わせて音楽の速度を変える。それによって対象児の理解度やセラピストとの関係性も深くなる。高齢者の場合、行動の速度が遅くなる他に声の高さも低くなる。また、音域も狭くなる。従って歌唱では、既成の曲を対象者の音域に合わせたり、速度を遅くすることが必要となる。セラピストは臨機応変に対象者に合わせるよう、努力する。
到達目標	授業の中で模擬セッションを行い、ピアノ担当者はクライアントの歌唱の音域に合わせて演奏したり、楽器演奏の速度に合わせて演奏する。「合わせる」経験を通して音楽療法に必要な、対象者とのコミュニケーションを経験する。
授業計画	楽器・声・動きを使って模擬セッション形式で進めていく。

第 1 回	音楽療法で使われる楽器の名称・演奏方法を学ぶ。	事前 自分の知っている楽器の名称を楽器表に書き入れる。 事後 音楽療法で使われる楽器を加え、演奏方法を書き入れる。	140 分 140 分
第 2 回	音楽療法での音楽のあり方を学ぶ。	事前 配布した参考資料「音楽療法での音楽のあり方」を読んでおく。 事後 一般の演奏と音楽療法の音楽の違いをノートにまとめる。	140 分 140 分
第 3 回	模擬セッション① 既成曲(童謡や唱歌など)でピアノ(セラピスト)楽器(対象者)の 1 対 1 の演奏	事前 各自、童謡や唱歌などの既成曲を決め、ピアノの練習をする。 事後 対象者役(楽器)との演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 4 回	模擬セッション② 同形式で、対象者のテンポを合わせる。	事前 前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をする。 事後 対象者(楽器)とテンポを合わせた演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 5 回	模擬セッション③ 同形式で、対象者のテンポ・強弱を合わせる。	事前 前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をする。 事後 対象者(楽器)とテンポと強弱を合わせた演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 6 回	模擬セッション④ 同形式で、ピアノ伴奏の工夫	事前 前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をし、伴奏形を工夫する。 事後 セラピスト役が伴奏を替えることによって対象者役の何が替るのかノートに書きだす。	140 分 140 分
第 7 回	様々なリズムを組み合わせて 1 曲(8 小節)を完成させる(協同作業)	事前 リズムまたはリズムパターンを考えておく。 事後 できた 8 小節を楽器で演奏し、伴奏をつける。	140 分 140 分
第 8 回	前回作成したリズムに強弱をつけ、楽器で演奏する(協同作業)	事前 前回作成した 8 小節の曲に強弱をつける。 事後 できた 8 小節を楽器で強弱をつけて演奏し、伴奏をつける。	140 分 140 分
第 9 回	前回作成したリズムにメロディをつけ、歌う(協同作業)	事前 前回作成した 8 小節の曲に、メロディをつける。 事後 メロディをつけた 8 小節に歌詞をつける。	140 分 140 分
第 10 回	セッションで使う「こんにちは」の曲を作曲する(個人)	事前 子どものセッションにふさわしい「こんにちは」の曲を作る。 事後 「こんにちは」の曲を作るにあたっての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 11 回	作曲した「こんにちは」を 1 人ずつ発表する	事前 作曲した「こんにちは」の楽譜を完成させる。 事後 1 人ずつの作品について、感想を提出。	140 分 140 分
第 12 回	即興課題 ドーリア旋法①教会旋法の説明	事前 教会旋法について調べる。 事後 ドーリア旋法について復習する。	140 分 140 分
第 13 回	即興課題 ドーリア旋法②ピアノ連弾(メロディと伴奏)でドーリア旋法に慣れる。	事前 ドーリア旋法の復習 事後 ピアノ役 2 人で連弾し、ドーリア旋法の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 14 回	即興課題 ドーリア旋法③1 人でピアノ演奏する。	事前 ドーリア旋法の復習。 事後 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第 15 回	即興課題 ドーリア旋法④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 ドーリア旋法の復習。 事後 対象者の楽器のリズムに合わせて演奏することを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分

フィードバック 模擬セッションについて、コメントを言い、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%、課題への取り組み 25%、協同作業内の参加度 25%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室及び E メールで対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 音楽療法の疑似セッションの中で小グループになり、リーダー役、ピアノ役になってセッションを行った後、意見を出し合う。

備考

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	

音楽療法技法-2

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE108

専門/学年：全専門/1 年次

形態：演習

単位数：2 単位

概要 音楽療法で使われる音楽には既成音楽と即興音楽があり、対象者によって使い分けが必要となる。また、即興音楽には旋法や音階などの技術が必要である。それらの即興音楽を修得する方法として音楽性・即興性・表現力などを学ぶ。また、後半は、音楽療法で使われる合奏曲を、チームを組んで演奏したり、創作しながら、チームでのコミュニケーションを通して、対象者とのコミュニケーションを学ぶ。

到達目標 即興音楽は、ドーリア旋法・アラビア音階・沖縄音階を、音階楽器・連弾・ソロ演奏・対象者役の人の楽器と一緒に演奏と難易度を上げながら修得する方法で行なう。合奏はチームで合奏を行うだけでなく、チームで話し合い、楽器を決め、役割を決め、練習するまでのプロセスを通して、チームでのコミュニケーションを作ることを目標とする。

授業計画 楽器・声・動きを使って模擬セッション形式で進めていく。

第1回	即興課題 アラビア音階①アラビア音階の説明	事前 アラビア音階について調べる。 事後 アラビア音階を五線紙に書き、復習する。	140 分 140 分
第2回	即興課題 アラビア音階②ピアノ連弾(メロディと伴奏)でアラビア音階に慣れる。	事前 アラビア音階の復習。 事後 ピアノ役 2人で連弾し、アラビア音階の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第3回	即興課題 アラビア音階③1人でピアノ演奏	事前 アラビア音階の復習 事後 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第4回	即興課題 アラビア音階④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 アラビア音階の復習 事後 対象者のリズムに合わせることを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分
第5回	即興課題 沖縄音階①沖縄音階の説明	事前 沖縄音階について調べる。 事後 沖縄音階を五線紙に書き、復習する。	140 分 140 分
第6回	即興課題 沖縄音階②ピアノ連弾(メロディと伴奏)で沖縄音階に慣れる。	事前 沖縄音階の復習 事後 ピアノ役 2人で連弾し、アラビア音階の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第7回	即興課題 沖縄音階③1人でピアノ演奏	事前 沖縄音階の復習 事後 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第8回	即興課題 沖縄音階④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 沖縄音階の復習 事後 対象者のリズムを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分
第9回	合奏曲を作る(協同作業)① 音楽療法楽器を用いて既成曲(ハンガリア舞曲などの)合奏曲を作る。	事前 合奏曲を作るための既成曲を決めておく。 事後 音楽療法の使用楽器がふさわしかったかノートに書きだす。	140 分 140 分
第10回	合奏曲を作る(協同作業)② 音楽療法のメロディ楽器を用いて既成曲(ふるさとなどの)合奏曲を作る。	事前 合奏曲を作るための既成曲を決めておく。 事後 既成曲にふさわしいメロディ楽器だったかノートに書きだす。	140 分 140 分
第11回	合奏曲を作る(協同作業)③ 絵楽譜・色音符楽譜等の視覚的教材を用いて合奏を体験する。	事前 既成曲を決め、どのような視覚教材にするか考えておく。 事後 視覚教材を完成させる。	140 分 140 分
第12回	合奏曲を作る(協同作業)④ 既成曲で絵楽譜を用いた合奏曲を作成する。	事前 前回作成した視覚教材を準備する。 事後 演奏し、工夫した面などについてノートに書きだす。	140 分 140 分
第13回	作成した絵楽譜を各グループで発表する。 発表後、意見交換をする。	事前 さらに完成させた視覚教材を準備する。 事後 発表後、意見交換した内容を書きだし、感想を提出。	140 分 140 分
第14回	「静かな森の大きな木」(オリジナル曲集を参考資料として配布) グループで話し合い、模擬セッションを考える(協同作業)	事前 あらかじめ参考資料より曲を決めておく。 事後 模擬セッションをするにあたって、工夫した面、難しかった面を書きだす。	140 分 140 分
第15回	同模擬セッションをグループごとに発表。	事前 前回決めた曲を使って模擬セッションを準備する。 事後 模擬セッション後、成功した面、反省した面を書きだし、提出する。	140 分 140 分

フィードバック 即興演奏及び合奏でのプロセスについて、コメントを言い、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%、課題への取り組み 25%、協同作業内の参加度 25%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室及び E メールで対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 音楽療法の疑似セッションの中で小グループになり、リーダー役、ピアノ役になってセッションを行った後、意見を出し合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	

臨床心理学

※音楽療法士養成に関する科目

大学教授 石橋明佳

科目コード：NAT103

専門/学年：全専門/1年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	臨床心理学とは、心理的な問題の解決や適応のため、助言・相談や診断・治療、および、その研究を行う心理学の一分野である。人間関係などから生じる葛藤や不安、怒り、孤独感について考えると共にいわゆる「心の病」とその治療について学ぶ。さらに心理テスト等を通して、思考・感情・行動を検証し、自分自身を含めた人間理解力を高める。
到達目標	臨床心理学の基礎理論および臨床の実際について学ぶと共に人間理解を深め、心身の健康管理について学ぶ。具体的には①臨床心理学の定義・歴史、実践領域について学ぶ、②精神障害・発達障害に関する基礎的知識の習得、③臨床心理学における主要なアプローチの理論と実際、④自分の心身の状態について知る、⑤心身の健康管理法を身につける。

回	内容	事前	事後	単位数
第1回	ガイダンス：授業の流れの詳細と受講に関する注意 臨床心理学の定義、領域、対象	テキストの関連ページを読んで理解する	心理学が人々にできることを考察してみる	70分 200分
第2回	人間理解の方法	テキストの関連ページを読んで理解する	自分の自己理解の程度について分析する	160分 110分
第3回	ストレスと心の病の関係 主な精神障害の特徴と治療方法（1）自律神経失調症、過敏性腸症候群	テキストの関連ページを読んで理解する	授業で行ったケーススタディを復習し、各障害の理解を深める	140分 130分
第4回	主な精神障害の特徴と治療方法（2）依存症、摂食障害、パニック障害、社会不安障害、強迫性障害	テキストの関連ページを読んで理解する	授業で行ったケーススタディを復習し、各障害の理解を深める	140分 130分
第5回	主な精神障害の特徴と治療方法（3）PTSD、適応障害、うつ病、躁うつ病、統合失調症	テキストの関連ページを読んで理解する	授業で行ったケーススタディを復習し、各障害の理解を深める	140分 130分
第6回	主な発達障害の特徴：自閉症スペクトラム、注意欠陥・多動性障害、学習障害 自殺と心の病	テキストの関連ページを読んで理解する	授業で行ったケーススタディを復習し、各障害の理解を深める	140分 130分
第7回	パーソナリティとパーソナリティ障害	テキストの関連ページを読んで理解する	授業で行ったケーススタディを復習し、各障害の理解を深める	140分 130分
第8回	第1回～7回のまとめ	テキスト及び自分のノートに目を通し、理解度を確認する	理解不足だった部分の復習をする	110分 160分
第9回	カウンセリングと心理療法 カウンセラーに必要な基本的知識 カウンセリング・テクニックの実践	テキストの関連ページを読んで理解する	現代社会におけるカウンセリングの在り方・必要性を検証する	140分 130分
第10回	認知行動療法とその他の代表的な心理療法	テキストの関連ページを読んで理解する	授業で学んだテクニックを日常会話の中で試してみる	70分 200分
第11回	心理的アセスメント	テキストの関連ページを読んで理解する	自分の認知・行動パターンを分析する	110分 160分
第12回	メンタルヘルスを巡る諸問題	テキストの関連ページを読んで理解する	インターネット等を使って最新情報を収集する	210分 60分
第13回	心の健康のための運動・食生活・休養	テキストの関連ページを読んで理解する	問題の原因を考えると共に、自分の中に誤解や偏見がないか考えてみる	110分 160分
第14回	第9回～14回のまとめ	テキスト及び自分のノートに目を通し、理解度を確認する	自分の生活を見直し、心の健康のためにできる改良点を検討する	80分 190分
第15回		テキスト及び自分のノートに目を通し、理解度を確認する	理解不足だった部分の復習をする	110分 160分

フィードバック 課題やレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 レポート60%、課題（グループワークを含む）40%の評価配分を基準とし、受講態度（授業に取り組む姿勢・質疑応答等）を含めて総合的に評価する。

テキスト プリント教材「臨床心理学」（約700円）

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて相談の上、対応する sishibashi@uenogakuen.ac.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐

副科器楽（ピアノ）

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：IND204

専門/学年：器楽・声楽専門/2年次

形態：実技

単位数：2単位

概要 ピアノ奏法の基本を確認し、教育実習・音楽療法実習での実践力を身につける。

到達目標 様々なピアノ曲を学び、より豊かな表現力溢れる演奏にむすびつける。

授業計画 通年 15 回、20 分の個人指導。
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

第 1 回	練習曲 (1) 一打鍵一	事前 練習曲を 1 曲選曲して、読譜をする 事後 鍵盤の下まで打鍵しているか、確認をする	105 分 105 分
第 2 回	練習曲 (2) 一運指一	事前 楽譜に記されている指使いで、練習をする 事後 運指の確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 3 回	バッハの作品 (1) 一読譜一	事前 バッハの作品を 1 曲選曲して、読譜をする 事後 読譜の確認をする	105 分 105 分
第 4 回	バッハの作品 (2) 一和声感一	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和声の響きを意識して、練習をする	105 分 105 分
第 5 回	ソナタ (1) 一形式一	事前 モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェンのソナタから 1 曲を選び、1 楽章の読譜をする 事後 形式を考えて、練習をする	105 分 105 分
第 6 回	ソナタ (2) 一表現一	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現をする上で、最適なテンポを探す	105 分 105 分
第 7 回	ショパンの作品 (1) 一強弱一	事前 ショパンの作品を 1 曲選曲して、読譜をする 事後 強弱の確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 8 回	ショパンの作品 (2) 一音色一	事前 ショパンの要求しているニュアンスを探りながら、練習をする 事後 曲のキャラクターを考えながら、練習をする	105 分 105 分
第 9 回	試験曲一読譜の確認一	事前 作品を選曲して、読譜をする 事後 楽語を調べ、読譜の確認をする	105 分 105 分
第 10 回	試験曲一形式一	事前 形式を考えて、練習をする 事後 曲の大きな流れを捉える練習をする	105 分 105 分
第 11 回	試験曲一表現一	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現をする上で、最適なテンポを探す	105 分 105 分
第 12 回	試験曲一和声感一	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和声の響きを意識して、練習をする	105 分 105 分
第 13 回	試験曲一強弱一	事前 強弱の確認をして、練習をする 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習する	105 分 105 分
第 14 回	試験曲一音色一	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探りながら、練習をする 事後 曲のキャラクターを考えながら、練習をする	105 分 105 分
第 15 回	試験曲の仕上げ一まとめ一	事前 フレーズ感をもって演奏をしているか、確認をする 事後 暗譜の確認をする	105 分 105 分

フィードバック 学年末試験の演奏について、コメントをつけ、フィードバックする

成績評価 学年末試験の評価が 50 点以上であること。試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
学年末試験にレッスンへの取り組みを加味して総合的に評価。なお、学年末試験評価は複数教員（ピアノ教員）による

テキスト 適宜授業内に指示する

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各実技担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐				

副科器楽（ピアノ以外）

※音楽療法士養成に関する科目

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND204

専門／学年：全専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	ピアノ専門の学生がフルート、フルートの学生がヴァイオリン、ヴァイオリンの学生がハーブ等、他の分野の楽器を個人レッスンで学ぶ事ができる。

到達目標	今日の学校教育の現場に於いては多様な音楽教育が行われている。専門以外の楽器奏法を習得し、さらに豊かな表現を目標とし、広く器楽教育の視野を持てるようにすることが望ましい。専門外の楽器を研究することは教職取得のみならず、大きな意味で、自分の音楽世界が広がっていくことであろう。15 回目の授業終了後に発表会を行う。
------	---

授業計画	2 年次で履修。年間 15 回、隔週 20 分の個人指導。以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。
------	--

回数	内容	事前	事後	105 分
第 1 回	楽器の仕組みについて	選択楽器の歴史を調べ、楽器の演奏を聴く。購入する場合は事前に担当教員に必ず相談すること	仕組みについて確認し、教則本等今後必要な準備をする	105 分
第 2 回	楽器の扱い方について	教則本を読み楽器の扱い方について調べる	楽器の取り扱い方や掃除の仕方の確認をする	105 分
第 3 回	音を出してみよう（正しい持ち方）	CD 等で演奏を聴きイメージを持つ	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 4 回	音を出してみよう（ロングトーン）	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 5 回	音を出してみよう（正しい姿勢）	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 6 回	3 つの音の指を覚える	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 7 回	3 つの音で楽曲のレッスン	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 8 回	3 つの音で楽曲の仕上げ	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 9 回	5 つの音の指を覚える	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 10 回	5 つの音で楽曲のレッスン	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 11 回	5 つの音で楽曲の仕上げ	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 12 回	1 オクターブの楽曲のレッスン	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 13 回	2 オクターブの楽曲のレッスン	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 14 回	発表会用の楽曲のレッスン	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 15 回	発表会用の楽曲の仕上げ	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し発表会に向けて練習する	105 分

フィードバック 発表会終了後、教員よりコメントを受ける。

成績評価 発表会 30% 課題 30% 授業態度 40%

テキスト 各教員から教則本の指示あり。

オフィスアワー レッスン後すぐに対応

備考 楽器購入の際は必ず担当教員に相談のこと

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐								

ピアノ伴奏法演習 1

※音楽療法士養成に関する科目

講師 倉地恵子

科目コード：PEN203

専門/学年：全専門/2 年次、専攻科

形態：演習

単位数：1 単位

概要 学内演奏会に向けて、伴奏法の研究を行う。

到達目標 伴奏の重要性をあらためて感じとり、ピアノ伴奏の魅力を追及する。実践を通して、詩・言葉によってあらわされた情景や、詩・言葉から引きだされた情感を的確にピアノ伴奏で表現できることを目標とする。

授業計画 学内演奏会・定期演奏会オーディションに向けて、伴奏法の研究を行う。

第 1 回	伴奏とは	事前 日本歌曲の作曲家の流れを調べ、特色を探る 事後 ドイツ歌曲の作曲家の流れを調べ、特色を探る	50 分 50 分
第 2 回	日本歌曲の伴奏<瀧廉太郎の作品> 詩の情景をピアノでどのように表現するか	事前 作曲家と作詩家の生涯と時代背景を調べ、読譜をする 事後 詩の内容の確認をする	50 分 50 分
第 3 回	日本歌曲の伴奏<山田耕筰の作品> 詩の情感をピアノでどのように表現するか	事前 作曲家と作詩家の生涯と時代背景を調べ、読譜をする 事後 詩の内容の確認をする	50 分 50 分
第 4 回	モーツァルトの歌曲の伴奏<すみれ> 細かい表現力を養う	事前 独語 1 つ 1 つの単語を調べ内容の確認をし、読譜をする 事後 作曲家に与えた影響について考える	50 分 50 分
第 5 回	教育実習で取り上げる曲の伴奏 プレスを考える	事前 それぞれのパートの練習をする 事後 プレスの場所の確認をする	50 分 50 分
第 6 回	教育実習で取り上げる曲の伴奏 対象者にあわせたテンポ感について	事前 弾き歌いが出来る様に練習をする 事後 合唱部分のハーモニーを演奏できる様に練習をする	50 分 50 分
第 7 回	シューベルトの歌曲の伴奏<野ばら> 有節歌曲の伴奏について	事前 独語の単語を調べ、内容の確認をし、読譜をする 事後 ゲーテについて調べる	50 分 50 分
第 8 回	シューベルトの歌曲の伴奏<ます> 情景の細かい表現について	事前 独語の単語を調べ、内容の確認をし、読譜をする 事後 作曲家について調べ、詩の奥深い内容を探る	50 分 50 分
第 9 回	シューベルトの歌曲の伴奏<糸を紡ぐグレートヒェン>	事前 独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする 事後 ゲーテの<ファウスト>について調べる	50 分 50 分
第 10 回	シューベルトの歌曲の伴奏<菩提樹>	事前 独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする 事後 シューベルトの三大歌曲集と冬の旅について調べる	50 分 50 分
第 11 回	シューマンの歌曲の伴奏<献呈>	事前 独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする 事後 作曲家について調べ、詩の奥深い内容を探る	50 分 50 分
第 12 回	学内演奏会の曲の伴奏 バランスについて	事前 読譜をする 事後 ソロと伴奏の楽譜からバランスを考える	50 分 50 分
第 13 回	学内演奏会の曲の伴奏 表現について	事前 ソロの音楽表現を感じとれる様に練習をする 事後 ソロの音楽表現に合わせられる様に練習をする	50 分 50 分
第 14 回	学内演奏会の曲の伴奏 音色について	事前 ソロの音色を感じとれる様に練習をする 事後 ソロの音色に合わせられる様に練習をする	50 分 50 分
第 15 回	学内演奏会の曲の伴奏 仕上げ	事前 ソロの人と曲の内容を確認する 事後 ピアノのふたの開閉状態を考える	50 分 50 分

フィードバック 学内演奏会での伴奏についてコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方、および授業態度による。

テキスト 各自で、上記の楽譜を用意する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

アクティブ・ラーニング 授業内で伴奏を担当する学生が、楽曲についてプレゼンテーションを行う。その後、楽曲、演奏に関してディスカッションをし、一つの曲を作り上げる

備考 学内演奏会で伴奏する予定の学生は、履修すること。受講する学生の様子を見て、曲を変更することがある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐

専門/学年： 全専門/1~2 年次

形態：実習 単位数 1 単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標 年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。

第 1 回	V.ウィリアムズ 「トッカータ・マルツィアール」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	J.バーンズ 「詩的間奏曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	A.リード 「アルメニアン・アンダンス パート 1」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	F.v.スッペ 「軽騎兵序曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	R.ワーグナー 「葬送行進曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 6 回	C.オルフ 「カルミナ・ブラーナ」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 7 回	V.ウィリアムズ 「トッカータ・マルツィアール」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	J.バーンズ 「詩的間奏曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	A.リード 「アルメニアン・アンダンス パート 1」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 10 回	F.v.スッペ 「軽騎兵序曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 11 回	R.ワーグナー 「葬送行進曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 12 回	C.オルフ 「カルミナ・ブラーナ」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応します。予約も可能。

備考 曲目を変更する可能性がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐					

専門/学年： 全専門/1~2 年次

形態：実習 単位数 1 単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標 年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。

第 1 回	A.コープランド 「戸外のための序曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	J.V.ロースト 「カンタベリーコーラル」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	P.スパーク 「宇宙の音楽」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	J.ブラームス 「大学祝典序曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	協奏曲(学生による)	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 6 回	C.ドビュッシー 「海」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 7 回	A.コープランド 「戸外のための序曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	J.V.ロースト 「カンタベリーコーラル」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	P.スパーク 「宇宙の音楽」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 10 回	J.ブラームス 「大学祝典序曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 11 回	協奏曲(学生による)	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 12 回	C.ドビュッシー 「海」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応します。予約も可能。

備考 曲目を変更する可能性がある

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐					

指揮法

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

※実務経験を持つ教員による授業

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団のアソシエイト・コンダクターを務めた教員が、クラスの「合唱」を指揮することで実践的な経験を積む授業を行う。

非常勤講師 大河内雅彦

科目コード：SLF109

専門/学年：全専門/1 年次

形態：演習

単位数：2 単位

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・指揮の基本技法を習得する。 ・実際のクラス（15名程度）の2部合唱（ピアノ連弾による伴奏）を題材にして、指揮および指導の実習をする。 ・スコアを読むための予備知識を習得する。（ハ音記号、移調楽器の記譜について） ・クラスのメンバーで適切なアンサンブルが組める場合、そのアンサンブルを指揮してみる。
----	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理論的なことを押さえつつも、指揮および指導を「実践する」。 ・実際に指揮を体験してみるにより、それに必要な「準備」、「心構え」、「リハーサルの方法論」などを、クラスメートとディスカッション出来るようにする。 ・吹奏楽やオーケストラのスコアを読むための準備として、移調楽器の記譜についての知識を得ることに加え、数種類の「ハ音記号」を読めるようにする。
------	---

授業計画		事前	事後	120分
第1回	オリエンテーション 指揮の理論についての概要 移調楽器についての説明①	移調楽器にどんな楽器があるかを調べてくる	移調楽器について授業で話した内容について概要をつかむこと	150分
第2回	ハイ・ホー 譜読み 移調楽器についての説明②	ハイ・ホー 譜読み	移調楽器について授業で話した内容の確認	150分
第3回	ハイ・ホー 仕上げ ハ音記号についての説明	ハイ・ホー 譜読み	ハ音記号について概要をつかむ	150分
第4回	チム・チム・チェリー 譜読み テノール記号の練習 p.1-3	チム・チム・チェリー 譜読み	テノール記号の反復練習	150分
第5回	チム・チム・チェリー 仕上げ テノール記号の練習 p.4-5	チム・チム・チェリー 譜読み	テノール記号の反復練習	150分
第6回	アンダー・ザ・シー 譜読み テノール記号の練習 p.6-7	アンダー・ザ・シー 譜読み	テノール記号の反復練習	150分
第7回	アンダー・ザ・シー 譜読み テノール記号の練習 p.8-10	アンダー・ザ・シー 譜読み	テノール記号の反復練習	150分
第8回	アンダー・ザ・シー 仕上げ メゾソプラノ記号の練習 p.13-14	アンダー・ザ・シー 譜読み	メゾソプラノ記号の反復練習	150分
第9回	ビビディ・バビディ・ブー 譜読み メゾソプラノ記号の練習 p.15-16	ビビディ・バビディ・ブー 譜読み	メゾソプラノ記号の反復練習	150分
第10回	ビビディ・バビディ・ブー 仕上げ メゾソプラノ記号の練習 p.17-18	ビビディ・バビディ・ブー 譜読み	メゾソプラノ記号の反復練習	150分
第11回	ホール・ニュー・ワールド 譜読み メゾソプラノ記号の練習 p.19-20	ホール・ニュー・ワールド 譜読み	メゾソプラノ記号の反復練習	150分
第12回	ホール・ニュー・ワールド 仕上げ アルト記号の練習 p.21-22	ホール・ニュー・ワールド 譜読み	アルト記号の反復練習	150分
第13回	小さな世界 譜読み アルト記号の練習 p.23-24	小さな世界 譜読み	アルト記号の反復練習	150分
第14回	小さな世界 仕上げ アルト記号の練習 p.25-26	小さな世界 譜読み	アルト記号の反復練習	150分
第15回	まとめ 3つのハ音記号の練習	全ての曲 譜読み確認	3つのハ音記号の反復練習	120分

フィードバック 実技系の授業なので、各自が指揮をする際に丁寧に質問に答える。

成績評価 事前学習への取り組み（十分な譜読み）50% 授業への積極的な取り組み 50%

テキスト テキストは使用しない。その都度プリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング クラスの「合唱」を実際に指揮し、歌手やピアニストに意見を聞きながら問題点を探し、講師が改善のヒントを与え、学生にその問題点を解決させる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐								

教育合奏

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 大河内雅彦

科目コード： IEN209

専門/学年： 全専門/2 年次

形態：実技

単位数：2 単位

概要

- ・教育合奏で使用される楽器の知識を習得する（Sop&Alt リコーダー、打楽器、ピアノを中心に）
- ・リコーダー合奏の指揮および指導の実習をする。
- ・簡単なコードネームを習得する。
- ・器楽合奏の編曲（4 曲程度）の実習と、その演奏の発表をする。

到達目標

- ・Sop&Alt リコーダーを演奏を出来るようにする。
- ・リコーダー合奏の指揮および指導を実際に体験してみるにより、それに必要な「準備」、「心構え」、「リハーサルの方法論」などを、クラスメートとのディスカッションも取り入れつつ出来るようにする。
- ・器楽合奏の編曲実習をすることにより、「プラン」、「スコア作成」、「演奏の練習」などのプロセスを学習する。

回	内容	事前	事後	時間
第 1 回	リコーダー合奏「花は咲く」	コードネームについて何か読めるものがある場合は読んでくること。	コードネームの概要を確認すること。	120 分
第 2 回	コードネームを使う実習	「花は咲く」の譜読み	「花は咲く」の反復練習	150 分
第 3 回	リコーダー合奏「ふるさと」	「ふるさと」の譜読み	「ふるさと」の反復練習	120 分
第 4 回	リコーダー合奏「あまちゃん オープニングテーマ」	「あまちゃん オープニングテーマ」の譜読み	「あまちゃん オープニングテーマ」の反復練習	150 分
第 5 回	リコーダー合奏「笑点のテーマ」	「笑点のテーマ」の譜読み	「笑点のテーマ」の反復練習	120 分
第 6 回	リコーダー合奏「宇宙戦艦ヤマト」	「宇宙戦艦ヤマト」の譜読み	「宇宙戦艦ヤマト」の反復練習	150 分
第 7 回	リコーダー合奏「花」	「花」の譜読み	「花」の反復練習	120 分
第 8 回	リコーダー合奏「星に願いを」	「星に願いを」の譜読み	「星に願いを」の反復練習	150 分
第 9 回	クリスマス・メドレーの編曲についての説明 (クラスのメンバーを 2 グループに分けて、4 曲程度のメドレーを作る)	メドレーの曲目について考えてくること。	曲順を決定する	120 分
第 10 回	クリスマス・メドレーの 1 曲目の編曲	1 曲目の編曲のための準備	1 曲目の編曲の修正と練習	150 分
第 11 回	クリスマス・メドレーの 2 曲目の編曲	2 曲目の編曲のための準備	2 曲目の編曲の修正と練習	120 分
第 12 回	クリスマス・メドレーの 3 曲目の編曲	3 曲目の編曲のための準備	3 曲目の編曲の修正と練習	150 分
第 13 回	クリスマス・メドレーの 4 曲目の編曲	4 曲目の編曲のための準備	4 曲目の編曲の修正と練習	120 分
第 14 回	クリスマス・メドレーの繋ぎ部の編曲とリハーサル	繋ぎ部分の編曲のための準備	メドレーの修正と練習	150 分
第 15 回	クリスマス・メドレーの発表	メドレーの練習	メドレーについての反省	240 分

フィードバック 実技系の授業なので、各自が指揮および指導をする際に丁寧に質問に答える。

成績評価 事前学習への取り組み（十分な譜読み等）50% 授業への積極的な取り組み 50%

テキスト テキストは使用しない。その都度資料を配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

アクティブ・ラーニング リコーダー合奏に実際に指揮及び指導し、奏者の意見を聞きながら問題点を探し、講師が改善のためのヒントを与え、学生にその問題を解決させる。

備考 全員 Sop&Alt リコーダーを準備すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐

日本の伝統的な歌唱法

非常勤講師 松浦奈々恵

科目コード： IEN209

専門/学年： 全専門/2 年次

形態： 実技

単位数： 1 単位

概要 日本伝統音楽である長唄を通し、歴史や発声法の修得および三味線の仕組みや演奏法を知る。

- 到達目標
- ・長唄「勸進帳」より謡いガカリ、大薩摩を唄えるようにする。
 - ・三味線の調弦および「寄せの合方」を弾けるようにする。日本音楽の「間」を知る。

授業計画

第1回	長唄の歴史。「勸進帳」の説明。「勸進帳」より、謡いガカリと大薩摩の部分「旅の衣は藤原の〜月の都を立ち出でて」までを唄う。	事前 配布プリントを読む。 事後 授業で学んだ唄を復習して唄う。	120分 130分
第2回	長唄の伴奏楽器である三味線の歴史、仕組み、演奏法、譜面の説明、三味線の調弦、構えを出来るようにする。「さくら」を弾いてみる。(出来たら替手を入れてみる。)	事前 前回学んだ唄を復習して唄う。 事後 三味線の調弦法、構えや撥の使い方の復習をする。	120分 130分
第3回	唄の復習。引き続き「これやこの〜海津の浦に着きにけり」までを唄えるようにする。	事前 前回の唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 今回学んだ部分を復習して唄う。	120分 130分
第4回	唄の復習。引き続き「それ山伏と〜押しもんだり」までを唄えるようにする。 三味線「さくら」の復習、「佃の合方」を口三味線で言えるようにし、その後弾いてみる。	事前 「さくら」の三味線の勘所(ポジション)の復習確認をする。 事後 「佃の合方」の口三味線を暗記する。	120分 130分
第5回	唄の復習。引き続き「もとより〜読み上げけれ」までを唄えるようにする。	事前 前回までの唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 今回学んだ部分を復習して唄う。	120分 130分
第6回	唄の復習。「佃の合方」の復習。出来たら替手を入れてみる。次に勸進帳より「寄せの合方」を弾いてみる。	事前 「さくら」の復習をする。「佃の合方」の口三味線、勘所の復習確認をする。 事後 「寄せの合方」の旋律を覚える。	120分 130分
第7回	唄を始めから通して唄えるようにする。「さくら」「佃の合方」「寄せの合方」の復習。 三味線は2チームに別れて練習。	事前 前回までの唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 唄の復習をする。三味線の旋律、勘所を復習する。	120分 130分
第8回	唄の復習。三味線は2チームにて練習。横並びで指揮者のいない演奏形態の体験。最後に唄を全員で唄い、三味線は各チームで発表。	事前 唄の復習をする。三味線の旋律、勘所を復習する。 事後 唄と三味線の出来なかった箇所を復習する。三味線の仕組みの復習をする。	120分 130分

フィードバック 学生の長唄および三味線の演奏に対する助言 三味線の構えや撥の当て方など、演奏技術に対する助言・評価

成績評価 長唄・三味線の実技の修得状況 60%並びに取り組みの様子 30% 定期試験の結果 10%

テキスト ※適宜授業内配布。「勸進帳(研精譜)」 三味線合方(文化譜)

オフィスアワー 講義時間の前後

アクティブ・ラーニング 三味線体験の際に、本手と替手の各パートを小さなグループに分かれて合奏をする。それによって指揮がいらない中で息を合わせたり、相手に合わせる感覚を感じてもらい 一体感を作る。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	

和楽器研究法

客員教授 深海さとみ

科目コード：SCH202

専門/学年： 全専門/2年次

形態：講義

単位数：1単位

概要 テキスト『箏エチュード』を用いて、毎回準備運動から始め、呼吸・身体の使い方、構え、調弦などの基礎事項の習熟を目指しながら、特に音楽授業で教材として用いられている《さくらさくら》と《六段の調べ》の演奏を中心に知識と技能を身に付けていく。

到達目標 学習指導要領に示された和楽器を用いた授業実践を行うために必要な和楽器演奏の技能を、息や身体の使い方、唱歌を用いた具体的な指導法など、指導上のポイントを身に付けながら箏を用いた学習指導の技能を中心に身に付ける。

授業計画 4回×2日間の集中講義で行う。

第1回	上半身の力を抜き、箏を楽に弾くための準備運動。爪の選び方。構え方。	事前 事後	『箏エチュード』の全体に目を通してくる。 『箏エチュード』pp.1-19 を熟読し、身体の使い方を復習する。	130分 140分
第2回	準備運動。構え方の演習。調弦を正確に素早くとる。	事前 事後	『箏エチュード』pp.20-27 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』pp.20-27 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130分 140分
第3回	準備運動。箏に馴れる。箏に向かう姿勢を身に付ける。《さくらさくら》の演奏。	事前 事後	『箏エチュード』pp.28-33 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』pp.28-33 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130分 140分
第4回	準備運動。箏に馴れる。呼吸と身体の使い方。親指で下降、人差し指・中指で上行。	事前 事後	『箏エチュード』pp.34-35 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』pp.34-35 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130分 140分
第5回	準備運動。箏に馴れる。口唱歌と共に《さくらさくら》のパリエーションを学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』pp.36-43 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』pp.36-43 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130分 140分
第6回	準備運動。《六段の調べ》初段の冒頭部分。息と身体を使って弾く。引き色、押し手。	事前 事後	『箏エチュード』pp.70-73 を読み、予習をしてくる。 《六段の調べ》初段の冒頭部分を復習する。	130分 140分
第7回	準備運動。《六段の調べ》初段独奏を通して、授業で生徒に気付かせたいポイントを学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』p.115の50番を、イメージトレーニングしてくる。 《六段の調べ》初段のレッスン内容を復習する。	130分 140分
第8回	発表会。各自が《さくらさくら》《六段の調べ》を選んで、独奏する。	事前 事後	《さくらさくら》または《六段の調べ》を練習してくる。 『箏エチュード』の練習曲に挑戦する。	130分 140分

フィードバック 毎時間のレッスンの中で、適宜フィードバックを行う。

成績評価 毎回の授業に向かう姿勢（40%） 発表会での演奏の内容（60%）

テキスト 深海さとみ著『箏エチュード』 邦楽ジャーナル
必要な楽譜はプリントを配付する。

オフィスアワー 講義の前後の時間で行う。

備考 できれば、箏爪を購入することが望ましい。購入希望者には、始めのレッスン時にサイズに合わせた爪をつくり販売できるようにする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	

音楽療法総合演習-1

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE201

専門/学年：全専門/2 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 音楽療法実践において重要な事は、対象者とセラピストとそして音楽がどのように関わって良い時間を作っていくかである。また、音楽療法において対象者の行動が良い方向に変化していつているかも正しい視点で判断しなければならない。このような正しい視点を総合的に高めることが本科目の目的である。

到達目標 音楽療法総合演習では、実践の前段階として実習時やテキストに出て来る事例のビデオ等を使用しながら、セラピストの音楽の提供の仕方、対象者への対応の仕方、さらに対象者の動き、表情、音楽に対する反応、楽器の使い方などを客観的に観察する力を養うことを目標とする。

授業計画 高齢者施設での音楽療法実習。

第1回	ビデオ観察方法と記録の取り方	事前 参考資料を配布。読む。 事後 授業中に観たビデオを記録したものをきちんとした形に書き直す。	140 分 140 分
第2回	第1回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 前回のビデオの取り方を復習する。 事後 第1回実習のビデオを記録したものを基に活動や関わりを見直す。	140 分 140 分
第3回	第2回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 先読みの仕方、ピアノの弾き方などについて復習。	140 分 140 分
第4回	第2回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備。 事後 第2回実習のビデオを記録したものを基に活動やピアノ伴奏について見直す。	140 分 140 分
第5回	第3回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 歌唱練習、ピアノの弾き方などについて復習。	140 分 140 分
第6回	第3回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備。 事後 第3回実習のビデオを記録したものを基に活動や関わりについて見直す。	140 分 140 分
第7回	第4回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、リーダーの役割について復習。	140 分 140 分
第8回	第4回高齢者施設での実習のビデオを観る	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 第4回実習のビデオを記録したものを基に関わり方やピアノ伴奏について見直す。	140 分 140 分
第9回	第5回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、活動について復習。	140 分 140 分
第10回	第5回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 第5回実習のビデオを記録したものを基にリーダーの役割、関わり方について見直す。	140 分 140 分
第11回	第6回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、活動について復習。	140 分 140 分
第12回	第6回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 第6回実習のビデオを記録したものを基にピアノ伴奏、関わり方について見直す。	140 分 140 分
第13回	第7回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、リーダーの役割について復習。	140 分 140 分
第14回	第7回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 第7回実習のビデオを記録したものを基に歌唱、ピアノ伴奏について見直す。	140 分 140 分
第15回	第8回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、関わり方について復習。	140 分 140 分

フィードバック 提出した実習記録及び事例に関するノートについて、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 60%、積極的な発言 20%、記録の提出 20%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室または E メールにて対応 akynkym@aioros.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 実習で撮ったビデオを観たあと、反省点や良かった点を出し合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽療法総合演習-2

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE202

専門/学年：全専門/2 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	音楽療法実践において重要な事は、対象者とセラピストとそして音楽がどのように関わって良い時間を作っていくかである。また、音楽療法において対象者の行動が良い方向に変化していつているかも正しい視点で判断しなければならない。このような正しい視点を総合的に高めることが本科目の目的である。
到達目標	音楽療法総合演習では、実践の前段階として実習時やテキストに出て来る事例のビデオ等を使用しながら、セラピストの音楽の提供の仕方、対象者への対応の仕方、さらに対象者の動き、表情、音楽に対する反応、楽器の使い方などを客観的に観察する力を養うことを目標とする。
授業計画	児童の音楽療法実践のビデオを見ながら客観的にセラピストと対象者について観察する。

第 1 回	第 8 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 第 8 回実習のビデオを記録したものを基に関わり方について見直す。	140 分
第 2 回	実習のまとめ	事前 8 回分のビデオの記録をまとめる。	140 分
		事後 ビデオ記録の不備の部分を訂正し、提出。	140 分
第 3 回	「応用行動分析的アプローチ」の参考資料を配布	事前 参考資料を読む。	140 分
		事後 「応用行動分析的アプローチ」のポイントを書きだす。	140 分
第 4 回	「応用行動分析学アプローチ」とは	事前 参考資料から「応用行動分析的アプローチの特徴」を書きだす。	140 分
		事後 社会的行動と音楽行動をノートにまとめる。	140 分
第 5 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例① 「こだわりの強い子の場合」	事前 事例①「こだわりの強い子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分
第 6 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例② 「聴覚過敏の子の場合」	事前 事例②「聴覚過敏の子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分
第 7 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例③ 「注意欠陥多動症候群の子の場合」	事前 事例③「注意欠陥多動症候群の子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分
第 8 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例④ 「初めての場面で苦手な子の場合」	事前 事例④「初めての場面で苦手な子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分
第 9 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑤ 「集中が短く、多動の子の場合」	事前 事例⑤「集中が短く、多動の子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分
第 10 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑥ 「周囲にある刺激に注意が向かない子の場合」	事前 事例⑥「周囲にある刺激に注意が向かない子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分
第 11 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑦ 「拒否や逃避のための不適切なコミュニケーションが多い子の場合」	事前 事例⑦「拒否や逃避のための不適切なコミュニケーションが多い子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分
第 12 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑧ 「コミュニケーションを取るのが難しい子の場合」	事前 事例⑧「コミュニケーションを取るのが難しい子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分
第 13 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑨ 「興味の範囲が狭く、人との関わりが取りにくい子の場合」	事前 事例⑨「興味の範囲が狭く、人との関わりが取りにくい子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分
第 14 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑩⑪ 「模倣が苦手な子の場合」「自発性が低く、自傷行動のある子の場合」	事前 事例⑩「模倣が苦手な子の場合」事例⑪「自発性が低く、自傷行動のある子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分
第 15 回	授業のまとめ 試験	事前 高齢者・児童の事例を復習。	140 分
		事後 試験の振り返り。	140 分

フィードバック 提出した実習記録及び事例に関するノートについて、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 60%、積極的な発言 20%、記録の提出 20%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室または E メールにて対応 akynkym@aioros.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 実習で撮ったビデオを観たあと、反省点や良かった点を出し合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	

音楽療法実習（事前指導）

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE105

専門/学年：全専門/1年次

形態：実習 単位数：実習・事前指導・事後指導で3単位

概要 音楽療法実習及び介護実習を行うに当たって心がけなければならない事について学ぶ。また、音楽療法実習及び介護実習の目的や内容について理解する。

到達目標 実習の準備として、実習の心得・実習施設についての領域及び内容、障害や病気についての知識を学ぶ。音楽面では、模擬セッションを通して、使用する曲の楽器奏法また対象者に合わせる楽器奏法を学ぶ。

授業計画 各音楽療法実習場面・介護実習場面を把握し、実習に備える。

第1回	音楽療法実習・介護実習を行なうに当たっての心得	事前 参考資料配布。読む。 事後 実習に関する心得について復習する。	130分 140分
第2回	音楽療法実習施設・介護実習施設の説明 今年度の音楽療法実習・介護実習の時間	事前 参考資料を配布。読む。 事後 実習に行く施設、時間数、時期、回数を把握しノートに記入。	130分 140分
第3回	音楽療法実習マニュアルノート配布 各実習施設の注意事項	事前 マニュアルノートを読む。 事後 施設名一覧、注意事項、音楽療法実習日誌、介護実習日誌について把握する。	130分 140分
第4回	介護実習日誌の書き方指導 日誌提出についての指導	事前 介護実習日誌を読む。 事後 授業で車椅子体験し、それを介護実習日誌に記入し、提出。	130分 140分
第5回	音楽療法実習日誌の書き方を指導	事前 音楽療法実習日誌を読む。 事後 授業中、音楽療法のビデオを観て、それを音楽療法実習日誌に記入し、提出。	130分 140分
第6回	ビデオの撮り方指導	事前 参考資料配布。読む。 事後 授業中、実際の音楽療法場面を観て、ビデオの撮り方を把握したことを書きだす。	130分 140分
第7回	「高齢者の音楽療法」	事前 参考資料配布。読む。 事後 高齢者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	130分 140分
第8回	「発達障害者の音楽療法」	事前 参考資料配布。読む。 事後 発達障害者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	130分 140分
第9回	「精神科の音楽療法」	事前 参考資料配布。読む。 事後 精神科患者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	130分 140分
第10回	実習施設(高齢者)クリスマスコンサート計画・準備	事前 クリスマスコンサートのプログラムを各自考える。 事後 演奏者は練習、司会者は準備。	130分 140分
第11回	実習施設(幼児)クリスマスコンサート計画・準備	事前 クリスマスコンサートのプログラムを各自考える。 事後 演奏者は練習。司会者は準備。	130分 140分
第12回	高齢者施設での実習準備・歌唱練習・ピアノ伴奏・リーダー役練習	事前 自分で決めた曲のピアノ練習。 事後 各自、ピアノ練習、歌唱練習。	130分 140分
第13回	高齢者施設での実習準備・前回と役割を替えて行なう	事前 ピアノ練習、歌唱練習。 事後 ピアノ練習、歌唱練習。	130分 140分
第14回	高齢者施設での実習準備・ピアノ伴奏を中心に。	事前 ピアノ伴奏練習。 事後 ピアノ伴奏練習(移調、伴奏形の工夫)。	130分 140分
第15回	授業まとめ 理解度確認テスト	事前 事前指導授業で学んだことを復習する。 事後 理解度確認テストの振り返り。	130分 140分

フィードバック 日誌等の提出及び実習準備のピアノ等の課題について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 理解度確認テスト 50%、授業態度 15%、クラス内での協調性 15%、実習準備の課題遂行 20%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽療法実習（事後指導）

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE106

専門/学年：全専門/2 年次

形態：実習

単位数：実習・事前指導・事後指導で3 単位

概要 1 年次後半より行なってきた音楽療法実習及び介護実習は、引き続き、事後指導の時間を使って高齢者介護施設を訪問し、8 回に亘り、音楽療法実習を行う。学生によって計画し、実施する実習として重要な実習であることを自覚する。誠心誠意利用者様のためにより良い音楽の時間となるよう努力する。

到達目標 終了している音楽療法実習・介護実習・コンサートを振り返るとともに、継続している実習や今後予定している実習がより学びの多い実習となるよう、音楽療法についての理解を深める。さらに疑問点などについて話し合う。

授業計画 実習に備えて、高齢者の音楽療法セッション技術を高める。また、利用者様との触れ合いを体験する。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	第1 回実習準備	プログラム作成、歌詞カード作成、歌唱練習、ピアノ伴奏練習	歌唱練習、ピアノ伴奏	130 分 140 分
第2回	第1 回実習実施 リーダー・ピアノ A グループ	歌詞カード準備、歌唱練習、ピアノ伴奏練習	実習日誌記入。	130 分 140 分
第3回	第2 回実習準備 前回の実習の反省を踏まえて準備する。	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、次回の実習準備	130 分 140 分
第4回	第2 回実習実施。 リーダー・ピアノ B グループ	歌唱練習、ピアノ伴奏練習	実習日誌記入。	130 分 140 分
第5回	第3 回実習準備 利用者様の様子を中心に検討。	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習	利用者様の椅子の位置、学生の座る位置について考える。	130 分 140 分
第6回	第3 回実習実施。 リーダー・ピアノ C グループ	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備	実習日誌記入。	130 分 140 分
第7回	第4 回実習準備 リーダーの声、ピアノの音量について検討。	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習	リーダーの話しの内容、声の大きさ、ピアノの音量について考える。	130 分 140 分
第8回	第4 回実習実施。 リーダー・ピアノ A グループ	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備	実習日誌記入。	130 分 140 分
第9回	第5 回実習準備 利用者様の対応について検討	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習	利用者様の様子を見て、どのように関わればいいのか考える。	130 分 140 分
第10回	第5 回実習実施。 リーダー・ピアノ B グループ	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備	実習日誌記入。	130 分 140 分
第11回	第6 回実習準備 リーダーの役割、ピアノの役割について考える。	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習	音楽療法セッションの中でリーダーはどのようなことが必要か、ピアノは何かが必要か考える。	130 分 140 分
第12回	第6 回実習実施。 リーダー・ピアノ C グループ	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備	実習日誌記入。	130 分 140 分
第13回	第7 回実習準備 リーダー・ピアノ以外の学生の役割（利用者様の隣に座り、一緒に歌うだけでいいのか）	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習	アシスタントとしての学生の役割について考える。	130 分 140 分
第14回	第7 回実習実施 リーダー・ピアノ A グループ	歌唱指導、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備	実習日誌記入。	130 分 140 分
第15回	第8 回実習実施 リーダー・ピアノ B グループ	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備	実習日誌記入	130 分 140 分

フィードバック 実習実施後の日誌提出について、コメントをつけて学修成果をフィードバックする。

成績評価 実習での他メンバーとの協調性 40%、歌唱・ピアノ練習への意欲 25%、プログラム計画などの創造性 25%、日誌提出 10%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽科教科教育法

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一

科目コード：SCH101

専門/学年： 全専門/1 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 学習指導要領における表現と鑑賞の目的を理解し、教材研究の方法、指導案作成の方法、指導案を具現化するための教育技術について学ぶ。

到達目標 この科目では、授業における実践力を獲得するために表現と鑑賞に関する教材研究の方法、指導案作成の方法、実践的指導方法を習得する。

授業計画

第 1 回	音楽科教育の理念と目的 学習指導要領の変遷と学力観 歌唱教材の指導法	事前 新中学校学習指導要領音楽編を読んでくる。 事後 新中学校学習指導要領解説音楽編をもう一度読み、理解を深める。	160 分 110 分
第 2 回	中学校共通教材による歌唱指導と評価の具体	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」における共通歌唱教材を歌っておく。 事後 講義で配付した資料を基に共通歌唱教材における深い学びについて自己の考えをまとめる。	160 分 110 分
第 3 回	混声合唱の指導と評価の具体	事前 混声合唱「夢の世界を」の教材性について考えておく。 事後 混声合唱の指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 4 回	日本の伝統音楽による歌唱指導方法と評価の具体	事前 「勅進帳」より指示された長唄の一節を歌えるようにしておく。 事後 伝統音楽の歌唱指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 5 回	楽器指導方法（リコーダー）と評価の具体 情報機器活用（MIDI、インターネット活用）	事前 事前に指示されたリコーダー曲を吹けるようにしておく。 事後 リコーダーの指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 6 回	楽器指導方法（電子楽器）と評価の具体 情報機器活用（MIDI、インターネット活用）	事前 事前に配付する電子楽器に関する資料を読んでおく。 事後 電子楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 7 回	楽器指導方法（和楽器：箏）と評価の具体	事前 事前に配付する和楽器に関する資料を読んでおく。 事後 和楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 8 回	創作学習方法（指導要領ア、イ）と評価の具体	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」にある創作教材について理解しておく。 事後 講義で配付した資料を基に創作指導と評価について自己の考えをまとめる。	160 分 110 分
第 9 回	鑑賞指導方法（知覚・感受と批評）と評価の具体	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」から一曲鑑賞教材を選び、聴いておく。 事後 講義で配付した資料を基に鑑賞指導における知覚・感受について自己の考えをまとめる。	160 分 110 分
第 10 回	鑑賞指導方法（生活や社会における意味）と評価の具体	事前 自己の生活にとって意味のある楽曲を選んでおく。 事後 自己が選んだ楽曲の生活や社会における意味を考える。	160 分 110 分
第 11 回	教材研究と指導案の作成	事前 学生自身の教材分析から、指導の中心事項を整理しておく。 事後 講義内容を踏まえて指導案のアイデアを練り上げる。	160 分 110 分
第 12 回	指導案の検討及び優れた授業の条件	事前 指導案のアイデアから、具体的な柱立てをしておく。 事後 講義における指導案検討を踏まえ、指導案を練り上げる。	160 分 110 分
第 13 回	表現の模擬授業と批評	事前 表現の指導案に基づき発問、指示を具体的に考え練習する。 事後 授業批評に基づき、自己の指導を振り返る。	160 分 110 分
第 14 回	鑑賞の模擬授業と批評 プレゼンテーション型鑑賞	事前 鑑賞の指導案に基づき発問、指示を具体的に考え練習する。 事後 授業批評に基づき、自己の指導を振り返る。	160 分 110 分
第 15 回	振り返りとまとめ	事前 優れた授業を支える教育技術について、講義資料を基に考えておく。 事後 指導案構成力及び教育技術の習得について今後の見通しをもつ。	160 分 110 分

フィードバック リフレクションペーパーを通して学修者にフィードバックする。

成績評価 レポート評価（60%）、リフレクションペーパーの評価（40%）

テキスト 令和 3 年度版『中学校学習指導要領解説音楽編』『中学生の音楽 1』『中学生の音楽 2・3 上』『中学生の器楽』（教育芸術社）
参考書・参考資料 必要に応じて配付する。

オフィスアワー 別紙周知してあるオフィスアワーにて対応。事前にメールにて相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐						

教育原理

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

講師 林直美

科目コード：SCH102

専門/学年：全専門/1 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれらの相互の関係を理解する。そして現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。また、学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。さらに学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。最後に、学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。授業は映像教材なども適宜取り入れ、学生には現在進行している教育改革や政策課題についてネット・テレビ・新聞などのメディアから常に情報を収集することを心がけてもらい、それを反映させる形ですすめていく。

到達目標 教育の基本的概念は何か、また、教育理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それがどのように現れてきたのかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのようにして捉えられ、変遷してきたのかを理解する。また、これまでの教育の流れをうけて現代の学校教育に関する制度的・経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。そして学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。

回	授業内容	事前	事後	100 分
第 1 回	教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標	テキストの全体に目を通しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	180 分
第 2 回	教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係ー子供・教員・家庭・学校ー	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 3 回	家族と社会による教育の歴史	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 4 回	近代教育制度の成立と展開	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 5 回	現代社会における教育課題ー歴史的視点からの考察ー	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 6 回	家庭や子供に関わる教育の思想	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 7 回	学校や学習に関わる教育の思想	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 8 回	代表的な教育家の思想	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 9 回	公教育の原理及び理念	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 10 回	公教育制度を構成している教育関係法規	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 11 回	教育制度を支える教育行政の理念と仕組みや諸問題ー例示と討議ー	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 12 回	地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 13 回	開かれた学校づくりが進められてきた経緯ー地域との連携を基としてー	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 14 回	危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性 ー学校管理下で発生する事件、事故及び災害の実情ー	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 15 回	生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題 ー安全管理及び安全教育の両面からの具体的な取り組みー	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業で配布された資料や各自のノートを整理し、ポイントをまとめる。	140 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて添削やコメントで学修効果をフィードバックする。

成績評価 試験（50%）、提出物の状況（30%）、授業への姿勢（20%）を目安に総合的に評価する。

テキスト 田中智志・橋本美保監修『教育課程シリーズ 教育の理念・歴史』（2013）一藝社
（テキストの購入については第 1 回の講義において連絡する）
参考書・参考資料等
井藤元『ワークで学ぶ教育学』（2015）ナカニシヤ出版
田嶋一・中野新之佑・福田須美子・狩野浩二著『やさしい教育原理』（2016）有斐閣

オフィスアワー 授業終了後、教室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☒						

教育史

※教育職員免許状取得に関わる科目

講師 林直美

科目コード：SCH103

専門/学年：全専門/1年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代にいたるまでの教育及び学校の変遷を理解する。そして教育に関する様々な思想、それらと多様な教育理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。さらに社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。

到達目標 教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。その歴史をうけて現代の学校教育に関する社会的事項についての基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、教育に関する制度的・形成的事項や、学校と地域との連携及び学校安全への対応については教育原理で学ぶ。

授業計画 前半では教育の変遷について学び、後半はその歴史を受けて現代の学校教育の成り立ちについて考察する。

第1回	オリエンテーション-教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標-	事前 テキスト『教育の理念・歴史』の全体に目を通しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	100分 180分
第2回	家族と社会による教育の歴史	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第3回	家庭や子供に関わる教育の思想と学校や教員の成り立ちとの相互関係	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第4回	西洋における近代教育制度の成立と課題	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第5回	西洋における学校や学習に関わる教育の思想	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第6回	代表的な教育家の思想 (1) ルソー	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第7回	代表的な教育家の思想 (2) ベスタロッチ、フレーベル	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第8回	日本における近代教育制度の成立と展開	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第9回	日本における学校や学習に関わる教育の思想	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第10回	代表的な教育家の思想-明治・大正期	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第11回	学校を巡る近年の様々な状況の変化	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第12回	子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第13回	近年の教育政策の動向	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第14回	現代社会における教育課題を歴史的視点から捉える	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第15回	諸外国の教育事情や教育改革の動向	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントを押さえる。	140分 100分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 (50%)、提出物の状況 (30%)、授業への姿勢 (20%) を目安に総合的に評価する。

テキスト 田中智志・橋本美保監修『教育課程シリーズ 教育の理念・歴史』(2013) 一藝社
(テキストの購入については、第1回の講義において説明する)
参考書・参考文献等
本田和子『子ども100年のエボック』(2000) フレーベル社
森川輝紀・小玉重夫『教育史入門』(2012) 放送大学教育振興会

オフィスアワー 授業終了後教室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒

教職概論

※教育職員免許状取得に関わる科目

※実務経験を持つ教員による授業

小、中学校における管理職等の経験を生かして、教育事象を実践的、理論的に読み解く授業を行う。

教授 内田有一

科目コード：SCH104

専門／学年： 全専門 1年次

形態：講義

単位数 2単位

概要 到達目標の内容について、講義、討論、小論文等を通して知識を得ると共に、深く考え教職という仕事について理解する。

到達目標 現代社会における教職の重要性や我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。また公教育の目的と教職の職業的特徴を理解する。更に教員に求められる役割や資質能力、服務上・身分上の義務、並びに学校が内外の専門家と連携することや、チーム学校として組織的に対応する重要性を理解する。

回	内容	事前	事後	単位数
第1回	ガイダンス 授業の目的、内容、進め方について 教職の職業的特徴の理解	新聞やネット情報から読みとれる現代の教師像について語ることができるようにする。	現代の教員を取り巻く環境や課題点について、ディスカッションを基に自分の捉え方をまとめる。	160分 110分
第2回	現代社会における教育の重要性 教員の存在意義と公教育の目的	教員の存在意義について、自己の経験を求めて自分の考えをまとめる。	教員の使命と役割について、ディスカッションをもとに、公教育の目的について考え、まとめる。	160分 110分
第3回	学習指導要領の変遷と新学習指導要領 今日の我が国の学校教育の意義	学習指導要領総則を読んでおく。	学習指導要領と学力観の関係について、考察する。	160分 110分
第4回	チーム学校 の概念と具体	事前に配付する中教審資料におけるチーム学校に関する箇所を読み、概要を把握する。	チーム学校の具体について講義を通して理解した内容をまとめる。	160分 110分
第5回	いじめ等生徒指導における組織的対応 講義と討論	事前に配付された生徒指導についての資料を読み、課題問題に取り組む。	討論を通して理解を深めたことを、いじめ防止の視点からまとめる。	160分 110分
第6回	発達障害を有する児童・生徒への組織的対応 講義と討論	事前に配付された生徒指導についての資料を読み、課題問題に取り組む。	討論を通して理解を深めたことを、インクルーシブ教育の視点からまとめる。	160分 110分
第7回	主体的・対話的・深い学びを具現化するための教師としての資質・能力	中教審の資料から主体的・対話的・深い学びの箇所を読み、概要を把握する。	講義で理解したことを、カリキュラムマネジメントと関連させてまとめる。	160分 110分
第8回	専門家との連携 教師のマネジメント力	事前に配付する資料から、専門家との連携に関して概要を理解する。	講義で理解したことを、チーム学校と関連させてまとめる。	160分 110分
第9回	地域との連携 地域の中の学校として果たす役割	事前に配付する資料から、地域との連携に関して概要を理解する。	講義で理解したことを、コミュニティスクールの視点からまとめる。	160分 110分
第10回	教員の服務上・身分上の義務 教育法規に照らして事例を検証	前時に配布された、服務事故の事例を読み、どこに問題があるのかを考えてくる。	教員採用試験の過去問題の中から、教員の服務と身分についての問題をマスターする。	160分 110分
第11回	教員の職務の全体像と、教員として必要な基礎的な資質能力の理解	事前に配付する資料から、コンプライアンスに関して概要を理解する。	講義で理解したことを、コンプライアンスの視点からまとめる。	160分 110分
第12回	保健安全教育 一生活安全・交通安全・災害安全・保健・一	事前に配付された安全教育についての資料を読み、課題問題に取り組む。	安全プログラムに関して、講義で指示された課題に取り組む。	160分 110分
第13回	教員研修の意義と制度上の位置付け、並びに専門職としての責任	東京都教育委員会のホームページを開き、どのような教員研修があるのかを調べる。	なぜ、教員の研修が重要であるのかを、ディスカッションを基に自分の考えをまとめる。	160分 110分
第14回	学校事故と安全管理、危機管理 コロナ禍における教育 学修の振り返りと小論文	事前に配付された危機管理の資料を読み、課題問題に取り組む。	学校事故と危機管理についてまとめる	160分 110分
第15回	生徒から、保護者から、地域から信頼される教師像。小論文の振り返りとまとめ	自己の小論文を基に口頭発表の準備を行う。	振り返りを通して、教員としての資質向上の見通しをもつ。	160分 110分

フィードバック レポート、リフレクションペーパーを通して学修者にフィードバックする。

成績評価 レポート (60%) リフレクションペーパー (40%)

テキスト 毎回、資料を提示する。必要に応じて電子媒体にて配付する。

オフィスアワー 別紙にて周知してあるオフィスアワーにて対応。事前にEメールで相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐							

教育心理学

※教育職員免許状取得に関わる科目

大学特任教授 星野悦子

科目コード：SCH105

専門/学年：全専門/1年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 教育心理学とは、教育の諸問題について心理学的に研究し、その研究成果から得られた有益な知見や技術を、教育活動に提供する科学である。本授業では、現在の教育心理学が取り組んでいる主要な問題について、それを裏付けている心理学的知識の解説を施しながら学習と理解を深め、教育実践への手がかりを提供する。教育に関係する専門的内容の理解をはかると共に、幼児・児童・生徒の発達の様相、および人の生涯発達、生涯学習についても学ぶことで教育者をめざす学生の視野を広げる機会としたい。

到達目標 幼児・児童・生徒の心身発達の代表的な理論、ならびに学習理論を二つの大きな柱とし、他にも学びのスタイルや効果的学習法、学習意欲や人格・個性の発達に関する基礎知識も身につける。

回	内容	事前	事後	時間
第1回	オリエンテーション～教育心理学とはなにか～	教科書まえがきを読む	授業ノートを見直しておく	20分 60分
第2回	教育の新しい動向、および発達における素質と環境	教科書第1章の前半を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第3回	発達の理論 (1) ピアジェの認知発達モデル	プリント1と教科書第1章後半を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第4回	発達の理論 (2) エリクソンの心理社会的発達モデル	教科書第2章の前半P.20までを読む	授業ノートの復習	40分 60分
第5回	人間の発達の概要：乳児期、幼児期	教科書第2章のp.24以降を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第6回	人間の発達の概要：児童期、青年期	教科書第2章の全体を見直す	授業ノートの復習	40分 60分
第7回	人間の発達の概要：成人期（前期・中期・後期）	プリント2前半を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第8回	中学生、高校生の心理と指導	プリント2後半を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第9回	学ぶということ (1) 学習の原理・理論	教科書第3章の第1節を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第10回	学ぶということ (2) 連合学習理論～条件づけ～	教科書第3章第2節を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第11回	学ぶということ (3) 認知的学習理論～知識を学ぶ～	教科書第3章第3節を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第12回	学ぶ意欲～動機づけ理論とその教育への応用～	教科書第3章前半を見直す。	授業ノートの復習	40分 60分
第13回	学びのスタイル～学習の個人差～	教科書第3章第4節を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第14回	効果的に学ぶために～様々な学習方法～	教科書第3章第5節を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第15回	まとめ～授業全体の総括～	教科書第4章前半を読む	試験の振り返りと自分の解答の正否確認	60分 40分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 受講態度と試験の成績を総合しておこなう。定期試験 70%、授業態度 30%。

テキスト 滝沢武久編著『はじめての教育心理学』（八千代出版）
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考 人間の子どもの時期は他の動物に比べて長い。「学ぶために」長い子ども期を与えられているのだ。人間の発達過程と学習する心の仕組みを知り、生涯を通じた「学びを支える教育」について考える機会にしたい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒

発達心理学

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

大学特任教授 星野悦子

科目コード：SCH106

専門/学年：全専門/1年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	発達とは、固体が受胎から成熟して死に至るまで、その内的心理的傾向（能力、性格等）がどのように変化するのかが指す。発達心理学は、まずこうした事象を客観的に記述していきながら、同時に、自ら人間をどのように教育すればよいかという実践的問題とも関連をもつ。授業の目標は、発達の基礎原理を理解しながら人の生涯発達についての全体像を把握する。

到達目標	1) 幼児児童、及び生徒の心身の発達の過程、およびその特徴を理解する。 2) 乳幼児から青年期の各時期における身体・運動機能の発達、言語発達、認知（思考）の発達、感情の発達、社会性の発達について、具体的な内容を理解する。
------	---

回	内容	事前	事後	時間
第1回	オリエンテーション：発達とはなにか	教科書はじめにを読む	授業ノートを見直しておく	20分 60分
第2回	発達の定義と原理	プリント1を読んで復習	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第3回	発達心理学の歴史と先駆者たち	教科書第1部「発達の基礎理論」24～33ページまでを読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第4回	生涯発達の概要：乳児期・幼児期	教科書第1部「生涯発達」34～35ページまでを読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第5回	生涯発達の概要：児童期・青年期	プリント2を読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第6回	遺伝と環境	教科書36～41ページを読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第7回	感覚・知覚の発達	教科書第2部60～69ページを読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第8回	認知・記憶の発達	プリント3を読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第9回	言語の発達（1）言語獲得の前提	教科書114～115ページを読む	授業ノートを見直しておく	40分 140分
第10回	言語の発達（2）言語獲得のプロセス	プリント4を読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第11回	思考の発達（1）：ピアジェ理論	プリント5を読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第12回	思考の発達（2）：その他の理論	教科書106～107ページを読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第13回	感情の発達（1）感情の知覚と理解	教科書74～84ページを読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第14回	感情の発達（2）感情の表出	プリント6を読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第15回	社会性の発達およびまとめ	授業ノートを見直しておく	試験の解答を自分で確認・振り返る	80分 20分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績と受講態度を総合しておこなう。試験成績70%、受講態度30%。

テキスト 小野寺敦子著『手にとるように発達心理学がわかる本』（かんき出版）

オフィスアワー 授業後、教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考 人間の発達に関心を持ち、人の一生を考え、先人の考えを踏まえつつ勉強していきたい学生さんの参加を歓迎します。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒

特別支援教育

※教育職員免許状取得に関わる科目

講師 中山晶世

科目コード：SCH107

専門/学年：全専門/1年次

形態：講義 単位数：1単位

概要 特別支援を必要としている生徒が、特別支援教育の制度の中でどのように達成感を持ちながら学習活動に参加していくことが望ましいか、模擬授業を進めながら考える。

到達目標 発達障害の特性、また、障害でないが生活環境における困難(多様な言語・経済的基盤等)について基礎的な知識を身につけ、支援方法を理解する。

授業計画 発達障害等の知識を高めるとともに、特別支援教育への理解を深め、模擬授業を通して生徒たちが達成感のある学習ができるよう、積極的なディスカッションを展開し、理解を深める。

第1回	発達障害や軽度知的障害のある生徒の心身の発達及び心理的特性の理解。10分間試験。	事前 テキスト第3章 p.59～76を読む。 事後 幼・小・中・高校における特別支援教育での生徒の心身の発達を書きだす。	140分 140分
第2回	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む障害の特性の理解。10分間試験。	事前 テキスト第4章 p.91～125を読む。 事後 各障害の特性を書きだす。	140分 140分
第3回	特別の支援を必要としている障害のある生徒の学習上・生活上の困難についての知識を知る。10分間試験。	事前 テキスト第5章 p.127～148を読む。 事後 家庭との連携及び実施可能な支援について書きだす。	140分 140分
第4回	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。10分間試験。	事前 テキスト第1章 p.1～25を読む。 事後 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築について書きだす。	140分 140分
第5回	他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。10分間試験。	事前 テキスト第1章 p.25～39を読む。 事後 実践活用事例を通してどのような関係機関との連携が必要か書きだす。	140分 140分
第6回	特別の支援を必要としている障害のある生徒が達成感を持ちながら学び、生きる力を身につけていくことができる学習とはどのような授業かディスカッションする。10分間レポート。	事前 テキスト第6章 p.151～170を読む。 事後 達成感のある授業をするために必要な教員のスキルを書きだす。	140分 140分
第7回	障害ではないが、生活環境に困難のある生徒が達成感を持てる学習活動を模擬授業の中で行ない、その体験を話しあう。10分間レポート。	事前 テキスト第7章 p.171～190を読む。 事後 生活環境に困難のある生徒に対する支援にはどのようなものがあるか書きだす。	140分 140分
第8回	前回行った模擬授業をさらに深く理解するために、架空の個別の教育的ニーズを設定し、模擬授業を行う。その体験を話しあう。10分間レポート。	事前 テキスト巻末の「文献」から一編を選び、読む。 事後 選んだ文献についてレポートを書き、提出。	140分 140分

フィードバック 毎回行う10分間試験及びレポートにコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 10分間試験及びレポート 50% 授業態度 25% ディスカッションや模擬授業への発言・積極性 25%

テキスト 「特別支援教育総論」(川合紀宗、若松昭彦、牟田口辰己編著、北大路書房)

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて対応する。akynkym@aiores.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング

- 各授業で特別支援教育に関するその日のテーマを読んだあと、グループに分かれ、そのテーマについてディスカッションし、最後にそのグループの代表がプレゼンする。
- 各授業で特別支援教育に関するその日のテーマを読んだあと、架空の個別指導計画作成、または保護者と関係機関の連携について話し合い、その後、保護者側がわが子の願いの表に記入し、そのあと、関係機関側がそれを元に計画を記入する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐

教育課程総論

※教育職員免許状取得に関する科目

大学准教授 田中里佳

科目コード：SCH108

専門/学年：全専門/1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 本授業では、教育課程の意義や内容、編成について幅広く学ぶ。学習指導要領を適宜参照しつつ、音楽科に引きつけて考えることで、理解を深めていく。

到達目標 教育課程の意義や内容、教育課程編成の方法を学び、学習指導要領に基づいた教育課程の編成、実施、評価に関する基礎的な知識の習得を通して、学校での各実践の位置づけや役割り、カリキュラム・マネジメントの重要性を理解する。

授業計画 音楽科カリキュラムとの関連から講義を行う。各回でテーマを設定し、教育課程とは何か、学習指導要領に基づいてどのように教育過程を編成し、授業の計画、実践を行っていくかなどについて学ぶ。各回の最後には、具体的な課題を設定し、リフレクション・カードや小レポートの執筆を通して個々に考えを深める時間を設ける。

回数	テーマ	事前	事後	時間
第 1 回	オリエンテーション カリキュラムに関する現代的な課題	カリキュラムや教育課程に関する新聞記事を探し、読んでおく	討論したり考えたことについて、まとめておく	100 分 180 分
第 2 回	教育課程の意義ならびに教育課程編成の原理と目的	資料を読み、疑問点を把握しておく	討論したり考えたことについて、まとめておく	100 分 180 分
第 3 回	教育課程とカリキュラム	「教育課程」「カリキュラム」という言葉の意味を調べておく	討論したり考えたことについて、まとめておく	100 分 180 分
第 4 回	潜在的カリキュラム	資料を読み、疑問点を把握しておく	討論したり考えたことについて、まとめておく	100 分 180 分
第 5 回	教育課程編成の方針（1）学習指導要領改訂との関わりから	学習指導要領解説を読んでおく	授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 6 回	教育課程編成の方針（2）教育課程が社会に果たす機能・役割	学習指導要領解説を読んでおく	授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 7 回	教科の原理、内容	学習指導要領解説を読んでおく	授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 8 回	教科横断的な教育内容の選択や配列	学習指導要領解説を読んでおく	授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 9 回	児童生徒や地域の実態に基づいた教育課程や指導計画の検討	課題について、自分なりの意見をまとめておく	レポートに取り組む	100 分 180 分
第 10 回	評価（1）評価の原理	学習指導要領解説を読んでおく	授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 11 回	評価（2）評価の観点	学習指導要領解説を読んでおく	授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 12 回	評価（3）評価の方法	学習指導要領解説を読んでおく	授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 13 回	カリキュラム・マネジメント（1）意義と重要性	学習指導要領解説を読んでおく	授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 14 回	カリキュラム・マネジメント（2）評価との関連から	学習指導要領解説を読んでおく	授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 15 回	授業内容の振り返り、まとめ	課題レポートに取り組む	学習指導要領の変遷と現在の動向から、教育課程の位置付けや意義について考える	180 分 100 分

フィードバック 毎時間後にリフレクション・カードを配布する。そこで挙がった疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。

成績評価 授業への取り組みと（疑問、質問、考えたことなどについて、積極的に発言したり、リフレクション・カードに記したりしているか）10%、中間課題レポート 45%、最終試験 45%：ただし、オンライン授業の場合は変更する可能性もあるので、第 1 回目の授業にて説明します。

テキスト テキスト：中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
 高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月 文部科学省）
 中学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
 参考図書：柴田義松・山崎準二 編著（2019）『教育の方法と技術』学文社
 その他、適宜授業で紹介する。

オフィスアワー 授業後、教室（オンライン授業の場合は zoom）にて随時質問、相談に応じる。必要に応じて、メールで日程を相談した上で個別に対応する。
 sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 1 回目の講義にて、用いるテキストや参考図書、授業の進め方、提出課題について説明するので、必ず出席すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意欲
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐

道徳教育指導論

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 東風安生

科目コード：SCH109

専門/学年：全専門/1年次

形態：演習

単位数：2単位

概要 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及び、その要となる道徳科における教育内容や指導方法を学ぶ。科目のねらいは、道徳科を指導する教師として、学校の年間指導計画に基づいて道徳科授業の学習指導案を作成し、道徳科授業を実践できる指導力を養成することである。講義は、グループワークを多用して、チーム学校の一員として協働して道徳教育について検討する時間を大切にしていく。

到達目標 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
 1) 道徳の本質や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解し、実践的な指導についての認識を深める。
 2) 子どもの心の成長と道徳性の発達についての理解のため、学習指導要領に示された目標及び内容を理解する。

回	内容	事前	事後	時間
第1回	オリエンテーション 現代社会における道徳教育の求められる課題	小・中学校時代に自分が受けてきた道徳の授業をふりかえりワークシートに記述する	現代社会において道徳が必要な場面はどこか、または自分は学んできた道徳を活かしたかをワークシートに記述する。	90分 180分
第2回	現代社会に見る中・高校生の倫理的課題を探る	大学生として、年下の若者の倫理的課題をふりかえりワークシートに記述する。	教職課程を履修し教師を目指す者として、道徳教育によって彼らの課題をどう解決するかをワークシートに記述する。	90分 180分
第3回	道徳教育の理念と課題：道徳教育の歴史的経緯を基に求められる理念	昭和33年の特設道徳に関する歴史的事項についてネットで事前に調べておく。	「特別の教科 道徳」に至るまでの60年間の道徳の歴史について、ワークシートを用いてまとめる。	90分 180分
第4回	道徳性の形成要因と発達段階における課題と教育的目標	アヴェロンの野生児についてネット等を利用してどのような事件なのか調べておく。	道徳性とは何かを、具体的に22項目の道徳教育の内容項目と関連付けてワークシートにまとめる。	90分 180分
第5回	学校における道徳教育の目標とその内容：道徳性の育成に向けた課題	『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』から道徳教育の目標を探して予習しておく。	『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』の道徳教育の目標を家族や友達に説明できるように練習する。	90分 180分
第6回	「特別の教科 道徳」の指導とその内容・教材の分析とその活用：葛藤教材	『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』から道徳科の目標を探して予習しておく。	『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』の道徳科の目標を家族や友達に説明できるように練習する。	90分 180分
第7回	「特別の教科 道徳」の教材の分析とその活用：知見教材	事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いて何を教えるか考える。	道徳科の読み物教材と、国語科の教科書の教材の違いについて自分の言葉で家族や友達に説明できるように練習する。	60分 210分
第8回	感動教材の分析に基づく指導案の構成とねらい（教材：パスと赤ちゃん）	事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いてどのように教えるか考える。	教材を用いた道徳の授業において、なぜ学習指導案が必要なのか、どんな項目を記述するか家族や友達に説明できるように練習する。	60分 210分
第9回	葛藤教材（起承転結）の構成と分析（教材：足袋の季節）	事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いてどのように教えるか考える。	教材分析をして学んだことを用いて、途中で仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	30分 240分
第10回	葛藤教材の分析に基づく指導案の作成（教材：卒業文集最後の二行）	完成させた道徳科学習指導案について、作成過程での不明な点大変だった点をまとめて発表できるようにしておく。	教材分析をして学んだことを用いて、途中で仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	60分 210分
第11回	葛藤教材の分析（話し合い）に基づく指導案の作成（教材：二通の手紙）	完成させた道徳科学習指導案について、作成過程での不明な点大変だった点をまとめて発表できるようにしておく。	教材分析をして学んだことを用いて、途中で仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	60分 210分
第12回	葛藤教材の分析に基づく模擬授業の実践（教材：一冊のノート）	完成させた道徳科学習指導案に基づいて、模擬授業ができるよう前回の授業でグループ分けをした仲間、模擬授業の練習をしておく。	模擬授業をふりかえり、自分たちのグループや仲間のグループの評価を行う。	240分 30分
第13回	「特別の教科 道徳」における学習指導案の作成・提出（教材：美しい母の顔）	事前に配布した教材について目をとっておくこと。	教材分析をして学んだことを用いて、途中で仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	30分 240分
第14回	学校における道徳教育の全体計画と年間指導計画 評価の内容	ネット上に掲載された出身校の道徳教育の全体計画や年間指導計画および道徳に関わる事項を調査して、授業中に仲間発表できるようにしておく。	自分自身が学校の校長と想定して、どのような全体計画を作成するか、途中で仕上げたものを完成させる。	60分 210分
第15回	学校・家庭・地域社会の役割と連携：道徳授業地区公開講座の役割	道徳授業公開講座をネット上から調べて、どのような授業中に仲間説明できるようにしておく。	道徳地区公開講座のチラシを作成するとして場合、どのようなレイアウトや内容にするか検討し、作成中のものについて完成させる。できあがったものはプリントアウトして提出する。	60分 210分

フィードバック 毎回授業の最後に記述するミニットペーパーについて、翌週に到達目標（SBO's）を基準に評価をして返却する。評価「S」十分満足できる 「A」満足できる 「B」ある程度満足できる 「C」不十分である これを点数化して「S」4点、「A」3点、「B」2点、「C」1点として成績評価に加える。

成績評価 筆記試験（期末）40% 学習指導案の提出 20% 模擬授業の実践 10%
 ミニットペーパー30%（ミニットペーパーをフィードバックした評価について15回の中でよい成績のものを10回分加点する）
テキスト 伊藤良高『改訂版道徳教育のフロンティア』（見洋書房）2019年4月
 （3階の売店にて販売いたします。履修する学生は全員が購入し、必ず授業では持参してください）

参考文献 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成30年7月 文部科学省ホームページから閲覧可能
オフィスアワー 質問等がある場合は、授業の終了後に対応する。

アクティブ・ラーニング オンラインによる授業において、Zoomのブレイクアウトルームという手法でグループごとに分かれて画面上で議論したり、教材を共有してプレゼン資料を作成する。

備考 PCを使用する。Google classroomに登録して、ネット上で提出物や教材の共有を行うので、Googleのアカウントを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法

※教育職員免許状取得に関わる科目

短期大学部教授 内田有一 大学教授 山内雅子

科目コード：SCH207

対象専門/学年： 全専門/1年次生

形態：講義 課題解決的な授業展開で講義・演習・討論 単位数：2単位

概要 到達目標の内容について、様々な中学校の実践事例を検討しながら、講義と討論を通して考察する。

到達目標 特別活動は、学級活動、生徒会活動、学校行事の三つの内容によって構成されており、特に学級活動は学級担任が指導する。また特別活動と関連した音楽科の指導にあつては学級担任との連携するマネジメントの能力も必要である。特別活動の教育的意義や内容と実践的な指導方法の学びを目標とする。「総合的な学習の時間」の趣旨を理解し、生徒の探究的な学びを実現する教科横断的かつ、地域・専門家等との連携を図った授業計画の構想を練り上げることができるようになる。

授業計画 毎時間の課題に対して、講義と討論を中心に進める。

第1回	特別活動の教育的意義及び家庭、地域、社会とのつながり	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、目標を理解しておく。 事後 講義を通して理解したことを考察し、まとめる。	160分 110分
第2回	特別活動の特質と内容 学級活動・生徒会活動・学校行事	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、内容を理解しておく。 事後 講義を通して理解したことを考察し、まとめる。	160分 110分
第3回	「学校や学級での生活づくり」のねらいと指導の具体	事前 事前に配付する資料を読み、生活づくりの概念を理解しておく。 事後 講義を通して理解したことを自己指導力の視点から考察し、まとめる。	160分 110分
第4回	「学業と進路」のねらいと指導の具体	事前 事前に配付する資料を読み、進路指導の概念を理解しておく。 事後 講義を通して理解したことをキャリア教育の視点から考察し、まとめる。	160分 110分
第5回	生徒会活動の内容と目標	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、生徒会活動の概要を理解しておく。 事後 講義を通して理解したことを人間形成の視点から考察し、まとめる。	160分 110分
第6回	学校行事の特質と種類及びその活動内容（儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事）	事前 事前に配付する資料を読み、学校行事（儀式・文化・健康安全・体育）の具体を理解しておく。 事後 講義を通して理解した学校行事の具体を人間形成の視点から考察し、まとめる。	160分 110分
第7回	学校行事の特質と種類及びその活動内容（旅行・集団宿泊行事、勤労生産・奉仕的行事）	事前 事前に配付する資料を読み、学校行事（旅行・宿泊・勤労・奉仕）の具体を理解しておく。 事後 講義を通して理解した学校行事の具体を人間形成の視点から考察し、まとめる。	160分 110分
第8回	学級活動の指導案作成	事前 事前に配付する指導案を読み、概要を理解しておく。 事後 講義における批評を生かし、指導案を練り上げる。	160分 110分
第9回	『総合的な学習の時間』の趣旨を理解する	事前 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 pp. 1-17 を読んでくる。 事後 講義を通して理解した総合的な学習の時間の趣旨をまとめる。	160分 110分
第10回	「探究的な見方・考え方」について、事例を通して理解する	事前 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 pp. 103-119 を読んでくる。 事後 講義を通して理解した「探究的な見方・考え方」についてまとめる。	160分 110分
第11回	教科横断的な学習の事例を通して、「総合的な学習の時間」を考える	事前 配付資料を基に、横断的な学習の指導事例を検索し、発表する準備をしてくる。 事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	160分 110分
第12回	オリンピック・パラリンピック関連の「総合的な学習の時間」の事例を検討する	事前 オリンピック・パラリンピック関連の総合的な学習の時間の事例を検索する。 事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	160分 110分
第13回	地域や専門家と連携した「総合的な学習の時間」の事例を検討する	事前 地域や専門家と連携した総合的な学習の時間の事例を検索する。 事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	160分 110分
第14回	生徒の「探究的な見方・考え方」を育む「総合的な学習の時間」の指導計画を、グループで検討し、作成する。	事前 取り組んでみたい実践について、概要をまとめてくる。 事後 グループで検討した総合的な学習の時間の指導計画を、まとめる。	160分 110分
第15回	グループ毎に、作成した「総合的な学習の時間」の指導計画を発表し、全員で検討する。	事前 授業内でのプレゼンテーションの準備をする。 事後 発表と討議を通して学んだ自身のグループの事例を振り返る。学んだことをまとめる。	160分 110分

フィードバック 討論、模擬授業への批評を通して学修者にフィードバックする。

成績評価 特別活動：理解度確認テスト70% 討論、模擬授業への態度30%
総合的な学習の時間：授業での発言、討論への姿勢（30%） 指導計画作成の取り組み（30%） 最終レポート（40%）

テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』
文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』

参考書・参考資料 講義の際に配付する

オフィスアワー 別紙にて周知のオフィスアワーで対応する。事前にメールで相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☒	☐	☐	☒	☐	☒											

教育方法論

※教育職員免許状取得に関わる科目

講師 林直美

科目コード：SCH111

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。また、教育の目的に適した指導技術を理解する。そして、情報機器を活用した効果的な授業の展開や、子供達の情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を学び、実際に模擬授業などにおいて体験していく。

到達目標 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法や教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業計画

第 1 回	教育方法の基礎的理論と実践	事前	これまでの学校生活において「良い授業」だと感じたものを思い出しておく。	100 分
		事後	授業で配布された資料を読んでおく。	180 分
第 2 回	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方 —主体的・対話的で深い学びの実現について—	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 3 回	授業を構成する基礎的な要件について—学級・生徒・教員・教室・教材— (グループワーク)	事前	授業で指示された課題に取り組む。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 4 回	学習評価の基礎的な考え方—学力と教育評価—	事前	授業で指示された課題に取り組む。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 5 回	授業を行う上での基礎的な技術 (1) 語法・板書について	事前	各自望ましい話し方と板書について考え、必要に応じて調べておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 6 回	授業を行う上での基礎的な技術 (2) 実技	事前	前回の授業をふまえて実際に行う模擬授業の準備をする。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 7 回	基礎的な学習指導理論を踏まえた学習指導案の作成 (1) 目標・内容、学習形態の観点から	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 8 回	基礎的な学習指導理論を踏まえた学習指導案の作成 (2) 教材・教具、授業展開の観点から	事前	学習指導案作成に必要な資料を各自で収集しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 9 回	基礎的な学習指導理論を踏まえた学習指導案の作成 (3) 評価基準の観点から	事前	学習指導案作成に必要な資料を各自で収集しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 10 回	情報機器を活用した効果的な教材等の作成・提示 —子供たちの興味・関心を高め、課題を明確につかませ、学習内容を的確にまとめさせるためには—	事前	情報機器の操作方法を調べ、教材作成のための資料を各自で収集しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 11 回	模擬授業 (1) 情報機器等を使用した学習指導案に基づく授業の実践	事前	これまでの授業を踏まえて実際に行う模擬授業の準備をする。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 12 回	模擬授業 (2) 実践の評価	事前	これまでの授業を踏まえて実際に行う模擬授業の準備をする。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 13 回	子供たちの情報活用能力を育成するための指導法	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 14 回	特色ある教育方法の事例検討	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 15 回	学習内容の振り返りとまとめ	事前	授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントをまとめておく。	200 分
		事後	教育実習や学校体験活動などですぐに使えるように、まとめておく。	80 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 レポート (50%)、授業への参画姿勢、グループワーク、模擬授業、学習指導案、提出物の状況 (50%) により総合的に評価する。

テキスト

特に指定しない。
 参考書・参考資料等
 佐藤学『教育の方法』(2010) 左右社
 秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門改訂版』(2015) 有斐閣
 田中耕治編『よくわかる授業論』(2017) ミネルヴァ書房
 『中学校学習指導要領』(平成 29 年 3 月告示) 文部科学省、『高等学校学習指導要領』(平成 30 年 3 月告示) 文部科学省
 『中学校学習指導要領解説 総則編』(平成 29 年 7 月) 文部科学省

オフィスアワー 授業終了後、教室で対応する。

アクティブ・ラーニング 学生主体で対話的で深い学びになるような模擬授業を行う

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	

生徒・進路指導論

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一／講師 林直美

科目コード：SCH112

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動であることを理解する。また、進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が知識的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としていることを理解する。

到達目標 学校において他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくための実践的指導能力を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。

授業計画 前半は生徒指導について、後半は進路指導・キャリア教育についてワークシートを用いた作業学習を取り入れながら、2名の教員によるオムニバス形式で授業をすすめる。

第1回	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の機能 (担当:内田)	事前 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導に何があるか思い出す。 事後 生徒指導の3機能について自己の考えをまとめる。	100分 180分
第2回	集団指導・個別指導の方法原理 (担当:内田)	事前 生徒指導提要における集団指導・個別指導の内容を読んでおく。 事後 集団指導・個別指導の原理と実践例についてまとめる。	140分 140分
第3回	生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方 (担当:内田)	事前 事前に示された教育相談事例について、教育相談の手だけを考える 事後 模擬授業を通して、「見取る」ことの意味を考察する。	140分 140分
第4回	学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取り組み (担当:内田)	事前 生徒指導提要における生徒指導の組織的対応について内容を理解しておく。 事後 組織的対応の模擬授業を通して、実践上の課題を考察する。	140分 140分
第5回	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方ならびに児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方 (担当:内田)	事前 事前に示された事例について、教師としての視点から手だてを考える。 事後 自己存在感を獲得するための手だてについて考察する。	140分 140分
第6回	校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容 (担当:内田)	事前 生徒指導提要における校則・懲戒・体罰に関わる法令の内容を理解しておく。 事後 校則の意義、体罰と懲戒の違いについて考察する。	140分 140分
第7回	暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の対応の視点及び模擬授業 (担当:内田)	事前 事前に示した実践事例について手だてを考えて置く 事後 模擬授業を振り返り、アドラーの勇気付け理論から考察する。	140分 140分
第8回	インターネットや性に関する寛大、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や専門家や関係機関との連携の在り方 (担当:内田)	事前 生徒指導提要におけるインターネット、性の問題を読み、理解しておく。 事後 チーム学校における専門機関との連携について考察する。	140分 140分
第9回	教育課程における生徒指導・進路指導・キャリア教育の位置付け (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第10回	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 (担当:林)	事前 これまでの学校生活でどのような進路指導・キャリア教育を受けてきたか思い出ししておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第11回	進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方 (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第12回	職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義 (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第13回	全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点 (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第14回	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義、ポートフォリオの活用(在り方) (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第15回	キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法 (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントをまとめておく。	180分 100分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 リアクションペーパー（40%）、レポート（60%）から総合的に評価する。

テキスト 文部科学省『生徒指導提要』（2010）教育図書

参考書・参考資料等
文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』（2011）教育出版

オフィスアワー 別途示されている担当教員オフィスアワーにて対応する。事前に E メールにて相談のこと。

アクティブ・ラーニング ・中学校のキャリア教育で実際に行われているグループワークを紹介し、実践する
・ロールプレイングを通じたキャリアカウンセリング技法の習熟

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐

教育相談

※教育職員免許状取得に関わる科目

大学教授 石橋明佳

科目コード：SCH113

専門/学年：全専門/1 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 生徒を理解し、一人ひとりの個性に応じた支援ができるように、教育相談の目的と方法について理解を深め、基本的な相談スキルを実践的に学習する。主な問題行動への対応を学ぶと共に、適切に教育相談を実践するために、他者と信頼関係を構築する力と問題解決能力を養う。

到達目標 教育相談を実施するために必要な知識や技法、態度を身につける。具体的には①生徒が呈する心身の症状や問題行動の理解、②カウンセリング理論の理解と相談スキルの習得、③教育相談の実施方法の理解、④教師を目指す者として自分自身の課題に気づき、それを克服し自己成長を図ること、を目標とする。

回	内容	事前	事後	単位数
第1回	ガイダンス：授業の流れの詳細と受講に関する注意 教育相談とは何か（定義・領域・種類、歴史の変遷、学校における教育相談の特徴）	テキストの関連ページを読んで理解する	教育相談を行う教員に求められる基本的意識を検討する	140分 130分
第2回	生徒の発達段階・発達課題を理解する	テキストの関連ページを読んで理解する	自分自身はどのような発達課題があったのか、現代との共通点・相違点を考察する。	90分 180分
第3回	生徒の悩み①学習・進路・人間関係・性格等の悩みの特徴と問題解決方法の事例学習	テキストの関連ページを読んで理解する	自分の経験を振り返り、悩みや問題解決方法を分析する	90分 180分
第4回	生徒の悩み②性・家族・身体・経済等の悩みの特徴と問題解決方法の事例学習	テキストの関連ページを読んで理解する	インターネットなどを利用し、最新のデータを収集する	90分 180分
第5回	子供の自殺：危険シグナルの発見の仕方と対応	テキストの関連ページを読んで理解する	インターネットなどを利用し、最新のデータを収集する	60分 210分
第6回	問題行動（不登校、非行、暴力行為、いじめ）の理解と対応方法の事例学習	テキストの関連ページを読んで理解する	授業で扱った事例の対応方法について復習する。	90分 180分
第7回	生徒のストレスと心の病（精神障害の理解、対応の在り方の事例学習）	テキストの関連ページを読んで理解する	各障害の特徴と教員が気を付けるべき事を復習する	90分 180分
第8回	特別支援教育の歴史の変遷とインクルージョン教育の意義	テキストの関連ページを読んで理解する	インターネットなどを利用し、最新のデータを収集する	90分 180分
第9回	発達障害の理解と支援方法の事例学習（「音楽」指導例を含む）	テキストの関連ページを読んで理解する	各障害の特徴と教員が気を付けるべき事を復習する	90分 180分
第10回	教員が応用できるカウンセリング理論とカウンセリング・マインド	テキストの関連ページを読んで理解する	理解不足だった部分の復習をする	90分 180分
第11回	教員が応用できるカウンセリング技法の理解と習得	テキストの関連ページを読んで理解する	授業で学んだカウンセリング技法を日常会話等で試してみる。	90分 180分
第12回	教育相談の進め方（基本姿勢、展開方法、チェックポイント、保護者の相談）	テキストの関連ページを読んで理解する	授業で行ったケーススタディを復習し、実践にどのように繋げるか検討する	90分 180分
第13回	学校における教育相談活動体制づくりと外部関係諸機関との連携	テキストの関連ページを読んで理解する	授業で行ったケーススタディを復習し、実践にどのように繋げるか検討する	90分 180分
第14回	良い教員の特性、教員に必要な人間理解力とソーシャル・スキル	テキストの関連ページを読んで理解する	良い教員になるために今後何を学ぶべきかを検討する	90分 180分
第15回	まとめと講義内容の整理	テキスト及び自分のノートに目を通し、理解度を確認する	理解不足だった部分の復習をする	90分 180分

フィードバック 課題やレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 レポート40%、筆記試験60%の評価配分を基準とし、受講態度（授業に取り組む姿勢・質疑応答等）を含めて総合的に評価する。

テキスト プリント教材『教育相談』（約700円）

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて相談の上、対応する sishibashi@uenogakuen.ac.jp

- アクティブ・ラーニング**
- ・グループ・ディスカッションとプレゼンテーション
 - ・ワークブック
 - ・発見学習（各種新地テストの実施）
 - ・応用（カウンセリング・テクニックを日常会話で使ってみるなど）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐					

教育実習（事前事後指導 1 単位を含む）

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一

科目コード：SCH203

専門/学年： 全専門/2 年次

形態：講義

単位数 5 単位

概要 事前学習では、服務、学習指導案の書き方、教科の指導法等に関する深化を行い、教育実習に向けての資質・能力の向上を図る。事後は実習を通して把握した課題について学修する見直しをもたせる。

到達目標 短期大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技能等を、音楽科授業を始め教育活動全般における実践力を育成すると共に、生徒理解を含め、学校教育の実際を体験的に理解する。また教育者としての愛情と使命感を深め、今後の学修の課題を把握する。

授業計画

第 1 回	教育実習に臨む心構えと最低限身に付けるべき知識・技能の確認。	事前 事前に配付する実習に関する手引きを読み、概要を把握する。 事後 実習にあたっての見直しをまとめることを通じて、実践への準備をする。	160 分 110 分
第 2 回	word を使用して、最新の学習指導案を作成する。(歌唱)	事前 実習協力校から指示されている歌唱教材について分析する。 事後 指導案を基に発問、指示を考えておく。	160 分 110 分
第 3 回	word を使用して、最新の学習指導案を作成する。(器楽)	事前 実習協力校から指示されている器楽教材について分析する。 事後 指導案を基に発問、指示を考えておく。	160 分 110 分
第 4 回	word を使用して、最新の学習指導案を作成する。(創作)	事前 実習協力校から指示されている創作教材について分析する。 事後 指導案を基に発問、指示を考えておく。	160 分 110 分
第 5 回	word を使用して、最新の学習指導案を作成する。(鑑賞)	事前 実習協力校から指示されている鑑賞教材について分析する。 事後 指導案を基に発問、指示を考えておく。	160 分 110 分
第 6 回	歌唱の技能を高める指導法の実践	事前 講義で習得した指導方法について再確認する。 事後 講義を通して理解した様々な指導方法の意味をまとめ、実践への準備をする。	160 分 110 分
第 7 回	教育実習 1 週目 (指導教官の授業観察と記録、学校経営方針・学校組織体制の理解)	事前 事前に実習校のグランドデザインを読み、学校の教育目標を理解しておく。 事後 指導教官の授業から学んだことを考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 8 回	教育実習 2 週目 (生徒の実態並びに課題の把握)	事前 生徒の実態を指導教官の指導により把握する。 事後 授業実習の振り返りから、課題を見出す。	160 分 110 分
第 9 回	教育実習 3 週目 (学級担任、教科担任の補助的な役割を担う)	事前 学級担任、教科担任の実務を把握しておく。 事後 補助的な実務を振り返り、課題を見出す。	160 分 110 分
第 10 回	教育実習を振り返り、学んだこと、考えたこと、今後の課題等について交流し整理する。	事前 実習日誌から学んだこと、課題を整理しておく。 事後 講義、討論を通して今後の課題解決のための見直しをもつ。	160 分 110 分
第 11 回	歌唱・器楽の授業の評価について、実際の授業場面を想定して考える。講義と演習。	事前 実習における具体的な歌唱・器楽の授業場面を整理しておく。 事後 講義を通して学んだ視点を生かし、授業分析と評価の具体を検討する。	160 分 110 分
第 12 回	鑑賞の授業の評価について、実際の授業場面を想定して考える。講義と演習。	事前 実習における具体的な鑑賞の授業場面を整理しておく。 事後 講義を通して学んだ視点を生かし、授業分析と評価の具体を検討する。	160 分 110 分
第 13 回	創作の授業の評価について、実際の授業場面を想定して考える。講義と演習。	事前 実習における具体的な創作の授業場面を整理しておく。 事後 講義を通して学んだ視点を生かし、授業分析と評価の具体を検討する。	160 分 110 分
第 14 回	学級担任としての仕事と使命について整理する。体験をもとにまとめ、交流し整理する。	事前 実習における具体的な担任の実務を整理しておく。 事後 意見交流を通して学んだこととまとめる。	160 分 110 分
第 15 回	振り返りを通して教育実習で把握した課題と今後の学修計画をまとめる。	事前 教育実習日誌を基に、課題を整理する。 事後 講義で学んだ視点を生かして、課題解決に向けた見直しをもつ。	160 分 110 分

フィードバック 講義における指導案、発表への批評を通して学修者にフィードバックする。

成績評価 学習指導案の評価 (20%) 実習校からの評価 (80%) から評価する。

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編 実習日誌 教科書 (実習先で使用のもの)
参考書・参考資料 「指導と評価の一体化のための参考資料【中学校・音楽】」(国立教育政策研究所)

オフィスアワー 別途周知されている時間帯に行く。事前に E メールにて相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☒																

教職実践演習（中）

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一／講師 林直美／大学教授 山内雅子／大学准教授 田中里佳

科目コード：SCH204

専門／学年：全専門／2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 2 年間の教職の学びの集大成として、全ての教職・教科に関する科目の内容を有機的につなげ、教職に就く者としての意識や知識や技能を確かなものとするために、これまで受講した主に教職に関する科目の学修内容と教育実習・介護実習を関連させ、実践的指導能力の育成を図る。

到達目標 全ての教職・教科に関する科目の内容を有機的につなげ、教職に就く者としての意識や知識や技能を確かなものとし、教育的愛情をもって生徒に接し、学修内容を生きた力として発揮できるようにすることを目標とする。

授業計画 オムニバス形式で行う

第 1 回	教職の意義 教育実習を通して感じた「教師という仕事」(内田)	事前 教育実習を通して感じた教師という仕事について、箇条書きにしておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 2 回	教員の職務と学校現場における課題 (いじめ、SNS、不登校等への対応) (内田)	事前 教育実習で感じた学校現場における課題について、箇条書きにしておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 3 回	チーム学校の意義 求められる教師像 (内田)	事前 教育実習で感じた「チーム学校」または「チームでの取り組み」について、箇条書きにまとめる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 4 回	教師としての人権意識 (内田)	事前 事前に配布された人権についての資料を読む。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 5 回	生活指導・道徳の指導 (内田)	事前 事前に配布された生徒指導、道徳についての資料を読み、課題問題に取り組む。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 6 回	特別活動と音楽科 行事と音楽 (内田)	事前 特別活動を通して育てたい生徒像をメモする。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 7 回	命を守る教育 安全教育・アレルギー対応 (内田)	事前 事前に配布された安全教育とアレルギー対応についての資料を読み、2 年次の学修を振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 8 回	音楽科の教科指導 (山内)	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編の指定されたページを読んでくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 9 回	発達障害を有する生徒への対応とインクルーシブ教育システム (山内)	事前 介護実習を振り返り、実習を通して考えたこと、学んだことを箇条書きにしておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 10 回	教育原理・知識と実践のつながり (林)	事前 教育原理の学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 11 回	教育に関する社会的・制度的課題 (林)	事前 教育の社会的・制度的な学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 12 回	進路選択に資する各種の機会の提供 (林)	事前 進路選択に関する学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 13 回	教育課程の意義及び編成の方法 (田中)	事前 教育課程総論の学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 14 回	教育の方法及び技術に関して (田中)	事前 教育の方法についての学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 15 回	生徒から、保護者から、地域から信頼される教師の在り方について討論を行い、レポートを作成する (内田、林)	事前 事前に配布された教師像についての資料を読み、課題問題に取り組む。 事後 討論後の自己の課題を把握する	160 分 110 分

フィードバック 毎回の課題に対して、講義の内容を振り返ると共に、それぞれが教育実習等の経験を踏まえて、自分の考えを述べ、交流する学修が中心となる。リフレクションペーパーを通してフィードバックを行う。

成績評価 リフレクションペーパー (50%)。最終レポート課題 (50%)

テキスト ・毎回、授業用資料を提示する。

オフィスアワー 別途示されている担当教員のオフィスアワーにて対応。事前に E メールにて相談のこと。

アクティブ・ラーニング 学校危機管理、安全管理の具体例検討を通じた実務的能力の獲得

備考 教職の総まとめの授業となるため、教職担当教員全員で担当する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒						

基礎和声-1

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF110

専門/学年：全専門/1年次

形態：演習

単位数：1単位

概要 音楽の基礎であり、楽譜の読み書きに必要な楽典を学ぶ。授業内テストを適宜行い、合格点(70点)に達した者から単位認定する。

到達目標 「和声法」「鍵盤和声」「ソルフェージュ」「楽曲分析」など、音楽基礎科目関係の授業を受講するのに必要な知識を身につけることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

第1回	(楽典の基礎 a) 音程 (基礎)	事前 楽典の基礎 a の予習 事後 楽典の基礎 a の復習	テキストを読む 誤答を直し直す	45分 45分
第2回	(楽典の基礎 b) 音程 (発展)	事前 楽典の基礎 b の予習 事後 楽典の基礎 b の復習	テキストを読む 誤答を直し直す	45分 45分
第3回	(楽典の基礎 c) 音階 (基礎)	事前 楽典の基礎 c の予習 事後 楽典の基礎 c の復習	テキストを読む 誤答を直し直す	45分 45分
第4回	(楽典の基礎 d) 音階 (発展)	事前 楽典の基礎 d の予習 事後 楽典の基礎 d の復習	テキストを読む 誤答を直し直す	45分 45分
第5回	(楽典の基礎 e) 調 (基礎)	事前 楽典の基礎 e の予習 事後 楽典の基礎 e の復習	テキストを読む 誤答を直し直す	45分 45分
第6回	(楽典の基礎 f) 調 (発展)	事前 楽典の基礎 f の予習 事後 楽典の基礎 f の復習	テキストを読む 誤答を直し直す	45分 45分
第7回	(楽典の基礎 g) 和音 (基礎)	事前 楽典の基礎 g の予習 事後 楽典の基礎 g の復習	テキストを読む 誤答を直し直す	45分 45分
第8回	(楽典の基礎 h) 和音 (発展)	事前 楽典の基礎 h の予習 事後 楽典の基礎 h の復習	テキストを読む 誤答を直し直す	45分 45分
第9回	(楽典の基礎 i) 調性判断 (基礎)	事前 楽典の基礎 i の予習 事後 楽典の基礎 i の復習	テキストを読む 誤答を直し直す	45分 45分
第10回	(楽典の基礎 j) 調性判断 (発展)	事前 楽典の基礎 j の予習 事後 楽典の基礎 j の復習	テキストを読む 誤答を直し直す	45分 45分
第11回	(楽典の基礎 k) 移調 (基礎)	事前 楽典の基礎 k の予習 事後 楽典の基礎 k の復習	テキストを読む 誤答を直し直す	45分 45分
第12回	(楽典の基礎 l) 移調 (発展)	事前 楽典の基礎 l の予習 事後 楽典の基礎 l の復習	テキストを読む 誤答を直し直す	45分 45分
第13回	(楽典の基礎 m) 楽語 (基礎)	事前 楽典の基礎 m の予習 事後 楽典の基礎 m の復習	テキストを読む 誤答を直し直す	45分 45分
第14回	(楽典の基礎 n) 楽語 (発展)	事前 楽典の基礎 n の予習 事後 楽典の基礎 n の復習	テキストを読む 誤答を直し直す	45分 45分
第15回	まとめ	事前 まとめの予習 事後 まとめの復習		45分 45分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト “参照資料”
『楽典』※出版社自由

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐						

基礎鍵盤和声

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF112

専門/学年：全専門/1年次

形態：演習

単位数：1単位

概要 鍵盤和声の基礎を学ぶ。授業内テストを適宜行い、合格点に達した者から単位認定する。

到達目標 「鍵盤和声Ⅰ」の授業を受講するのに必要な知識を身につけることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

第1回	(鍵盤和声の基礎 a) 主要三和音 (基礎)	事前 鍵盤和声の基礎 a の予習 事後 鍵盤和声の基礎 a の復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分
第2回	(鍵盤和声の基礎 b) 主要三和音 (発展)	事前 鍵盤和声の基礎 b の予習 事後 鍵盤和声の基礎 b の復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分
第3回	(鍵盤和声の基礎 c) カデンツ (基礎)	事前 鍵盤和声の基礎 c の予習 事後 鍵盤和声の基礎 c の復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分
第4回	(鍵盤和声の基礎 d) カデンツ (発展)	事前 鍵盤和声の基礎 d の予習 事後 鍵盤和声の基礎 d の復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分
第5回	(鍵盤和声の基礎 e) 伴奏形 (基礎)	事前 鍵盤和声の基礎 e の予習 事後 鍵盤和声の基礎 e の復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分
第6回	(鍵盤和声の基礎 f) 伴奏形 (発展)	事前 鍵盤和声の基礎 f の予習 事後 鍵盤和声の基礎 f の復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分
第7回	(鍵盤和声の基礎 g) 和音付け (基礎)	事前 鍵盤和声の基礎 g の予習 事後 鍵盤和声の基礎 g の復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分
第8回	(鍵盤和声の基礎 h) 和音付け (発展)	事前 鍵盤和声の基礎 h の予習 事後 鍵盤和声の基礎 h の復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分
第9回	(鍵盤和声の基礎 i) コードネーム (基礎)	事前 鍵盤和声の基礎 i の予習 事後 鍵盤和声の基礎 i の復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分
第10回	(鍵盤和声の基礎 j) コードネーム (発展)	事前 鍵盤和声の基礎 j の予習 事後 鍵盤和声の基礎 j の復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分
第11回	(鍵盤和声の基礎 k) 長調 (基礎)	事前 鍵盤和声の基礎 k の予習 事後 鍵盤和声の基礎 k の復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分
第12回	(鍵盤和声の基礎 l) 長調 (発展)	事前 鍵盤和声の基礎 l の予習 事後 鍵盤和声の基礎 l の復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分
第13回	(鍵盤和声の基礎 m) 短調 (基礎)	事前 鍵盤和声の基礎 m の予習 事後 鍵盤和声の基礎 m の復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分
第14回	(鍵盤和声の基礎 n) 短調 (発展)	事前 鍵盤和声の基礎 n の予習 事後 鍵盤和声の基礎 n の復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分
第15回	まとめ	事前 まとめの予習 事後 まとめの復習	課題を弾く 課題を弾く	45分 45分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐					

専門実技-1 (ピアノ)

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード : IND301

専門/学年 : ピアノ専門

形態 : 実技

単位数 : 3 単位

概要 技術と感性を磨き、知識に裏付けられた表現を学ぶ。

到達目標 それぞれの作品に即した様式、音色、タッチを自ら探求し、より深い表現力を習得する。

授業計画 前期 15 回、各人 60 分の個人指導
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

第 1 回	ガイダンス 1 年間の学習計画を立てる	事前	これまで習得したレパートリーをまとめ、今後取り組みたい曲を選ぶ	420 分
		事後	1 年間の目標を設定し、そのための課題と勉強方針を明確にする	420 分
第 2 回	前期試験曲 作品の概要、時代背景	事前	読譜をはじめ	420 分
		事後	作曲家について調べる	420 分
第 3 回	前期試験曲 読譜の確認	事前	作品の様式を意識しながら、読譜を進める	420 分
		事後	正しい読譜ができているか確認をする	420 分
第 4 回	前期試験曲 楽譜の読み込み	事前	作曲家の時代背景を考える	420 分
		事後	記譜の細部まで意識して、作曲家の意図を考えながら練習をする	420 分
第 5 回	前期試験曲 アーティキュレーションと奏法	事前	表現方法を考えて、練習をする	420 分
		事後	様式に即した奏法を確認して、練習をする	420 分
第 6 回	前期試験曲 フレーズ感と脱力	事前	アーティキュレーション・スラーの確認をして、練習をする	420 分
		事後	フレーズ感をもって演奏しているか確認をして、練習をする	420 分
第 7 回	前期試験曲 和声感	事前	和声機能の確認をして、練習をする	420 分
		事後	和声の響きを意識して、練習をする	420 分
第 8 回	前期試験曲 形式・様式	事前	作曲家の要求している音色を探り、練習をする	420 分
		事後	曲の大きな流れを捉えて、練習をする	420 分
第 9 回	前期試験曲 強弱とコントラスト	事前	強弱の確認をして、練習をする	420 分
		事後	コントラストの付け方の研究をして、練習をする	420 分
第 10 回	前期試験曲 細かいニュアンス	事前	タッチの確認をして、練習をする	420 分
		事後	色彩感のある音を出しているか確認をして、練習をする	420 分
第 11 回	前期試験曲 テンポ感	事前	最終的なテンポを設定する	420 分
		事後	テンポの不自然なふらつきがないか確認をして、練習をする	420 分
第 12 回	前期試験曲 響きを聴く	事前	和音の響きを聴いているか確認をして練習をする	420 分
		事後	声部それぞれが生きて立体的な演奏になっているか確認をして、練習をする	420 分
第 13 回	前期試験曲 仕上げ 1	事前	表現を掘り下げて、練習をする	420 分
		事後	独自の表現ができているか確認をして、練習をする	420 分
第 14 回	前期試験曲 仕上げ 2	事前	曲のイメージをしっかりと捉えて、練習をする	420 分
		事後	細部の確認をする	420 分
第 15 回	前期試験曲 仕上げ 3	事前	広い空間での響きを意識して、練習をする	420 分
		事後	全体の流れを確認する	420 分

フィードバック 前期演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。
試験にレッスンへの取り組みを加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員(ピアノ実技担当教員)による。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する (各担当教員レッスン日)。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	

専門実技-2 (ピアノ)

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：IND302

専門/学年：ピアノ専門

形態：実技

単位数：3単位

概要 様々なタッチの研究をし、色彩感溢れた音色を追求する。

到達目標 修了演奏試験においてスケールの大きな説得力のある演奏ができることを目標とする。

授業計画 後期 15回、各人 60分の個人指導
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

第1回	オーディションの曲 読譜の確認	事前 楽語を調べ意識をして読譜をする 事後 正しい読譜ができているか確認をする	420分 420分
第2回	オーディションの曲 様式・形式	事前 作曲時の時代背景を調べる 事後 形式を考えて練習をする	420分 420分
第3回	オーディションの曲 表現	事前 表現方法を考えて練習をする 事後 表現する上で最適なテンポを探り練習をする	420分 420分
第4回	オーディションの曲 仕上げ	事前 作曲家の要求している音色を探り練習をする 事後 曲のキャラクターを考えて練習をする	420分 420分
第5回	自由曲 修了演奏試験に向けての勉強の仕方	事前 作品を決め読譜をする 事後 作曲家について調べる	420分 420分
第6回	終了演奏試験曲 読譜の確認	事前 楽語を調べ意識をして読譜をする 事後 正しい読譜ができているか確認をする	420分 420分
第7回	終了演奏試験曲 形式	事前 形式を考え練習をする 事後 曲の大きな流れを捉えて練習をする	420分 420分
第8回	終了演奏試験曲 様式	事前 作曲家の時代背景を調べる 事後 様式に合った表現を考え、練習をする	420分 420分
第9回	終了演奏試験曲 表現	事前 アーティキュレーション・スラーなどの細部も確認して、練習をする 事後 表現する上で最適なテンポを探す	420分 420分
第10回	終了演奏試験曲 和声感	事前 和声機能の確認をして練習をする 事後 和音の響きを意識して練習をする	420分 420分
第11回	終了演奏試験曲 強弱	事前 強弱の確認をして練習をする 事後 コントラストのつけ方の研究をして練習をする	420分 420分
第12回	終了演奏試験曲 音色	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探り練習をする 事後 曲のキャラクターを考えて練習をする	420分 420分
第13回	終了演奏試験曲 細部の表現	事前 強弱・コントラストを考えて、練習をする 事後 フレーズ感をもって演奏をしているか確認をして練習をする	420分 420分
第14回	終了演奏試験曲 細部の音色	事前 タッチの確認をして練習をする 事後 色彩感のある音を出しているか確認をして練習をする	420分 420分
第15回	終了演奏試験曲 より深い解釈	事前 和音の響きを聴いているか確認をして練習をする 事後 声部それぞれが生きて立体的な演奏になっているか確認をして練習をする	420分 420分

フィードバック オーディション・修了演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技試験・修了演奏試験の評価が、50点以上であること。
試験にレッスンへの取り組みを加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員(ピアノ実技担当教員)による。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する(各担当教員レッスン日)。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐

専門実技-1 (器楽)

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND301

専門/学年：器楽専門

形態：実技

単位数：3 単位

概要 専攻科専門実技-1は学習の最も中心となる各自の専門実技を個人レッスン形式で学ぶものである。

到達目標 専攻科では短大2年間で学んだ音の研究、音階練習、エチュード、楽曲等をさらに深める。
学内演奏会に向けて自ら計画を立てる。

授業計画 日課練習である音の研究、音階練習、エチュード、また楽曲に関しては作曲家および時代背景等の作品に対する知識を得ることが重要である。
以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。

第1回	前期の学習計画を立てる	事前 短大2年間の学習を確認し学習計画案を立てる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420分 420分
第2回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ(時代背景を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第3回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ(装飾法を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第4回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ(テクニックを学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第5回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第6回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ(時代背景を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第7回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ(古典時代のスタイルを学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第8回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ(テクニックを学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第9回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ(音楽表現を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第10回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ(時代背景を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第11回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ(楽譜の読み取り方を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第12回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ(テクニックを学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第13回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ(音楽表現を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第14回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第15回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ(ピアノとの表現合わせを学ぶ)(仕上げ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、前期試験に向けて練習する	420分 420分

フィードバック 学内演奏会の後、実技担当教員、器楽実技教員からコメントが出され、それをフィードバックとする。

成績評価 実技試験の評価が、50点以上であること。 定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
なお、試験審査は複数教員(弦管打楽器実技担当教員)による。

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー レッスン後直ぐに担当教員のレッスン室で対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

知識・技能・理解		知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技-2 (器楽)

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND302

専門/学年：器楽専門

形態：実技

単位数：3 単位

概要 専攻科専門実技-2は学習の最も中心となる各自の専門実技を個人レッスン形式で学ぶものである。

到達目標 専攻科では短大2年間で学んだ音の研究、音階練習、エチュード、楽曲等をさらに深めた研究を行う。
集大成として修了試験に向けて学修する。

授業計画 日課練習である音の研究、音階練習、エチュード、また楽曲に関しては作曲家および時代背景等の作品に対する知識を得ることが重要である。
以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。

第1回	後期の学習計画を立てる	事前 前期の学習を確認し後期の学習計画案を立てる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分 420 分
第2回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(時代背景を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第3回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(楽譜の読み取り方を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第4回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(テクニックを学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第5回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(音楽表現を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第6回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(楽譜の読み方を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第7回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(テクニックを学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第8回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(音楽表現を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第9回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(仕上げ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第10回	音の研究、音階練習、エチュード 修了演奏試験曲を学ぶ(時代背景を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第11回	音の研究、音階練習、エチュード 修了演奏試験曲を学ぶ(楽譜の読み方を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第12回	音の研究、音階練習、エチュード 修了演奏試験曲を学ぶ(テクニックを学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第13回	音の研究、音階練習、エチュード 修了演奏試験曲を学ぶ(音楽表現を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第14回	音の研究、音階練習、エチュード 修了演奏試験曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第15回	音の研究、音階練習、エチュード 修了演奏試験曲を学ぶ(ピアノとの表現合わせを学ぶ)(仕上げ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、修了演奏試験に向けて練習する	420 分 420 分

フィードバック 修了試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験の評価が、50点以上であること。 定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
なお、試験審査は複数教員(弦管打楽器実技担当教員)による。

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー レッスン後直ぐに担当教員のレッスン室で対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

知識・技能・理解		知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技-1 (声楽)

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード : IND301

専門/学年 : 声楽専門

形態 : 実技

単位数 : 3 単位

概要 発声および演奏技術、表現力を深く研究する授業である。

到達目標 より高度な声楽的発声法を確立し、表現力豊かな演奏を目指すことを目標とする。

授業計画 前期 15 回、各人 90 分の個人指導。
必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は進度により変更することがある。

第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前	これまでの学習内容を整理する	210 分
		事後	練習曲① 課題曲① 読譜、練習をする	210 分
第 2 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 1 姿勢、呼吸法を中心に	事前	練習曲① 課題曲① 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲② 課題曲② 読譜、練習をする	210 分
第 3 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 2 ストレッチ、発声法を中心に	事前	練習曲② 課題曲② 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲③ 課題曲③ 読譜、練習をする	210 分
第 4 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 3 母音、子音の明確化	事前	練習曲③ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲④ 課題曲④ 読譜、練習をする	210 分
第 5 回	歌曲、楽譜を読み込む 1 詩 (ディクション) と音 (メロディー) との関わり方	事前	練習曲④ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	練習曲⑤ 課題曲③ 母音と子音の明確化	210 分
第 6 回	歌曲、楽譜を読み込む 1 詩 (ディクション) と音 (メロディー) との関わり方	事前	練習曲⑥ 課題曲④ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ 言葉の意味を調べる	210 分
第 7 回	声のカタゴリーを踏まえ、複数の課題曲を選択 前期試験を意識する	事前	課題曲③、課題曲④ 詩の内容を考える	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ テンポ、強弱等意識して練習する	210 分
第 8 回	前期試験曲を探る 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前	課題曲③、課題曲④ 暗譜して練習する	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ 暗譜の確認と表現法の研究	210 分
第 9 回	前期試験曲を選ぶ	事前	前期試験曲の譜読み	210 分
		事後	前期試験曲の音程、リズムを正確に読む練習	210 分
第 10 回	前期試験曲を学ぶ 1 母音と子音の明確化	事前	前期試験曲の言葉 (単語) の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら練習	210 分
第 11 回	前期試験曲を学ぶ 2 詩の内容を理解する	事前	前期試験曲の単語、文章の意味を考える	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら練習	210 分
第 12 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前	前期試験曲の内容と強や、音楽用語の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容と強弱他を考えながら練習	210 分
第 13 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 2 問題点の認識と解決をはかる	事前	前期試験曲、伴奏合わせを繰り返す	210 分
		事後	前期試験曲、呼吸、テンポを伴奏者とともに練習	210 分
第 14 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 3 暗譜を確かなものとする	事前	前期試験曲、伴奏者とともに暗譜練習する	210 分
		事後	前期試験曲、内容を考えながら伴奏者と合わせる	210 分
第 15 回	前期のまとめ	事前	前期試験曲、暗譜をしながら伴奏合わせをくり返す	210 分
		事後	前期試験曲、暗譜の確認および演奏の完成度を上げていく	210 分

フィードバック 前期実技試験によりコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 前期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト 各教員から指示する。

オフィスアワー レッスン後、レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☒	☒	☐											

専門実技-2 (声楽)

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：IND302

専門/学年：声楽専門

形態：実技

単位数：3単位

概要 発声および演奏技術、表現力を深く研究する授業である。

到達目標 より高度な声楽的発声法を確立し、表現力豊かな演奏を目指すことを目標とする。

授業計画 後期 15 回、各人 90 分の個人指導。
必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は進度により変更することがある。

第1回	後期の学習計画を立てる	事前	前期試験の反省	210分
		事後	後期の課題の譜読み	210分
第2回	歌唱技術の習得 1 異なる言語による作品の読譜	事前	課題曲⑤及び⑥の譜読み	210分
		事後	課題曲⑤及び⑥を音程、リズムに注意して練習する	210分
第3回	歌唱技術の習得 2 異なる言語による作品の詩の内容を理解する	事前	課題曲⑤及び⑥の言葉の意味を調べる	210分
		事後	課題曲⑤及び⑥の言葉の意味を考えながら練習する	210分
第4回	歌唱技術の習得 3 異なる言語による作品、母音と子音の明確化	事前	課題曲⑤及び⑥の詩の内容を考える 発音練習する	210分
		事後	課題曲⑤及び⑥の詩の内容を考えながら練習 母音と子音の明確化	210分
第5回	歌唱技術の習得 4 異なる言語による作品、表現法の研究	事前	課題曲⑤及び⑥、強弱、テンポの変化、音楽用語等を調べる	210分
		事後	課題曲⑤及び⑥、表現、テンポを考えながら練習	210分
第6回	後期試験曲を探る 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前	課題曲⑦ 譜読み	210分
		事後	課題曲⑦ 音程、リズムを正確に読む	210分
第7回	後期試験曲を選ぶ	事前	課題曲⑦ 発音練習母音と子音の明確化	210分
		事後	課題曲⑦ 表現、テンポを意識する	210分
第8回	後期試験曲を学ぶ 1	事前	課題曲⑦ 単語の意味を調べる	210分
		事後	課題曲⑦ 単語及び詩の意味を考えながら練習する	210分
第9回	後期試験曲を学ぶ 2	事前	課題曲⑦ 曲の内容を把握する	210分
		事後	課題曲⑦ 曲の内容を考えながら練習する	210分
第10回	後期試験曲を学ぶ 3 伴奏者とともに曲の理解を深める	事前	課題曲⑦ 言葉の意味、時代背景等調べる	210分
		事後	課題曲⑦ 言葉の意味を考えながら練習する	210分
第11回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前	課題曲⑦ 単語、文章の意味を調べる 伴奏合わせをする	210分
		事後	課題曲⑦ 詩の内容を考えながら練習する	210分
第12回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 2 楽曲の研究を深める	事前	課題曲⑦ 伴奏合わせをする。強弱他音楽用語を調べる	210分
		事後	課題曲⑦ 伴奏者とともに曲の内容を考えながら練習する	210分
第13回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 3 楽曲の研究を深め、暗譜をする	事前	課題曲⑦ 伴奏合わせを繰り返し、暗譜練習する	210分
		事後	課題曲⑦ 呼吸、テンポ等、伴奏者と確認する	210分
第14回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 4 楽曲の内容を深め、暗譜を確かなものにする	事前	課題曲⑦ 伴奏者とともに表現方法を工夫する	210分
		事後	課題曲⑦ 曲の内容を考えながら合わせ、表現力をあげる	210分
第15回	後期のまとめ	事前	課題曲⑦ 伴奏者とともに 暗譜の確認	210分
		事後	課題曲⑦ 伴奏者とともに 曲の完成度を上げていく	210分

フィードバック 後期実技試験によりコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 後期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト 各教員から指示する。

オフィスアワー レッスン後、各レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐							

アンサンブル-1 (ピアノ)

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード: IEN301

専門/学年: ピアノ専門

形態: 実技

単位数: 2 単位

概要 モーツァルト・シューベルトの連弾曲のテンポ感、ニュアンス、表現について学ぶ。

到達目標 連弾曲を様々な角度から掘り下げ、内容の濃い演奏を目指す。

授業計画 前期 15 回、各人 30 分の個人指導。
実技演習においては各人の進度に合わせて授業を進める。

回数	内容	事前	事後	140 分
第 1 回	ガイダンス 1 年間の学習計画	これまでに勉強したアンサンブルの曲を書き出す	1 年間の目標を設定し勉強方針を立てる	140 分
第 2 回	モーツァルトの連弾曲 テンポ感	KV381 ソナタ ニ長調の読譜をする	作曲時の時代背景を調べる	140 分
第 3 回	モーツァルトの連弾曲 様式	KV358 ソナタ 変ロ長調の読譜をする	作曲時の時代背景を調べる	140 分
第 4 回	モーツァルトの連弾曲 表現	KV401 フーガ ト短調の読譜をする	表現方法を考えて練習をする	140 分
第 5 回	モーツァルトの連弾曲 ニュアンス	KV497 ソナタ ヘ長調の読譜をする	モーツァルトの要求しているニュアンスを調べて練習する	140 分
第 6 回	モーツァルトの連弾曲 響き	KV357 アレグロ ト長調の読譜をする	響きを感じとる練習をする	140 分
第 7 回	モーツァルトの連弾曲 バランス	KV501 アンダンテと変奏曲 ト長調の読譜をする	全体のバランスを調べて練習をする	140 分
第 8 回	モーツァルトの連弾曲 まとめ	KV521 ソナタ ハ長調の読譜をする	作品のイメージを感じとる練習をする	140 分
第 9 回	シューベルトの連弾曲 テンポ感	シューベルトの連弾曲ボロネーズより 1 曲を選び読譜をする	ボロネーズのリズムを感じとる練習をする	140 分
第 10 回	シューベルトの連弾曲 様式	シューベルトの連弾曲ソナタより 1 曲を選び読譜をする	作曲時の時代背景を調べる	140 分
第 11 回	シューベルトの連弾曲 表現	幻想曲 ヘ長調 Op.103 の読譜をする	表現方法を調べて練習をする	140 分
第 12 回	シューベルトの連弾曲 ニュアンス	変奏曲より 1 曲を選び読譜をする	作曲家の要求しているニュアンスを調べて練習をする	140 分
第 13 回	シューベルトの連弾曲 響き	行進曲より 1 曲を選び読譜をする	音の響き、和声感を感じとる練習をする	140 分
第 14 回	シューベルトの連弾曲 バランス	アレグロ イ短調 Op.144 の読譜をする	バランスを考え、聴きとり、すぐ反応できる練習をする	140 分
第 15 回	シューベルトの連弾曲 まとめ	ロンド イ長調 Op.107 の読譜をする	作品のイメージを感じとる練習をする	140 分

フィードバック 授業内での課題に対して、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価をする。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

アンサンブル-2 (ピアノ)

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード: IEN302

専門/学年: ピアノ専門

形態: 実技

単位数: 2 単位

概要 モーツァルトの 2 台ピアノ曲とアンサンブルの試験曲でテンポ感・ニュアンス・表現について学ぶ。

到達目標 アンサンブルの試験において、より深い音楽表現を求めて、一体感と音楽の喜びを感じられる演奏を目指す。

授業計画 後期 15 回、各人 30 分の個人指導。
実技演習においては各人の進度に合わせて授業を進める。

回数	曲名	台数	事前	事後	時間
第 1 回	モーツァルト テンポ感	2 台ピアノ曲	2 台のピアノの為のソナタ KV448 ニ長調 第 1 楽章の読譜をする	テンポが一定でふらつかない練習をする	140 分
第 2 回	モーツァルト 様式	2 台ピアノ曲	2 台のピアノの為のソナタ KV448 ニ長調 第 2 楽章の読譜をする	作曲時の時代背景を調べる	140 分
第 3 回	モーツァルト 表現	2 台ピアノ曲	2 台のピアノの為のソナタ KV448 ニ長調 第 3 楽章の読譜をする	表現方法を考えて演奏する	140 分
第 4 回	モーツァルト ニュアンス	2 台ピアノ曲	ラルゲットとアレグロ 変ホ長調の読譜をする	作曲家の要求しているニュアンスを調べて演奏する	140 分
第 5 回	モーツァルト 響き	2 台ピアノ曲	KV426 フーガ ハ短調の読譜をする	力強く華やかな展開を感じとる練習をする	140 分
第 6 回	モーツァルト バランス	2 台ピアノ曲	オペラ「魔笛」序曲 KV620 の読譜をする	オーケストラの響きを 2 台ピアノで表現する練習をする	140 分
第 7 回	モーツァルト まとめ	2 台ピアノ曲	自動オルガンの為の小品 (幻想曲) ヘ短調 KV608 の読譜をする	連弾曲との違いを感じとり演奏に結びつける	140 分
第 8 回	自由曲 テンポ感		学年末試験で演奏する曲を探し、読譜をする	様々なテンポで練習し、担当教員のテンポ感に合わせる練習をする	140 分
第 9 回	自由曲 様式		作曲時の時代背景を調べる	形式を調べて練習をする	140 分
第 10 回	自由曲 表現		担当教員が表現している音楽を感じとれる様に練習をする	担当教員が表現している音の色彩感を感じとれる様に練習をする	140 分
第 11 回	自由曲 ニュアンス		作曲家の要求しているニュアンスを探り、練習をする	和声の響きを聴き、立体感のある演奏を確認して、練習をする	140 分
第 12 回	自由曲 響き		担当教員の演奏しているパートの読譜をする	第 1、第 2 ピアノの楽譜を縦に読譜して響きの確認をする	140 分
第 13 回	自由曲 バランス		コントラストのつけ方を考えて、練習をする	バランスを調べて、練習をする	140 分
第 14 回	自由曲 より大きな表現		独自の音楽表現を研究して、練習をする	作曲家の要求している音楽を考え、練習をする	140 分
第 15 回	自由曲 仕上げ		曲のイメージをしっかりと捉えて、演奏をする	広い空間での響きを意識して、演奏をする	140 分

フィードバック 試験の演奏に対して、コメントをつけ学修成果をフィードバックする。

成績評価 学年末試験の評価が 50 点以上であること。試験 60%、課題 20%、授業態度 20%
試験にレッスンへの取り組みを加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員(ピアノ実技担当教員)による。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	

アンサンブル-1 (器楽)

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード: IEN301

専門/学年: 器楽専門

形態: 実技

単位数: 2 単位

概要 短期大学部で学んだ器楽合奏を専攻科ではより深い楽曲の研究を行う。

到達目標 各時代のアンサンブルを学び、授業終了後発表会を行い、ステージマナーなども学ぶ。

授業計画 履修学生は授業内容に沿った個人練習と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。
授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽づくりや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組むこと。

回数	学習計画を立てる	事前	事後	105 分
第 1 回	学習計画を立てる	短大 2 年間の器楽合奏の学習を確認し学習計画案を立てる	学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	105 分
第 2 回	バロック時代のアンサンブル (楽譜の読み取り方を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 3 回	バロック時代のアンサンブル (テクニックを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 4 回	バロック時代のアンサンブル (スタイルの研究を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 5 回	バロック時代のアンサンブル (表現の研究を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、発表に向けて練習する	105 分
第 6 回	バロック時代のアンサンブル (発表)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 7 回	古典時代のアンサンブル (楽譜の読み取り方を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 8 回	古典時代のアンサンブル (テクニックを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 9 回	古典時代のアンサンブル (スタイルの研究を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 10 回	古典時代のアンサンブル (表現の研究を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、発表に向けて練習する	105 分
第 11 回	古典時代のアンサンブル (発表)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	105 分
第 12 回	ロマン派時代のアンサンブル (楽譜の読み取り方を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 13 回	ロマン派時代のアンサンブル (テクニックを中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 14 回	ロマン派時代のアンサンブル (スタイルの研究を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分
第 15 回	ロマン派時代のアンサンブル (表現の研究を中心に)	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105 分
		事後	問題箇所を確認し、発表に向けて練習する	105 分

フィードバック 発表会後の教員からのコメントをフィードバックとする。

成績評価 発表会等 40% 課題 40% 授業態度 20%

テキスト 各教員から指示がある。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

アクティブ・ラーニング ・少人数のグループに分かれ、音色・イントネーションなど一人ひとり意見を発表し、アンサンブル楽曲の完成に導いてゆく
・各自好きな CD 等 (アンサンブル) を聴き合い、そのスタイルや演奏の意見交換をする

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

アンサンブル-2 (器楽)

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード: IEN302

専門/学年: 器楽専門

形態: 実技

単位数: 2 単位

概要 専攻科では、短期大学部で学んだ器楽合奏をより深く探求し、楽曲の研究を行う。

到達目標 各時代のアンサンブルを学び、授業修了後にはホールでのコンサートを行い、ステージマナーなども学ぶ。

授業計画

履修学生は授業内容に沿った個人練習と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。
授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽づくりや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組むこと。

第1回	学習計画を立てる	事前 前期の学習を確認し後期の学習計画を立てる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	105 分 105 分
第2回	近代のアンサンブル (楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第3回	近代のアンサンブル (テクニックを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第4回	近代のアンサンブル (スタイルの研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第5回	近代のアンサンブル (表現の研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第6回	近代のアンサンブル (発表)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	105 分 105 分
第7回	現代のアンサンブル (楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第8回	現代のアンサンブル (テクニックを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第9回	現代のアンサンブル (スタイルの研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第10回	現代のアンサンブル (表現の研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第11回	現代のアンサンブル (発表)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	105 分 105 分
第12回	修了コンサートに向けて (テクニックを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第13回	修了コンサートに向けて (スタイルの研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第14回	修了コンサートに向けて (表現の研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第15回	修了コンサートに向けて (仕上げ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、修了コンサートに向けて練習する	105 分 105 分

フィードバック 修了コンサート後に教員よりコメントを受ける。

成績評価 修了コンサート等 40% 課題 40% 授業態度 20%

テキスト 各教員から指示がある。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

アクティブ・ラーニング ・少人数のグループに分かれ、音色・イントネーションなど一人ひとり意見を発表し、アンサンブル楽曲の完成に導いてゆく
・各自好きな CD 等 (アンサンブル) を聴き合い、そのスタイルや演奏の意見交換をする

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

アンサンブル-1 (声楽)

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード: IEN301

専門/学年: 声楽専門

形態: 実技

単位数: 2 単位

概要 W.A.モーツァルトの主要なオペラ作品より、重唱曲を題材とし、深く追求する演習授業である。

到達目標 オペラの演技付重唱曲を通して演奏技術、表現力、演技力を向上させることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、必要に応じて、変更することがある。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	ガイダンス (1) 前期の学習計画を立てる	2年間のレパートリーを整理する	課題曲①、②の読譜をする	130分 140分
第2回	オペラに必要な姿勢と発声法の確立 課題曲①、②	課題曲①及び②の読譜をすすめる	課題曲①及び②音程、リズムに気をつけて音取り練習する	130分 140分
第3回	課題曲①、及び② 言語、和声感を中心に	課題曲①、②単語の意味を調べる	課題曲①、②言葉の意味を考えながら練習する	130分 140分
第4回	表現の発展	課題曲①、②曲の内容を考えながら練習する	課題曲①、②テンポ、強弱等表現法を意識して練習する	130分 140分
第5回	DVD鑑賞し、表現、演技の研究	課題曲①、②の演奏法、感情表現法を研究する	課題曲①、②演技づけしての練習	130分 140分
第6回	伴奏を伴い暗譜及び立ち稽古	課題曲①、②伴奏者とともに暗譜練習する	課題曲①、②伴奏者とともに暗譜の上、演技づけをする	130分 140分
第7回	伴奏を伴い暗譜及び演技づけ	課題曲①、②伴奏者とともに暗譜の確認をする	課題曲①、②伴奏者とともに暗譜を確認をしつつ、演技づけ	130分 140分
第8回	オペラ重唱曲①、② 読譜の方法	オペラ重唱曲①、②の読譜をする	オペラ重唱曲①、②読譜 (リズム、音程、和声感を意識して練習)	130分 140分
第9回	オペラ重唱曲①、② 言語、和声感を中心に	オペラ重唱曲①、②単語の意味を調べる	オペラ重唱曲①、②言葉の意味を考えながら練習する	130分 140分
第10回	オペラ重唱曲①、② 表現の発展	オペラ重唱曲①、②時代背景、人間関係等意識して練習する	オペラ重唱曲①、②時代背景、人間関係等考えながら練習する	130分 140分
第11回	オペラ重唱曲①、② DVD鑑賞し、表現、演技の研究	オペラ重唱曲①、②役柄の感情の変化を意識する	オペラ重唱曲①、②テンポ、強弱の変化および演奏法を研究する	130分 140分
第12回	オペラ重唱曲①、② 伴奏を伴い暗譜及び立ち稽古	オペラ重唱曲①、②伴奏合わせをする	オペラ重唱曲①、②伴奏者とともに暗譜の練習をする	130分 140分
第13回	オペラ重唱曲①、② 伴奏を伴い暗譜及び演技づけ	オペラ重唱曲①、②伴奏者とともに暗譜、演技づけ	オペラ重唱曲①、②伴奏者とともに暗譜を確認をする	130分 140分
第14回	オペラ重唱曲①、② 暗譜の上、演奏の質の向上をはかる	オペラ重唱曲①、②暗譜の上、表現法を研究する	オペラ重唱曲①、②伴奏者とともに暗譜の上、表現法を研究する	130分 140分
第15回	まとめ	オペラ重唱曲①、②伴奏者とともに暗譜を確認をする	オペラ重唱曲①、②伴奏者とともに暗譜の上、表現力を上げ、演奏の質を高める	130分 140分

フィードバック 演奏試験により、コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 前期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト 必要に応じて、プリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後レッスン室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐				

アンサンブル-2 (声楽)

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード: IEN302

専門/学年: 声楽専門

形態: 実技

単位数: 2 単位

概要 モーツァルトおよび周辺の作曲家、作品の特徴に触れ、その流れを体感できるよう試みる。

到達目標 それぞれの様式、音楽的構造、詩の内容もふまえ、演奏技術を高め、豊かな表現力を養うことを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、必要に応じて、変更することがある。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	ガイドンス(2) 後期の学習計画を立てる	前期成果の確認をする	プリントを読み、読譜する	130分 140分
第2回	W. A. モーツァルトの生涯 歌曲及び声楽作品について	プリントを読み、モーツァルト作品について調べる	課題曲③、④読譜(リズム、音程に気をつける)	130分 140分
第3回	W. A. モーツァルトの生涯 オペラ作品について	課題曲③、④読譜をすすめる	k.492フィガロの結婚より、課題部分の読譜の確認をする	130分 140分
第4回	Le nozze di Figaro K.492 フィガロの結婚 DVD鑑賞しながら作品の研究	課題曲③、④言葉の意味を調べて練習する	課題曲③、④時代背景、人間関係等意識して練習する	130分 140分
第5回	Le nozze di Figaro K.492 フィガロの結婚 重唱曲③、④	課題曲③、④伴奏合わせをする	課題曲③、④内容を把握しながら、伴奏合わせをする	130分 140分
第6回	重唱曲⑤、及び⑥ 読譜、言語、和声感、様式感を中心に	重唱曲⑤、⑥言葉の意味を調べて、読譜する	重唱曲⑤、⑥時代背景、人間関係等意識して練習する	130分 140分
第7回	重唱曲⑤、及び⑥ 表現の発展	重唱曲⑤、⑥テンポ、強弱他、音楽用語を調べる	重唱曲⑤、⑥曲の内容を考えて練習する	130分 140分
第8回	重唱曲⑤、及び⑥ 伴奏を伴い暗譜、演技づけ	重唱曲⑤、⑥伴奏者とともに暗譜練習する	重唱曲⑤、⑥伴奏者とともに暗譜および演技づけ	130分 140分
第9回	重唱曲⑤、及び⑥ 伴奏を伴い暗譜、演奏の質の向上をはかる	重唱曲⑤、⑥伴奏者とともに暗譜を確認をする	重唱曲⑤、⑥伴奏者とともに暗譜。表現力を上げ、演奏の質を高めていく	130分 140分
第10回	Così fan tutte, ossia La scuola degli amanti K.588 女はみんなこうしたもの DVD(前)	テキストを読む	重唱曲⑦、⑧言葉の意味を調べ、読譜する	130分 140分
第11回	Così fan tutte, ossia La scuola degli amanti K.588 女はみんなこうしたもの DVD(後)	重唱曲⑦、⑧テンポ、強弱他音楽用語を細かく調べる	重唱曲⑦、⑧時代背景、人間関係等意識して練習	130分 140分
第12回	重唱曲⑦、及び⑧ 読譜、言語、和声感、様式感を中心に	重唱曲⑦、⑧曲の内容および表現法を研究する	重唱曲⑦、⑧曲の内容を考えながら伴奏合わせをする	130分 140分
第13回	重唱曲⑦、及び⑧ 伴奏を伴い暗譜、演技づけ	重唱曲⑦、⑧暗譜練習をする	重唱曲⑦、⑧伴奏者とともに暗譜および演技づけ練習	130分 140分
第14回	重唱曲⑦、及び⑧ 伴奏を伴い暗譜、演奏の質の向上をはかる	重唱曲⑦、⑧暗譜をしながら、演技づけの練習をする	重唱曲⑦、⑧伴奏者とともに暗譜の確認をする	130分 140分
第15回	まとめ	伴奏者とともに表現を深め、演奏の質を高める	後期の成果の確認をする	130分 140分

フィードバック オーディション、定期演奏会、後期実技試験により、コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 後期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト 必要に応じてプリントを配布する

オフィスアワー 授業終了後レッスン室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐							

特殊研究-1 (ピアノ)

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：IND307

専門/学年：ピアノ専門

形態：講義

単位数：2 単位

概要 楽譜から作曲家の意図する音楽を読み取り、様式や形式について考察する。

到達目標 バロック・古典派・ロマン派のピアノ作品及び協奏曲作品について学び、読譜力を高める。

授業計画 ピアノ曲の歴史的様式を理解する。

第1回	バロック鍵盤楽器作品研究 様式について	事前 バロックの時代背景を考える 事後 バロックの時代の楽器について調べる	140分 140分
第2回	バロック鍵盤楽器作品研究 和声感について	事前 チェンバロの構造を調べ音色を確認する 事後 オルガンの構造を調べ音色を確認する	140分 140分
第3回	バロック鍵盤楽器作品研究 アーティキュレーションについて	事前 アーティキュレーション・スラーについて調べる 事後 古典組曲の定義について調べる	140分 140分
第4回	バロック鍵盤楽器作品研究 運指について	事前 バロックの作品より1曲選び読譜をする 事後 古典組曲のそれぞれの舞曲について調べる	140分 140分
第5回	古典派ピアノ作品研究 様式について	事前 古典派の作曲家について調べ作曲家のつながりを考える 事後 時代背景を考える	140分 140分
第6回	古典派ピアノ作品研究 和声感について	事前 ベートーヴェンのソナタより1曲選び第1楽章の読譜をする 事後 和声機能の確認をする	140分 140分
第7回	古典派ピアノ作品研究 アーティキュレーションについて	事前 モーツァルトのソナタより1曲選び第1楽章の読譜をする 事後 アーティキュレーション・スラーの確認をする	140分 140分
第8回	古典派ピアノ作品研究 運指について	事前 モーツァルトのソナタより1曲選び終楽章の読譜をする 事後 運指の確認をする	140分 140分
第9回	古典派ピアノ協奏曲作品研究 様式について	事前 協奏曲の歴史を調べる 事後 協奏曲の形式を調べる	140分 140分
第10回	古典派ピアノ協奏曲作品研究 和声感について	事前 ベートーヴェンのピアノ協奏曲より1曲選び第2楽章の読譜をする 事後 和声機能の確認をする	140分 140分
第11回	古典派ピアノ協奏曲作品研究 アーティキュレーションについて	事前 モーツァルトのピアノ協奏曲より1曲選び第2楽章の読譜をする 事後 アーティキュレーション・スラーの確認をする	140分 140分
第12回	古典派ピアノ協奏曲作品研究 運指について	事前 モーツァルトのピアノ協奏曲より1曲選び終楽章の読譜をする 事後 運指の確認をする	140分 140分
第13回	ロマン派ピアノ作品研究 様式について	事前 古典派のソナタとロマン派のソナタの相違点を考える 事後 標題音楽について考える	140分 140分
第14回	ロマン派ピアノ作品研究 和声感について	事前 ショパンの作品より1曲選び読譜をする 事後 和声機能の確認をする	140分 140分
第15回	ロマン派ピアノ作品研究 アーティキュレーションについて	事前 シューマンの作品より1曲選び読譜をする 事後 アーティキュレーション・スラーの確認をする	140分 140分

フィードバック 授業内での課題に対し、コメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方、および授業態度による。

テキスト 授業内で指示する。

オフィスアワー 授業終了後、教室で行う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐

特殊研究-2 (ピアノ)

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード : IND308

専門/学年 : ピアノ専門

形態 : 講義

単位数 2 単位

概要 楽譜から音楽を読み取る力を養い、様式・形式の理解を深め、演奏に結びつける。

到達目標 ロマン派・近現代のピアノ作品及び協奏曲作品について学び、表現力を身につける。

授業計画 ピアノ曲の歴史的様式を理解する。

第1回	ロマン派ピアノ作品研究 運指について	事前 事後	ブラームス・リストの作品より1曲選び、読譜をする 運指の確認をする	140分 140分
第2回	ロマン派ピアノ協奏曲作品研究 様式について	事前 事後	ショパンのピアノ協奏曲より1曲選び、第2楽章の読譜をする オーケストラの構成を調べる	140分 140分
第3回	ロマン派ピアノ協奏曲作品研究 和声感について	事前 事後	ショパンのピアノ協奏曲のスコアの読譜を試みる 和声機能の確認をする	140分 140分
第4回	ロマン派ピアノ協奏曲作品研究 アーティキュレーションについて	事前 事後	シューマンのピアノ協奏曲 第2楽章の読譜をする アーティキュレーションの確認をする	140分 140分
第5回	ロマン派ピアノ協奏曲作品研究 運指について	事前 事後	シューマンのピアノ協奏曲のスコアの読譜を試みる 運指の確認をする	140分 140分
第6回	フランス近現代ピアノ作品研究 様式について	事前 事後	フランス近現代ピアノ作品について調べる 時代背景を調べる	140分 140分
第7回	フランス近現代ピアノ作品研究 和声感について	事前 事後	ドビュッシーの小品より1曲選び、読譜をする 和声機能の確認をする	140分 140分
第8回	フランス近現代ピアノ作品研究 アーティキュレーションについて	事前 事後	ドビュッシーの前奏曲集より1曲選び、読譜をする アーティキュレーション・スラーの確認をする	140分 140分
第9回	フランス近現代ピアノ作品研究 運指について	事前 事後	ドビュッシーのエチュードより1曲選び、読譜をする 運指の確認をする	140分 140分
第10回	ロシア、東欧ピアノ作品研究 様式について	事前 事後	ロシアの音楽史を調べる 時代背景を調べる	140分 140分
第11回	ロシア、東欧ピアノ作品研究 和声感について	事前 事後	カバレフスキーの作品より1曲選び、読譜をする 和声機能の確認をする	140分 140分
第12回	ロシア、東欧ピアノ作品研究 アーティキュレーションについて	事前 事後	バルトークのマイクロコスモスより1曲選び、読譜をする アーティキュレーション・スラーの確認をする	140分 140分
第13回	ロシア、東欧ピアノ作品研究 運指について	事前 事後	バルトークのルーマニア民族舞曲より1曲選び、読譜をする 運指の確認をする	140分 140分
第14回	脱力と様々なタッチについて	事前 事後	脱力を確認し、指導する際のポイントを整理する 様々なタッチを確認し、わかりやすく指導できる様に、ポイントの整理をする	140分 140分
第15回	暗譜、メンタルトレーニングについての考察	事前 事後	暗譜の仕方を考える メンタルトレーニング方法を考える	140分 140分

フィードバック 授業内での課題に対し、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方、および授業態度による。

テキスト 授業内で指示する。

オフィスアワー 授業終了後、教室で行う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	

特殊研究-1 (器楽)

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード : IND307

専門/学年 : 器楽専門

形態 : 実技

単位数 : 2 単位

概要 専攻科では各学生の独自性を持った研究計画に従って演奏家としてより高度な演奏、研究を目指すこととなる。

到達目標 短大2年間で学んだことの応用はもちろんのこと、特に近代音楽、現代音楽における特殊奏法を習得する。また、将来良い指導者になるために指導法も学ぶ。

授業計画 授業内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。

第1回	バロック時代の装飾音符を学ぶ	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分
第2回	バロック時代の楽曲実践	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分
第3回	バロック時代の楽曲仕上げ	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分
第4回	古典・ロマン派時代のより深い音楽表現を学ぶ	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分
第5回	古典・ロマン派時代の楽曲実践	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分
第6回	古典・ロマン派時代の楽曲仕上げ	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分
第7回	近代の特殊奏法、テクニックを学ぶ	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分
第8回	近代の楽曲実践	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分
第9回	近代の楽曲仕上げ	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分
第10回	まとめ	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分
第11回	現代奏法とは	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分
第12回	現代奏法の種類	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分
第13回	現代奏法の楽曲実践	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分
第14回	現代奏法の仕上げ	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分
第15回	現代奏法のまとめ	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140分 140分

フィードバック 各時代ごとにレポートを提出し、授業担当教員からコメントを受ける。

成績評価 課題 40% テスト 20% 授業態度 40%

テキスト 各教員から指示があり。

オフィスアワー 授業後直ぐに担当教員のレッスン室で対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐

特殊研究-2 (器楽)

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND308

専門/学年：器楽専門

形態：実技

単位数：2 単位

概要 専攻科では各学生の独自性を持った研究計画に従って演奏家としてより高度な演奏、研究を目指すこととなる。

到達目標 短大2年間で学んだことの応用はもちろんのこと、特に近代音楽、現代音楽における特殊奏法を習得する。また、将来良い指導者になるために指導法も学ぶ。

授業計画 授業内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。

第1回	初心者の指導法の注意	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分
第2回	初心者の指導法 (音を出す時の注意)	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分
第3回	初心者の指導法 (楽器取り扱いの注意)	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分
第4回	初心者の指導法 (低音域、中音域、高音域の出し方)	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分
第5回	レッスンの進め方	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分
第6回	アンサンブル指導の注意	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分
第7回	アンサンブル指導法 (二重奏の指導法)	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分
第8回	アンサンブル指導法 (二重奏の指導法実践)	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分
第9回	アンサンブル指導法 (三重奏の指導法)	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分
第10回	アンサンブル指導法 (三重奏の指導法の実践)	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分
第11回	アンサンブル指導法 (四重奏の指導法)	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分
第12回	アンサンブル指導法 (四重奏の指導法の実践)	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分
第13回	アンサンブル指導法 (多人数アンサンブル指導法)	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分
第14回	アンサンブル指導法 (多人数アンサンブル指導法の実践)	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分
第15回	まとめ、授業終了後テスト	事前 前以て参考音源、参考文献などを紹介するので準備を充分に行うこと。 事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分 140 分

フィードバック 各指導法ごとにレポートを提出し授業担当教員からコメントを受ける。

成績評価 課題 40% テスト 20% 授業態度 40%

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 授業後直ぐに担当教員のレッスン室で対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐

特殊研究-1 (声楽)

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：IND307

専門/学年：声楽専門

形態：実技

単位数：2単位

概要 バロックから古典までの時代の作品の中からテーマ（作曲家別）を決め、作品を研究する授業である。

到達目標 各作品を深く理解し、それらを演奏するにあたり必要な技術を習得し、演奏の完成度を高めることを目標とする。

授業計画

第1回	前期の学習計画を立てる	事前	2年間のレパートリーを整理しておく	130分
		事後	何曲か課題を取り上げ演奏する	140分
第2回	声域・カテゴリーの確立	事前	課題曲の読譜（音程、リズム等）	130分
		事後	課題曲の読譜を進める	140分
第3回	エチュード、歌曲 姿勢、ストレッチを中心に	事前	課題曲の読譜と言葉の意味を調べる	130分
		事後	課題曲の内容の意味を考えながら練習する	140分
第4回	エチュード、歌曲 呼吸法、発声法を中心に	事前	課題曲のテンポ、強弱、音楽用語を調べる	130分
		事後	課題曲の内容に合った表現を工夫する	140分
第5回	エチュード、歌曲 発音、母音、子音の明確化	事前	課題曲の母音のみの練習等	130分
		事後	課題曲の母音と子音の明確化を意識して練習する	140分
第6回	レパートリーの確立 1 歌曲①、②の読譜	事前	歌曲①、② 読譜（音程、リズム等）	130分
		事後	歌曲①、② 読譜を進める	140分
第7回	レパートリーの確立 2 歌曲①、②の正確な	事前	歌曲①、② 読譜と言葉の意味を調べる	130分
		事後	歌曲①、② 内容の意味を考えながら練習	140分
第8回	レパートリーの確立 3 歌曲①、②読譜と詩の解釈をすすめる	事前	歌曲①、② テンポ、強弱等音楽用語を調べる	130分
		事後	歌曲①、② 内容に合った表現と暗譜をする	140分
第9回	課題曲の選択 オラトリオ①の読譜	事前	オラトリオ① テキストを読んでくる	130分
		事後	オラトリオ① DVD等を鑑賞してくる	140分
第10回	課題曲の選択 オラトリオ②の読譜	事前	オラトリオ② テキストを読んでくる	130分
		事後	オラトリオ② DVD等を鑑賞してくる	140分
第11回	課題曲の正確な読譜と詩の解釈をすすめる オラトリオ①、②	事前	オラトリオ①、② 読譜（音程、リズム等）	130分
		事後	オラトリオ①、② 読譜を進める	140分
第12回	課題曲 歌唱表現の研究 オラトリオ①、②	事前	オラトリオ①、② 言葉の意味を調べる	130分
		事後	オラトリオ①、② 詩の内容を考えながら練習する	140分
第13回	ピアノ伴奏者を伴い楽曲の研究	事前	オラトリオ①、② テンポ、強弱、音楽用語を調べる	130分
		事後	オラトリオ①、② 伴奏者とともに練習を進める	140分
第14回	ピアノ伴奏者を伴い楽曲の研究を更に深める	事前	オラトリオ①、② 伴奏者とともに表現の工夫をする	130分
		事後	オラトリオ①、② 伴奏者とともに暗譜練習をする	140分
第15回	まとめ 暗譜の上、表現の発展をはかる	事前	オラトリオ①、② 伴奏者とともに暗譜の確認をする	130分
		事後	オラトリオ①、② 暗譜のうえ、表現の発展をはかる	140分

フィードバック リハーサル、試演会等行い、講評、コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 研究発表 70%、授業への取り組み 30%

テキスト 各人の状況に合わせて適宜指示する。

オフィスアワー 授業終了後に担当教員のレッスン室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐						

特殊研究-2 (声楽)

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：IND308

専門/学年：声楽専門

形態：実技

単位数：2 単位

概要 声のカテゴリーに合ったレパートリー（オペラアリア等）の確立をはかる。

到達目標 より高度な演奏技術を目指す。かつ表現力の向上をはかる。

授業計画

第1回	後期の学習計画を立てる	事前 前期の成果の確認 事後 後期の課題曲オペラアリア①の読譜をする	130 分 140 分
第2回	後期の課題曲を選曲する オペラアリア①	事前 オペラアリア① 読譜をする 事後 オペラアリア① 読譜を進める	130 分 140 分
第3回	課題曲の選択 オペラアリア①、②	事前 オペラアリア①、② 読譜をする 事後 オペラアリア①、② 読譜を進める	130 分 140 分
第4回	課題曲の正確な読譜 オペラアリア①、②	事前 オペラアリア①、② 母音、子音の発音に気をつけて練習する 事後 オペラアリア①、② 言葉の意味を調べる	130 分 140 分
第5回	課題曲の正確な読譜と内容の把握 作曲家の研究	事前 オペラアリア①、② 言葉の意味を考えながら練習する 事後 オペラアリア①、② 詩の内容を考えながら練習する	130 分 140 分
第6回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究 オペラアリア①、②	事前 オペラアリア①、② テンポ、強弱等、の音楽用語を調べる 事後 オペラアリア①、② 伴奏者とともに練習をする	130 分 140 分
第7回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める オペラアリア①、②	事前 オペラアリア①、② 伴奏者とともに表現の工夫をする 事後 オペラアリア①、② 伴奏者とともに暗譜練習をする	130 分 140 分
第8回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究 課題曲の暗譜、オペラアリア①、②	事前 オペラアリア①、② 伴奏者とともに暗譜練習を進める 事後 オペラアリア①、② 暗譜のうえ、表現力を上げ演奏の質を高める	130 分 140 分
第9回	課題曲の正確な読譜 作曲と時代背景の研究 オペラアリア①、②	事前 オペラアリア③、④ 読譜をする 事後 オペラアリア③、④ 読譜を進める	130 分 140 分
第10回	課題曲の総合演習と解釈 オペラアリア③、④	事前 オペラアリア③、④ 作品について調べる 事後 オペラアリア③、④ DVD等鑑賞して譜読みをする	130 分 140 分
第11回	課題の暗譜 オペラアリア③、④	事前 オペラアリア③、④ 言葉の意味を調べる 事後 オペラアリア③、④ 内容を考えながら練習をする	130 分 140 分
第12回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究 オペラアリア③、④	事前 オペラアリア③、④ テンポ、強弱等の音楽用語を調べる 事後 オペラアリア③、④ 総合的に考えながら練習をする	130 分 140 分
第13回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める 課題曲の暗譜 オペラアリア③、④	事前 オペラアリア③、④ 伴奏者とともに練習をする 事後 オペラアリア③、④ 伴奏者とともに暗譜練習をする	130 分 140 分
第14回	暗譜のうえ、楽曲の完成度を高める	事前 オペラアリア③、④ 伴奏者とともに暗譜を進める 事後 オペラアリア③、④ 表現の工夫を試みる	130 分 140 分
第15回	まとめ	事前 オペラアリア③、④ 暗譜のうえ、表現を深める 事後 オペラアリア③、④ 曲の完成度を上げる	130 分 140 分

フィードバック 試演会を行い、講評及びコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 研究発表 70%、授業への取り組み 30%

テキスト 各人の状況に合わせて適宜指示する。

オフィスアワー 授業終了後に担当教員のレッスン室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐						

音楽理論-1

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF301

専門/学年：全専門

形態：講義

単位数：2単位

概要 和声法Ⅰ・Ⅱで学んだことをふまえ、さらに高度な学習へと発展する。
また、和声法で学んだ知識を実際の音楽に応用できるよう、実作品の和声分析も行う。

到達目標 和声法の発展的な課題を実施できるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【和声】		【和声分析】								
第1回	ガイダンス 音楽理論とは			事前	ガイダンスの予習				「音楽理論」の項目を音楽事典で読む	135分
				事後	ガイダンスの復習					135分
第2回	第14章 借用和音(副Vの和音 基礎)	ロマン派(作品A)	ショパン：マズルカ第1番	事前	第14章、作品Aの予習				テキストを読む	135分
				事後	第14章、作品Aの復習				誤答を直し直す	135分
第3回	第14章 借用和音(副Vの和音 発展)	ロマン派(作品B)	ショパン：マズルカ第2番	事前	第14章、作品Bの予習				テキストを読む	135分
				事後	第14章、作品Bの復習				誤答を直し直す	135分
第4回	第14章 借用和音(準固有和音 基礎)	ロマン派(作品C)	ショパン：マズルカ第3番	事前	第14章、作品Cの予習				テキストを読む	135分
				事後	第14章、作品Cの復習				誤答を直し直す	135分
第5回	第14章 借用和音(準固有和音 発展)	ロマン派(作品D)	ショパン：マズルカ第4番	事前	第14章、作品Dの予習				テキストを読む	135分
				事後	第14章、作品Dの復習				誤答を直し直す	135分
第6回	第15章 根音省略形(基礎)	ロマン派(作品E)	ショパン：マズルカ第5番	事前	第15章、作品Eの予習				テキストを読む	135分
				事後	第15章、作品Eの復習				誤答を直し直す	135分
第7回	第15章 根音省略形(発展)	ロマン派(作品F)	ショパン：マズルカ第6番	事前	第15章、作品Fの予習				テキストを読む	135分
				事後	第15章、作品Fの復習				誤答を直し直す	135分
第8回	第16章 V ₉ ・副V ₉ の和音(基礎)	ロマン派(作品G)	ショパン：マズルカ第7番	事前	第16章、作品Gの予習				テキストを読む	135分
				事後	第16章、作品Gの復習				誤答を直し直す	135分
第9回	第16章 V ₉ ・副V ₉ の和音(発展)	ロマン派(作品H)	ショパン：マズルカ第8番	事前	第16章、作品Hの予習				テキストを読む	135分
				事後	第16章、作品Hの復習				誤答を直し直す	135分
第10回	第17章 II ₇ の和音(基礎)	ロマン派(作品I)	ショパン：マズルカ第9番	事前	第17章、作品Iの予習				テキストを読む	135分
				事後	第17章、作品Iの復習				誤答を直し直す	135分
第11回	第17章 II ₇ の和音(発展)	ロマン派(作品J)	ショパン：マズルカ第10番	事前	第17章、作品Jの予習				テキストを読む	135分
				事後	第17章、作品Jの復習				誤答を直し直す	135分
第12回	第18章 転位音(基礎)	ロマン派(作品K)	ショパン：マズルカ第11番	事前	第18章、作品Kの予習				テキストを読む	135分
				事後	第18章、作品Kの復習				誤答を直し直す	135分
第13回	第18章 転位音(発展)	ロマン派(作品L)	ショパン：マズルカ第12番	事前	第18章、作品Lの予習				テキストを読む	135分
				事後	第18章、作品Lの復習				誤答を直し直す	135分
第14回	試験の概要			事前	試験の概要の予習					135分
				事後	試験の概要の復習					135分
第15回	まとめ			事前	まとめの予習					135分
				事後	まとめの復習					135分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐						

音楽理論-2

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF302

専門/学年：全専門

形態：講義

単位数：2 単位

概要 音楽理論-1 で学んだことをふまえ、さらに高度な学習へと発展する。
また、和声法で学んだ知識を実際の音楽に応用できるよう、実作品の和声分析も行う。

到達目標 和声法の発展的な課題を実施できるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【和声】		【和声分析】					
第1回	音楽理論-1の試験の解説			事前	音楽理論-1の試験の解説の予習		135分
				事後	音楽理論-1の試験の解説の復習		135分
第2回	第1章 ナボリのII(D ₂)の和音(基礎)	古典派(作品A)		事前	第1章、作品Aの予習	テキストを読む	135分
		モーツァルト：ピアノソナタ第1番		事後	第1章、作品Aの復習	誤答を直し直す	135分
第3回	第1章 ナボリのII(D ₂)の和音(発展)	古典派(作品B)		事前	第1章、作品Bの予習	テキストを読む	135分
		モーツァルト：ピアノソナタ第2番		事後	第1章、作品Bの復習	誤答を直し直す	135分
第4回	第2章 IV ₇ (D ₂)の和音(基礎)	古典派(作品C)		事前	第2章、作品Cの予習	テキストを読む	135分
		モーツァルト：ピアノソナタ第3番		事後	第2章、作品Cの復習	誤答を直し直す	135分
第5回	第2章 IV ₇ (D ₂)の和音(発展)	古典派(作品D)		事前	第2章、作品Dの予習	テキストを読む	135分
		モーツァルト：ピアノソナタ第4番		事後	第2章、作品Dの復習	誤答を直し直す	135分
第6回	第3章 ドリアのIV(D ₂)の和音(基礎)	古典派(作品E)		事前	第3章、作品Eの予習	テキストを読む	135分
		モーツァルト：ピアノソナタ第5番		事後	第3章、作品Eの復習	誤答を直し直す	135分
第7回	第3章 ドリアのIV(D ₂)の和音(発展)	古典派(作品F)		事前	第3章、作品Fの予習	テキストを読む	135分
		モーツァルト：ピアノソナタ第6番		事後	第3章、作品Fの復習	誤答を直し直す	135分
第8回	第4章 IV付加6・IV付加4(S)の和音(基礎)	古典派(作品G)		事前	第4章、作品Gの予習	テキストを読む	135分
		モーツァルト：ピアノソナタ第7番		事後	第4章、作品Gの復習	誤答を直し直す	135分
第9回	第4章 IV付加6・IV付加4(S)の和音(発展)	古典派(作品H)		事前	第4章、作品Hの予習	テキストを読む	135分
		モーツァルト：ピアノソナタ第8番		事後	第4章、作品Hの復習	誤答を直し直す	135分
第10回	第5章 上方変位和音(基礎)	古典派(作品I)		事前	第5章、作品Iの予習	テキストを読む	135分
		モーツァルト：ピアノソナタ第9番		事後	第5章、作品Iの復習	誤答を直し直す	135分
第11回	第5章 上方変位和音(発展)	古典派(作品J)		事前	第5章、作品Jの予習	テキストを読む	135分
		モーツァルト：ピアノソナタ第10番		事後	第5章、作品Jの復習	誤答を直し直す	135分
第12回	第6章 副II ₇ ・副IV ₇ の和音(基礎)	古典派(作品K)		事前	第6章、作品Kの予習	テキストを読む	135分
		モーツァルト：ピアノソナタ第11番		事後	第6章、作品Kの復習	誤答を直し直す	135分
第13回	第6章 副II ₇ ・副IV ₇ の和音(発展)	古典派(作品L)		事前	第6章、作品Lの予習	テキストを読む	135分
		モーツァルト：ピアノソナタ第12番		事後	第6章、作品Lの復習	誤答を直し直す	135分
第14回	試験の概要			事前	試験の概要の予習		135分
				事後	試験の概要の復習		135分
第15回	まとめ			事前	まとめの予習		135分
				事後	まとめの復習		135分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐						

作曲家作品研究-1

非常勤講師 川上啓太郎

専門/学年：全専門/専攻科

形態：演習

単位数：1単位

概要 ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンが何を築き上げ、それがその後のロマン派の作曲家や作品にどのような影響を与えたのかを、代表的な作品の鑑賞や分析を通して考察する。

到達目標 ウィーン古典派からロマン派までを、具体的な楽曲の様式や形式のイメージを持った上で概観することができるようになる。

授業計画 分析の対象となる作曲家や作品は、受講者の専攻や人数等を考慮した上で適宜決定する。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	ウィーン古典派とは何か、ロマン派とは何か	ウィーン古典派・ロマン派について調べる	ウィーン古典派・ロマン派について復習する	45分
第2回	ウィーン古典派 - ハイドンと弦楽四重奏曲・交響曲	ハイドンと弦楽四重奏曲・交響曲について調べる	ハイドンの弦楽四重奏曲・交響曲（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第3回	ウィーン古典派 - モーツァルトとピアノ協奏曲	モーツァルトとピアノ協奏曲について調べる	モーツァルトのピアノ協奏曲（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第4回	ウィーン古典派 - モーツァルトとオペラ	モーツァルトとオペラについて調べる	モーツァルトのオペラ（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第5回	ウィーン古典派 - ベートーヴェンとピアノ・ソナタ	ベートーヴェンとピアノ・ソナタについて調べる	ベートーヴェンのピアノ・ソナタ（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第6回	ウィーン古典派 - ベートーヴェンと交響曲	ベートーヴェンと交響曲について調べる	ベートーヴェンの交響曲（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第7回	ウィーン古典派 - ベートーヴェンと弦楽四重奏曲	ベートーヴェンと弦楽四重奏曲について調べる	ベートーヴェンの弦楽四重奏曲（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第8回	ロマン派 - シューベルトと歌曲	シューベルトと歌曲について調べる	シューベルトの歌曲（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第9回	ロマン派 - シューベルトと交響曲・弦楽四重奏曲	シューベルトと交響曲・弦楽四重奏曲について調べる	シューベルトの交響曲・弦楽四重奏曲（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第10回	ロマン派 - ベルリオーズ、シューマンと交響曲・歌曲	ベルリオーズ、シューマンと交響曲・歌曲について調べる	ベルリオーズとシューマンの作品（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第11回	ロマン派 - ショパンとピアノ	ショパンとピアノについて調べる	ショパンのピアノ曲（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第12回	ロマン派 - リストと交響詩	リストと交響詩について調べる	リストの作品（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第13回	ロマン派 - ヴァーグナーと楽劇	ヴァーグナーと楽劇について調べる	《トリスタンとイゾルデ》の前奏曲を聴く	45分
第14回	ロマン派 - ブラームスと交響曲・協奏曲	ブラームスと交響曲・協奏曲について調べる	ブラームスと交響曲・協奏曲（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第15回	まとめ	これまでの作曲家・ジャンル・作品の復習	まとめて取り上げた補完的な作品を聴く	45分

フィードバック レポートの返却により学修成果をフィードバックする。

成績評価 レポート提出 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 原則として使用する楽譜は教員が持参するか、そのコピーを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐						

作曲家作品研究-2

非常勤講師 川上啓太郎

専門/学年：全専門/専攻科

形態：演習

単位数：1単位

概要 作曲家作品研究-1 で扱ったウィーン古典派～ロマン派の流れを踏まえて、19世紀末から第一次世界大戦後までのフランスを中心とした音楽について、代表的な作品の鑑賞や分析を通して考察する。

到達目標 19世紀末から第一次世界大戦後までのフランスを中心とした音楽が、19世紀のウィーン古典派・ロマン派音楽からの影響を交えた上で、具体的な楽曲の様式や形式のイメージを持った上で概観することができるようになる。

授業計画 分析の対象となる作曲家や作品は、受講者の専攻や人数等を考慮した上で適宜決定する。

回数	テーマ	事前	事後	時間
第1回	フランス音楽とは何か	フランス音楽について調べる	授業で取り上げたキーワードについて復習する	45分
第2回	フランク、フランキストたちと国民音楽協会	フランク、フランキストたちと国民音楽協会について調べる	フランクの作品（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第3回	シャブリエ	シャブリエについて調べる	シャブリエの作品（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第4回	フォーレと歌曲・レクイエム	フォーレと歌曲について調べる	フォーレの歌曲・レクイエム（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第5回	フォーレと室内楽曲	フォーレと室内楽曲について調べる	フォーレの室内楽曲（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第6回	サティ	サティについて調べる	サティの作品（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第7回	ドビュッシーとオペラ・管弦楽曲	ドビュッシーとオペラ・管弦楽曲について調べる	ドビュッシーのオペラ・管弦楽曲（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第8回	ドビュッシーと歌曲・ピアノ曲・室内楽曲	ドビュッシーと歌曲・ピアノ曲・室内楽曲について調べる	ドビュッシーの歌曲・ピアノ曲・室内楽曲（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第9回	ラヴェルと歌曲・ピアノ曲・室内楽曲	ラヴェルと歌曲・ピアノ曲・室内楽曲について調べる	ラヴェルの歌曲・ピアノ曲・室内楽曲（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第10回	ラヴェルと管弦楽曲・協奏曲	ラヴェルと管弦楽曲・協奏曲について調べる	ラヴェルの管弦楽曲・協奏曲（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第11回	ストラヴィンスキーとバレエ	ストラヴィンスキーとバレエについて調べる	ストラヴィンスキーのバレエ作品（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第12回	シェーンベルク	シェーンベルクについて調べる	シェーンベルクの作品（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第13回	ケクラン	ケクランについて調べる	ケクランの作品（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第14回	フランス6人組とアルクイユ楽派	フランス6人組とアルクイユ楽派について調べる	フランス6人組とアルクイユ楽派の作品（授業で取り上げたもの）を聴く	45分
第15回	まとめ	これまでの作曲家・ジャンル・作品の復習	まとめて取り上げた補完的な作品を聴く	45分

フィードバック レポートの返却により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 レポート提出 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 原則として使用する楽譜は教員が持参するか、そのコピーを配布する。

オフィスアワー 授業後に教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐						